

# 「八幡史学館」資料 第11シリーズ 平成28年

番号	表題	内容	実施日	講師	備考
		昭和28年度 八幡公民館主催事業「八幡史学館」ポスター、企画書、自主事業計画書			
		八幡公民館主催事業「八幡史学館」第11シリーズ			
1	◎	第1回講座＝八幡小学校創立す～明治維新と学校教育	平成28年6月7日	山岸弘明	
		第1回付録＝学校教育制度の移り変わり			
		郷土史スポット＝千葉県文化財保護協会団体表彰、八幡港と五大力船、飯香岡八幡宮本殿保存修理			
		①近現代八幡地区教育史年表 ②寺子屋と手習い師匠が定着した江戸時代の八幡、明親館、八幡地区の筆子塚、根本胤満行状碑、根本四郎次手習所			
		草刈法音精舎寺子屋 ③明治維新と学制発布、学事奨励に関する仰せ出され書、木更津県の小学校設立 ④五所、菊間学校などが相次いで誕生			
		文部省第3年報八幡周辺小学校の創立状況、五所小学校発祥の地碑、五所学校沿革史、市原郡誌菊間尋常高等小学校、菊間小学校100年の歩み、			
		岡田家代々系図公私留、市原小学校100年史、学区取締鴉矢信一郎、姉崎小学校設立伺、勝間小学校設立伺、葉木分校願			
		⑤八幡学校に生みの苦しみ、市川本店文書、木更津県権令、千葉県令あて八幡小学校設立伺、市川本店八幡小学校設立季文書群(学校出納ほか、			
		八幡小学校沿革史第1号、家塾私塾の取締 ⑥八幡学校、現在の八幡宿駅前に移る 八幡学校沿革史、上総国新義真言宗本末帳、靈応寺の最後、			
		大教院中教院、梅谷家明治11年卒業証書、青木家明治23年1年級卒業証ほか、学校田小作米領収書 ⑥地域教育の父川上南洞の私学経営			
2	◎	第2回講座＝江戸および上総の湊と五大力船—江戸は河を帯にして海を枕せる都—			
		山室恭子の商魂の歴史学 江戸の業種分布 朝日新聞	平成28年7月11日	宮本敬一	PP説明
		百万都市江戸を支えたもの			
		「重宝録」諸色の部の世界 1米、2薪炭、3流通機構廻船問屋と内海船方、4奥川船方と飛脚問屋、馬宿、			
		江戸絵図描かれた湊、元禄2年、正徳2年 五大力船請船(問屋)、解下宿などの所在地、文久2年瀬取宿仲間、解下宿仲間			
		八幡宿港の運航状況、五大力船は力持ちで安上り、正徳3年図この所諸国集船の湊、上総みお、幸田露伴「水の都」			
		千葉県史料「木更津船由緒書」元禄6年、木更津船着場出入訴状、木更津河岸絵図面、幕末の江戸湾絵図、			

		元禄3年関八州伊豆、駿河国回米津出し湊浦々河岸の道法ならび運賃書付上総国八幡五所浦、江戸へ海上9里、運賃米百石につき1石3斗		
3	◎	第3回講座＝飯香岡八幡宮秋の大祭～神輿五基あれこれ	平成28年8月9日	佐倉東雄
		写真＝三の宮、五基勢ぞろい、富士塚へ担ぎ上げる三ノ宮、拝殿前の一の宮		
		①4基の概要 ②各町会の神輿について 一の宮浜本町黄色、二の宮五所赤、三の宮観音町ピンク、若宮南町新宿青、五の宮本町紫		
		③半纏について ④神輿雑談 ⑤祭り行事の年番について ⑥渡御について ⑦各町の神輿あれこれ		
4		第3回講座＝大河ドラマ「真田丸」と豊臣秀吉の小田原征伐	平成28年8月9日	山岸弘明
		①「大坂冬の陣、夏の陣」六連銭真田幸村「死の美学」		
		②戦国最大の居城「関東かなめ」の小田原城		
5	◎	第4回講座＝国衙市原のあり 上総国府の謎に迫る	平成28年9月13日	山越国臣
		1「上総国府」 国府跡解明の現況、市原があやしい明治初頭の地割図がヒント、社寺配置から分かったこと国府私論、		PP説明
		2上総国府はどこにあったのか 郡本・市原説、村上説、移動説、市原地区の神社、上総国府・国衙想定図		
		3歴代の上総国守		
		4山越國臣表採遺物 市原地区周辺の内訳		
		5千葉日報当時山越記者取材関連記事		
6		第5回講座＝①自主事業スライドと復習、②五大力船積荷の解析	平成28年11月11日	山岸弘明
		①小田原3城にみる「石垣」の歴史		PP説明
	◎	②五大力船々改所文書にみる八幡港の「積荷」		
		1千葉県船改所八幡宿文書群、②明治始めの川船行政と千葉県船改所八幡宿船改所、3「出帆免状台帳による出帆と積荷リスト		
		4米と炭薪が中心主力3製品の月別出荷量、5瓦は6万枚竹材木板など建築資材、6まぐさやむしろすげ笠、7米以外に目立った産物はない。8肥料その他		
		明治6年12月、7年4月9日出帆免状リスト、船別出帆と積み荷		
		八幡公民館自主事業		
7	◎	戦国時代終焉の城「石垣山一夜城と小田原城を歩く	平成28年11月11日	山岸弘明、石井勇

		1史上最大の動員作戦～秀吉「小田原征伐」、2秀吉の大奇抜大作戦、城郭都市北条小田原城の最先端大堀切、江戸の玄関口を守る			
		八幡史学館関連事業ほか			
8	◎	八幡中学校 ようこそ先輩授業	平成28年9月12日	清水あき子、佐倉東雄ほか	
		八幡港と五大力船～八幡のむかし海の町だった		山岸弘明	
9		古事記を読む ①国生み神話、②黄泉の国訪問、③天岩戸	平成28年5月19日	平澤牧人	
10		房総の戊辰戦争～今に残るもの 房総地理歴史散歩	平成28年11月4日	鎌田正男	

# 八幡史学館

千葉県上総市八幡八町八幡尋常高等小学校及八幡町役場之圖



郷土史講座 全5回 (9:30~11:30)

〈主催講座〉

- |   |  | 講師               |
|---|--|------------------|
| ① | 6月 7日(火) 八幡小学校創立す~明治維新と学校教育                        | 山岸弘明 氏           |
| ② | 7月12日(火) 江戸および西上総の湊と五大力船                           | 宮本敬一 氏           |
| ③ | 8月 9日(火) 八幡あれこれ<br>織豊期城郭と豊臣秀吉の小田原征伐~自主事業の見どころ      | 佐倉東雄 氏<br>山岸弘明 氏 |
| ④ | 9月13日(火) 国府は市原にあり<br>(9:30~15:00) 国府跡推定地を歩く ※現地研修  | 山越国臣 氏           |
| ⑤ | 11月22日(火) 「八幡宿船改め所五大力船文書群」の解析<br>「農間稼ぎ」に見る江戸後期の暮らし | 山岸弘明 氏           |

〈自主事業〉 貸し切りバス 7時00分 ~ 19時00分  
10月27日(木) 石垣山一夜城 小田原古城 小田原城

山岸弘明 氏  
石井 勇 氏

※ 講座内容は変更することがあります

八公運委第27号

平成28年3月23日

山岸弘明様

市原市立八幡公民館  
館長 地引英樹

## 八幡公民館主催事業の講師について(依頼)

時下、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素、公民館事業に格別なるご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当公民館主催事業「八幡史学館」を下記のとおり開催いたします。

ご多用の折恐縮ですが、事業の講師としてご指導を賜りますようお願いいたします。

## 記

- |          |  |
|----------|--|
| 1. 事業名   | 八幡史学館  |
| 2. 依頼日時  | 平成28年 6月7日 8月9日 11月22日 全て火曜日<br>9:30~11:30           |
| 3. 場所    | 市原市立八幡公民館 視聴覚室                                       |
| 4. 内容    | 郷土の歴史  |
| 5. 受講対象者 | 一般成人 50名   |
| 6. その他   | ・受講者への配布資料や公民館で用意するものにつきましては、事前にご連絡いただきますようお願いいたします。 |

〒290-0062

市原市八幡1050-1

TEL 0436-41-1984

FAX 0436-43-7457

担当 河島玲子 鎌滝裕美

## 平成28年度「八幡史学館」企画について（最終案）

28-1-1 山岸弘明

### 第11シリーズ

6月 7日（火曜日）教室講座（9時30分～11時30分）山岸弘明  
八幡小学校の創立す～明治維新と学校教育

7月12日（火曜日）教室講座（9時30分～11時30分）宮本敬一  
江戸および西上総の湊と五大力船

8月 9日（火曜日）教室講座（9時30分～11時40分）

①八幡あれこれ 佐倉東雄

②織豊期城郭と豊臣秀吉の小田原征伐～自主事業の  
みどころ 山岸弘明

9月13日（火曜日）教室+現地 山越国臣（9時30分～15時00分）

①国府は市原にあり（八幡公民館＝75分）

光善寺移動、昼食（路線バス利用）

②国府跡推定地を歩く（120分）現地解散

10月27日（木曜日）貸し切りバス自主事業（7時00分～19時00分）

### 特別企画

山岸弘明、石井勇

主要巡検地

石垣山一夜城、小田原古城、近世小田原城

11月22日（火曜日）教室講座（9時30分～11時30分）山岸弘明

①「八幡宿船改め所五大力船文書群」の解析

②「農間稼ぎ」にみる江戸後期の暮らし

以上

お断り＝変更することがあります

自主事業計画個票


市原市立八幡公民館運営委員会

平成28年4月

講座番号	1		計画区分	当初		
領域	趣味・教養的な講座					
分類	歴史					
講座名	八幡史学館					
計画概要	講座目標	地域の歴史を掘り起こし、その背景を学ぶ事により、地域への理解と愛着を深める。				
	実施内容	戦国時代、関東を制覇した北条氏の本拠「小田原城」等を訪ねて、郷土八幡との関係を探る。				
	実施場所	神奈川県小田原市方面				
	実施期間	開始	10月27日(木)	終了	10月27日(木)	
	実施時間帯	7:00~19:00			主な曜日	
	予定回数	1回	対象者	八幡史学館受講者	定員	50人
	募集方法		受付日		材料費等	0円
	講師名	山岸弘明、石井	謝金額	12,000円		
	実施予定日	回	予定日	回	予定日	回
1		10月27日(木)	9		17	
2			10		18	
3			11		19	
4			12		20	
5			13		21	
6			14		22	
7			15		23	
8			16		24	
収支予算	収入			支出		
	科目	金額	科目	金額	摘要	
	運営委員会	12,000円	講師謝金	12,000円		
	計	12,000円	計	12,000円		
前回からの改善内容						

御旅行見積書

団体名 八幡公民館運営委員会・八幡史学館 様  
 代表者名 八幡公民館・池田 様  
 住所 市原市八幡1050-1  
 連絡先 0436-41-1984

作成日 2016/4/26  
 小湊鉄道株式会社 五井営業所  
 TEL0436-21-2411 / FAX0436-22-8540  
 担当者 泉水光令 

行先	神奈川県・小田原		日程	平成28年10月26日(水)		人員	60名	
交通費 (ご費用)				その他費用				
種別	数量	単価	金額	利用場所名	人員	単価	金額	
大型観光バス代	1		130,000	昼食(弁当)			お客様手配	
消費税	1		10,400	見学科			実費負担	
有料道路代	1		18,000	旅行傷害保険			100	
駐車代	1		3,000					
計			161,400					
161,400 ÷ 60名			2,690	その他費用			100	
総費用				御一人様費用			2,790	

コース

配車場所 / 市原市内 6:40分	
出発～市原ic～館山自動車道～アクアライン～海ほたる～首都高速～横浜町田ic～東名高速	
7:00	7:30～7:40
海老名sa～厚木ic～小田原厚木道路～小田原～石垣山一夜城歴史公園(見学)～小田原古城(見学)	
8:50～9:00	10:00～13:00 13:15～14:45
小田原城(見学)～小田原厚木道路～厚木ic～東名高速～海老名sa～横浜町田ic～アクアライン	
14:30～16:00	17:00～17:10
海ほたる～館山自動車道～市原ic～帰着	
18:00～18:10	19:00
*いろいろとお世話になります、ご検討の程よろしくお願い致します。	
*ご見積書提出後に運賃料金の改定があった場合は、変更させていただきます。	



# バス研修のご案内



**日時** 10月26日(水) 7:00 ~ 19:00 ★雨天決行

**方面** 小田原方面

**日程** (集合) 八幡公民館発 → 海ほたる →

6:30厳守 7:00発 7:30~7:40

海老名SA → 石垣山一夜城歴史公園(昼食含む) →

8:50~9:00 10:00から13:00

小田原古城 → 小田原城 → 海老名SA

13:15~14:00 14:30~16:00 17:00~17:10

海ほたる → 八幡公民館着 (解散)

→ 小湊観光バス

18:00~18:10 19:00

**参加費** 3,500円(交通費・傷害保険) ◆当日集金

**持ち物** 飲み物、弁当、シート、参加費

**その他** ・自主事業のため小湊観光バスを使用します。

・バスの席は、自由とします。当日、公民館に来館された順に参加費をいただき、番号名札を渡しますので、その順に乗車します。

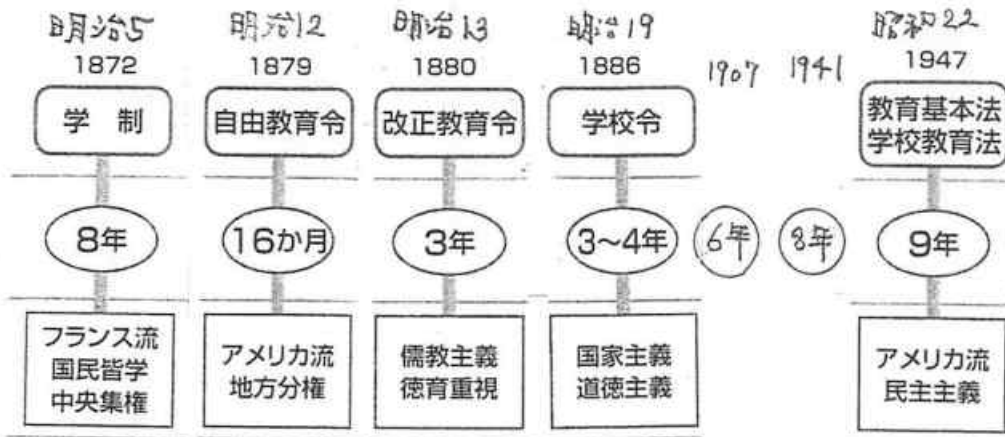
・キャンセルは、10月24日(月)までに連絡をお願いします。

八幡公民館 41-1984

担当：吉岡・松濱



## 学校教育制度の移り変わり



### 自由主義的教育期

### 国家主義的教育期

### 民主主義的教育期

本格的校舎を獲得した八幡小学校は寺小屋から「近現代小学校」へと大きな変革を遂げることになる。明治21年町村合併で八幡宿は五所村、山木村と合併して八幡町となる。八幡小学校は明照院で創立した五所小学校を合併、高等科を設置して「八幡町立尋常高等小学校」と改称、翌22年4月には新築校舎が完成した。改めて表紙ページの『千葉県博覧図』に目を転じよう。右奥の4棟はこの時のもの。正門に学校旗がへんぼんと翻り、広びろとした校庭で子供たちが元気に体操している。中央に「教への松」、八幡小学校のシンボルとなった。左側は明治23年に竣工した八幡町役場で傍らに「八幡宿村会の碑」も描かれている。

戦時軍事教育下の「八幡国民学校」をへた昭和22年、戦後の「教育基本法」「学校教育法」制定で八幡町立八幡小学校、30年市原町立、38年市制施行にともない市原市立八幡小学校となる。この間、京葉工業地帯の埋め立て開始とともに生徒数は急激に増加、八幡小学校はプレハブ増設をくり返したが老朽化が激しく、昭和41年八幡宿駅裏の地を新校地に選んで起工し、43年3月完成移転を待って永年親しまれた旧校舎を取り壊した。

跡地は現在JR八幡宿駅前ロータリーなどになっている。当時、八幡は「海と八幡さまの町」として賑わい、蒸気機関車が噴煙を上げながら走った。懐かしかった木造平屋の単線駅舎も八幡さまの「いちよう」をイメージした橋上駅と代わり、潮干狩りでにぎわった八幡海岸には巨大プラントがひしめいている。中堅工業都市として発展を遂げた現在の八幡には「駅前小学校」時代の面影はない。町の小学校の歴史もまた「郷土史」そのものであった。

#### 資料訂正

八幡小学校の中教院跡下付願い出＝明治8年1月、12月

中教院跡に移動＝明治9年3月

校舎新築完成＝明治22年4月

#### 「鶴舞出身〈春日井梅鶯〉の一代記」のご案内

日時＝6月10日（金曜日）13時00分 会場＝八幡1179 浜本町町民館（ベイシア前）

講師＝塚原 茂（郷土史研究者）

入場無料＝直接会場へ



飯香岡八幡宮拝殿  
保存修理工事

3の宮みこし年代調査



明治22年新校舎竣工祝賀会？

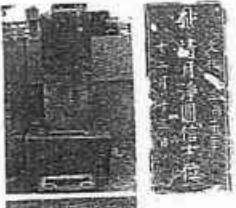


創立当初の八幡小学校

#### 3ページ写真 再録



林文晁顕彰碑



南又治郎筆子塚



#### 1ページ写真再録



戦前の海浜公園

#### 6ページ写真再録



明鏡館教師高柳邦碑

# 八幡小学校創立す～明治維新と学校教育

平成28-6-7 山岸弘明

次回以降のスケジュール（都合により変更することがあります）

- 第2回（7月12日）＝教室講座（9時30分～11時30分）  
江戸および西上総の湊と五大力船 官本敬一
- 第3回（8月9日）＝教室講座（9時30分～11時40分）  
①八幡あれこれ 佐倉東雄  
②織豊期城郭と豊臣秀吉の小田原征伐～自主事業のみどころ 山岸弘明
- 第4回（9月13日）＝教室講座＋現地巡見（9時30分～15時00分）  
①国府は市原にあり（八幡公民館）②市原・光善寺へ路線バスで移動（昼食と見学）  
③市原の国府推定地を歩く 山越国臣
- 特別企画（10月26日）＝八幡公民館自主事業 貸切りバス現地研修（7時00分～19時00分）  
八幡史学館受講者優先、弁当持参3000円程度、第3回で解説と申し込み受付  
石垣山一夜城、小田原古城、小田原城 山岸弘明、石井 勇
- 第5回（11月22日）＝教室講座（9時30分～11時30分）  
①八幡宿船改め所五大力船文書群」の解析  
②「農間稼ぎ」にみる江戸時代の暮らし 山岸弘明

## 古文書研究会が県文化財保護功労者受賞～郷土史スポット

- 1) 八幡史学館名所100選チーム、市原の古文書研究会の活動
  - ①古文書研究会が県文化財保護協会50周年式典で「文化財保護功労者 団体表彰」（平成27年11月21日）
  - ②八幡公民館運営委員会主催、八幡史学館10周年記念企画「八幡港と五大力船展」（平成27年12月22日～1月10日）、12月31日「読売新聞」、1月1日「千葉日報」、ケーブルテレビなどが紹介
  - ③古文書研究会が「市原の古文書研究第6集」を再版、第3刷発行（3月1日）  
\*第7集編集作業中（秋ころ、市川本店五大力船文書、若宮八幡宮文書などを掲載予定）
  - ④調査、解説活動＝市川本店、藤井・木本家、飯香岡八幡宮文書、浜本町八軒町卯の日資料など解説
- 2) 飯香岡八幡宮関係
  - ①平成26年度本殿保存修理（年代調査）、27年度拝殿保存修理工事
  - ②伝足利義満寄進若宮みこし（年代調査）
- 3) 夷隅町引田・本願寺鋤口銘
  - ①上総国市原若宮寺鋤口 別当権大僧都永順、正長二年（1429）己酉三月日 施主孫七
  - ②若宮寺は靈心寺の通称、孫七は飯香岡八幡宮創建と柳播神話にかかわる五所御三家中村家の屋号



拝殿修理工事



宣明中期四塔谷ニシ  
大徳二年1318伐木



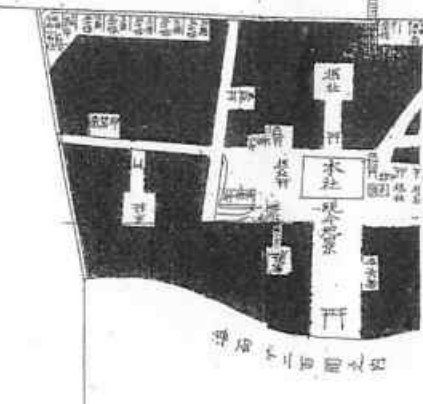
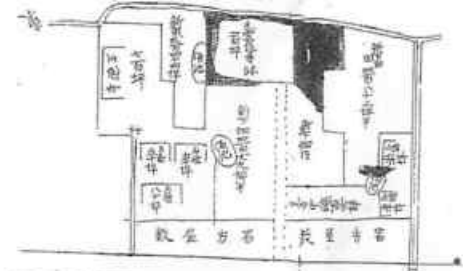
市原若宮寺鋤口  
本願寺銘



明治26年「千葉県庁発行」の八幡小学校（右が林が旧中教院）



昭和6年「八幡町高札図」



明治6年八幡宮寺の絵図

八幡小学校

五所小学校 3

菊竹小学校



明治  
7  
戸塚寺



明治6  
明燈寺



明治79  
千光院



明治7  
祇念寺

昭和45  
白金  
小学校



明治7  
明教館跡



明治  
21  
現駅前口  
1



平成9年 五所小学校



明治25  
現コミナリ  
1



昭和42  
現在  
地

昭和50  
石塚小学校



昭和52  
元菊竹中  
1  
現在地



八幡小学校 9 年写真



## 近現代（明治以降）八幡地区教育史年表

- 明治4年7月 廃藩置県。八幡宿は菊間県となる。太政官、3院制とし正院に文部省を設置
- // 4年11月 菊間県、鶴舞県など16県が合併して木更津県となる
- // 5年8月 太政官、「学制」公布。「国民皆学」、小学校の修業年限を下等4年、上等4年とする
- // 5年11月 木更津県、「学制」趣旨徹底を通達、概略戸数300をもって小区として小学校設立を指令
- // 6年3月 木更津県、学制推進のため家私塾を禁止、7年にかけてすべて廃業となる
- // 6年5月 番区取締、各村吏、富豪を五井駅に会し、速やかなる学校設立せんことを議す
- // 6年6月 木更津県、学校設立伺い書について通達。木更津県、印旛県が合併して千葉県となる
- // 6年7月 「学区」制定、木更津県、学管内に合す。第22番中学区、第193~195番小学区となる  
五所（小）学校を五所・明照寺で開校
- // 7年1月 八幡宿、開校準備、小学校設立伺い書（清書）を作成
- // 7年3月 菊間（小）学校、菊間千光院で創立  
八幡（小）学校、千葉県へ設立願いを提出、許可される
- // 7年4月 八幡（小）学校を八幡・円頓寺で開校するが生徒数は10人ほどにとどまる
- // 7年6月ころ 八幡（小）学校、おいおい生徒数100人ほどに増える、狭少のため学校を称念寺に移す
- // 7年7月 菊間（小）学校、旧藩校明親館を下付され移転
- // 8年1月 八幡（小）学校、諸経費増加、学費を各戸に課し騒動、大半の生徒が不登校となる
- // 8年4月 八幡（小）学校、この月まったく開校できず、訓導、教師等が総辞職
- // 8年5月 八幡（小）学校、県の指導で再開、訓導は菊間学校兼務、教師も代わる
- // 10月11日 八幡（小）学校、中教院跡建屋4宇および地所の下付を願い出るが不許可
- // 10年12月 八幡（小）学校、改めて有償購入を願い出、無代価にて下賜される
- // 11年3月 八幡（小）学校、神道中教院跡に移る。生徒80人
- // 11年7月 八幡（小）学校、旧来学資課賦を廃し、以後貯金利子をあてることとする
- // 12年9月 文部省、学制を廃止して「教育令」を施行
- // 19年 「小学校令」を施行。尋常科と高等科の2課程となる
- // 21年4月 「町村制」を交付、八幡村に五所村が合併する
- // 21年 八幡と五所小学校が合併、高等科を併置して八幡尋常高等小学校となる
- // 31年4月 川上南洞、飯香岡八幡宮社務所に千葉県皇典講究所分所普通学校を創立
- // 34年 千葉県皇典普通学校、飯香岡普通学校と改称
- // 41年 飯香岡普通学校、南総学校と改称
- 昭和2年 南総学校を南総中学校と改称
- // 15年 八幡小学校、紀元2600年事業として二宮尊徳像を設置
- // 16年 大東亜（太平洋）戦争始まる。八幡小学校、八幡国民学校と改称。次第に授業の戦時色強まる
- // 19年3月 南総中学校、太平洋戦争の応召による教師不足のため廃校
- // 20年 東京、千葉町大空襲、八幡小学校からも見える。校庭に防空壕作り米軍機通過のたび避難。  
幸い八幡は戦禍軽微に終わる。8月無条件降伏、終戦
- // 22年3月 「学校教育法」制定、新制中学校誕生、6334制となる
- // 22年 八幡国民学校を八幡町立八幡小学校と改称
- // 22年5月 八幡町立八幡中学校を創立、八幡小学校、旧町長庁舎、地方事務所、円頓寺などを仮校舎とする
- // 23年 八幡中学校新校舎落成、移転 24年グランド埋め立て勤労作業
- // 27年 南総中学校跡地に県立市原第一高等学校八幡分校（定時制）を設置
- // 30年 市原町立八幡小学校、八幡中学校となる
- // 38年 市制施行にともない市原市立八幡小学校、八幡中学校となる
- // 40年 市原第一高校、県立京葉高校設立にともない発展的解消
- // 41年11月 八幡小学校、児童数の急激増加にともない駅反対側に新築校舎起工式
- // 42年6月 八幡小学校、新築第1期工事完成、43年竣工、全校児童新校舎に移る。43年旧校舎を取り壊す
- // 44年 八幡中学校、八幡宿駅東側に新校舎起工式 45年新校舎落成、移転
- // 45年 白金小学校開校にともない八幡小学校の五所地区を分離
- // 50年 石塚小学校開校にともない八幡小学校の観音町、山木地区を分離  
（以降を省略）

## 寺小屋と手習い師匠が定着した江戸時代の八幡

厳然たる格差社会が敷かれた江戸時代、武士の教育機関として各藩に「藩校」が置かれた。明治元年、沼津から市原に入封した菊間5万石水野藩は沼津の藩校「明親館」を現在菊間団地バス停一帯に移し、藩士子弟を教育、明治維新时期に多くの学者や教育者を輩出した。藩校跡地は明治維新後千光院をへた第2代菊間小学校となり、明治20年代まで使用された。

一方一般庶民の教育機関には「寺小屋」「手習い師匠」「私塾」などがあつた。その起源は中世寺院の世俗教育で、生徒を「寺子」と呼んだことが名前の由来となつた。江戸前期、商工業の発達と文書行政の浸透にともなつて、実務教育として都市部で発達、江戸中後期に地方都市、農村部に波及し、全国で15,000以上にも達した。市原の経済、文化、交通の要衝地であつた八幡では円頓寺、称念寺、無量寺など僧侶を中心とした寺小屋が発達、修学者、有識の農民、商人などが自宅を教室とした小規模の手習い師匠の類が混在したものと考えられるが資料がなく解明できない。

生徒(筆子)は5~8才で入門、3~5年で卒業した。生涯の師であることも多く、師匠の死後、筆子が寄金を出し合つて「筆子塚(墓)」を建立することもあつた。授業内容は規模や教師の得意科目でさまざま、習字、読み方に始まり、算数、地理や書簡の書き方、歴史書、百人一首、絵草子、高札など多彩だつた。2月の「初午の日」が学年初めで、親に連れられて「寺入り(入学)」すると師匠手作りの手本が与えられた。男女共学で、女子は礼儀作法や裁縫、生け花などが加習された。

江戸時代、都市部の初頭教育就学率は70~80%、全国平均30~40%といわれ、せいぜい20%にとどまっていた先進西洋諸外国にくらべても格段と高かつた。日本の義務教育制度は明治5年に始まるが、少なくともその基盤はすでに江戸後期に完成、庶民の間に定着していたといえる。

八幡は町屋で商業市街地として発展、また寺小屋や手習い師匠が多く、比較的恵まれた教育環境にあつた。後出明治6年の「千葉県令あて八幡小学校設立伺い書」は「生徒自6才至13才145人、内男92人、女53人」と就学適齢児童数を記し、一方「八幡小学校沿革誌第1号」は明治7年開校直前の八幡宿について「駅内、村校、私塾すこぶる多し(中略)その旧生徒大役男女150名」とあり、八幡地区の教育水準を表わすとともに、このことが逆に八幡小学校創設期の混乱に影響を与えたといえなくもない。

江戸時代寺小屋を卒業後、さらに学問をめざす若者や庶民の高等教育、あるいは生涯学習の場に相当するものに「私塾」があつた。「塾師」は地方で名の知れた教育者で、その徳を慕う門人たちが集まつた。飯香岡八幡宮境内に立つ「林文暁碑」は「門に入り業を受ける者300余人の多きに及び」とあり、菊間・若宮八幡宮の神官根本胤滴が荷田春満に学び、多くの弟子たちに「漢学国文」を伝授したことが「行状碑銘」にみられる。

### ①明親館(千葉県教育史巻1)

\*明治元年7月13日忠敬封を上総に移され、2年7月26日新封地たる市原郡菊間村に入り、3年菊間村大厩村入会地に地を相し、約1万3千坪の地域を画し、4周に土塀を回し上に松樹を列栽し、すこぶる規模広大なもので、菊間台なる藩庁の方に向いて正門があつた。中に98坪の校舎を新築し、沼津における校名をそのまま襲用して明親館と称し、文武2道を奨励した。しかるに開校後わずかに1年にして翌4年藩置県となり、校地、校舎とも木更津県に引き渡して廃校となつたが、校舎はそのまま菊間小学校として明治24、5年までこれを使用しておつた。菊間移封後には儒臣として阿部誠藏、高柳邦などがあり、また柔道師範には有名な戸塚彦橋がおつた。(中略)授業は朝5時から夕7時にいたるまでの間において6時間で、午前中は授読をなし、午後に入って講読、論講、会読などをなすことになっておつた。(中略)生徒は藩士は7歳以上は必ず文武を兼修すべき規定であつたが、藩士以外にてもとくに希望者にはその入学を許しておつた。(中略)生徒の数は記録散失して徴することはできない。学校の経費はもちろん藩費をもつてこれを計理し、生徒より束修、謝儀などを徴することはなかつた

### ②八幡地区の筆子塚

\*南又治良の墓(八幡無量寺)清月浄円信士位、文化13丙子年12月23日、筆子塚  
 \*富永時習の墓(〃)富永時習先生墓、明治元戊辰年3月朔日、南総市原郡郡本の産にて本姓岡本氏なり  
 \*法印定恵の墓(五所満蔵寺)権大僧都法印定恵、享和甲子稔2月12日、筆子中  
 \*酒井源兵衛の墓(古市場長妙寺)善学院実道信士(ほか信女2)各霊、天保4癸巳年4月11日、俗名酒井源兵衛尉篤栄の墓、筆子中

### ③此君(しくん)林文暁翁伝碑(飯香岡八幡宮=市原市八幡の石造物研究)

翁、姓は岸本、名は信成、字は祐助、文暁はその号なり。竹を愛して此君林を称し、狂歌をたしなみて有磯浜人と号す。越中富山の城主佐々内蔵助成政の胤なり。(中略)(文化4年)南総八幡の郷に招じて翰墨

をもって子弟に教授す、人その恭謙方正の徳に服し、風流温籍なるを歎びて門に入り業を受ける者 300 余人の多きに及べり、あまた感心なりというべし。(中略) 天保 15 季庚辰の 4 月 2 日病を得てついに没す八幡郷に住すること 38 年、齢 82。(中略)

ほととぎす 啼き入る山の月寂し 時に安政 2 乙卯年 4 月 発願主丸出雲正藤原邦貞これをするす

④ 菊間根本胤満行状碑 (菊間神徒墓地=市原市史)

私塾=漢学国文。菊間。開業不詳~明和元年。教師 1、生徒数不詳、神官平胤満

(前略) 菊間八幡神社の神主、享保 6 年従五位下大炊頭に任じられる。寛延元年社殿を新築し、功によって従五位上に昇階したという。(中略) 彼は荷田春満の門に学び、郷里に帰って多くの弟子に教授した。春満のおいの荷田信郷の誌した墓誌銘が残されている。

④ 菊間根本四郎次手習い所 (千葉県教育史巻 1)

寺小屋=菊間。読書、習字。開業不詳~明治 14 年。教師 1、生徒数 30、名主根本四郎次

四郎次は十五沢村の稲毛次郎右衛門の 4 男として生まれ、菊間の根本小重郎の養嗣子になった。(中略) 入退学の時期、年齢、修業年限には制限なく、父兄の請うままに随時にこれを許したが、その年齢は 6、7 才から 17、8 才までであった。授業時間は午前 7、8 時ころから午後 4 時くらいまでで、教科目は読書、習字であり、読書の教科書は今川、庭訓往来などを始め、四書五経に及んでおり、習字の手本は師匠が皆書いて与えた。(中略) 休日は毎月 5 の日で束修(学費)は五節句に白米 2 升入り吠を納めた。(中略) 教室は 12 畳敷の広間で、生徒は机を 2 人ずつ向い合わせに並べて座し、傍らに文庫と称して書物や草紙を入れたはこを置いた。

⑤ 草刈法音精舎行光寺住職、沢崎日音寺小屋 (千葉県教育史巻 1)

寺小屋法音精舎=草刈。読書、習字、珠算。天保 11 年~明治 21 年。教師 1、生徒数男 20、住職

(前略) 法務の傍ら近郷の子弟を集めて読書、習字、和算を教授した。読書教科書は実語教、童子教、今川庭訓往来、四書五経、文選、左伝などで習字手本は師匠の真蹟を用いしめ和算は九帰法、加減乗除などを教えた。門弟の入退学時期、年齢および修業年限などには一切制限を加えなかった。門弟は草刈を始め潤津、市東、浜野などの各村より集まり少なきときは 10 名、多き時は 20 名内外あった。

### 明治維新と学制発布

明治維新、廃藩置県直後の明治 5 年新政府=太政官はフランスを範とした「学制」を公布した。「人々自らその身を立て、その産を治め、その業を盛んにして、もってその生を遂げるゆえんのものとはなし。身を修め、智を開き、才芸を長ずるによるなり」に始まり、「自今以後一般の人民、必ず邑に不学の戸なく、家に不学の人なからしめんことを期す」と結んだ。

小学生男女を身分にかかわらず学ばせる「国民皆学」の方針が打ち出されたわけではあったが、当時の小学校教育はあくまでも本人のためのもので、その学費は自らが負担する授業料をあてることが原則であった。経済的裏付けのない学校行政のもと、制度を実質的に支えたのは地元富裕者を中心とした町の人たちで、その寄付金をもって運営資金とされることになる。

突然の明治政府の方針ではあったが、木更津県の学校建設は実に精力的に行われた。明治 5 年 11 月「学制」趣旨の徹底を通告、県を 4 中学区、およそ 800 の小学区にわけて、小区または連区ごとに小学校を 1 校ずつ設立することとし、八幡は第 22 中学区、第 193 番、第 194 番、第 195 番小学区、五所は第 196 番小学区となった。その具体的内容は、①校舎は寺院または民家を利用、②費用



林文曉 研



寺子屋の図 (渡辺華山筆「一掃百題」読み書き・そろばんなどの教育をおこなう庶民の教育機関。)



制札も教材 ↓ 15 俵 4 匁

南又治印筆子歌  
← 明徳館高柳邦研



は小区住民および生徒が負担、③教師は寺小屋などから篤実で教え方のうまいものをあてる、といったものであった。

翌6年6月通達は「当月30日限り」計画書提出を命じ「もし御趣意に相そむき苦情がましき儀、申し立て候ようこれあり候わば、きつと申し付けべき品もこれあり候」と強行姿勢を貫いている。その書きようは「官憲行政」そのものでもあったが、一方で学校建設にかけた木更津県権令・柴原和のなみなみならぬ決意が窺える。何百もの小学校を同時に創立させるという柴原の計画は、千葉県成立、県令就任後にも引き継がれ、県の小学校数は明治6年405校、同7年805校、同9年902校(増減で800で確定)と驚異的なペースで進んだ。柴原の執念の結果、学制発布後わずか3年間で千葉県の学校設置が終わった。

①学事奨励に関する仰せ出され書(大学受験必修 新日本史史料集)

人々自らその身を立て、その産を治め、その業を盛んにして、もってその生を遂げるゆえんのものは他なし。人々自らその身を立て、その産を治め、その業を盛んにして、もってその生を遂げるゆえんのものは他なし。身を修め、智を開き、才芸を長ずるによるなり。しこうしてその身を修め、智を開き、才芸を長ずるは、学にあらざればあたわず。これ学校の設けるゆえんにして、日用常行言語書算を初め、士官農商百工技芸および法律政治天文医療などに至るまで、およそ人の営むところのこと、学あらざるなし。(中略)

これによりて今般文部省において学制を定め、追々教則をも改正し布告におよぶべきにつき、自今以後一般の人民、必ず邑に不学の戸なく、家に不学の人なからしめんことを期す。人の父兄たるもの、よろしくこの意を体認し、その愛育の情を厚くし、その子弟をして必ず学に従事せしめざるべからざるなり。

②木更津県の小学校設立(千葉県教育100年史、千葉県教育史)

\*明治4年7月、廃藩置県を断行して中央集権体制の基礎を固めた政府は徴兵制の施行や地租改正の実施など矢つぎばやに開明的な諸政策をおし進めてきたが、学制の制定もこうした一連の新政策のひとつであった。(中略)こうした集権的な教育体制の中で小学校の設置がまず緊急の課題とされたが、そこには多くの問題点が存在した。教育行政と一般行政との関係、小学区の連合による学校設立の問題、学区住民の私費を原則とした学校経費の問題、低い就学率とその対策の問題、あるいは学校の施設、設備、教科の内容や指導法の問題など、新しい制の発足にともなう諸問題が山積していた。

\*木更津県では明治5年11月5日付けをもって県内の戸長、副戸長宛てに学制の趣旨徹底とその実施計画を通達している。そこでは仰せ出され書の一部を引用して、学問の重要性を強調するとともに(中略)学制に対する積極的姿勢を表明し、さらに概略次のような具体的計画を発表している。

- ・さしあたって戸数300戸、人口1500人内外を1小学区とし、1区ごとに小学1校を設立すること
- ・小学校の場所はさしあたり最寄りの寺院または民家などを利用すること
- ・費用は別紙基準によって割り当て毎月集金し、生徒の授業料とあわせて書籍器械などの購入、教員ならびに学区取締の給料、薪炭油筆墨などの費用にあてること
- ・教授人はそれまでの学校の教官あるいは私塾、家塾などで教導をしていた者の中から篤実で生徒の指導のうまい者を選んで採用すること

\*明治6年6月木更津県通達=学区取り締まりと相議致し当月30日限りとどこおりなく設立方法取り調べい出べく候。もし御趣意に相背き苦情がましき儀、申し立て候ようこれあり候わばきつと申し付けべき品もこれあり候

\*木更津県、印旛両県ではともに4中学区、800前後の小学区を設定し、それらの小学区が数区連合して小学校を設立する計画を立てている。したがって何百という学校をほぼ同時に発足させようとしたのであり、事実明治6年には1年間に400校が開校している



明治はじめての小学校教室

▲学校教育 1872年に学制が公布され、小学生男女を身分にかわりなく学ばせる国民皆学の方針が打ち出されたが、翌年の就学率は男子40%、女子15%にとどまった。授業内容は図にあるように、掛図と問答が中心となった。

明治はじめての文部省教科書



### 五所、菊間学校などが相次いで誕生

八幡地区で最初に創立した小学校は五所学校であった。明治6年5月、五井で開催された学区取締会議に戸長、副戸長が出席、ただちに村民に学校設立をはかった。さすがに即決とは成らなかったようで、『五所小学校沿革誌』は1週間後「村吏、長農、亀勉(もうべん)して細民を説諭し、衆意ようやくその意に服せり」とする。同年7月五所・明照院において開校、「文部省統計資料明治8年現在抄録」は「明治6年創立、寺院借用、教員男2名、生徒男36名、女4名」と記録している。明治11年の学制変更で五所小学校と改称、同22年「町村令」八幡小学校合併まで続いたが、明照院はのちの大正14年1月焼失、五所・満蔵寺に吸収合併された。JR線路脇の「五所小学校発祥の碑」がその歴史を伝えている。

明治7年3月、菊間小学校が菊間・千光院の仮校舎で創立、この年市原小学校の前身、能満小学校も開校した。菊間地区は旧菊間藩庁所在地で、藩士子弟は義務教育として藩校に通学していた。藩制から引き続き教育への関心は高く、菊間学校開校時の生徒数は116名を数えた。開校3か月後の明治7年7月、千葉県所有であった旧藩校「明親館」の払い下げが認められ、8月盛大に本校開校式を挙行、「年度末の調査によれば生徒総計138名、内男102名にして女36名なり。経費総額は275円81銭にして授業料(毎1人1か月金3銭)および石高割り戸別割りをもってこれを支弁す」(創立120周年記念誌きくま)。旧藩校で第2代菊間小学校は菊間団地バス終点一画で、校地は裏山の旧練兵場能満地区台地一帯を含むおよそ1町歩であった。明治11年菊間小学校と改称、同25年現在菊間コミュニティ、昭和52年3月現在地に移って現在に及んでいる。

#### ①「文部省第3年報 明治8年現在抄録」八幡周辺小学校の創立状況

*校名	地名	創設年	建築	借用	教員	生徒数	授業料	(明治14年歳費=校長)
能満学校	能満村	明治7年	民家	借用	2	男33、女0	有	(239円=吉田珪循)
惣社学校	惣社村	" 6年	寺院	"	1	男50、女8	なし	(121円=なし)
山倉学校	山倉村	" 7年	"	"	1	男27、女6	なし	(校名なし)
君塚学校	君塚村	" 7年	"	"	2	男20、女8	有	(122円=福井龍起)
菊間学校	大厩村	" 7年	学校	公有	3	男118、女38	有	(519円=大河内)
八幡学校	八幡駅	" 7年	寺院	借用	2	男50、女33	有	(497円=栗林伝蔵)
五所学校	五所金杉村	" 6年	"	"	2	男44、女6	有	(131円=山越直吉)
北五井学校	五井村	" 7年	"	"	1	男44、女6	なし	(161円=沼崎勇次郎)
南五井学校	"	" 7年	"	"	1	男40、女6	なし	(166円=望月紘太郎)

#### ②「五所小学校発祥の地碑」(五所=平成15年2月、五所町会、五所小学校PTA)

\*五所小学校発祥の地=明照院境内、明治6年7月~明治22年5月

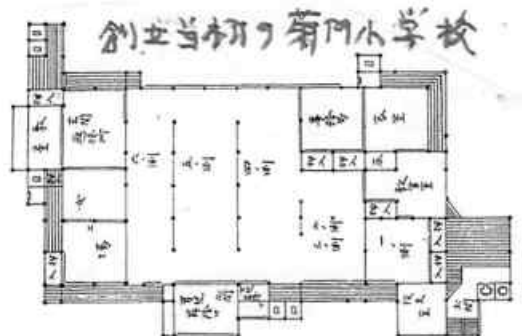
\*五(御)所小学校の歴史=上総地方の先頭を切って文化の香り高い地五所(この地明照院境内)に小学校が誕生した。時は明治6年7月のことである。その後4年制から6年制の尋常小学校へと変遷し、八幡小に高等科が設置された明治22年3月まで存在した。その後役100年五所地域児童は八幡小、白金小と通学

能所小学校  
地 →

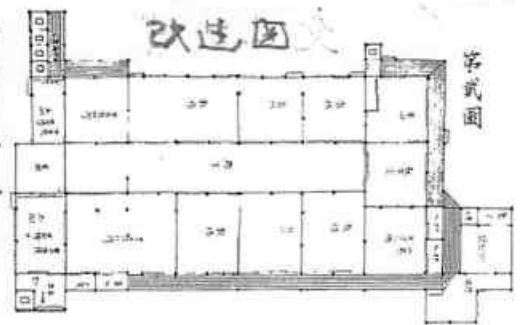


五所小学校  
発祥の地碑

千葉県  
明治七年二月  
課可相勸成事  
第三番學堂第百  
八番菊間學校習字  
根本肇



→ 菊間小学校  
創立当初の生徒たち



したが人口が急増、平成4年4月、五所 2154-1 の現在地に再び五所小の名前がよみがえりモダンな校舎の建築をみたわけである。ここに本校旧五所小跡に石碑を建立するにあたり概要を記す。

③「五所学校沿革誌」(八幡小学校=明治10年1月、編集人島田則裕、事務掛河野平三)

太政維新以降朝廷盛んに学事を拡張せられ文部十省の一に位してこれを監督し、明治5年学制の頒布せらるるや木更津県庁もまた速やかに管内に令して朝旨を尊履せしむ。(中略)わが第1大学区第22番中学区第196番五所小学校の創設たるや、明治6年5月学区取締各村吏を五井駅に会し、上旨を懇諭し速やかに学校を設立せんことを議す、該村戸長今井又平、副戸長関本又五郎これに趣き、上旨を奉戴しすなわち衆を会し、学校設立の方法を議す。衆議紛然頑陋(がんろう)俗をなし学校の何物たるを知らず、そ格して

決定せざることほとんど1週、日夜村吏長農電勉(もうべん)して細民を説諭し、衆意ようやくその意に服せり、よりに区内集金10円を課して毎月の費額となし、本村明照院をもって仮小学校となし、しこうして設置の法を上申す。尋ねて本村居住平民大塚八郎、算術師中村金蔵の2名を抜選して教師とし、庁に試験を乞い許可の指令をえたり。ここにおいて7月1日をもって開校す。校名を五所学校と称す。この日生徒昇校するもの20名。

④「市原郡誌 菊間尋常高等小学校」

明治5年学制の頒布せられるや(中略)小学校設立のことを百方説諭すれどもその言容易に行われず(中略)同7年2月始めて7小学区連合して第187番小学を設立すべき協議を遂げ、その施設方法を具して許可を申請せしに官速やかにこれを允許す。よりに菊間区千光院を仮校舎にあて修業年限を8か年とし、第1等菊間小学校の名称をもって同年3月11日開校の仮式を挙ぐ、時に就学の児童男女合わせ116名、教員には読書課小熊綜吉、算術兼習字課今井篤、習字課根本肇の3名各授業生として教務を執れり。(中略)同年7月旧菊間藩建築する所の学校を無償にて下付せらるるとともに、該地所約1町歩も払い下げとなりしをもって、翌8月校舎を移し改めて開校の式典を挙げたり。

⑤「創立120周年記念誌きくま 菊間小学校百年の歩み～沿革誌より」

旧菊間藩建築する所の学校を無代償にて下付せらる

(前略)本校は旧菊間藩士族が各自賜録の歳部を著積せし学校資金より支出し建築する所、(中略)実はこの一画は十族の膏血になるも所のものなるをもって再三状を具して十族一同へ下渡し方、あるいは払い下げを請願せしに、今その達分を左に記す。

先般願い出、旧菊間県元学校建屋の儀、無代償にて学校へ下与致し地所は、学区公有地に払い下げ、各地代金10円45銭相納め、券状請け取り方ならびに地券税上納の儀はさらに申し出べく候こと。明治7年7月5日 千葉県令柴原和

⑥「岡出家代々系図ならびに公私留め」(市原市の古文書研究第6集=岡田程八)

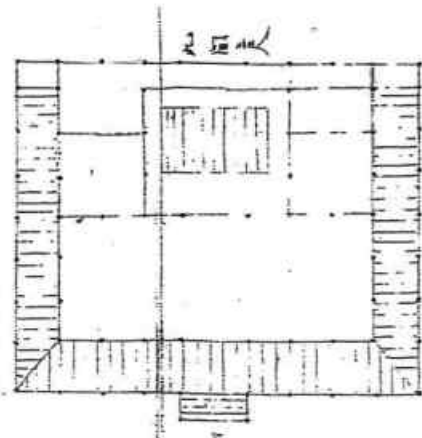
- \*同(明治7年)3月11日菊間村学校、千光院にて相開き喜七入校のこと
- \*同7月5日かねて願い出致し旧菊間県元学校建屋の儀、無代にて学校に致し下し置き相成り候こと
- \*同8月24日、右学校開きにつき6時揃いにて酒会これあり候こと

⑦「からさき」(市原小学校創立100周年記念事業実行委員会)

- \*明治25年12月22日、能満尋常小学校(市原、門前、西野谷、能満、郡本)、惣社尋常小学校(藤井、山田橋、根田、加茂、惣社、西広)設置(注意=明治7年創立を欠落)
- \*明治40年8月両校を合併して市原尋常小学校(郡本区大宮)と称す
- \*能満学校の所在地=市原市能満の積蔵院の旧敷地内、積蔵院と府中日吉神社との間で、旧小島宅敷地付近
- \*能満学校の由来について=積蔵院の敷地内に「神王院」という分院があり、住職の別院および府中日吉神社の管理をするために建てられていた(注=別当寺)明治政府になり寺院が神社を管理することが禁止され、府中日吉神社は神主が管理することになった。神王院では地域のこどもに学問を教えるために寺小屋として「能満学校」(注=学制の小学校)を開校し、住職をはじめ近隣のお寺の住職が交代で教えた。



オ2代ハ階小学校、おかわら松念寺古写真



当時の松念寺本堂



明治はじめの松念地坊内図

⑦学区取締鴫矢信一郎 (千葉県教育史)

鴫矢鹿門は海保の人太田錦城の逸材で郷にありて家塾を興し、遠近その名を聞いて遊学する者数百におよび、門下生として録する者をみれば印旛、長生、夷隅、君津の5郡に渡っている。孫信一郎□□を継いで明治におよび、政府学制を布くや学区取締に挙げられて学政を掌(つかさど)った。

⑧参考史料=明治6年3月木更津県権令あて姉崎小学校設立伺い書 (市川本店文書208-9)

\*表紙=仮学校伺い書、第三十二区二画、市原郡姉崎村

- 位置 市原郡姉崎村 287番地所妙経寺、坪数94坪、畳131
- \*句読教員 姉崎村 287番地所内借地居住・農中條卓治、年48
- // 同村 21番屋敷居住・士族長谷川猪八郎、年47、9か月
- 習字 椎津村 24番屋敷居住・士族小田邦之助、年36
- // 姉崎村 12番屋敷居住・士族土肥謙助、年53、9か月
- 算術 同村 263番屋敷居住・農外山六郎右衛門、年53、9か月

御試験の上仮教授命じられたく候こと

\* (校区の概要) 姉崎村=戸数509戸、人員2160人、生徒男女232人(6~13才)

\*この入費およそつもり 7円句読仮教授、5円同1人、6円習字仮教授2人、2円算術仮教授1人、2円世話小使い2人月給。1か月5円器械書籍買入れ入用、2円薪炭茶油紙墨筆、2円仮学宿、5円保護のため貯蓄。総計36円

外100円村持ち山松木伐木払い代貨、村方貯蓄これあり説諭の上出金の学校資本にあて候こと

\*右は今般至急御達しにつき差し向け仮小学校所設立方、書面の通り目途相立ちこの段伺い奉り候、もつとも追って小学校新築の儀は御規則に基づき勉勵商議の上申し上げ候なり。第三十二区二画、姉崎村 村用掛、副戸長2名、戸長斎藤善兵衛、大多和亮則 木更津県権令柴原和殿

\*書面の通り相違これなきにつき奥印仕り差し上げ候なり。郡中学区取締東條喜惣治(印) 夷隅町小学校設立事務掛につき巡回し不在中につき、東條氏へ奥印を請うなり、姉崎村は鴫矢の受け持ちなり

\*5月27日木更津県庁学力試験、余も出席す、御多端につき大属以上の官員御立合いこれなく、吉田大属、加藤少属その他2名にて御検査なり。伺い書木更津にて写しにて請け取り追って写し調印の上請け取りのはず。

⑨参考史料=明治6年千葉県令あて勝間小学校設立伺い書 (草刈・中村家文書=II122A)

\*表紙=公立小学校設立伺い 第五大区三小区、上総国市原郡勝間村、葉木村、大作村、瀧口村

\*第22番中学区内第164番小学区 戸数140戸、人員716人、内生徒90人、男40人、女50人

学校位置 勝間邸 55番地龍性院 \*名称 勝間校

\*教員履歴 瀧口村川島琢磨、当1月35年10月、大中小学等卒業の証あるいは師範学校卒業免状等ござなし、嘉永7癸丑年正月より安政5戊丑年まで下総国千葉郡落井村長谷川直之方にて句読習字受業、明治6年10月本県師範学校御試験の上授業生拜命、第164番葉木校読書、習字兼務

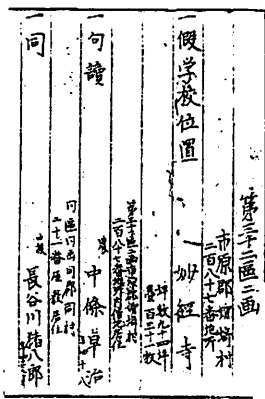
\*小学校入費 5円教員給料、50銭事務掛給料、50銭書籍器械料、50銭学校新営積み金、1円25銭薪炭油筆墨料その他諸費、58銭3厘役夫給料、あわせ8円33銭3厘 生徒授業料 ただし追って区内協議の上定額申し上げべく候。

\*1000円寄付金 この利子8円33銭3厘、ただし出納の儀、当今のところ相充ちおり候えども逐年学校新築、書籍、器械等その他ようよう増額に立ち至り候節は区内有志輩 協力同心をもって永久保護の資本金確守、蓄積仕るべく候。

\*右は御達しにつき差し向き小学校設立方法、書面の通り目途相立ちこの段伺い奉り候、もつとも追って学校建築の儀、御規則に照準し、区内協心互いに奮勵商議の上、申し上げ奉り候なり。

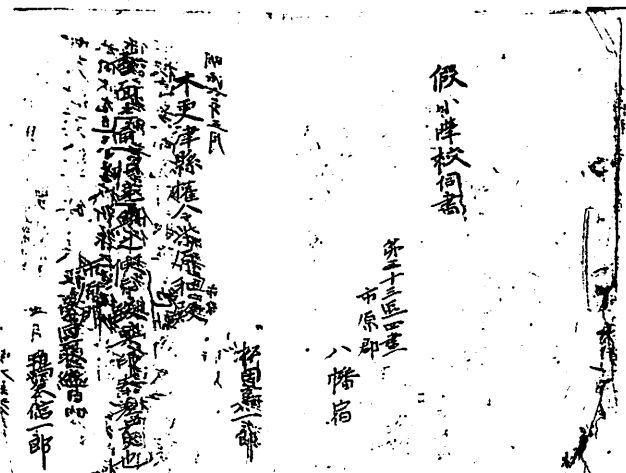
\*年月日欠落、勝間村、葉木村、大作村、瀧の口村用掛、事務掛川島治平 千葉県令柴原和殿

⑩明治9年1月千葉県令あて勝間小学校葉木分校願い (草刈・中村家文書=II122B) 省略



第三十二区二画  
市原郡姉崎村

仮学校伺い書



姉崎小学校の仮学校伺い書 (明治6年木更津県令52)

八幡小学校の仮学校伺い書 推考9明治6年筆白案

# 「八幡学校」に産みの苦しみ

一方八幡小学校は明治7年4月26日、八幡・円頓寺で第193小区、第194小区、第195小区連合の「八幡学校」として開校した。木更津県から千葉県移行期に八幡宿戸長を勤めた「市川本店」の「八幡小学校創設期文書群」に明治6年3月1点と11月6点、合計7点の「小学校設立伺い書」が保管されている。3月の木更津県権令あての「仮伺い書」は学区取締から示されたひな形にそった検討資料で、11月の千葉県令あて「設立伺い書」（清書分）は提出の控え、ほかは途中稿であわただしく推考を重ねた過程を読み取ることができる。

初代校地となった八幡・円頓寺は日蓮宗、京都妙満寺派、千葉・本行寺末寺で、寺伝は室町時代の戦国はじめ文明元年の創建、開基を日泰上人とし、江戸後期のころ歴代住職が寺小屋を開設した。「設立伺い書」は「坪数 74坪、畳 84畳、借家料 50銭」とあり、寺小屋が再利用されていることがわかる。

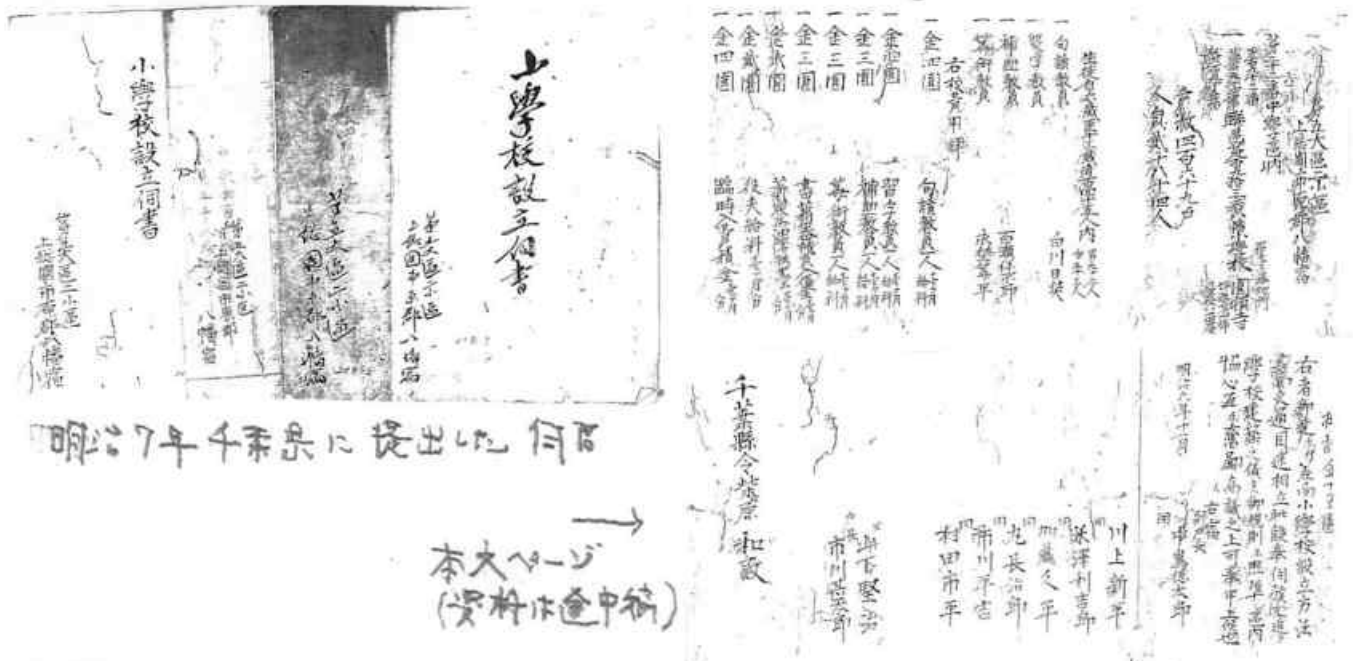
教員は当初、寺小屋教師でもあった白川日装住職を中心に計画されたが変遷し、最終的に読書教師を旧菊間藩士子息照嶋太郎、算術教師に八幡の人永野算平、習字教師は医師の百瀬巳之吉「読み、書き、そろばん」の3人が担当することになった。その1人照嶋太郎の「履歴書」は

第五大区三小区市原郡菊間村住、士族照嶋太郎 当戊（明治7年）23才8か月

- 一 大中小学校卒業の証ならびに師範学校卒業の免状ござなく候
  - 一 旧菊間県高柳邦（藩校教授）に従い明治元年正月より同2年12月まで都合2年の間支那学修行仕り候
  - 一 父春文に従い明治元年正月より同2年12月まで都合2年の間習字修行仕り候なり
- とその経歴を記している。3人は千葉県庁などで実施された「学力試験」をへて教師として正式に採用された。

また、1か月の校費予算は教師3人の給与が12円、書籍器械3円、薪炭茶油筆紙墨2円、学校借家料50銭、役夫（小使い）給料1円の合計25円で、設立にあたって器械、書籍ならびに修繕金寄付として有志93名から134円が募金された。月経費は毎月18円を学区内に戸割り、残りは児童が学費として支払うこととし、「お達しにつき差し向き小学校設立方法、書面のとおりに目途相立ちこの段伺い奉り候、もつとも追って学校建築の儀、御規則に照準し、区内協心互いに奮励商議の上、申し上げ奉り候なり」と県が指示したひな形に沿って伺い書を提出している。なんとか開校にこぎつけた「八幡学校」ではあったが、すんなりと町の人たちに受け入れられたわけではなかった。

明治7年4月創立、「八幡小学校沿革誌」によれば「しかるに開校の際出校する僅々10人すぎず、またもって村民旧貫に慣れて小学を信ぜざるを徴するに足れり、すでに2、3か月をへて生徒やや進み100名に至る」とする。数字は概数だが、「文部省第3年報、明治8年現在抄録」は男子50名、女子33名の合計83名と正確な数を記している。これを「創立伺い書」にある6才から13才者145名で除すと就学率となり57%、男女比を同数とすれば男子69%、女子46%となった。



①市川本店文書

\*八幡・市川本店＝飯香岡八幡宮創設から明治維新まで続いた旧社家、代々神職のかたわら酒類販売と醤油醸造業を兼ねた。現住の母屋、店帳場、蔵、門などは江戸後期から明治初期の建造、江戸後期から明治期にかけて「五大力船八幡宿船改め所文書群」などおよそ10万点の文書類を保管されている。

②明治6年3月木更津県権令あて伺い書（内示ひな形に基づく検討資料か＝市川本店文書208-4）

\*表紙＝仮小学校伺い書 第三十三区四画、市原郡八幡宿

\*仮小学校位置 第三十三区四画、市原郡八幡宿○番地 円頓寺 建坪、畳数

\*句読教員 円頓寺住職 白川日装。習字師算術兼 \*生徒6歳～13歳人数

\*集金額、校費内訳、借家賃、教員2人月給、僕1人月給、器械書籍の備金、薪炭 ほか有志輩寄付金、個別割り、人数割り

\*右は今般至急御達しにつき仮小学校設立方、書面の通り目的仕りこの段伺い奉り候、もつとも追って小学校新築の營繕料書買入れ入手、当学校保護のため貯蓄金の条件は先般御布達に相成り候小学校設立の御規則に照準し勉勵商議の上、申し上げべく候。以上 第三十三区四画、市原郡八幡宿戸長川上勘次郎、松田嘉一郎 木更津県権令柴原和殿

右の通り相違これなく候につき奥印差し上げ候なり 市原郡学区取締鴉矢信一郎

③明治6年11月千葉県令あて設立伺い書（提出用清書か＝市川本店文書208-7、8）

\*表紙＝小学校設立伺い書 第五大区二小区、上総国市原郡八幡宿

\*第22番中学区内、第193、194、195番連区第193番八幡小学校 101番地所円頓寺 坪数74坪、畳数84畳 戸数469戸、人員2084人。生徒自6才至13才者145人

\*句読教員白川日装、習字教員百瀬伴次郎、算術教員永野算平

\*右校費内訳 5円句読教員1人、4円習字教員1人、3円算術教員1人給料。3円書籍器械買入れ備金、2円薪炭茶油筆紙墨、半円学校借家料、1円半役夫給料。1か月分総計25円

\*右は御達しにつき差し向き小学校設立方法、書面の通り目途相立ちこの段伺い奉り候、もつとも追って学校建築の儀、御規則に照準し、区内協心互いに奮勵商議の上、申し上げ奉り候なり。第五大区二小区、上総国市原郡八幡村副戸長丸長治郎、川上新平、加藤久平、村田市平、米澤利吉郎、中嶋徳太郎、市川平吉、山下堅治、戸長市川甚太郎 千葉県令柴原和殿

④明治6年11月千葉県令あて設立伺い書（市川本店文書208-2等微妙違い5点、主な変更点）

\*教員氏名の変更＝小安又三郎、習字見習い百瀬伴次郎、和算教員永野算平

小安又三郎（抹消変更）照嶋太郎、習字見習い百瀬伴次郎、和算教員永野算平

\*教員千葉小学にて試験の上御採用に相成り候わば、学問の浅深技量により2、3回の間入校に付き一日金20銭ずつ学区内より教員へ差し出しその余の過払いは教師より差し出すべし。

⑤市川本店 その他の「設立期八幡小学校文書群」

\*教師履歴書（明治7年3月23日＝照島太郎）前出省略

教師塾則書上げ（明治6年8月2日＝医師百瀬巳之吉）省略

\*明治7年小学校書籍、器械ならびに修繕金寄付簿写し、八幡校事務掛。総計134円（93名）

\*明治7年学校設立出銭名前調べ（浜本町、観音町、片町、南町、無記 合計4冊）

\*明治7年学校出銭連名帳

\*明治7、8年学校出納 7年4月～10月、8年1月、年号無記

\*明治7年教授料請け取り帳、学校入費判取り帳、万控え帳ほか



千葉縣市原郡八幡 尋常  
小学校訓導主任  
但尋常科本科勤務  
月俸拾九圓給與  
大正三年三月廿一日  
根本 要吉

明治七年  
学校設立出銭名前調べ  
中町、片町、南町、無記  
教授料請取帳  
萬控帳  
八幡小学校創立期  
各社資料

記  
明治七年三月廿一日  
市川本店  
照島太郎

記  
明治七年三月廿一日  
市川本店  
照島太郎

千葉縣市原郡八幡 尋常  
小学校訓導主任  
梅谷宗代  
明治七年三月廿一日

八幡小学校創立期  
各社資料

騒動は開校直後、小学校の授業内容や経費負担などが発端となった。父兄は生徒を登校させず、訓導と教師が総辞職する事態となった。第2代訓導が記した『八幡小学校沿革誌第1号』は「海浜の一都会にして尚学を興す挙なし、なんぞ僻邑（へきゆう）にあらんや」と行政視線で批判している。結果をいそぐあまり強引に進めた教育行政への「反動」だが、八幡小学校誕生の「産みの苦しみ」でもあった。

これより先の明治6年、木更津県は学制推進のためその弊害となりつつあった家私塾を禁止し、7年にかけてすべてを廃業させていた。競合する寺小屋と手習い師匠、私塾を強引な手法で取り潰した上での学校創設ではあったが、拙速の批判も免れない。『千葉県教育史』は「人民は新小学校の教科と従前の寺小屋、私塾の教科と比較して必ずしも小学校の教科が優れりと思わない。なんとすれば従前の私塾、寺小屋で教うるものは実語教、今川、庭訓往来、論語、孟子の類で人倫道徳を主として教え、習字では実用の知識を授けるに、小学校では「糸、犬、錨、井戸」の類、会話と称して「あなたは学校へ行くのを好みますか」の類、(中略)子曰(のたま)わくで固められた頭には、馬鹿ばかしくて子供を学校に出す気になれない」。休校騒ぎは4か月ほどにおよんだが、明治8年5月、県の指導でようやく収束した。

当時の校舎は円頓寺から2代目の八幡・称念寺に移っていた。浄土宗で天正3年千葉・生実の大蔵寺第2世安誉上人創建と伝わる。称念寺には数点の「境内図」「本堂図」が保管されている。その1枚「明治15年本堂略図」が「八幡学校」当時の間取りで、元治元年修復再建、間口9間3尺、奥行き7間4尺の正面中央に内陣を配したシンプルな構造であった。のちの明治28年3月浜本町大火で庫裏、薬師堂とともに焼失、現在の本堂は昭和27年の旧民家移築再建で一時中断をはさんだ10年後に竣工、同49年に内陣を拡張して現在に至っている。

①「八幡小学校沿革誌、第1号」(明治11年7月、中学2等訓導、教員 真坂庄一郎)

わが政府各地方小学校設立の命あるや木更津県庁もまた速やかに管内に令して朝旨を尊奉せしむ、しこうして山陬(さんしゅう)海隅の民、頑陋(がんろう)俗をなし、朝旨の厚き学校の何物たるを解せず往々そ格して行われず、わが八幡小学校区内またそのもっともなるものなり、明治6年県治を千葉に移すや県官もまた各地設学の容易ならざるをもって学区取締若干員を置き、もっぱら地方学事を督せしむ。第22番中学区は鴛田信一郎、東條喜惣治をもってこれに任ず、これより日夜孜々(しし)区内を巡行し、いたるところ村吏豪農を会して上旨を懇諭し興学を勧む、しかるにわが八幡駅は人烟(じんえん)較(やや)稠(おおく)、海浜の一小都会にして尚学を興す挙なし、なんぞ僻邑(へきゆう)にあらんやと、すなわち正副戸長および富有輩を会してこれを議す、ついに要領を得るなし、ここにおいて鴛矢以下親しく自ら各家に歴説し、反復教次にしてわずかに集まり、すなわち第193番、94番、95番小学区を連合して八幡小学校とし、駅内円頓寺を賃(やとい)て仮校とし、本県士族照嶋太郎、本駅の人永野算平、百瀬巳之吉を聘請して読書、算術、習字教師となし、副戸長丸長次郎、権(かり)に校務を授す。毎月金18円を課して諸費定額とす、その課法は学区3連区内貧富大小となくすべてこれを戸数に賦す、こえて7年3月24日をもってこれを庁に請うて允許の指令を得たり。教師3名もまた試験および授業伝習をおえたり、明治7年4月26日をもって開校す、その器械、書籍は村吏および富民に募り租具(あらましそなわる)を得たり。これより先、小学の未だ開かざるに当たり駅内村校、私塾すこぶる多し、この際みな廃業に属す、その旧生徒大役男女150名あり、ゆえに設立詳細書中すなわち認めて本校生徒の人員となす、しかるに開校の際出校する僅々10名にすぎず、またもって村民旧貫に慣れて小学を信ぜざるを徴するに足れり、すでに2、3月をへて生徒やや進み100余名に至る、教場容るる能わず校を同駅称念寺に転ず。

②「家塾私塾の取り締まり」(千葉県教育史)

\* 県は鋭意学制に依拠し公立小学の普及設立をはかり百方これが達成に努め漸事その実現を見るに至るといへども従来の慣習上地方の私学も公学に並行して徐々にその勢力を伸ばし、その弊害の容易ならざるものあり(中略)同年3月に至り一切家塾私塾を開くことを禁じた。(中略=その筋あて答申)自今小学設立の際容易に家塾を差し許し候てはもとより未開の人民教科の可否をわきまえずただ学費の少なきをよろこび村民相謀り家塾開業を出願候よりの悪弊を生じ、小学校設立の妨害少なからず候につき当分家塾開業差し許さず(後略)。

\* 小学校設立につき、たしかにその弊害を認めたるは私塾であった。(中略)当時府県当局は政府の方針に基づき急速に学校を設立せんとあせるも人民は新小学校の教科と従前の寺小屋私塾の教科と比較して必ずしも小学校の教科が優れりと思わない。なんとすれば従前の私塾、寺小屋で教うるものは実語教、今川、庭訓往来、論語、孟子の類で人倫道徳を主として教え、習字では実用の知識を授けたるに小学校では読み物としては糸、犬、錨、井戸、冢の類で、会話と称して「あなたは学校へ行くのを好みますか」「学校では何を習いますか」の類い、習字としても日常の文字にうとい手本を与えられるので、父兄など子曰(のたま)わくで固められた頭には馬鹿馬鹿しくて子供を学校に出す気になれない。当局はこれを見て動もすれば「野蠻未開の民」とか「頑迷固口」とか一概に罵倒するははなはだ当を失しているやに思われる。



主な支出＝給料（教員）11 円、書籍（世界往来、地方往来）62 銭、器械（張文庫、札板、大工手間）1 円 74 銭、雑費（学校宿料 1 円など）1 円 75 銭

\*明治 7 年 6 月

納総計（収入）11 円 93 銭（生徒授業料集金 3 円 54 銭、区内集金 8 円 39 銭）

出総計（支出）16 円 88 銭、差し引き 4 円 55 銭不足

主な支出＝給料 12 円、雑費（円頓寺学校宿料 1 円、炭、茶代、半紙など）4 円 88 銭

\*明治 7 年 7 月

納総計（収入）13 円 1 銭（生徒授業料集金 4 円 62 銭、区内集金 8 円 39 銭）

出総計（支出）16 円 68 銭、差し引き 3 円 67 銭不足

主な支出＝給料 10 円 25 銭（教員 10 円、役夫 25 銭）、雑費 6 円 43 銭（称念寺学校宿料 1 円 50 銭、学校引き移り品々諸入費、半紙、奉書）

⑤八幡学校「学校入費取り帳」（明治 7 年開校当時の八幡宿のお店）

川（印＝柏、上総八幡川重）漬物。東風軒（印＝柏、上総川上）菓子

安藤常三郎（印＝上、八幡南町石屋）箱、膳。炭や藤部（印＝上総八幡炭藤）炭

福嶋定平（印＝定武州出張上総八幡福嶋）金物。鈴木与平治（印＝上総八幡鈴木）炭、材木

鈴木清七（印＝上総八幡出途鈴木）紙。川上平（印＝柏上総八幡川上）茶器

永野善五郎（印＝上総八幡浜本町永野善五郎）炭。永野豊太郎（印＝上総八幡北川岸永野豊太郎）炭

青木屋吉十（印＝吉、上総八幡青木屋）炭。川上親一郎（印＝上総八幡川上）柿渋

周地かじや（印＝上総八幡鍛冶屋）釘。橘屋伝八（印＝上総八幡完倉）梅干

いせ屋口郎（印＝菓種、上総八幡伊勢屋）。杉浦三口（印＝杉八幡仲町杉三）紙

## 八幡学校、現在の八幡宿駅前に移る

八幡小学校の運営が軌道に乗るのは明治 11 年 3 月、現在八幡宿駅前ロータリー一帯にあった中教院が廃院となり、敷地と建物 4 棟が学校校地として下付されて以降のことである。この地にはかつて飯香岡八幡宮の別当寺・靈応寺が置かれていた。別当寺は「神仏混淆」時代、わが国固有の神々と大陸から渡来した仏教信仰を折衷した融合機関で、寺優先の中近世、神社経営に大きな影響力を持った。靈応寺は新義真言宗、本寺京都醍醐寺三宝院末、末寺、門徒、支配 12 院、朱印配当 18 石、菊間若宮「八幡神社」（通称若宮八幡宮）の別当寺をかねて「若宮寺」を名乗った。

明治元年、新政府は「神仏分離令」で別当職を廃止、靈応寺は「廃仏毀釈」の嵐の中、暴力的に破壊された。明治 6 年「飯香岡八幡宮境内あら絵図（1 ページ参照）」は元靈応寺跡地、新下田、新下田畑とあり、荒廃した様子を伝えている。

明治 3 年に発布された「大教宣布」は「祭政一致」、神仏合併による「国民教化」を目的とした。推進機関の「教院」は民間組織ではあったが、国家制度の色彩がつよく教部省が所管した。統括する「大教院」を東京に置き、各県に「中教院」、管内の寺社を「小教院」としたが、指導者は神道色が濃く、教導職の活動も不振で、みるべく成果もない内に空中分解することになる。

「廃仏稀釈」で破壊された靈応寺跡には明治 6 年ころ 4 棟の中教院が建築され、木更津県内の仏教僧侶たちが「神道国教」を学んだが批判も多く、明治 10 年ころその活動を停止した。空き家となった中教院跡に目をつけたのは学校経営に行き詰まった町の人たちであった。『八幡学校沿革誌第一号』は、「明治 10 年 11 月駅内靈応寺跡建屋 4 宇（中略）下付せられんことを請う、許されず、12 月また価金 70 円を納れて購求せんことを乞いしが、ここにおいて（中略）無代価においてこれを下賜せられたり」とある。一方これより先明治 7 年 7 月には、菊間千光院で開校した「菊間学校」が木更津県の所有下にあった旧藩校「明親館」を下付されていた。

八幡小学校は寺小屋時代の延長線上にあった称念寺時代から本格的校舎を獲得したことで「近現代小学校」へと大きな変革を遂げる。改めて表紙ページの『千葉県博覧図』、明治 26 年「千葉県上総国市原郡八幡町八幡尋常、高等小学校および八幡町役場の図」に目を転じよう。右奥の 4 棟は旧中教院で、校舎移転時は築 5 年、ほぼ新築状態であった。正門に学校旗がほんぼんと翻り、広びろとした校庭で子供たちが体操している。中央の木は「教えの松」、八幡小学校のシンボルとなった。左側は明治 23 年に竣工した八幡町役場、明治 18 年の「八幡宿村会の碑」も描かれている。のちの庁舎移転で、現在八幡商工会議所横の植え込みにひっそりとたたずんでいる。碑文は難解だが、役場、学校、道路の建設など、維新後の町の発展を謳っている。



明治 21 年、明治の町村再編で八幡宿は五所村と合併、八幡小学校は明照院で創立した五所小学校を吸収、高等科を設置して「八幡尋常小学校」と改称した。戦時軍事教育下の「八幡国民学校」をへた昭和 22 年、戦後の六三制「教育改革」で八幡町立、30 年市原町立、38 年市制施行にともない市原市立八幡小学校となった。この間、京葉工業地帯の埋め立て開始とともに生徒数は急激に増加、八幡小学校はプレハブ増設をくり返したが老朽化が激しく、昭和 41 年八幡宿駅裏の地を新校地に選んで起工し、43 年 3 月完成移転を待って永年親しまれた旧校舎を取り壊した。

跡地は現在 J R 八幡宿駅前ロータリーなどになっている。当時、八幡は「海と八幡さまの町」として賑わい、蒸気機関車が噴煙を上げながら走った。懐かしかった木造平屋の単線駅舎も八幡さまの「いちよう」をイメージした橋上駅と代わり、潮干狩りでにぎわった八幡海岸は巨大プラントが立ち並んでいる。中堅工業都市として発展を遂げた現在の八幡には「駅前小学校」時代の面影はない。町の小学校の歴史もまた「郷土史」そのものであった。

### ①「八幡学校沿革誌」

(明治 11 年) 2 月、校を旧中教院の故跡へ移す。生徒 80 名、これよりさき官各小学に令して校舎建築の地を占定せしむ。すなわち役員合議し、客年(10 年) 11 月駅内霊応寺旧中教院廃迹(あと) 建屋 4 宇およ

び地所を併せて下付せられんことを請う、許されず、12 月また価金 70 円を納れて購求せんことを乞いしが、ここに至り特旨をもって無代価にしてこれを下賜せられたり。

### ②上総国新義真言宗本末帳(寛政 7 年)

市原郡八幡村 若宮寺(霊応寺) 本寺醍醐三宝院 御朱印 18 石社領配分  
同所 満徳寺 本寺醍醐三宝院(6 石)

右の若宮寺末寺 菊間村 福寿院

右の若宮寺門徒 八幡村 長寿院(6 石余)、宝珠院(2 石余)、

菊間村 徳性院(2 石余)、東漸院(4 石余)、

右の若宮寺、満徳寺両寺支配寺 八幡村 円寿院(14 石余)、広徳院(8 石余)、東覚院(7 石余)、神主院(11 石余)、宝蔵院(6 石余)、安養院(10 石余)、菊間村 戒誓院

### ③霊応寺の最後=市原市の古文書研究\*第 4 集

\*明治元年 3 月、新政府は天皇を神格化する国家神道と祭政一致のための「神仏判然令」を発令、新法は神仏の分離、別当寺の廃止と社僧の還俗(中略)などを命じたものであった。飯香岡八幡宮らの神社はこうして仏教の支配を離れることになるが、一方でこの時期、法令の施行者に廃仏論者が多く、行き過ぎた「廃仏毀釈」へと展開していった。霊応寺は檀家を持たない密教宗派の祈祷寺で、八幡宮別当としての唯一の収入源を断たれたうえ、後継僧をめぐる混乱が加わり存続の道はなくなる。その最後は暴力的「廃仏希釈」とされる。仏像や経典が焼かれ本堂以下の建物も取り壊された。(中略=明治 6 年「八幡宮あら絵図」では霊応寺跡が空き地と田畑、百姓家に代わっている)室町時代以来数百年間に渡った飯香岡八幡宮別当寺はこうしてはかなく消え去った。

\*「飯香岡八幡宮文書」の明治 3 年「菊間藩届け出控え」によると「当社僧霊応寺住職の儀、去々辰年 8 月中病死後、隣村の僧、右寺院住職これなきところ、同 10 月中取り巧み復飾願いがたく申し来たり候につき一社中差し縫れ、出訴におよび未だ御取り調べ中にごさ候」。明治 8 年「八幡大神領元墨印地旧神宮外元配当録」は「同年(明治元年) 10 月より同寺復飾正邪の儀につき、明治 4 末年 10 月中まで旧宮谷県よりなお旧菊間県において御吟味中、扱人立ち入り事実和解におよび、右復飾人市原武雄儀、同年同月隠居、退身致し」とある。

④大教院=明治 5 年から 8 年まで存在した、神仏合併による大教の宣布と教導職講学のための全国組織。民間の団体だが国家制度の色彩がつよく、神道色が強く仏教各宗の反発などで解散した。

\*中教院=各府県に置かれ、四祭神を祀り小教院にあたる従来の寺院や神社を統括、生徒の指導、説教、教導職試験を担当したが、神官教導職の活動は不振で間もなく廃止された。

### ⑤八幡小学校卒業証書(梅谷佳弘家文書=明治 11 年 4 月)

\*千葉県平民 伊勢松孫、梅谷千代 下等小学校第 8 級卒業候こと。第 22 中学区上総国市原郡八幡宿



八幡小学校の  
旧校舎と航空写真



第193番八幡小学

- ⑥八幡尋常小学校卒業証書 (青木くに家文書=明治23年3月)
  - \*尋常証 千葉県平民宮吉やえ 尋常小学科卒業候こと。千葉県八幡尋常小学校
  - 尋常小学科卒業生宮吉やえ 在学中の操行を査定して尋常とす。千葉県八幡尋常小学校長吉野健次郎
- \*八幡高等小学校第1年級卒業証 (青木くに家文書=明治25年3月)
- \*千葉県平民宮吉八重 高等小学科第1年級卒業候こと。千葉県八幡高等小学校
- ⑦八幡尋常小学校修業証書 (青木くに家文書=明治32年、33年3月)
- ⑧八幡尋常高等小学校修業、学習証書 (青木くに家文書=明治35、37年3月)
- ⑨初期の学校田小作米領収書
  - \*明治10年12月学校田小作米受け持ち事務掛領収書 (八幡・梅谷佳弘家文書)
    - 記 (判読不能) 一米1俵と1升5斗、川上新一郎分
    - 右は当10年本校田口米正に受け取り皆済候なり
    - 明治10年12月26日 5小区内八幡校受持事務掛 (印)
    - (割り印=□小区内、□幡校受、□事務掛)
  - \*明治13年12月学校田小作米学務委員領収書 (八幡・梅谷佳弘家文書)
    - 記 第207号、川上平三郎分 一米1俵と1升5斗、内2升7合用捨引き
    - ただし米1俵1斗2升3合 (印=皆済)
    - 右は本年八幡校田口米正に受け取り候なり
    - 13年12月10日 八幡校学務委員 (印)
  - \*明治17年2月学校田小作八幡小学校領収書 (八幡・梅谷佳弘家文書)
    - 領収の証 第277号、納め人川上平三郎分、梅谷いせ松
    - 一米1俵なり 明治16年小作米
    - 明治17年2月18日 千葉県下市原郡八幡宿 八幡小学校 (印)

参考資料=明治以降の八幡地区私学校

1) 「地域教育の父」川上南洞の私学経営

- ①明治23年、飯香岡八幡宮社務所に千葉県皇典講究分所を移転
- ②" 31年4月5日、千葉県皇典講究分所普通学部
- ③" 34年、飯香岡普通学校
- ④" 41年、南総学校 (このころか現在市教育センターの地に移転)
- ⑤昭和2年、南総中等学校と改称、同19年3月31日廃校



川上南洞像



校友(明治41年)



南総学校跡地



飯香岡校、南総学校、卒業生詩



飯香岡境内の古木



①南総学校跡地看板 平成15年(2003) 史跡看板(高さ70、幅92、奥行き10cm) 上台石(高さ16cm)、下台石(高さ43cm) 補充困難により廃校となったものである。この間、明治三十四年に飯香岡普通学校、明治四十一年南総学校、昭和二年に南総中等学校と改称し、その後廃校後の校舎を継承して昭和二十七年に定時制の県立市原第一高等学校八幡分校が設置されたが、昭和四十年に県立京葉高等学校の設立によって発展的解消をしたものである。この碑を建立したものである。 平成十五年六月吉日 市原市教育委員会

# 五大力船の謎解く古文書

江戸初期から昭和初期、東海道の輸送を担った中製の帆掛け船「五大力船」の積み荷詳細などを記した古文書が、出発港の一つだった市原市の八幡港近くの旧家から見つかった。史料が少なく、謎が多かった五大力船だが、同市の歴史研究グループ、市原の古文書研究会（山岸弘明代表）のメンバーらが解読を進め、運搬品の内訳や船の数、運航システムを明らかにした。（下山博之）

## 市原の旧家で発見

五大力船に詳しい立教大文学部の後藤雅知教授によると、当時の木更津町や千葉町を始めとした内房地区の港町の多くは、江戸との間で五大力船を出していた。しかし、戦災で史料のほとんどが失われ、物資の輸送状況を示す具体的史料はなかったという。

古文書が存在が明らかになったのは、明治初期、八幡宿の地域代表に当たる戸



五大力船に関する古文書を解説する山岸代表（右）ら（18日、市原市の八幡公民館で）

1/4 徳島新聞

保管されていた。同研究会が2年ほど前に史料を借り、解読を進めた結果、江戸時代の八幡港には五大力船が最大30隻あったと推定していたのは十数隻で、コマや薪、炭などが積み込んで江戸との間を1か月ほどに約3往復していたことを突き止めた。後藤教授は、この史料の発見は画期的だと評している。

1614年の八幡港築港から400年が経過したことも記念し、同研究会と市原市立八幡公民館運営委員会、JR八幡宿駅の市民ギャラリーで約800点の史料を展示している。

## 八幡港往來の歴史知って 築港400年

## 「五大力船」の謎 史料でひもとく

市原で企画展



江戸時代から関東近辺の輸送に用いられた海川開用の回船「五大力船」を中心に、港町として栄えた市原市八幡の歴史をひもとく企画展「八幡港と五大力船」（市立八幡公民館運営委員会主催）が、JR八幡宿駅の市民ギャラリーで開かれていた。これまで判然となかった一帯での運航実態を解き明かす貴重な史料約800点が並び、訪れた人に歴史ロマンを感じさせている。（日吉）

1614（慶長19）年、年貢米運出し港として築港され、長年にわたり海の玄関口の役割を果たした八幡港。しかし、1907（昭和32）年からの臨海部の埋め立て、企業進出

千葉県文化財保護協会報

### 創立五十周年を迎えて

第103号

甲成28年3月31日

千葉県船毛区大倉町285  
千葉県総合センター内  
印刷 徳島新聞  
千葉県文化財保護協会  
TEL 043(255)0673

千葉県文化財保護協会報

第103号

甲成28年3月31日

千葉県船毛区大倉町285  
千葉県総合センター内  
印刷 徳島新聞  
千葉県文化財保護協会  
TEL 043(255)0673

創立50周年記念式典文化財講演会

文化財保護功労者表彰式

文化財保護功労者表彰

今回の表彰は五十周年記念でもあり個人は二氏、団体は三団体と例年より多くの表彰を行いました。

市原の古文書研究会  
代表者 山岸 弘明 氏

青木篤（海の華）誕生の家と記念碑を保存する会  
会長 嶋田 博信 氏

NPO法人 小野川と佐原の町並みを考える会  
理事長 佐藤 健太良 氏

本市は公民館を活動拠点に、地域の史料を掘り起こし、解読してデジタル化する取り組みとして平成十三年に発足した。

市原市の八幡・五井地区はかつて地域の中心地であったが、伝来の古文書・記録類は高層ビル火災等によって失われたものも多く、地域史に空白の部分が見られた。その中で本市は地区の元名主、古くからの商家、寺社等の史料調査を推進し、前史科の福井孝子の関子「市原の古文書研究」として、現在まで出版発行し、現在七巻を編集途中である。収蔵史料は「五大力船古文書群」「地区の「村憲明報紙」明治前期の「戸長文書」等の重要な史料である。

本市の史料は文庫史料の消失を防ぎ、その価値を地域に伝えることで地域史の解明に資することを、文化財保護活動としても高く評価される。

e7

2015年(平成27年)6月6日 土曜日



江戸の町の繁栄を支えた商人たち。いちばん多かったのは何のお店でしょう。調べてみた。

1万3147軒。嘉永4(1851)年の幕府の調査に記載されている江戸の店舗の数である。情報源は「諸問屋名前帳」全58巻。国立国会図書館デジタルコレクションとして公開され、インターネ

### 江戸の業種分布



山室恭子の

## 商魂の歴史学

ネット環境があれば、どんなでも閲覧可能である。地名や屋号がいろいろ並んで楽しいのびせもん。

この58巻を画面上でせせせとめくって数えてみた。

1等賞は意外なことに炭屋さん。「炭薪神買」という業種で3702軒。2等賞は順当なところでお米屋さん。「春米屋」と記載されて2919軒。ぐっと水があいたあと、3等賞から5等賞までは接戦で、米穀問屋910軒、阿替屋908軒、炭薪問屋837軒という結果となった。

お米に炭薪に金融。生活必需品を商う店舗が江戸のお店の大多数を占めている。全体の分布をまとめた左上の円グラフのようですね。

## こんなことをお話しします

- 0 五大力船に興味をもったきっかけ ✓
- I 百万都市江戸を支えたもの ✓
  - ・『重宝録』の世界 ✓
  - ・江戸地回り経済を支えた二系統の水運 ✓
    - 奥川筋と内海— ✓
- II 江戸湊はどこか
  - ・江戸絵図に描かれた江戸湊 ✓
  - ・上総湾ってなに? ✓
  - ・木更津河岸と木更津船
- III 西上総の浦々(湊)
  - ・船掛り場のない「港」
  - ・木更津船の独占体制が崩れる



おや、江戸商人の代表格と目される三井越後屋さんはどこ。見回すと呉服問屋は少数派で、木綿問屋や糸問屋など関連業種を合わせても336軒しかない。

圧倒的に数が多いお米屋さん炭屋さん。どこにお店を開いていたのかを切絵図を広げて印を付けてみると、江戸全域が溢れ尽くされる。あらかも街角コンビニエンスストアの如く、白いお米と黒い炭の2色の販売網が江戸の町をくまなく潤っていた。

しかも現代のコンビニと違って他店との競争がない。お米も炭も、同業者どうしで「番組」を編成し、春米屋18番組は本所地区北部を担当します、というように、店ごとに明確に販売エリアを定めていた。新聞の販売店のような。

いっぽう呉服や小間物や菜といった贅沢品を扱う店舗の立地を調べると、狭い日本橋地区にぎっしりと詰めあつ

生活必需品は江戸全域に販売網を広げての地区割りによる共生。贅沢品は日本橋に固まってる競争。大量に消費され、かつ重たい米や炭は買い手の近くで販売したいし、利益率が低いから競争は避けたい。よって小店がくまなく点在する。逆に軽い贅沢品は買い手に日本橋まで来させて巨額の利益を勝ち取りたい。よって大店が繁華街に極比する。商品の性質によって営業形態が二極分化していた。

思い起こせば昭和の昔。スーパーマーケットが登場する前のご近所商店街には、風格ある精米店が必ずどこしひとつ構えていなかったらうか。あるいは小学校の同級生中心とりへら炭屋さんの子もがいなかったらうか。夏には水を商っていた。あれはみな、江戸の暮らしの正統なる後継者たちだったのだから。

◆次回は「呉服第一の交流の歴史学」です。

朝日新聞2015年6月6日(土)より

八幡史学館 平成28年度第2回

2016年7月12日(火)

宮本 敬一

於八幡公民館



「八幡浦五大力船揃図絵馬」(飯香岡八幡宮蔵・1794)

25

『重宝録』諸色之部の世界 ① 米

安政地震の翌年、安政三年(一八五六)に江戸に入荷した諸物資の名称・数量荷元受入問屋・流通機構等の記録

江戸表諸色船運送入津陸附荷高密々御尋ニ付左ニ奉申上候

一 卷ノ米

卷ケ年凡

一式百四拾八九万石程

是ハ後草御蔵松米御武家様方御収納米共

同

一 凡拾卷式万石程

是ハ下り売米

同

一 凡四拾万石程

是ハ地廻奥筋売米

右米江戸表日用従古来下々ニ而見積、一日飯米卷人分五合宛、御武家方寺社旅人百万人、江戸表

町人五拾万人分合七千五百石、卷ケ年分合升目式百七拾万石、此卷人玄米五合積者通例ニ而、下々

荒働致候ものハ、一日卷人ニ付白米ニ致六七合食用致候もの有之、老少ニ而一日同三合位食用致

候もの有之、此外日用菓子其外之食物又細工ものニ用ひ候米、并上総下総相模伊豆駿河浜方

漁師飯米ニ用ひ候分ハ、押送船江戸表背問屋共相渡、此食用米一ケ年升目高見積玄米凡三百

万石余之着米高ニ御座候、此下り米地廻米銘凡

知田 桑名 菟野 龜山 神戸 津 松坂 長嶋 鳥羽 大垣 加納 岡崎 三州 吉田 掛川 浜松 相良

横須賀 志田 田中 豊前 中国 肥後 筑前 広嶋 中津 島豊前 福山 備前 唐津 長府 清米 肥前

嶋原 小城 蓮池 筑後 豊後 臼杵 佐土原 日向 日出 延岡 伊予 土佐 讃岐 播州 明石 姫路

岸和田 備中 米子 仙台 一ノ関 東山 南部 会津 白川 武本松 三春 長沼 守山 佐久山 増子

黒羽根 大田原 喜連川 鳥山 牧警城 安藤警城 磐米 内岩城 警前 田村 上遠野 大棚倉 小棚倉

相馬 忍蔵 柿木 岩槻 羽生 埼玉 館林 高崎 麻橋 安中 伊勢崎 上州 宮蔵 井都賀 久都賀

本都賀 渡都賀 北郷 南郷 杉山 松川 古領 下館 府中行方 志筑 牛久 矢田部 茂手木 龍ヶ崎

笠間 真壁 寒川 戸佐倉 丹佐倉 長香取 短香取 小香取 三弥 相馬郡 生実 上代 上田子 下田子

久留里 佐賀 望陀郡 大上総 日上総 大田喜 姉ヶ崎 房州 三浦 地廻 越後 加賀 庄内 津輕

此米銘ハ諸國之内重之分ニ而、此外銘多端ニ御座候得とも、通用売米米銘凡之申上候、尤浅草

御蔵御松米者米仲買脇店米屋番米屋も直々入札差上候、諸家様方御収納米ハ河岸八町米仲買脇店

米屋之内小沢島札組仲間入札仕候得共、小分之御松米ニ至候而ハ御家々江立入候番人番米屋共杯

も御松米買請申候、又売米之方者、相州浦賀渡々東海道 南海道 五畿内 山陰道 山陽道 西海道

北陸道之米者江戸表ニ而ハ下り米問屋引請、相州浦賀渡々東之方武蔵 両総 房州 奥州米雜穀と

も関東米穀三組問屋引請、内海海岸附国々并常陸 上野 下野 奥州之内も奥川舟ニ而運送致候分

并山之手陸付米雜穀者、番組地廻米穀問屋共引請候、此三手問屋共ハ売捌方仕法、下り米問屋関  
東米穀三組問屋ハ、河岸八町米仲買ニ限売捌可申候、小分之問屋も有之差支候間、当時ハ番組地  
廻米穀問屋一統脇店米屋ヲ兼帯致、問屋名目之方ニ而在方引請、脇店名目之方ニ而番米屋業人  
江も売捌候、

一 諸家様方御収納米之内、仙台領之義ハ領中一門方家来衆収納米、并大豆百性売米共御領主一手ニ  
買上、石之巻湊ニ而国船并履廻船江積立江戸表深川蔵屋鋪江相廻、河岸八町米仲買入札致落札之  
もの日限定蔵屋敷内蔵元会所江代金皆済致、米者、毎年十月新石ノ翌年九月晦日迄落札人勝手次  
第二居置、蔵元五十俵巻枚之切手落札人江相渡候間、落札人此切手を以売々いたし、蔵出致候節  
者蔵元江切手相渡候得ハ勝手次第蔵出致候、此仕法大坂四蔵元与唱細川越中守様、松平美濃守様、  
松平安芸守様、松平加賀守様蔵屋鋪御松米仕法之通、文化九申年陸奥守様御直願ニ而、御聞濟相  
成候、尤天保十一年同十二年迄家来衆ニ不取計之もの有之、蔵元大坂榎木町升屋平右衛門を  
取放、江戸表ニ而神田久右衛門町巻丁目蔵地峯村屋金次郎、芝金杉通三丁目内藤佐介俸菜次郎を  
蔵元ニ相附、後藤三右衛門も加不正切手を以金子融通致候、米大豆十一万九千九百廿六俵、此切  
手其比者巻枚式十俵宛ニ而市中近郷迄も売渡有之、米不渡ニ付切手所持之もの騒立候、口々多端  
ニ有之候処、家来衆ハ年賦濟方之義被願立、遠山左衛門尉棟御懸ニ而御札之上、年々米式千石宛  
所持之もの惣賸江年賦割合済ニ相成、其後滞候義無之、  
右之外諸家様方松米ニハ此仕法無御座候、

『重宝録』諸色之部の世界 ② 炭と薪

一 卷ケ年凡式百四拾七万五千俵程

是ハ紀州熊野 武州神奈川 川越 八王子 辺、遠州 駿州 豆州 相州 甲州 上州 上総 房州 下総

佐倉 水戸海道 辺、野州 佐野 栃木 絹川 辺、常州 西浦 北浦 辺ハ入津致候、此内熊野灰者熊野

炭大問屋引請、小問屋引請、豆州 天城炭者御用分相納、売捌其余海手川 辺炭薪問屋共引請売捌候、

一 卷ケ年束物千八百三十七万九百束程

同断才木凡七百四十九万九千三百本程

是者相州 豆州 上総 房州 下総 國松戸 流山 境 水海道 戸頭 金之井 印西 佐倉 沼部 安西、

野州 久保田 女方 絹川 辺 壬生 乙女 河岸 辺、常州 西浦之内土浦 伊佐津 道仙田 高浜 高崎 牛堀

麻布 玉造 辺 北浦之内鹿嶋 串挽 鉢田 安塚 辺ハ入津致、海手川 辺炭薪問屋共引請売捌候、

『重宝録 第四』(東京都公文書館 二〇〇三年)より

『重宝録』諸色之部」の世界 ③ 流通機構—廻船問屋と内海船方

〔朱書〕  
九十六  
廻船問屋

是者諸廻舟并浦買外、内海江諸荷物運送致候、東海廻舟唱候押送造之船共、浦買御番所江通船手形差出、船積荷物并廻船運送江戸表江入津荷物水揚とも取替方仕候、

〔朱書〕  
九十七  
魚船問屋

是者七組着問屋之内ニ而魚船問屋兼候もの、日々押送船共方、江戸表江入船者鮮魚荷物故沖直通り御免、江戸表、船帆之節通舟手形者此魚船問屋共、差出申候、此手形を浦買御番所ニ而御改請候、尤船帆之節少分之売荷物等積付候節ハ手形江品数書入申候、

瀨取宿に指示して茶船で解下取り、諸商人に配送

〔朱書〕  
九十八  
木更津船五大力造

神奈川番船五大力造

所々五大力船宿

〔木更津河岸〕

江戸橋蔵屋敷ニ積所有之候、

露岸橋際請負地ニ受宿有之候、

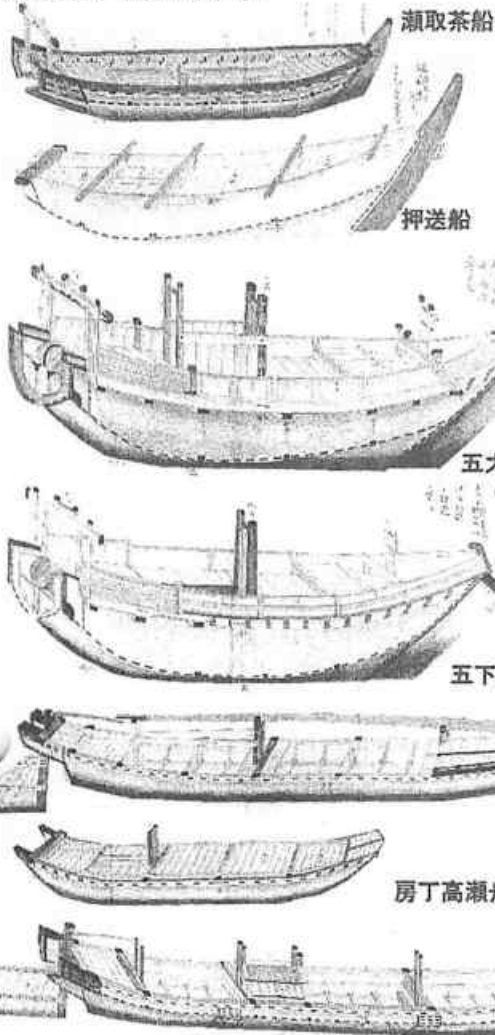
有之候、

南小田原町老丁目 芝金杉町 深川相川町 同所熊井町 本湊町請宿

是者五大力船同造之五下船

井右国々内海付最寄商人、江戸表江送來候荷物、船積方解下方面採取扱申候、

運送ニ而内海付武州在上総下総 房州商人共江差送候荷物、



『重宝録』諸色之部」の世界 ④ —奥川船方と飛脚問屋・馬宿

〔朱書〕  
九十九  
奥川船積問屋

是者高瀬船同造之小振之ほうてう船、奥川筋武州在上野下野常州下総、奥州川縁諸商人江諸荷物江戸表諸商人、差送候荷物を船積方取扱候、御武家方荷物船積之節同様ニ御座候、

但、奥川船積付江戸表出帆荷物、武州在下総常陸上野下野利根川鬼怒川荒川筋之枝川之登船難船有之節者、此積問屋とも難船場所江罷越荷物改方致候、

〔朱書〕  
百  
奥川船解下宿

是者右高瀬船ほうてう船ニ而、前段国々諸商人共、江戸表諸商人方江引請荷物入津之節、此解下宿共奥川船、解下取、江戸諸商人共方江配方仕候、御武家方着荷揚同様ニ御座候、

〔朱書〕  
百一  
飛脚問屋

是者諸問屋運送陸付、江戸表、出荷物諸園より着荷物共、此もの共取扱候、

東海道口馬宿

四谷口同断

板橋口同断

岩附口同断

千住口同断

是者武州在并近郷、少分之売荷物、馬付ニ而江戸表江附込商ひ候も有之、又運賃稼之ものも有之、并小商人、少分之荷物近郷江運送致候分付出候も有之候、

此廻船問屋奥川内海船方飛脚問屋、馬宿共方ニ而江戸表江出入致候、荷物不洩積相分申候、

右江戸表江引請候諸色荷物荷元、并老々年着尚高等密々奉申上候、以上、

〔重宝録 第四』東京都公文書館 二〇〇三年より

炭俵運搬三態



昭和32年秩父



明治15年箱根



明治23年東京

Handwritten notes: 〇 7 17, 1910, 12000, 馬



№	名前	石積	乗組	船主
1	高砂丸	140	5	松田善三次
2	明玉丸	90	2	大宮常次郎
3	海世丸	90	3	白鳥留次郎
4	八幡丸	80	3	木村善吉
5	長寿丸	120	4	富原六郎平
6	住吉丸	100	3	丸 長次郎
7	大持丸	100	4	衣野善五郎改衣野量太郎
8	船荷丸	120	5	松田豊吉
9	神力丸	120	4	石井神蔵
10	泉徳丸	90	3	小林七次郎
11	明室丸	90	4	藤本五郎治
12	千年丸	100	3	伊藤久次郎
13	水生丸	100	4	白鳥善八
14	神在丸	115.4	4	城谷神蔵
15	神徳丸	100	4	石橋清次郎
16	文久丸	100	3	白鳥善一郎
17	住吉丸	90	3	雪本権次郎
18	平壽丸	81	3	北嶋巴之吉
19	栄徳丸	茶船		鈴木与平次
20	仙元丸	茶船		松田善三次
21		押送		北嶋巴之吉
22		茶船		岡野延蔵

### 明治6・7年、幡宿港の五大力船運航状況

- × 明治6年4月の八幡宿港所属の五大力船は18艘
- × 60~140石積, 平均100.36石  
乗組員2人~5人, 平均3.6人
- × 明治6年10月23日~7年10月4日の約1年間の『出帆免状控』7冊に559件の出帆記録  
このうち他港所属船6艘17件, 書替3件を除いた539件が八幡宿港所属船の出帆件数  
⇒ 1艘月平均2.5回運航
- × 東京以外の行き先は22件に過ぎない。



正徳3年(1713) 分間江戸大絵図

### 五大力船は力持ちで安上がり

—明治6・7年 八幡宿港五大力船の積荷積載例—

- 90石積 米150俵・四貫炭500俵
- 100石積 米230俵・種粕80枚・土釜炭300俵
- 100石積 米 50俵・土釜炭400俵・松槨1000束
- 115石積 白米20俵・土釜炭800俵・松五本×1000束
- 100石積 松槨1200束・四貫炭300俵・間渡竹1000束
- 110石積 米110俵・土釜炭500俵・五本×1000束
- 130石積 土釜炭1000俵・6貫炭30俵・×粕3俵
- 120石積 土釜炭1100俵
- 100石積 松槨1500束・土釜炭750俵
- 100石積 松槨2000束・土釜炭600俵
- 140石積 瓦7000枚

明治6年10月23日~7年10月4日の約1年間の運送量

仮の集計	米各種	12,633俵	参考: 瓦57,950枚
	炭各種	198,081俵	
	薪各種	117,357束	

「東京は其地盤河を帯にして海を枕せる都」  
「永代橋」橋の下流佃島石川島月島の一島をなして横たはるあり。こは所謂三角州に人為の修築を加えたるものにして、これがために川おのづから分岐して海に入るの勢を生ず。○三ツ又の名はこれより起り、「は築地に沿ひて西南に流れ、一は越中島に沿ひて東南に流る。西南に流るゝは即ち本流にして、本流と呼ぶ。本流は水深くして大船海船の来り泊するもの甚だ多し。佃島と月島との間、及び月島六丁目と七丁目との間に各々小渠ありて本流の方と上総湾の方との間の往來の便とす。大川の水のおのづからに土砂を流出するもの極めて自然の狀態をなして遠浅の海底を形づくるが中に、佃島の裏の本流の遠く南品川の沖に達すると、佃島の裏の上総湾の月島下流に至るとの二線が稍深き水路をなすのみ。東京前面の海の遠浅なるは隅田川中川及び江戸川の流出する土砂の自然に堆積せるが為なれば、その砂洲の意外に広大にして、前に挙げたる二条の湾の外に大船巨艦を往來せしめ難きの觀あるも怪しむに足らずと當ふべし。本流は第五(第)の砲台の間を南へ通するなるが、其深さ大抵二尋以上、上総湾はその深さに於て及ばざること遠し。是の如くなるを以て北品川の陸嘴より東北に向つて海上に散布されたる造船所、第一台場、第五台場、第二台場、第六台場、第三台場、未成の假にて終りし第七台場付近の地の稍深きを除きては、月島下流の地も芝浜沖も、東の方は越中島沖も木場沖も洲崎遊郭沖も砂村沖も、皆大抵春末の大干潮には現れ出づるほどの砂洲にして、中川の湾は洲崎の沖の方に東より来りて横はれるなるが、本流、上総湾、台場付近と共に此等の湾筋もまた釣魚の場所たり。」

(幸田露伴「水の都」『蝸牛庵夜譚』明治四〇年)



① 木更津船由緒書(重田家文書)

一六 重田信太郎家文書(木更津市木更津)

※後紙  
二元慶六年四月、被仰被遊候、是は木更津船之由緒書、上総國深田郡木更津村

一札之事

上總國望陀郡木更津村船之儀ハ、先規より本舟町川岸え附來申候由緒之尋、

一大坂御陣之節、水主貳拾四人差出申様こと被爲

仰付候二付、則差上申候えは、向井將監様、小濱民

部様御船ニ乗り罷登り申候處、右之内拾貳人は大坂

下り、谷之御藏にて三十日餘晝夜共番仕、無恙御

船藏え納上候二付御暇被下、國元え罷歸り候、其

時分木更津村御支配之御代官南條帶刀様え、右大

坂御陣にて相果候拾貳人之妻子共及傳命ニ申候由

御訴訟申上候えは、御不便ニ被思召、御忠節之段

御取成被遊候、則大久保石見守様より右之趣被仰上、御憐として木更津近所貳万石餘之御城米船

賃三分ニ御極被遊、右貳拾四人之者共え永々運送

仕候舟之儀は、舟町之川岸え附置、勿論荷上ケ場

ニ御定被下、其上安房、上總之往來之者共乘七、

波世送り申様こと被爲仰付、御證文迄被下置難有

奉存大切ニ所持仕罷有候處、辰年ニ出火御座候て

町中不殘燒、殊更火元之近所にて御證文焼失仕候

二付、其段大久保石見守様え御披露申上、御替替

奉願候えは則 御公儀様御帳而御詰置被爲遊候

故、御替替頂戴致迄は不及候と御意被遊候、并

向井將監様、小濱民部様えも御斷申上候えは、委御

誓留メ置被遊候、其已後村々之儀御給所ニ罷成候

え共、右由緒にて御地頭様方にも御相違無之御物

成り、於只今ニ運送仕候、殊ニ船之儀は高石ニ入り

持來り申候、然ル處八拾三年以前、船町之者共私

② 木更津船由緒書(重田家文書)

用を以川岸え舟附ケさせ申間敷候由、船頭ヲ掠我

儘申二付、木更津者共御當地え相詰、町御奉行様え

御訴訟申上候えは、先規之通り舟附候様ニ被爲仰

付難有奉存候所、又候五拾年以前元祿六酉年俄ニ

御高札立申候二付驚入、拙者共永々之場所ニ離申

候えは、新法ニ何方え船附ケ可申様も無御座候間、

村々御地頭様方之御用等も難弁、安房、上總渡船も

絶候て往來難儀仕候、仍御地頭様方え御訴申上西

九月三日着仕、翌四日ニ地方御奉行御附番松平美

濃守様え罷出、御裏御判奉願候えは、御當地御支配

之儀ニ在之候えは、此段町御奉行所え罷出候様ニ

と御差圖御座候二付、御月番能勢出雲守様御帳場

え罷越、右之段々申上候えは、在々之儀は此方にて

は御聞不被成候間、美濃守様より御差圖ニ候ハ、

御手紙成共持參仕候様ニ被爲 仰付候間、則美濃

守様え參り右之段申上候えは、四五日過御町奉行

北條安房守様え參り候えは、御取上被遊候様ニ御

内通被仰遣候と、御役人衆被仰付候間、十二日ニ安

房守様え御帳ニ附候て御前え罷出御訴訟申上候え

は、舟町之名主は相手にては無之候、御舟手中え

江戸橋之火消被仰付候二付、御船手中より之願ニ

て舟附ケさせ不申候間、御舟手中え訴訟仕候様ニ

と御差圖被遊候故、十三日、十四日御舟手中え廻り

様子相尋候ハ、何れも達て御願被成候様ニは不

被 仰候、然ル處翌十五日向井將監様、小笠原彦太

夫様より呼ニ被遣候間、兩御屋敷え罷出候えは將

監様御家老山田權右衛門殿、彦太夫様御家老渡部

只右衛門殿被仰候様は、御替地之願仕可然由被仰

候二付、十六日ニ安房守様え罷出御替地之願申上

候えは、先規之由緒共御聞届ケ被爲遊、四日市之川

岸にて四拾間之御替地被下置候、然共抗之文言ニ

在郷船可着之と御座候故、方々入合之川岸之様ニ

千葉縣史料 近世篇 上總國 下  
①木更津船由緒書(重田家文書)③

一八〇

罷成候二付、十七日ニ安房守様之罷出、御文言御直  
し被下候様ニと御訴訟申上候え共其明不申候故、  
先々國元之罷歸り、又候廿三日江戸着仕、廿四日ニ  
安房守様之罷出、右之段々御訴訟申上候えは、舟町  
川岸えも入合ニ附ケ來候様ニ御意被遊候二付、先  
規之儀は、舟町之者共存知候間、被爲召出候と御尋  
被下候様ニと申上、舟町名主小澤太郎兵衛方え廿  
六日之御差紙頂戴相附申候えは、其日公事流ニて  
十月朔日八ツ時ニ參り候様ニと被仰付候故、又候  
朔日ニ罷出候えは御城ニて御罷御座候て、日暮迄  
御下り不被遊候二付、同四日ニ參り候様ニ被仰渡  
候故、任御意ニ罷出双方相詰、御前之罷出候えは、  
先規之儀御尋被遊候二付、舟町之者共存知申  
候由申上候えは、名主太郎兵衛、町人共罷出申上候  
様は、木更津船之儀先規より舟町川岸え附ケ來申  
候ニ紛無御座候、尤餘浦之船付ケ申議も御座候え

共、木更津舟之者共と相對仕、荷物上ケ申内斗付  
ケ置候と、一夜成共泊り申儀無御座候、泊り船と申  
は、木更津船より外ニ無御座候と證人ニ立申候二  
付、其段々細御帳面ニ御記被遊候、御登人之御了  
簡ニて難成候間、六日之御評定所之舟町者共一同  
ニ罷出候えは、安房守様御願被遊御不參二付、十  
四日御評定所之罷出候様ニと能勢出雲守様被仰付  
候二付、又候舟町之者共一同罷出候えは、舟町名  
主太郎兵衛方え先規之儀御尋被遊候所、安房守様  
ニて申上候通り少も無相違、證人ニ相立申候二  
付、彌々以安房守様御取持被遊、右四拾間之内十五  
間御詰メ、残りて貳拾五間木更津舟荷上ケ場と於  
御評定所ニ惣御奉行様御連座之上ニて御定メ被  
下、難有御請申上候、  
西十月十四日御評定所ニて  
惣御奉行様御連座之次第

①木更津船由緒書(重田家文書)

御留役 會根平左衛門様  
御吟味役 諸星傳左衛門様  
御同役 萩原彦次郎様

御月番 御同役  
御同役 御同役  
御同役 御同役  
御同役 御同役  
御同役 御同役  
御同役 御同役  
御同役 御同役  
御同役 御同役  
御同役 御同役

右之通御連座ニて被仰付候所、十四日、十五日兩日杭  
立替御延引ニ罷成候二付、十六日朝安房守様之罷出、  
今日杭御立被下候様ニと奉願候えは、御文言東西貳  
拾五間之内え木更津船可着之と書候様ニと被仰付、  
北條安房守様より五十嵐藤助殿、能勢出雲守様より  
佐原武太夫殿兩人御檢使ニ御出、本材木町名主多内

新助、青物町會我平右衛門御呼出し、以上四人立合  
貳拾五間之間地御極メ、木更津船可着之と 御書附  
杭四本御立被成二付、此方より鳥飼四郎兵衛、石川  
八左衛門、松原紋左衛門、石川角左衛門、齋藤角兵  
衛五人罷出場所杭共儘ニ請取 御公儀前速ニ埒明申  
候二付、翌十七日兩町奉行様之御禮ニ上り、其外御  
七人之御舟手中えも廻り御帳面ニ附置申候、

御船手衆中  
海賊橋 向井將監様  
同所 佐野與八郎様  
同所 小笠原彦太夫様  
新堀口 山淵市太夫様  
新田嶋 小倉半左衛門様  
稻荷橋 岡田佐太郎様  
新橋 秋山十兵衛様

右之趣御 公儀様御帳面并御舟手中之御帳面ニも委  
細御書留メ被遊候段、相違無之御座候、尤本書之儀は

一六 重田信太郎家文書(三七)

一八一 『千葉縣史料 近世篇 上總國下』(一九六一年)

31

④木更津船由緒書(重田家文書)⑤

北條安房房守様ニ御留メ申候間、末々迄大切ニ所持可仕候者也、

元禄六年酉ノ十月十七日

柳澤出羽守様御知行所

木更津村名主

島飼四郎兵衛

保科兵部少輔様御知行所

同村名主

石川八左衛門

内藤勝之助御知行所

同村名主

根本庄左衛門

舟支配役

杉本彌次右衛門

齋藤角兵衛

石川角左衛門

内田仁兵衛

右之通此度寫相認指上申候、已上、

保科直次郎知行所

木更津村名主

惣右衛門

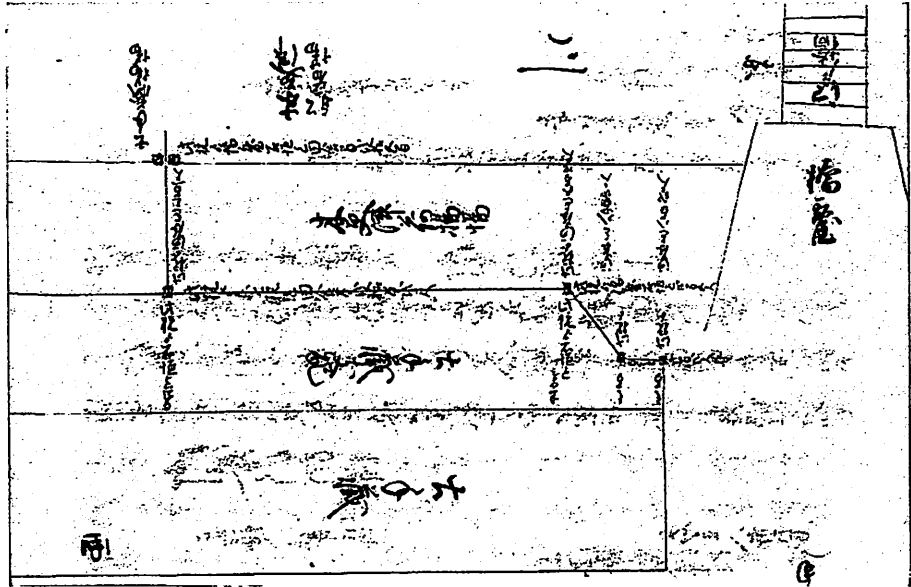
寛保二年 戊八月

〔千葉県史料 近世篇 上総國下〕一九六一年

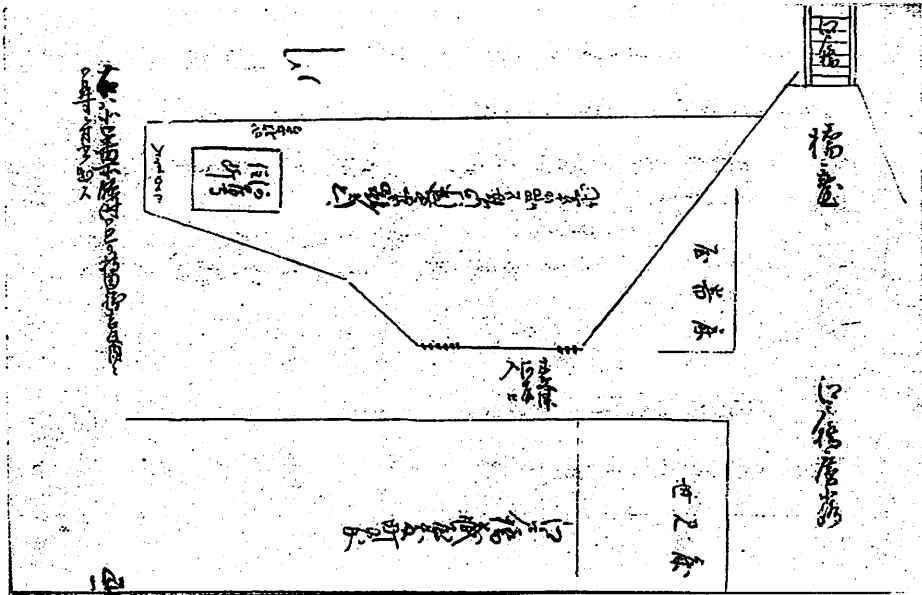
※裏紙に、「天保十一年十月、旅人齋藤文、上総國内郡六反松村」とあり、又、天保の「又、天保の」に、「一、此の」に、「一、此の」に、「一、此の」とあり。

⑥木更津船着場出入訴状(元禄六年九月)

Handwritten text of a complaint regarding boat landing and departure at Kisarazu. The text is written in vertical columns and includes details about the incident and the parties involved.



⑦木更津河岸絵図面(元禄八年四月)



⑧木更津河岸絵図面(文化二年三月)

⑧⑨は『木更津河岸旧記』(国立国会図書館)より

元禄三(一六九〇)関八州伊豆駿河国廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付(一部)

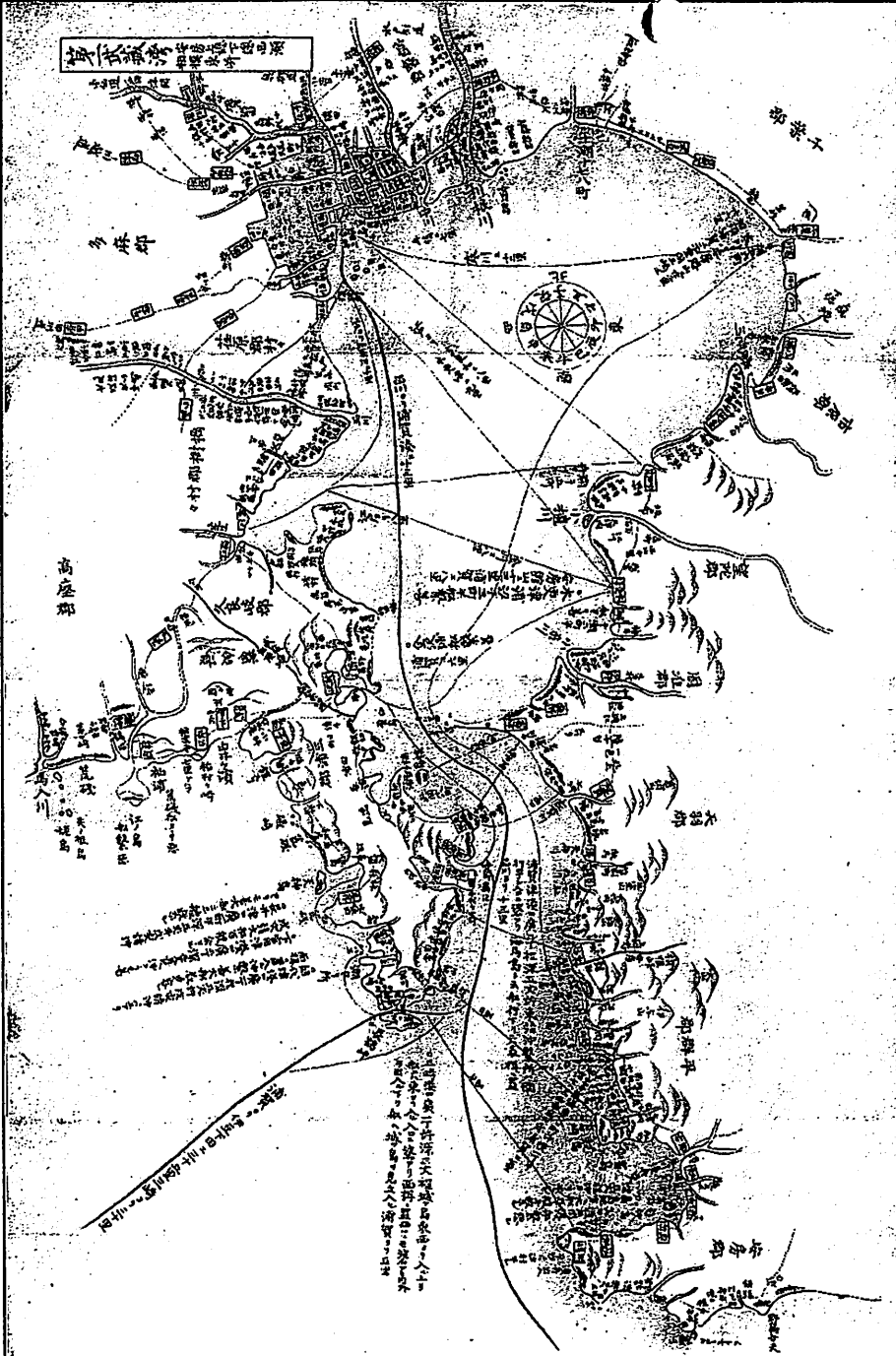
一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付	一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付
一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付	一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付
一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付	一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付
一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付	一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付

一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付	一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付
一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付	一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付
一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付	一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付
一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付	一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付

一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付	一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付
一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付	一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付
一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付	一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付
一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付	一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付

一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付	一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付
一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付	一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付
一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付	一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付
一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付	一 關八州 一 關八州伊豆駿河國廻米津出湊浦々河岸之道法并運賃書付

幕末の江戸湾絵図(皇國總海岸圖の第一図か)



『徳川禁令考』訂二版第六帙巻五三(司法省一八九五)

「第一武蔵湾絵図」(船橋市中央図書館提供)

# 幕末明治の上陸風景—沖に停泊、舂・かち・おんぶ・肩車・人力車

## 大船入船懸り場は御座なく候

### ① 五大力船四艘御座候

一、入船掛場無御座候、引汐之時磯より拾町余も干潟ニ相成申候、尤磯際より船繋場え五、六町程、沖方潮満上候節七尺ほど相立申候、浦方ハ砂浜ニ御座候

〔寛政九年 青柳村明細帳写〕 『市原市史 資料集近世編1』一九九二)

### ② 一、入船掛り場無御座、引汐之節拾三、四町も干潟ニ相成申候、尤磯際より船繋場え五、六町程、潮満候節七尺余も相立申候、浦方砂浜ニ御座候、七月頃より漁船等入込申候

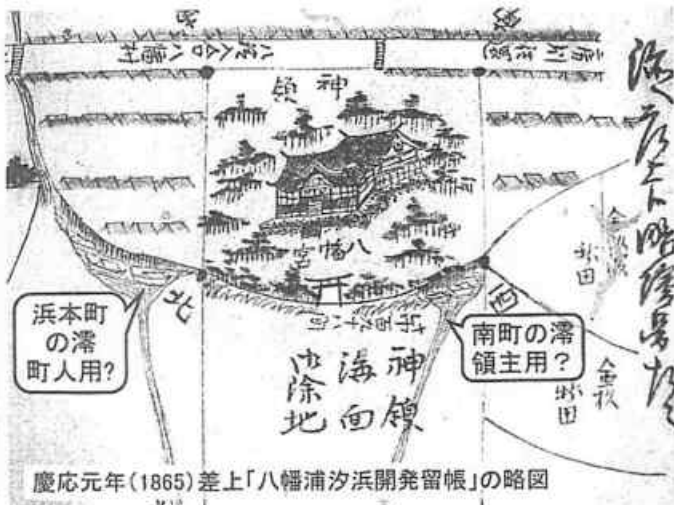
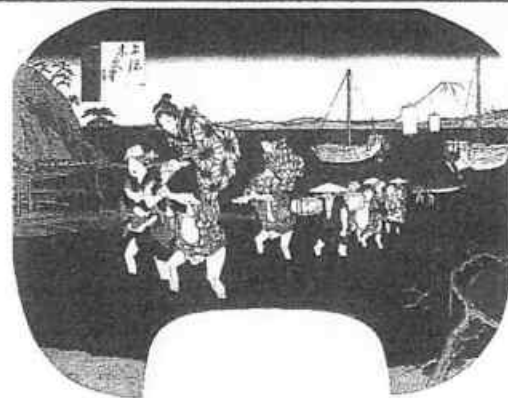
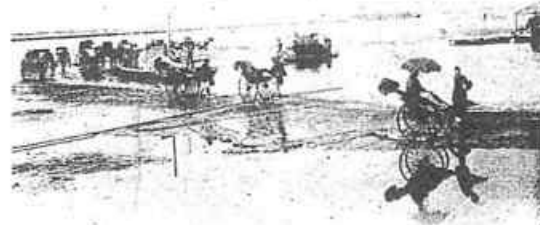
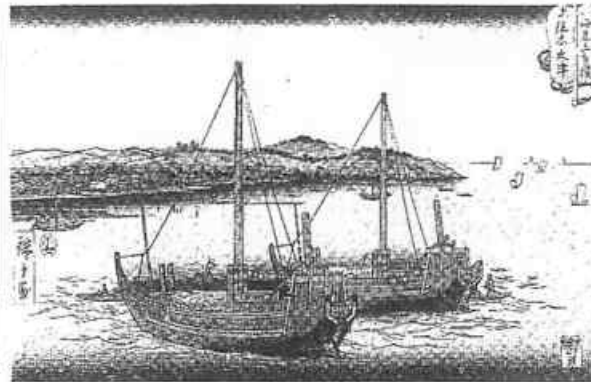
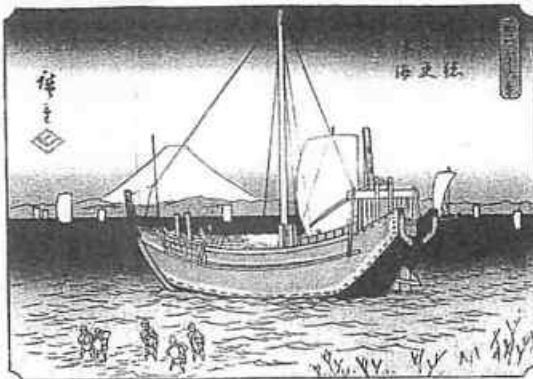
〔天保十四年 青柳村 村鑑明細書上帳写〕 『市原市史 資料集近世編1』一九九二年)

### ③ 廻船 但五太力拾艘 式百俵積

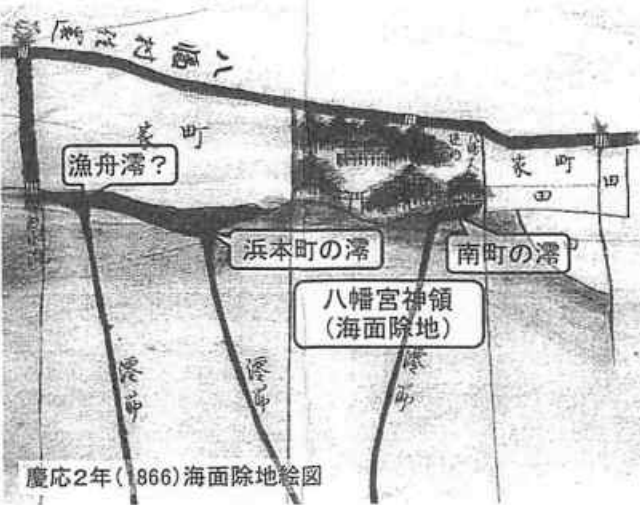
押送 式艘

大船入船掛りニ相成候場所無御座候  
五太力掛り場迄八町程、深サ干潟限八尺程、海岸式尺程、砂濱ニテ御座候

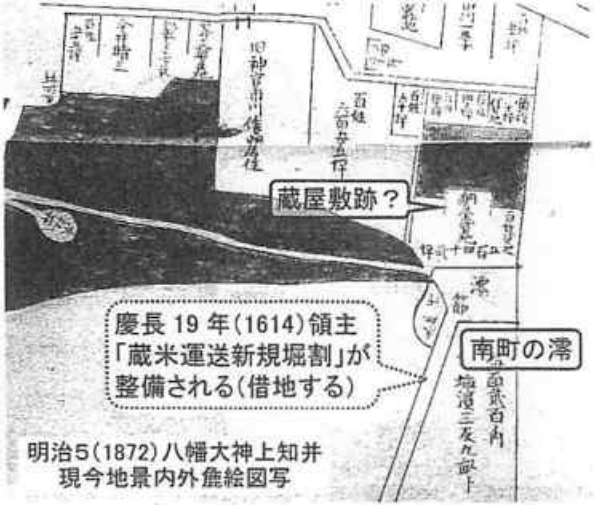
〔寛政十年 姉崎村 明細帳上帳〕 か(京藤孝『古今記録』明治四十三年)



慶応元年(1865)差上「八幡浦汐浜開発留帳」の略図



慶応2年(1866)海面除地絵図



明治5(1872)八幡大神上知井 現今地景内外絵図写

八幡浦は例外か?

34

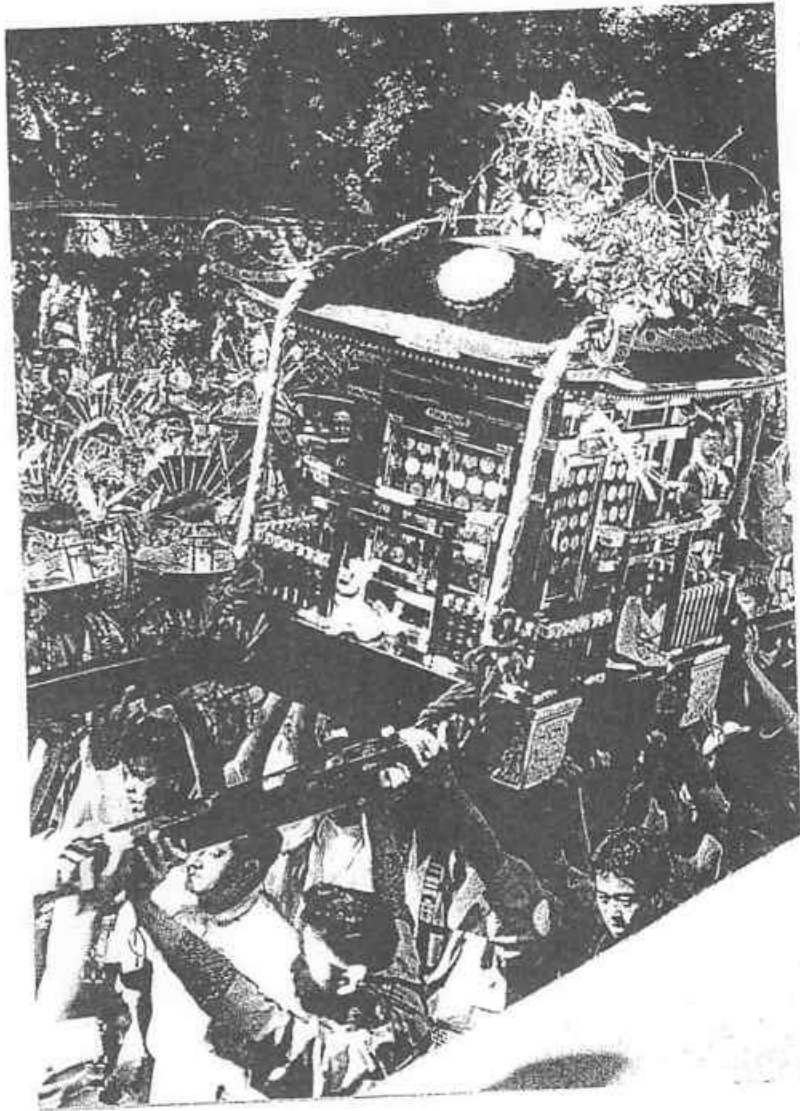
八幡公民館主催事業「八幡史学館」第11回シリーズ第3回

平成28年8月9日(火)

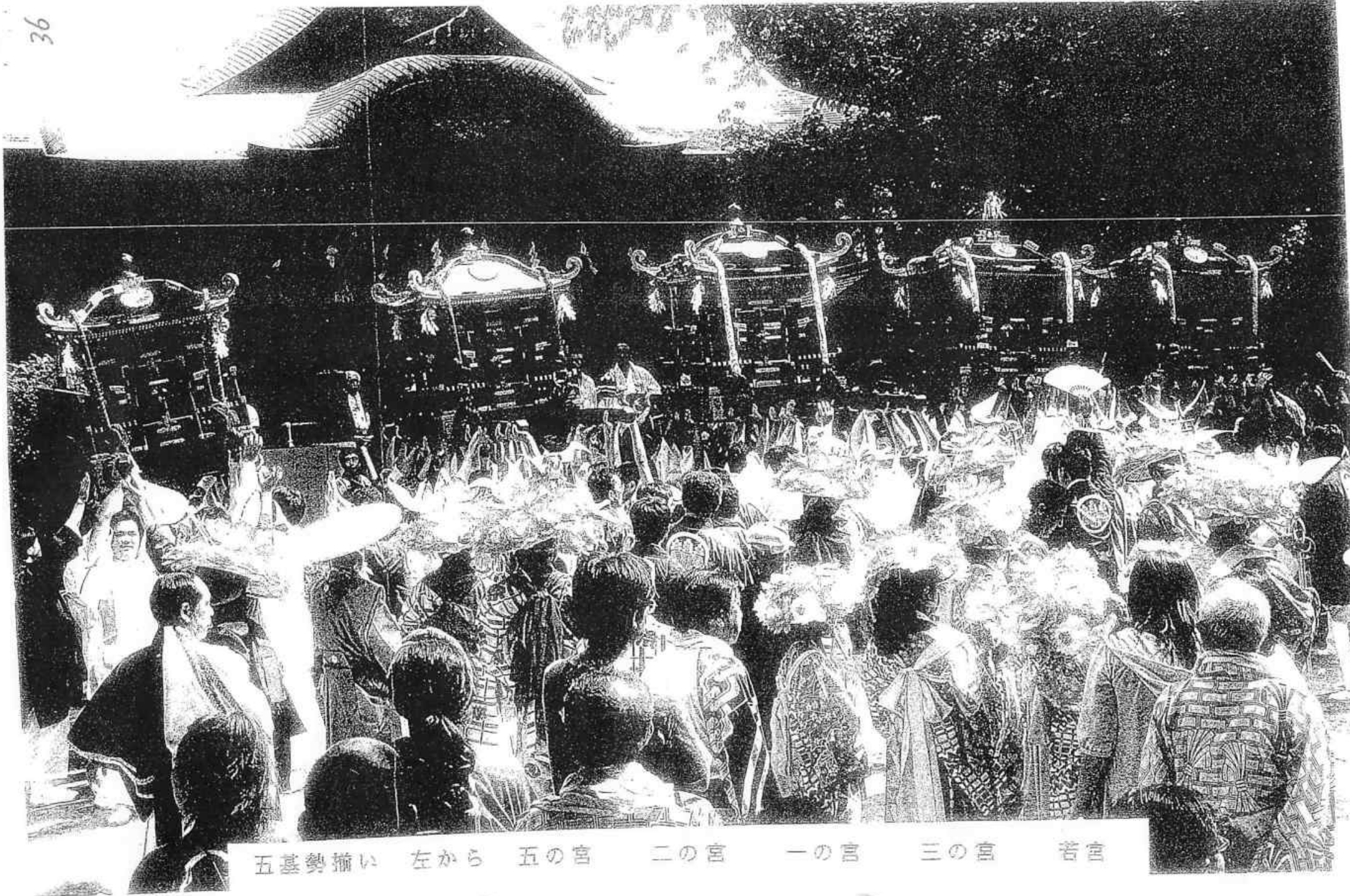
午前9時30分～10時30分

## 飯香岡八幡宮秋の大祭

### 神輿五基あれこれ



三の宮の神輿（境内にて）



五基勢揃い 左から 五の宮 二の宮 一の宮 三の宮 若宮



富士塚へ神輿を担ぎ上げる三の宮（平成6年9月30日）



## 1 4基の概要

- ・「至徳」銘の神輿が魅せる伝統工芸の粋
- ・飯香岡八幡宮の神輿は、明治に入るまでは4基であった。
- ・4基の神輿の初代は、室町幕府三代将軍足利義満の寄進といわれている。
- ・その4基はいずれも千葉県指定の文化財に指定されている。
- ・造りは「漆塗金銅装飾」で、照り起(むくり)のある宝形造(ほうぎょうづくり)の屋根や基台周辺の瑞垣(みずがき)を板玉垣(いたたまがき)にするなど、室町時代の建築・工芸様式をよく示しています。また、一の宮の天井板から発見された至徳元年(1384)銘の墨書は、神社縁起の内容と一致します。

※歴史の旅人(市原市教育委員会発行)より。

## 2 各町会の神輿について

①一の宮…浜本町(御祭神は応神天皇) ※記紀系譜上の第十五代天皇(品陀和気命)

- ・屋根は擬宝珠
- ・半纏、手拭い(鉢巻兼用)の色は黄色

②二の宮…五所(御祭神は玉依姫尊) ※記紀神話の女神(綿津見神の女)

- ・屋根は擬宝珠 むすめ
- ・半纏、手拭い(鉢巻兼用)の色は赤色

③三の宮…観音町(御祭神は神功皇后) ※記紀神話の女神(第十四代仲哀天皇の皇后)

- ・屋根には鳳(おとり)が取り付けられている。鳳は聖人が世に出ればそれに応じて現れるというめでたいしるしの鳥。
- ・半纏、手拭い(鉢巻兼用)の色は桃色。通常ピンクと称している。

若宮………南町及び新宿(御祭神は仁徳天皇) ※記紀に記された5世紀前半の天皇。応仁天皇の第4子

- ・屋根は擬宝珠
- ・半纏、手拭い(鉢巻兼用)の色は青色
- ・数から言えば四の宮と言うことになるが、四を忌み嫌うことから若宮とした。

⑤五の宮…本町(御祭神は仲哀天皇) ※記紀伝承上の天皇。日本武尊の第2子。皇后は神功皇后。

- ・屋根は擬宝珠
- ・半纏、手拭い(鉢巻兼用)の色は紫色
- ・五の宮は明治に入っても神輿が無かった。そこで仲町・片町の人達が寄付を出し合って新造したのである。現在の本町である。

- 3 ・半纏につて… かなり前からになるが、観音町では若者たちが火消し役などが着用した刺し子半纏を着るようになった。これは勝手に着だしたのでなく、その時の町会に申請し許可を得たのである。そして三音会（みつねかい）という会を立上げた。本来の桃色の半纏は引き続き昔か伝統をを守るために「三鳳会（さんほうかい）ピンク保存会」をやはりつくった。「三鳳の会ピンク保存会」の会員は、年配の方が多い。女性の会員もいる。

#### 4 神輿雑談

- ・各町会にいかようにして神輿があてがわれ、いかようにして、一の宮、二の宮、三の宮、若宮となったかは分からない。
- ・三の宮の神輿の弥ね頭には鳳（おおとり）が付いているが、なぜ三の宮だけに付いているのか、かつて市川教生神主に尋ねたことがあったが分からないということであった。
- ・半纏の色などがいつ頃から決まったのか、このことについても市川教生神主にお尋ねしたことがあったが、分からないということであった。
- ・神輿が本体から壊れたり、部分的に修理をしてもかなりの金額が伴うときは、新しい神輿を造る。各町会が造り替えた記念碑は参道の両脇に建立されている。一番新しい神輿は一の宮（浜本町）でる。
- ・各町会ともいままで担いてきた神輿は、神社境内の神輿蔵に保存されている。もちろん市原市文化財指定の神輿4基は、飯香岡八幡宮の宝蔵庫に収納され、されている。三月十五日の春の祭りに宝物殿を一般に開放するので観ることができる。無料
- ・子供神輿は各町会で管理しており、若宮は、南と新宿双方にある。

#### 5 祭り行事の年番について（町会順）

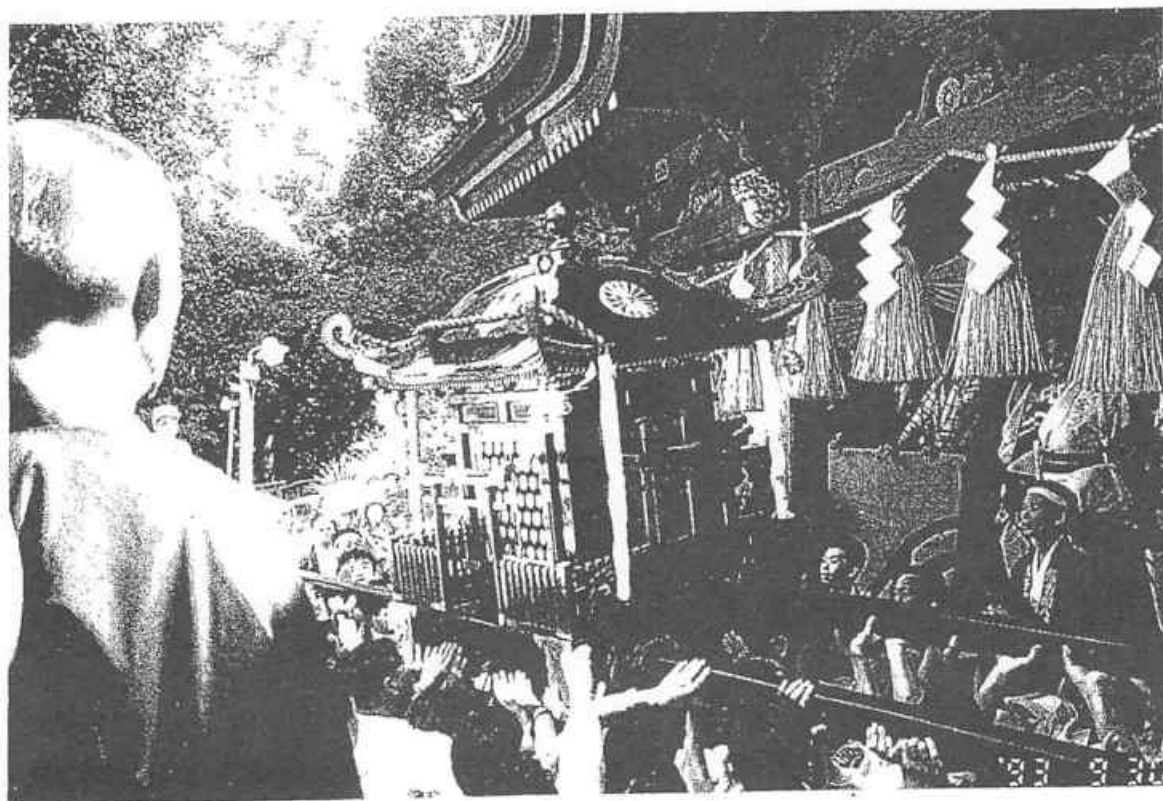
- ・ポスター作り
- ・神楽殿での囃子連の使用
- ・町会長は、祭典委員長になり、飯香岡八幡宮の氏子青年代表と市原警察署に挨拶に行き、渡御の順路、時間などの一覧表を提出してくる。
- ・祭典委員長は、春と秋の祭りを務め、初めから終わりまで社の中から出られないようだ。

#### 6 渡御について

- ・渡御は前半後半に分かれる。前半は五基の神輿が宮出しを済ましたあと、五基揃って全町会回りをする。浜本町→観音町→本町→南町・新宿→五所。そして今一度お宮に戻ってくる。後半は神輿を各町会に渡し、約束の時間までに戻ってきてもらう。町会内の渡御については、のちほどの神輿あれこれで

お話をします。これが今日のメインですから。

- ・半農半漁の時代は、昔から営々として旧の八月十五日（十五夜）にやってきた。そして三日も担いたのである。この話は後になる。
- ・海を放棄してから徐々に若い者は勤め人になった。
- ・十五夜と日曜日とがぶつかることは暦の上では先まで分かっている。平成二十七年は日曜と仲秋の名月がピッタリと重なった。外へ出ている若者が実家に戻って来てかなり担っていた。
- ・サラリーマン化した若い者は、普段の曜日に段々休みずらくなり、担ぎ手が少なくなってきた。
- ・五の宮では若い者があまりおらず、千葉銀行八幡宿支店にお願いして担ぎ手を確保してもらった時代もあったが、銀行にしても協力にも限界があった。
- ・氏子青年会の代表が警察署に五基そろっての町内回りのコース及び時間、また、各神輿が神社から町内渡しを受けた後のコース及び宮入の時間表を提出し許可をもらっているのである。
- ・近年は全体にどこの町内会の神輿もおとなしく担いでおり、神輿同士の喧嘩も無くなった。
- ・話は色々總まりがなく前後しますが、かつては一の宮が納ま頃合になると二の宮に告げ行った。二の宮は納まる頃になると三ノ宮に告げに行った。このようにしていたのである。今では便利な携帯があるので役員が連絡を取り合っている。



拝殿前で神輿を上げる一の宮（平成5年9月20日）

## 7 各町会の神輿あれこれ

## 一の宮（浜本町）

- ・海苔をやっていた頃は3日も担いでいた。
- ・昼間は海苔の網を編んで、夕方から担ぎ出した。
- ・海に入り、鳥居まで行ったが潮が無いときは行かなかった。肩くらいまで潮がなければ担いでもおもしろくも可笑しくも無いということだ。
- ・浜本町は旧の市原支所の所に御影石の柱が立っている。そこからが浜本町になる。浜本町のメイン通りとなる。
- ・祭りの三日前ごろ、主だった親類に掘りたての蓮根をとどけた。まだ自転車の時代で在の行くには大変であった。いついつお祭りです。どうぞお待ちしています挨拶に行ったのである。これは浜本町に限らず他の町内もやったようだ。もちろん、私の観音町も数軒はやっていた。重箱に餅を入れたりして。
- ・祝儀を出せる家が出さない家があると、その家の前で揉んだ。中身が少ないと更に揉んだ。要はけちの家があったのである。軒先を神輿で毀したこともあった。
- ・二階から担いでいる神輿をみていると、やはり軒先を神輿でやられた。
- ・浜本町は、他所の集落の屋敷に担いでいった。観音町の陣屋、南町の宮吉の本家、今井家（屋号は筆屋）、三太夫（市川）家、小倉由太郎（市会議員をやられた）。
- ・境内で五所の神輿と揉み合いになったこともある。
- ・かつての市原支所が現在の場所に移転したあと、地方事務所が入った。神輿が自分たちの集落に入ろうとしていたとき、二階から神輿を眺めていた女子職員がいた。担ぎ手は「神輿を二階から見下ろすとは何事」と神輿で一階の出入り口をぶちこもうとしたとき、役員が止めて何とか収まった。
- ・大分前になるが、観音町から菊間へ入る角に山越という肉屋があった。現在は駐車場になっている。その肉屋でごくこじんまりした食堂をやっていた。一杯飯屋も兼ねていた。食堂の女将は結構気前がよく、男まさりのところがあったようである。浜本町の連中はこの店に一杯飲みに通ったようだ。一杯飲んでいる話の中で、浜本の者が「おっかーそんなこと言ってんと神輿を筒込んじゃうぞ」と言ったら、女将が「やれんならなってみな」と売り言葉に買い言葉になったようだ。祭りの当日になり、浜本町の神輿が本当に普段飲みに行っている食堂にぶつこんだ。後のことは役員が処理したとのこと。

## 二の宮（五所）

- ・2の宮はかなり以前のことになるが、柳楯の関係で市原まで担いでいったことがあったと聞く。
- ・以前は魚虎の所が飯香岡八幡宮の参道の出入り口であった。五所の神輿は社

務所の御影神社の前を通り魚虎の所から国道（現在は県道）へ出で自分たちの集落に向かった。

- ・もちろん帰りも魚虎の所の参道から宮へ入った。
- ・鳥居は角柱の御影石で一对で建てられており、飯香岡八幡宮道と彫られている。現在は、「大多喜ガスサービスショップ 俣富永店」から富士塚へ行く道の傍らに二段に重ねられ放置されている。
- ・30年も以前のことだが、魚虎のところで「まだ納めねしべや」と勢いよく担いでいた。お巡りが何人かでやってきて、納める時間が過ぎていると言い出した。わけもんたちとトラブルになった。昔の公民館の脇に警察官の特別詰め所があり、待機していて再度もみ合いになった。そしてお巡りを提灯立の竹竿で殴ってしまった。威勢のいい若いもの達が引っ張られていった。警察署は、外木下駄やの真向かいにあった。役員達で神輿をおさめた。納めないと三の宮の神輿が納まらないのである。神輿がおさまったら警察署に引っ張られていった連中は開放された。多分、菅野儀作先生が「早く戻してやれ」と心配をしてくれたのかもしれない、ということのようだ。
- ・警察に引っ張られた連中は親からだいぶこっぴとく怒られたようだ。

### 三の宮（観音町）

- ・海の放棄 昭和32年の秋（八幡五所漁業共同組合）
- ・その頃は3日も担いでいた。どこの神輿も。
- ・稲刈りとぶつかる時が有り、神輿を納屋に仕舞い、稲刈りに出かけた時があった。台風が来るときは、刈ったままだと濡れてしまい米にならなくなってしまいうので、オダも作り掛けた。
- ・他所のところもとうだが、庭が有る家では庭に入って揉んだ。有りがたいことで祝いをくれるのであるが、中身が少なくその家に釣り合わないと言計に揉んだ。家の者も気がつき再度包んでよこすことがあった。これはいずれの集落でもあることであった。
- ・90歳以上の人に聞いた話けれど、昔は隣の村田や菊間まで担いで行ったことが有ると言う。
- ・昭和40年の時は、観音町の神輿が参議院議員の菅野儀作宅の庭で揉んで道路に出ようとした時、浜本町の神輿が菅野さんの庭に入りかけ、そこで互いにぶつかりあい、神輿同士の争いとなった。観音町の神輿はこの年に新調したもので、かなり痛めたようだ。修理代が大変であった。このときは、カルサン同士もちゃりんぼ一で殴りあったという。

若宮（南町・新宿） ※町会が二つに分かれている。

- ・ここの町会はなかなか込み入っているので、ややこしい話になる。
- ・若宮は一つの神輿で南町と南新宿とが一緒にあるいは分け合ったりして担ぐ。

- ・宮出しは一緒に担ぎ、全町会回りも一緒。
  - ・八幡様に五基が戻ってきて、今度は各町内会渡しになる。
  - ・南町は市原出途入り口にある健康センターの敷地を借り、舞台とおかりやを作る。※おかりや・興仮宮(おかりみやが正しい・祭礼の時神輿が仮に宿る所)
  - ・おかりやは神輿を納める所でいづれの町会でも設置する。
  - ・おかりや……竹を四本四方に立て、綱を張る。中央に海砂を盛る。
  - ・宮から町内渡しを受けた神輿は南町と南新宿との担ぎ手で南町のおかりやまでくる。
  - ・新宿の担ぎては、そこで自分達の町会に戻る。
  - ・南町は自分たちの町会の中を担ぐ。東関道の所まで南町であるが(砂田住宅)まで担いでいった。それも遠くてやんわり、車に積んでそして戻ってくるようになった。現在は砂田住宅地域が南町から独立して町会を発足させたので、南の神輿は砂田まで行くことが無くなった。
  - ・神輿は新宿に渡さなくてはいけないので、約束通りの時間に健康ランドのおかりやまで戻ってくる。すでに新宿の担ぎ手がまっている。時間がオーバーするとトラブルの原因になる。
  - ・新宿の担ぎ手は自分の所の町会回りをする。もちろん舞台も設置、おかりやも作る。
  - ・新宿はイトーヨーカ堂があったときは、ヨーカ堂に行きかなり揉んだようだ。祝儀がもらえ、休憩場所も設けて酒やビールなどを用意した。
  - ・時間までに南町のおかりやまで行く。
  - ・今度は宮入であるから、南町と新宿の担ぎてが一緒になって、神輿を宮へ運ぶ。そして宮入を済ます。
  - ・南と新宿は一緒になって八幡宿西口のスーパーセンドウまで行き、店の前で揉んだ。
  - ・新宿は若い者のが段々減ってきてカリサンをするものも足りなくなった。他所の町会に軽衫(カルサン)をお願いしたり、昨年輕衫役をやった若者に今年も遣って貰ったりしているのが現状である。担ぎ手も少なくなった。
  - ・八幡宿東口から担ぎ上げ、改札口の通路でも揉む。西口には下りない。
- ※カルサン…ポルトガル語。袴の一種。

#### 五の宮(本町)

- ・たいした出来事はない。小学校が自分のところにあったので、運動会とぶっかった時などは神輿を校庭に担ぎ入れ、景気よく揉んだこともあったようだ。若宮(南町)も一緒に担いだ年もあった。
- ・本町は、総体的におとなしく担いだ。従ってこれといったエピソードはない。
- ・さっきも言ったけれど、本町は担ぎてが少なく、旧の暦のとうりやっていたときは、千葉銀行さんに担ぎ手をお願いしていたようだ。千葉銀にしてみれば業務の日であるから困ったであろう。

八幡史学館第 11 シリーズ第 3 回  
 大河ドラマ「真田丸」と豊臣秀吉の小田原征伐  
 ～10月「自主事業」のみどころ  
 平成28-8-9 山岸弘明



北条氏五代当主

相模紅毛時々の城主

「八幡史学館」次回以降のスケジュール 変更することがあります

第4回=9月13日(火曜) 「国衝」市原にあり 講師・山越国臣  
 9時30分～11時20分 教室講座(八幡公民館視聴覚室)  
 昼食休憩(お弁当は公民館調理室または光善寺利用)

各自移動=光善寺駐車場が狭少のため全員分は確保できません。  
 できるだけ小湊路線バスをご利用ください  
 (11時35分、12時03分、35分「八幡宿駅東口」発、辰巳団地行き  
 8停留所め、3分170円) 山木坂下車(徒歩5～10分)

- 13時00分 光善寺集合、スタート
  - 13時00分～13時30分 光善寺、薬師堂見学
  - 13時30分～ 国衝推定地巡見
  - 15時00分ころ 光善寺解散
- おことわり=雨天の時、現地見学コースを縮小または中止することがあります

特別企画=10月26日(水曜) 貸し切りバス自主事業 講師・山岸弘明、石井勇

- 6時15分 八幡公民館受付開始
  - 6時45分 集合(厳守) 乗車
  - 7時00分 八幡公民館出発 館山道、アクアライン、東名高速道、厚木インター
  - 10時00分～13時00分 石垣山一夜城(昼食休憩を含む)
  - 13時15分～14時45分 後北条家小田原古城
  - 15時00分～16時00分 近世小田原城(再建天守資料館は見学しません)  
往路を逆走
  - 19時00分 八幡公民館着、解散
- おことわり=見学コースは9月1日に下見の上最終決定します



大河ドラマ「真田丸」



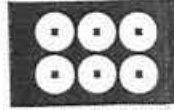
岩波ノ城



上田城



真田昌幸(長野県上田市)。「真田丸」の主人公に一人あがり、その活躍が描かれています。



真田昌幸の代官印(真田家博物館)

「真田丸」は、真田昌幸と信玄の活躍を描いた大河ドラマです。昌幸は、信濃国小田原に生まれ、武田信玄の戦死後、武田家を継ぎ、武田家臣として活躍しました。昌幸は、信濃国小田原を本拠とし、武田家を継ぎ、武田家臣として活躍しました。昌幸は、信濃国小田原を本拠とし、武田家を継ぎ、武田家臣として活躍しました。昌幸は、信濃国小田原を本拠とし、武田家を継ぎ、武田家臣として活躍しました。

「真田丸」の主人公に一人あがり!

第5回=11月22日(火曜) 講師・山岸弘明  
 9時30分～11時30分 教室講座(八幡公民館視聴覚室)



真田昌幸



信幸(信玄)



信繁(幸村)



大河ドラマ「真田丸」～真田昌幸と信繁(幸村)

1) 本領は信濃国(長野県)小県(ちいさがた)郡

- ① 真田氏=清和源氏海野流。信濃国小県郡真田郷を本拠とした小豪族に始まる。
- ② 海野棟綱の子幸隆が真田郷に住み真田を名乗る。(はっきりしない出自、系図) 幸隆は武田信玄に攻められいったん故郷を追われるが、武田信玄に属して本領復帰を果たす。以後武田家「国衆」としてその勢力を小県郡一帯に広げた。  
\* 国衆=自治権を持ちながら強力な戦国大名に従属すること。国衆は直轄領以外に、近隣の小領主を従えて地方を統一した
- ③ 真田本城(上田市真田)=真田氏発祥の地で松尾古城ともいう。上田盆地を見下ろす高台に立地する山城。本丸、2の丸、3の丸、居館跡、土塁、空堀などの遺構が現存。幸隆が築城、昌幸が上田城に移るまで居城した。

## 2) 「風林火山」～武田信玄の人質から重臣として活躍

- ①昌幸は戦国時代中ごろの天文16年(1547)幸隆3男として真田郷で誕生、同22年武田家への人質として甲府に送られた。武田信玄に認められ、一族の名門・武藤家を継いで信玄重臣として活躍する。
- ②天正元年(1573)信玄没、勝頼が後継するが同3年織田信長、徳川家康連合軍との「長篠の戦い」に大敗、以後武田氏の勢いは急速に衰えていく。
- ③「攻撃こそ最大の防御」を貫いた武田氏の本城・躰躰ヶ崎城では遠からず侵入してくる信長勢に立ち向かえない。勝頼は鉄砲戦に耐えうる本拠城の築城を昌幸に命ずる。昌幸は武田氏発祥の地近く両面は断崖絶壁の釜無川河岸段丘を城地に、本丸は一辺100mの方形、2の丸との間に「しとみの構え」を構築、背後に大規模な堀もめぐらせたが未完成に終わる。
- ④天正9年12月、勝頼主従、女子供に至るまでが府中の館を引き払って移り住む。甲斐府中(甲府)に対する新しい城「新府(韮崎)城」と命名された。
- ⑤翌10年春、勝頼が心配した織田軍が押し寄せた。大軍を目の前に戦意を喪失した勝頼は城へ火を放ち岩殿山城へ落ち延びようとするが進退に窮し、田野の里山中において自害、武田氏は滅亡した。
- ⑥大河ドラマの主人公信繁と信幸(信之)は甲府で生まれ新府城に移った。プロローグは武田氏の滅亡と新府城を脱出して岩櫃城を目指す祖母、母ら一族の逃避行から始まる。

## 3) 「大坂冬の陣、夏の陣」～六連銭・信繁(真田幸村)「死の美学」

- ①2人の兄の戦死で昌幸は真田家を相続する。北条、徳川、上杉、強豪に囲まれた弱小大名の生き残る道はあっちへ付いたりこっちへ付いたりを繰り返すこと。人質として信幸は徳川家へ、信繁は上杉家、そして豊臣家へ。この人質先が真田家の運命をわける。
- ②真田信幸(信之)＝永禄9年(1566)長男。父が秀吉に臣従した時、家康の寄り子として出仕させられる。天正18年(1590)四天王のひとり本多忠勝の娘・小松殿と結婚、この縁から関が原の合戦は父、弟と決別、徳川方に加わった。戦後の論功行賞で本領を安堵、父昌幸の遺領と小県郡が加増されて10万石、大坂の陣後の元和3年松代13万石に転封、万治元年93才の天寿をまっとうした。
- ③真田信繁(幸村)＝永禄10年2男。有名な「幸村」は後世の作文で根拠はない。母は山手殿、出生から青年期の記録はなく不明。19才の時上杉人質として海津城、春日山城に送られ、ついで秀吉の人質とされた。同18年石田三成と盟友の大谷吉継の娘を妻としたことで将来が決まる。関が原の戦いは父とともに西軍に属し、「第2次上田戦争」で徳川軍を足どめしたが、兄信之の取り成しで死一等を免れ高野山、九度山に追放された。慶長19年「大坂冬の陣」が起こると大坂城に戻り、「真田丸の戦い」で徳川方を翻弄、翌20年の「夏の陣」は家康本陣を脅かすが討死、この日大坂城天守から火の手上がり、5月8日淀君、秀頼が自刃して豊臣家が滅亡した。

信繁(真田幸村)は戦国武将の中でも屈指の人気者だ。日本人は「敗者」が好きだ。そのはかなさ美しさに共感し涙する。強大な権力に立ち向かい、全力を尽くして戦い、敗れ、そしていさぎよく散る。信繁人気の秘密は「大坂冬、夏の陣」を通じた「死の美学」にあった





# 戦国最大の巨城、「関東かなめ」の小田原城

## 1) 2人の「管領職」、関東の覇権かけて争う

①北条氏は室町幕府政所執事伊勢氏の子孫という。伊勢宗瑞（北条早雲）が小田原城にあった国人・大森藤頼を追い落して乗っ取った。2代氏綱のとき名字を伊勢から北条と改称、古河公方から「関東管領職（しき）」に補任され、関東の副将軍として政治的立場を高めた。

\* 2人の関東管領＝一方、関東管領職の家柄である上杉憲政は関東を追われて越後守護代の長尾景虎（上杉謙信）を頼り上杉氏の家督と管領職を譲渡した。2つの管領家は関東の覇権をかけて争う

②氏綱、3代氏康、4代氏政と領国を拡大、天正8年氏政は嫡男・氏直に家督を譲って隠居したが実質的最高責任者として行動していた。天正18年段階での勢力範囲は、

- 伊豆、相模、武蔵、下総＝すべて北条領
- 駿河、武蔵、駿河、常陸＝一部または大半
- 上野、下野＝大半または一部、最前線抗争地区
- 上総＝すべて北条領
- 安房＋上総南部（里見）＝「房相和睦」以来の北条領「国衆」だが離反しつつある

## 2) 豊臣秀吉の「惣無事令」と北上州名胡桃城の帰属～「小田原征伐」の発端

①北上州（上野国北部＝群馬県）は信濃、越後、日光に通ずる交通要衝地で、戦国時代、上杉謙信、武田信玄、北条氏直がしのぎをけずる争奪地であった。

②岩櫃城＝永禄6年（1563）武田信玄の家臣・真田幸隆が攻め落とし武田氏の上州支配拠点とした。武田氏の滅亡後は真田氏が領有、小田原落城後信幸に沼田城が与えられるとその支城となり、元和の「一国一城令」で廃城となった。

③沼田城＝天正8年（1580）武田方の真田昌幸は北条氏が抑えていた沼田地区に攻め、無血開城させた。名胡桃城は昌幸が支城として築城。武田氏滅亡後昌幸が領有するが、虎視眈々と所領拡大を窺う北条と徳川、上杉3家にとって、この好機を見逃さない。3者の思惑が絡んで「第一次上田戦争」へ。

④織田信長亡き後、その後継者となった豊臣秀吉は天正13年関白、14年太政大臣に進む。同16年京都に壮大な居城・聚楽第を建てて後陽成天皇の行幸を迎えると、天下統一に向けて、大名間の私戦を禁止した「惣無事令」を発令した。

⑤秀吉は沼田地区の北条、真田の紛争地について、境界線を利根川と裁定、3分の2にあたる沼田地区を北条側に、残りの名胡桃地区を真田領と定めた。

⑥両軍不満の裁定に最初に動いたのは北条方だった。利根川を渡って名胡桃城を奪取する。激怒した秀吉は全国に「小田原征伐」命令する。天正17年12月、北条氏政に「戦線布告状」を送りつけた秀吉は、大軍を結集して小田原城総攻撃を取行することになる。



上杉謙信

豊臣秀吉



沼田城



# 北条氏滅亡、豊臣秀吉「天下統一」成る

## 1) 秀吉、史上最大 22 万の討伐軍を起す

① 秀吉の作戦計画は東海道の諸大名を本役(軍役1万石に300人)、機内は3分の1役、四国は半役とし、中国の諸大名は箱根の後備え、四国は助けの衆、西国は後詰め、南街道は普請の衆とし、東海道を東行し、越後、加賀、信濃勢は北部から、中国、四国、紀伊、伊勢の水軍を東海道沿いに関東に向かわせる、というもので行動開始は2月1日、長期戦を予想、兵糧米20万石を沼津に用意させた。

② 天正18年3月1日豊臣秀吉は唐冠の兜、黄金の鞍をつけた馬に乗って京都を立った。その陣立ては

\* 東海道東行軍

- 1 番隊=徳川家康(浜松) 3万騎
- 2 番隊=織田信雄(清州) 1万5千騎
- 3 番隊=蒲生氏郷(伊勢松ヶ島)、森忠政(美濃金山)、織田信包(津) 9800騎
- 4 番隊=池田輝政(岐阜)、豊臣秀勝(大垣)、稲葉貞通(郡上八幡) 8160騎
- その他豊臣秀次、大谷吉継、細川忠興など計12番隊12万3150騎、本隊=豊臣秀吉3万騎

\* 北陸勢 前田利家1万8千騎、上杉景勝1万騎、真田昌幸3千騎など3万5千騎

\* 水軍 九鬼嘉隆、加藤嘉明、脇坂安治、長宗我部元親、羽柴秀長、宇喜多秀長、毛利輝元など1万4130騎

\* 留守部隊 沼津城、興国寺城、府中城などに1万2270騎

総計22万4千騎であった。

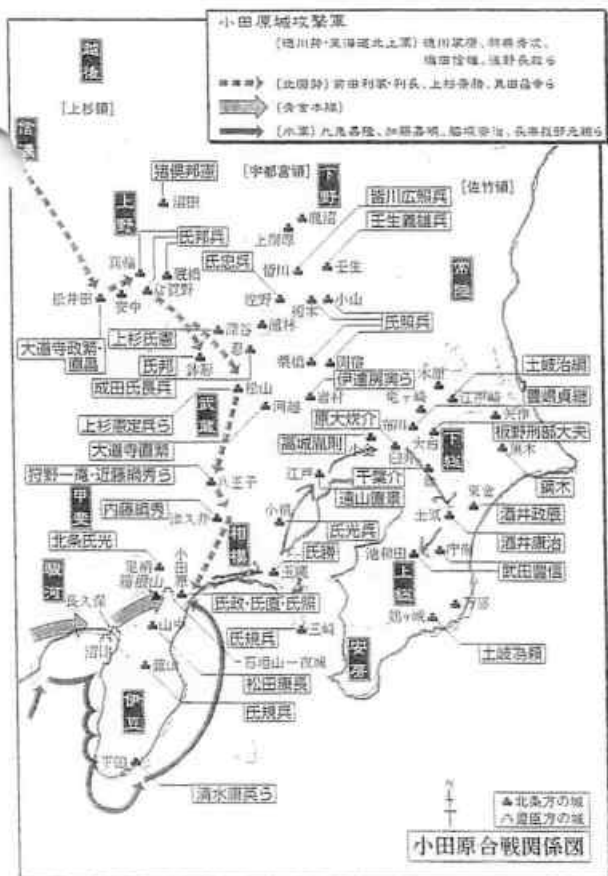
## 2) 防御の要・山中城を簡単突破、完全包囲へ

① 秀吉の台頭でいずれ関東政権への武力介入を覚悟した北条氏政は、早くから決戦体制を固めていた。小田原城の外郭工事や山中城、八王子城の大改造などであった。大量の農兵を徴集、本城の小田原城に一族を結集して籠城体制を取った。

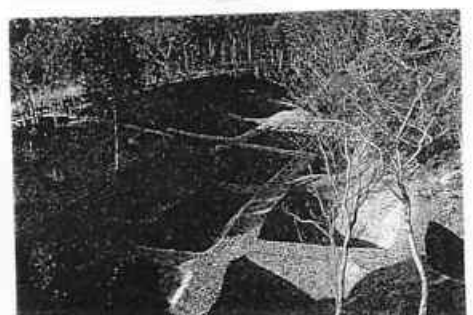
② 巨大な小田原城は難攻不落の堅城であり、城下を包み込んだ外郭は、容易に破られることはない。これまで上杉謙信や武田信玄の攻撃に持ちこたえた自信が判断を誤らせた。

③ 一方で同盟関係にあった徳川家康がいずれは秀吉を離反して味方してくれるとの希望と、豊臣軍の内部崩壊、伊達政宗らの来援も期待したがすべてが「夢物語」に終わった。

④ 3月29日、北条氏にとって「東海道防御の要」であった山中城が大軍の猛攻撃にさらされる。4千の守備兵に7万、圧倒的な物量差はいかんともできない。開戦2時間、一瞬の内に落城した。



山中城  
↓



- ⑤箱根山を一気に押し進んだ秀吉軍は先鋒徳川軍が4月3日小田原城近郊に到着、豊臣秀次、宇喜多、堀、丹羽らの諸隊も小田原周辺に陣を布くと、秀吉は6日箱根山をこえて北条氏の菩提寺・早雲寺に本陣を定めた。電光石火、小田原城包囲体制が一気に出来上がった。参考図「小田原城包囲図」は4月中ごろ、まさにアリー一匹抜け出す隙間もない。
- ⑥あっけなく箱根の要衝を突破された北条方は驚愕し、城中は早くも混乱状態になった。軍議は「小田原評定」を繰り返し、なすすべもなく崩壊への道を進むことになる。
- ⑦この間、松井田城、鉢形城、八王子城、松山城、岩付城などが相次いで落城した。  
下総から上総には豊臣重臣の浅野長吉、木村一、家康重臣本多忠勝、平岩親吉、鳥居元忠が進攻、小金、白井（小弓）、土気、東金、万木、大多喜、佐貫など主要17城がことごとく開城したとされる。

### 3) 石垣山一夜城出現と開城～北条氏滅亡

- ①石垣山一夜城の築城工事は秀吉が早雲寺に本陣をおいた直後に始まった。出陣前から、築城要員は紀州と四国勢5万6千人で、別に石材調達と石垣構築のための石工技術集団「穴太衆」や瓦職人、城大工などを同行させていた。石材は周辺の早川石切り丁場などで切り出し、少なく見積もっても数十万個におよぶ巨石が「しゅら」などで山上まで運び上げられた。
- ②築城工事は驚くべきペースで進められた。5月14日付秀吉書状は「はや御座所の城（本丸御殿）も、石くら（石垣）でき申し候（中略）、やがて広間、天守たて申すべき候」と進捗状況を報告している。
- ③6月25日天守が完成、小田原側の木々が一斉に取り払われて一夜城が姿を現した。これをみた小田原籠城の兵士らは戦意を喪失、氏政、氏直父子もついに敗北を認め、自らの死をもって城兵の助命を申し入れた。
- ④7月5日氏直は家康陣所に出頭、滝川雄利を通じて秀吉に降伏、6日家康により城が接收され、7日籠城兵たちが帰郷、10日氏政、氏照が城を退去して翌日現在JR駅近い医師田村安栖屋敷において切腹した。また、城を明け渡した氏直は家康の娘むこにあたることで許され高野山に追放、のち許され秀吉から1万石が与えられたが、まもなく病死して北条宗家は滅亡した。

### 4) 豊臣秀吉の関東、東北仕置き

- ①秀吉「小田原征伐」後のす早い処分  
7月13日徳川家康を北条氏の遺領である伊豆、相模、上野、上総、下総の6か国への移封  
家康旧領への織田信雄移封（拒否したため那須2万石に減封）
- ②7月26日、8月9日、東北に向いて「奥羽仕置き」を発表  
小田原に参陣した伊達政宗、最上義光、南部信直、津軽為信、戸沢光盛らの所領安堵  
参陣しなかった大崎、河西、石川、白川結城、田村氏などの改易  
新たに会津に蒲生氏郷、大崎、葛西の旧領に木村吉清の転封 などであった。
- ③また東北諸大名妻子の人質、「太閤検地」を指示した。  
関東、奥羽大名のすべてが豊臣政権に服することとなり、ここに秀吉の「天下統一」が達成された。



石垣山一夜城

↓ 小田原旧城から  
一夜城を望む



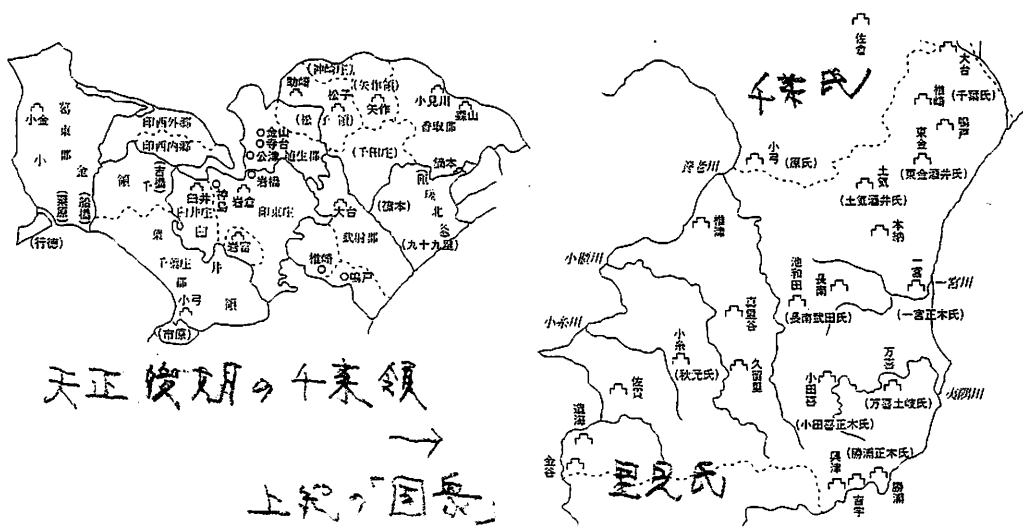
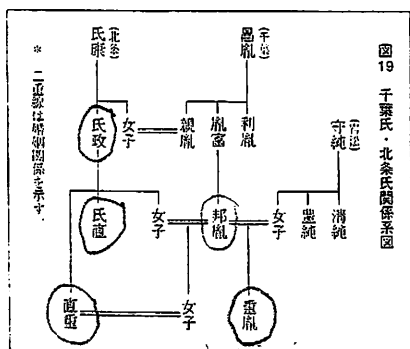
# 上総戦国大名たちの小田原征伐

## 1) 北条氏の「国衆」による領国支配と小田原参戦

- ①北条氏の領国経営は地方自治権をもつ「国衆」との従属関係によって成立していた。北条氏は国衆の存立を保護し、国衆は北条氏に軍事奉公するという「保護と奉公」の関係にあった。上総、下総には多数の国衆が存在したが、その最大は原氏を含めた千葉一族と里見氏であった。小田原合戦当時、房総3か国は北条氏の国衆100%の「北条領国」であったが、すべてが小田原に駆けつけたわけではなかった。
- ②千葉氏=千葉氏は平常胤が源頼朝の鎌倉幕府創建に貢献した名族であったが、関東動乱以降一族が分裂、互いに争って勢力が低下していった。最後は北条氏の属国となる。家臣に暗殺された先代邦胤の嫡子重胤は母とともに人質として小田原に差し出され、北条氏政の7男直重をムコ養子に迎えると、本城の本佐倉城に北条勢が在番した。小田原落城後直重は実兄氏直にしたがって高野山に移り、許されて阿波蜂須賀に仕えたという。一方の重胤も呼び出されて200石が与えられたがしばらくして返上、秀忠妻崇伝院に仕えた母の町屋で寛永10年に死去した。
- ③原氏=「千葉は100騎、原は1000騎」、千葉家を実質に取り仕切ったのは家宰(執権、執事)の原胤栄(たねよし)であった。胤栄は臼井城を本城とし小弓城主を兼ねた。天正18年小田原へ出陣は「千葉氏3000騎、臼井衆(小弓を含む)2500騎」、小弓城の支配下にあった八幡、五井地区へも農兵が割り当てられたはずだが記録はない。胤栄は小田原城降伏開城の帰途、JR外房線・菅田駅近くの野田宿十文字で酒井家次軍と遭遇、戦火を交えて壊滅したとされる。また胤栄は前年12月に死亡し小田原城には出陣していないともいう。胤栄の嫡子吉丸(胤信)は徳川軍の侵攻時、臼井城にあって戦うことなく開城、小弓城も明け渡された。原氏は千葉氏とともに改易。胤信はのち家康に取り立てられ1千石を与えられたがキリシタンとして追放され、元和9年「元和の殉教」で、神父ら51人とともに火刑に処された。
- ④原氏の忠臣といわれる両酒井家も小田原に出陣、土気300騎、東金150騎、北条氏邦軍に属して早川口を守備したとされる。開城後帰国して改易、土気酒井康治は山辺郡に草庵を結んで慶長13年病死、東金酒井政辰は地元の妙徳寺に蟄居、不遇のまま逝去した。
- ⑤一方「中立」を称して小田原城にも出陣しなかった長南武田氏、万喜の土岐氏も同罪として改易、子孫は土着、帰農して江戸時代を送った。
- ⑥安房一国と上総南部を領有、北条氏の国衆ながら当時絶縁関係にあった里見義康は、秀吉軍の侵攻に呼応して下総や相模に攻めたが、参陣の過程が私戦として領国の一部を返上させられた。

## 2) 飯香岡八幡宮や大巖寺~次世代に懸けたもう一つの小田原戦争

- ①戦乱は寺社にとっても存亡の危機である。焼亡はもちろん、もし領主が変われば新領主との関係も心配だ。
- ②一方、攻撃側も同じであった。攻略やその後の経営に妨げはないか、できれば協力してほしい、その後の経営も視野に置いた徳川家康は早くから両総地区の寺社をコンタクトを図る。



# 禁制

上総国市原庄

八幡郷 とうじや

きくま 村上

やまき こい

府中 こしよ

一 軍勢甲乙人等乱妨狼藉事

一 放火事

一 封地下人百姓等々ノ儀申越事

右條、海令條の既長松申越

軍老等可被處及申越事

天正十八年五月



天正18年(1590) 1個人蔵、旧飯音岡八幡宮文書  
聖臣秀吉禁制

上総国市原庄

八幡郷 とうじや

きくま 村上

やまき こい

府中 こしよ

以上

禁制

軍勢甲乙人等乱妨(暴)狼藉のこと

放火のこと

地下人(じげにん)百姓に対し、非分の儀申し懸くること

右の条々雖く停止(ちやうじ)せしめ置(おわんぬ)、もし

違犯(ゐ)の

望においては、たちまち獄科に処せられべきものなり。

天正十八年五月日 (秀吉朱印)

天正18年(1590) 1飯音岡八幡宮文書137A  
八幡宮書き上げ絵図面

この絵図面、先般のとおり六尺五寸間、海内戎の方見通しかい立て御除地相違ござなく候。このたび御尋ねにつき絵図面をもつて申し上げ奉り候ところ、くだんの

天正十八年三月十三日

上総国市原庄八幡郷  
八幡宮社備  
丹波坊印  
同社神主  
岩田寄官判

御用掛  
青山藤藏様

表書のとおり差し出し候ところ、同年五月徳川様御上意につき、小田原御殿(陣)所へ召し出されお目見えの上、御祈願所に仰せ付けられ、向後乱妨(暴)これなきやう、御禁制御証文頂戴仕り候こと。

天正十八年五月



此の繪圖面、先般のとおり六尺五寸間、海内戎の方見通しかい立て御除地相違ござなく候。このたび御尋ねにつき絵圖面をもつて申し上げ奉り候ところ、くだんの

天正十八年五月日 (秀吉朱印)

- ③千葉・大巖寺=小弓城主原胤榮創建、領主との関係が強かったが、家康と密接な書状を交換している。家康は小田原在陣中の領主への撤退要請、小弓城に入城した市橋兵吉に大巖寺の善処依頼、いち早く大巖寺領を安堵している。
- ④飯香岡八幡宮は、小田原包圍中家康陣中に召し出され、境内絵図面を差し出したところ祈願所を仰せ付けられとし、秀吉の「禁制」を受領している。
- ⑤徳川、浅野勢などの上総侵攻では小弓城支配地はすべて無視された。すでに十分な下調整が終わっていてもいえよう。

## 「小田原征伐」の石垣山一夜城と小田原旧城ほかを歩く

### 1) 秀吉「天下一統」関東最大の名城～現地で詳細解説します

①早川石切り丁場群跡=一夜城石切り場、のち江戸城に運んだ。途中通過、車中説明

#### ②石垣山一夜城

総石垣=穴太流野づら積み、当時最先端高石垣、初期算木組。崩壊が激しい  
 井戸曲輪=みごとなマイマイ井戸石組みが遺構とどめる。通称「淀殿化粧井戸」という  
 本丸跡=秀吉の小田原征伐「陣城」本陣。小田原城を見下ろす「関東のつれしよん」  
 天守跡=礎石、瓦付きの本格織豊天守だが詳細は未解明  
 山里曲輪(西の丸)=側室淀君を迎えるために作った御殿、千利休の茶会も催された  
 大手道=迫る両側石垣が崩壊、巨石ごろごろ迫力満点の坂を下る

#### ③北条氏小田原古城

小峯山空堀=10mをこす巨大空堀と土塁。総構え、大外郭先端から一夜城を見上げる  
 本城跡=北条氏歴代当主の居城。小田原高校周辺に土塁や空堀がひそむ

#### ④近世大久保氏小田原城

本丸=江戸城東海道筋正面の守り。関東では珍しい水堀、石垣、天守3点セットの近世城郭  
 再建天守=天守は明治維新に解体、天守台は関東大震災で崩壊、昭和35年改築積み直し天守台に層塔型3重4階資料館復興天守を再建(資料館には入場しません)  
 外に常盤木門、銅門などが復元されている

以上



石垣山城 本丸石垣



井戸曲輪(淀殿化粧井)



本丸御殿跡



小田原旧城



小田原城天守



常盤内

→ 関東大震災崩壊  
本丸石垣





図版 1-1-1 小田原城総横範囲の遺構図

小田原市一万分の地形図 小田原都市集積図5・7(五千分の一)  
 小田原市教育委員会各種測量図 小田原城研究会部分式測量図等の合成

平成28年9月13日

市原里づくりの会 山越国区

# 国衙市原にあり

## 上総国府の謎に迫る

【はじめに】 県史の謎のひとつになっている上総国府跡の所在地。政治、経済、文化の中心だった国府。幻の上総国府を歴史地理学的に、併せて発掘事例など考古学の成果を加味して、その所在地を大胆に推理した。全国的に国府の四隅に神社が祀られている事例が多い。社寺配置に注目し地図上から「上総国府」の解明を試みた。

### きょうお話しする主な内容

- なぞの溝跡発見。国衙の外郭か
- 「上総国府」解明の現状。国府とは
- 社寺配置の地図上から見えてきたもの
- 市原があやしい。有力になってきた
- 「府中」。中世能満説について
- 小径が教えてくれた国衙
- 陸の道・川の道

### 「上総国府」

上総国府。国府は律令時代の地方行政組織で中央政府の行政機関。全国六十余国に行政区が置かれ、国庁（現在の県庁）のあった所在地。国衙はさまざまな機関が集まった官庁街といったところ。その重要度によって大国、上国、中国、下国の四ランクに分かれ、上総は大国。国府城内には、中央から派遣された国司（守、介など）が政務を行う政庁、国司館、工房、正倉などが配置された。政庁は周囲を溝や塀で区画。南に門を開き、正殿を正面北よりに置き、前殿、東西に脇殿があり、コ字型の建物配置になっているのが全国共通。歴代の国司（守、介）には、中央政府で活躍した人たちがや有名人が派遣されている。陸奥国で黄金を発見し、東大寺の大仏造立に大きく貢献した百

済王敬福、万葉歌人で有名な石上宅嗣、大伴家持、古代文学の更級日記の作者の父親である菅原孝標などの名が見える。

### ◆上総国府跡解明の現状

現在、上総国府の推定地に挙げられているのは、①字名に古甲（古い国府か）が残る郡本・門前地区②最近の発掘調査で古代道遺構や市内で一番大きい掘っ立て柱穴跡が確認された市原地区③「府中」という名が残り府中日吉神社がある能満地区④隣接地に国府と関係の深い国分僧・尼寺跡がある村上地区の4地区。その他に郷社説もあったが、国分寺台の区画整理事業に伴う発掘調査で存在が否定された。最近では「府中」の名が残る能満地区は、中世の国府（守護所）があったのではと考古学の学者や研究者の間で定説になりつつある。

### ◆市原があやしい。明治初頭の地割図がヒント

市原地区の社寺配置に注目。阿須波神社―市原八幡神社―日笠宮神社の配置から相関性がうかがえる。南東方向には神社はないが、近くに天王崎の地名があることから、「天王様（牛頭天王・八坂神社）」を想定。天王様は、市原八幡神社境内地に勧請されている。これらを結ぶと、きれいな四角形を描いた。市原地区は、これらの神社に守護されていることが分かる。国分寺創建瓦よりも古い瓦が出た光善寺（光善寺廃寺遺跡）にも注目。国分寺と、古瓦が出土した千草山廃寺遺跡（市原中、武道館）を線で結ぶと二等辺三角形になり、なにか計画性が感じられる。

### ◆社寺配置から分かったこと。上総国府私論

地図上から浮かび上がった上総国府。市原地区の阿須波神社と藤井地区にあった大宮大権現のライン。光善寺と千草山廃寺を結ぶラインが上総国府（国衙）を解明するカギ。大胆に推理して「上総国府」は、時代、時代で移動した。上総は神門古墳群や稲荷台一号墳の王賜銘鉄剣にみられるように、中央政権にとって重要拠点だった。常に北（東北地方）をにらみ、戦略的に拠点が構築された。北方攻略の前線基地から、東北平定が進むと兵たん基地としての任務を担った。こうした点から国府城は、重要施設が置かれた市原台地を有効利用。稲荷台遺跡の山田橋・藤井地区、郡本、門前、台地北方の市原地区で国衙城が移動した。中世には「府中日吉神社」がある能満地区に移った。なお、市原台地上には、世にいう「国府5町城」は取れない。結界として約5町城あったのでは。地図上からは、そう読み取れる。国衙移動は、741年の「国分寺建立の詔」がきっかけとみる。国分僧・尼寺建設と新たな



国づくり（国衙）が同時並行で行われたのではないか。741年の安房国の上総国への併合が物語る。安房が再び独立する757年ごろには、国分僧・尼寺の整備、古甲（郡本・門前地区）からの移動がなされたとみている。今年（平成28年）3月の溝跡遺構の発見が、上総国府（国衙）解明の手がかりを示してくれた。幻の上総国府・国衙は市原にあった。今後、市原地区での発掘調査など積極的な考古学の研究成果が待たれる。

## 上総国府はどこにあったか？

（平成24年度歴史講座より）

令制国（りょうせいこく）とは、律令制に基づいて設置された日本の地方行政区分である。奈良時代から明治初期まで、日本の地理的区分の基本単位であった。

- 国衙（こくが）・国庁（こくちよう）…………… 行政機関のこと
- 国府（こくふ）・府中（ふちゅう）…………… 国衙を中心とする都市域のこと

### 郡本・市原説

- 「府中」の名称が能満にある府中日吉神社が残っている。中世国府があり、古代の国府もあったという説。
- 藤井地区に伝わる銘文、懸仏には、「守公神御正所者上総国府中国庁国御目代日高彈正朝光沙弥道光」（表銘文）「金資弘覚大進沙門応永9年」（1402）6月1日（裏銘文）とある。
- 郡本・市原周辺には、字名に、門前字古甲・藤井字古光が存在する。古甲は古国府。
- 広範囲に奈良・平安時代の遺構が広がっている。

### 村上説

- 隣接地に国府と関連する「惣社」（総社）が地名として残る。総社は国府の近くに置かれた。
- 館山道建設にともなう調査で、周囲に溝を有した掘立柱建物群を検出した。旧河道（養老川）に面することから、国府津などの公的な施設の可能性がある。



### 移動説

- 古代の国府・国庁は必ずしも一か所にとどまっていなかった。
- 出羽、肥後などのように低地や低い丘陵から、その後高台へ移動している。

令制国(りょうせいこく)とは、律令制に基づいて設置された日本の地方行政区分である。奈良時代から明治初期まで、日本の地理的区分の基本単位であった。

- 国衙(こくが)・国庁(こくちょう) ..... 行政機関のこと
- 国府(こくふ)・府中(ふちゅう) ..... 国衙を中心とする都市域のこと

郡本・市原説

- 「府中」の名称が能濱にある府中日吉神社が残っている。中世国府があり、古代の国府もあったという説。
- 藤井地区に伝わる銘文、懸仏には、「守公神御正所者上総国府中国庁国御目代日高彈正朝光沙弥道光」(表銘文)「金資弘覚大進沙門応永9年」(1402)6月1日(裏銘文)とある。
- 郡本・市原周辺には、字名に、門前字古甲・藤井字古光が存在する。古甲は古国府。
- 広範囲に奈良・平安時代の遺構が広がっている。



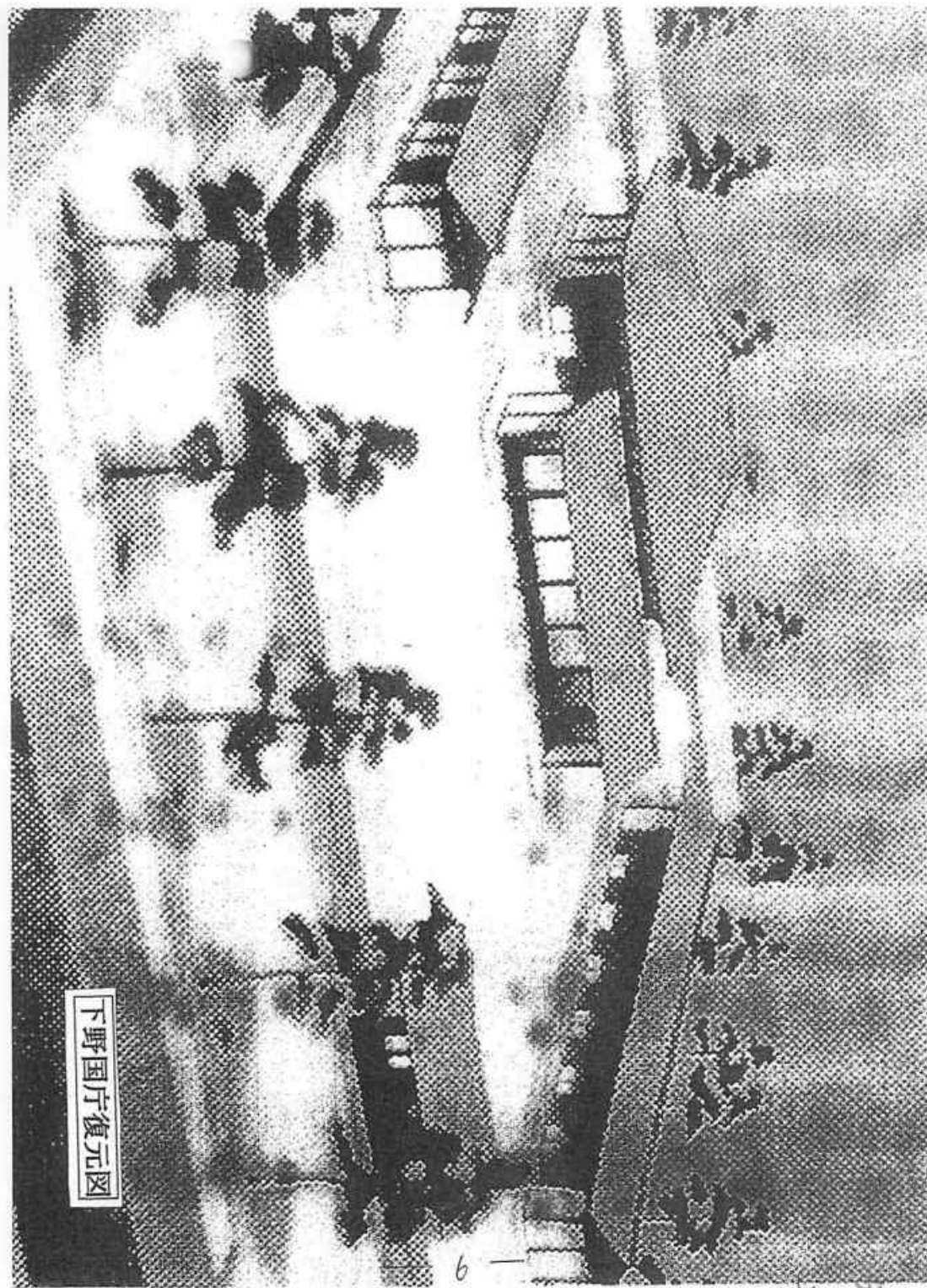
移動説(山越国臣)

- 古代の国府・国庁は必ずしも一か所にとどまっていなかった。
- 出羽、肥後などのように低地や低い丘陵から、その後高台へ移動している。

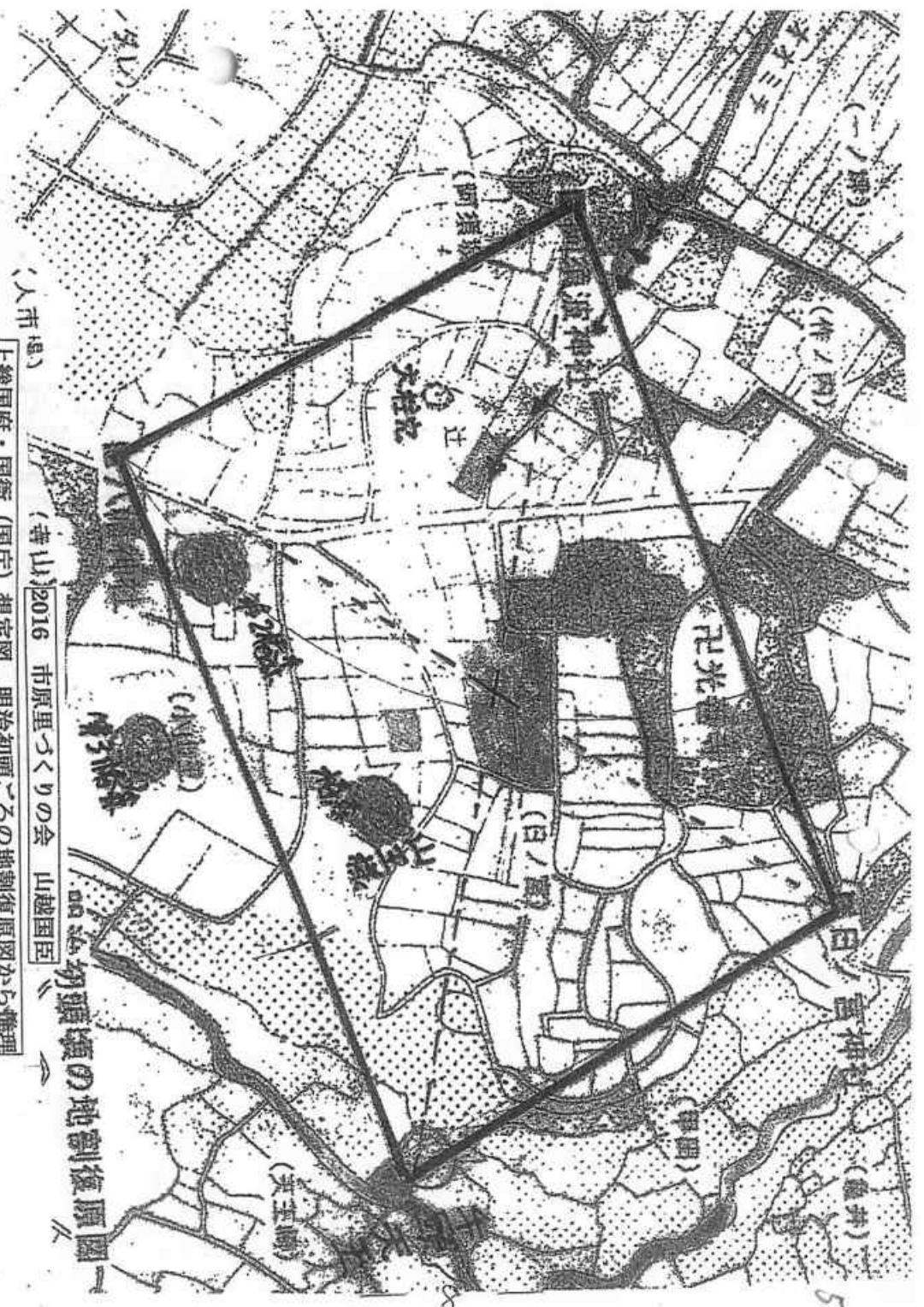
村上説

- 隣接地に国府と関連する「惣社」(総社)が地名として残る。総社は国府の近くに置かれた。
- 館山道建設にともなう調査で、周囲に溝を有した掘立柱建物群を検出した。旧河道(養老川)に面することから、国府準などの公的な施設の可能性がある。

山越国臣



下野国庁復元図

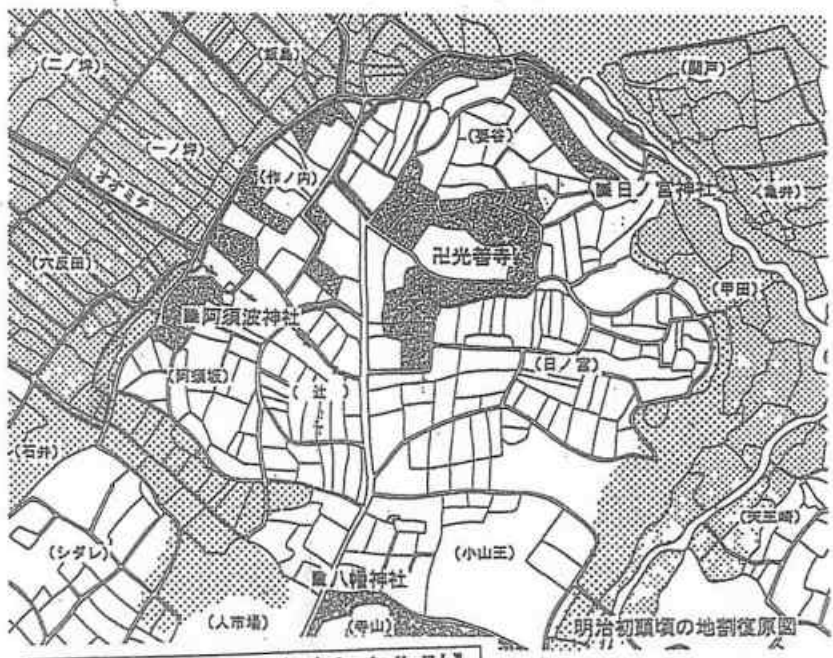


上総国府・国衙(国庁)想定図 明治初頃のこの地割復原図から推測

市原地区の神社

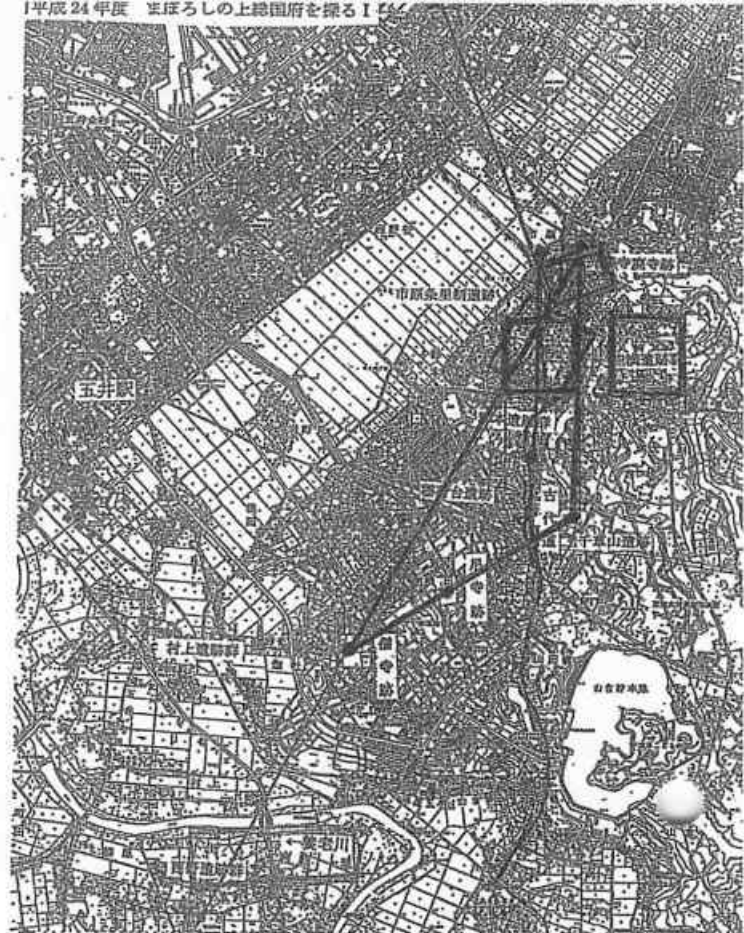
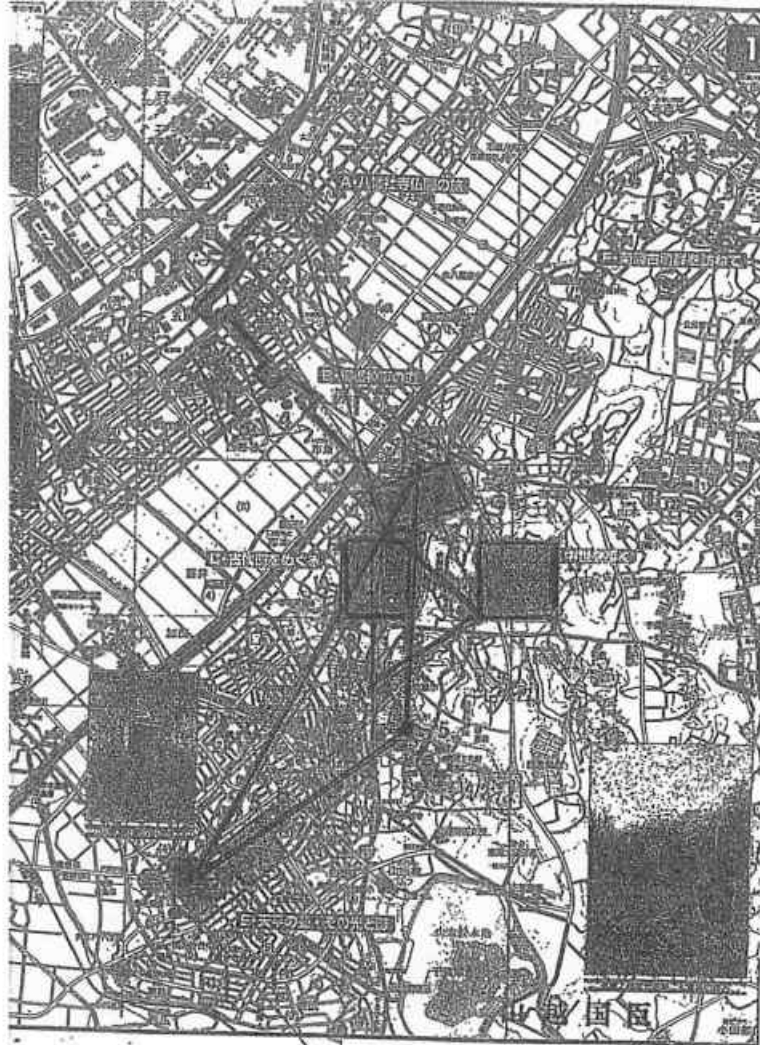
市原地区には、八幡神社、阿須波神社、日ノ宮神社の三社が鎮座しています。また境内社には、八幡神社の牛頭天王社(石祠)と、阿須波神社の金比羅大権現(石碑)が知られています。社格の高い神社は無く、小社あるいは石祠です。

しかし、市原地区の台地全体の中で眺めてみると、下図(明治初頃の地割復原図)に示したように、村の四囲を取り囲むような位置に鎮座していて、決して不規則に置かれているのではないことに気づきます。やや詳しく見てみることにしましょう。市原地区は、西側の海岸平野部と東側の谷地形によって取り囲まれた、纏まりのよい平坦面です。南端の入市場と寺山に東西から谷が入り込んでいます。この南端の要所に鎮座しているのが八幡神社です。阿須波神社と日ノ宮神社は、台地の東西に鎮座しています。阿須波神社の眼下には、オオミチと呼ばれる古道が海岸部の五所に向かっています。この道は、市原条里制遺跡や五所四反田遺跡の調査によって、古代に遡ることが明らかで、柳橋も運ばれた道です。台地は中央には、南北に延びるまっすくな道があります。オオミチは阿須波神社の北側を登ってきて(阿須坂)この道に突き当たります。字社です。南北の道の東側には、台地の向きとほぼ似つかない地割りが認められます。いつぞやの頃に、大きな開発が行われたのでしょう。市原地区の神社は、この辺りをお守りするように鎮座しています。



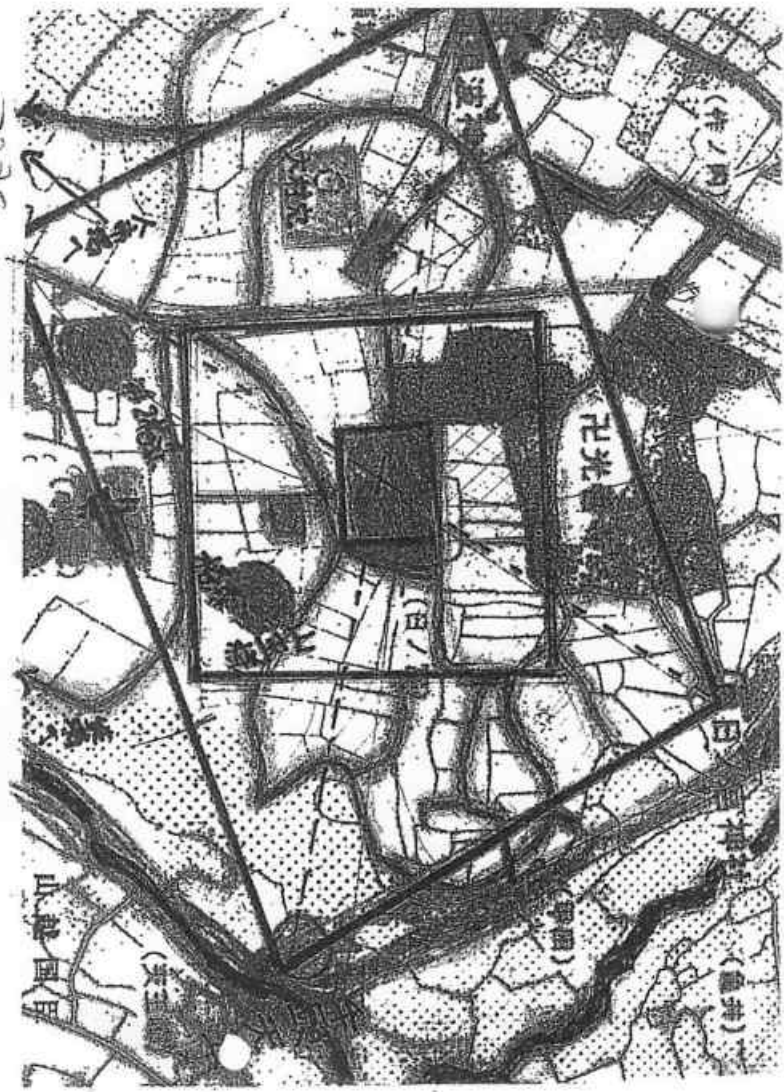
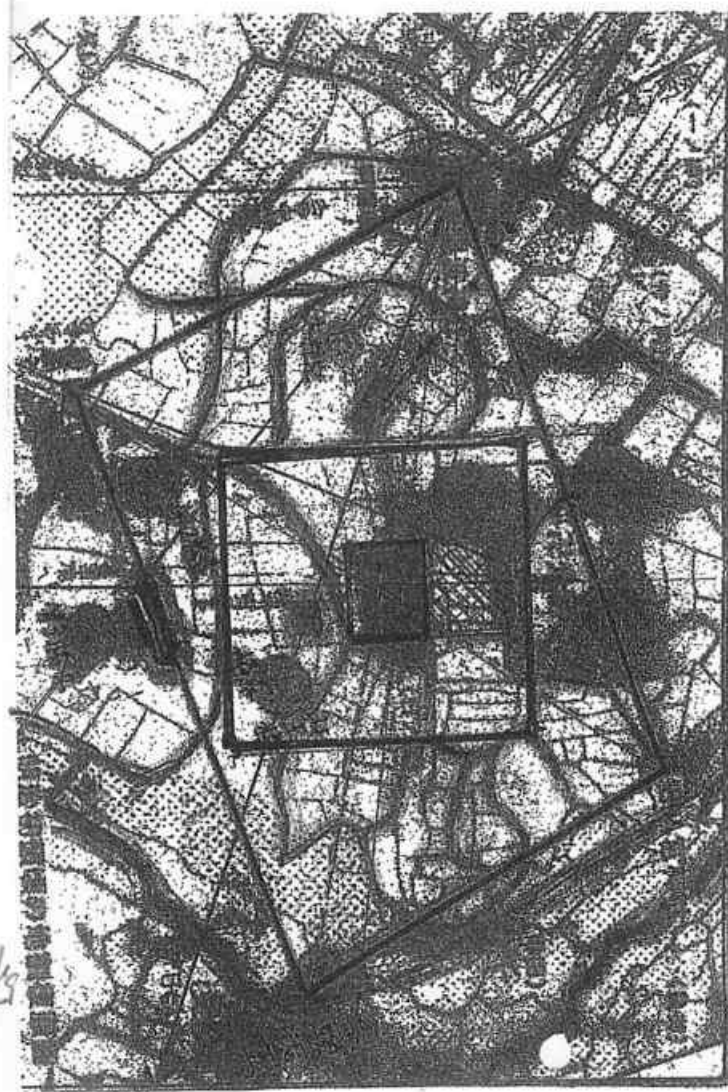
【市原市郡本周辺遺跡と文化財】

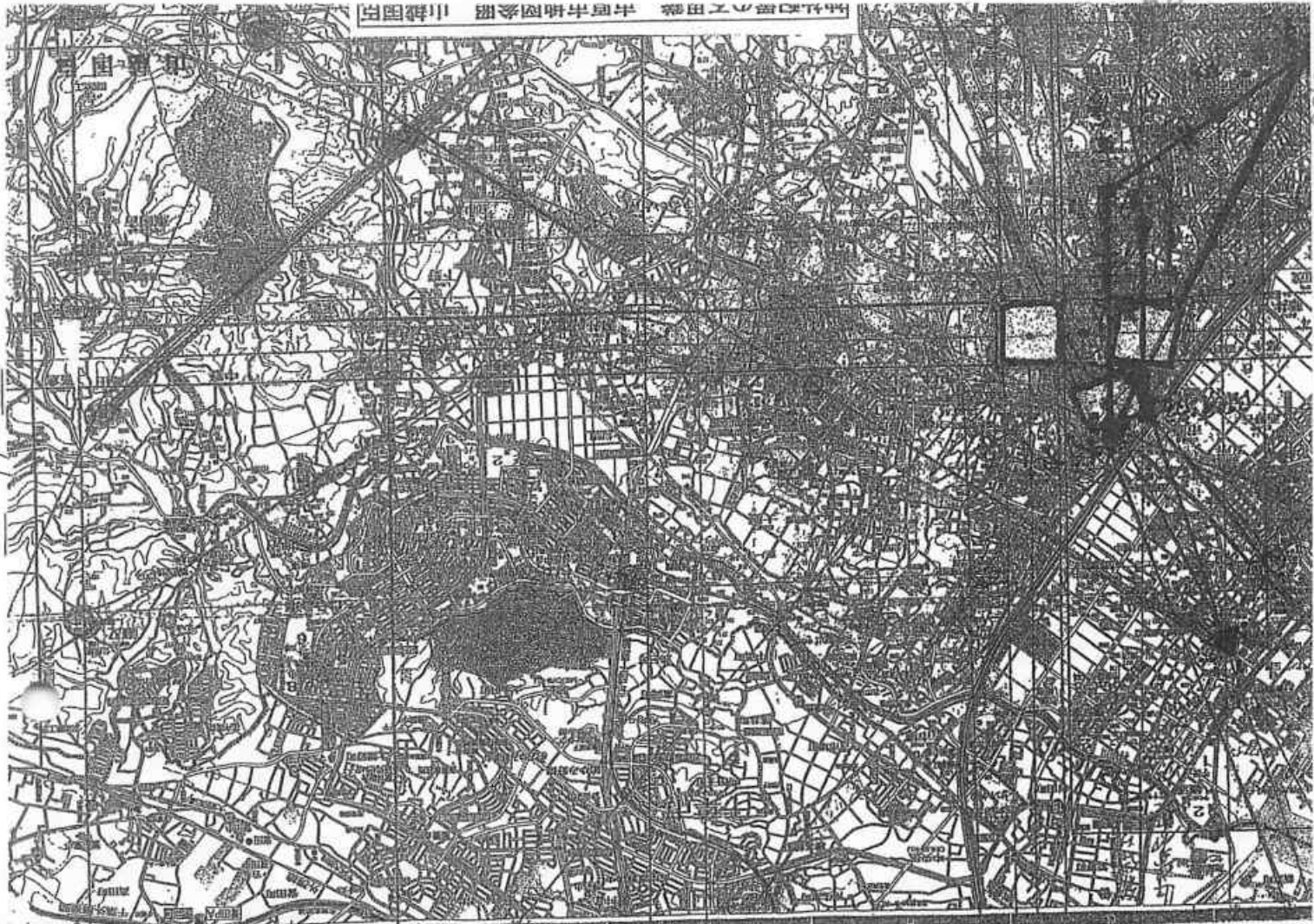
市原神社と柳橋神事・(田所真氏) 参照



上総国府跡関係遺跡等位置図  
 1:2,600

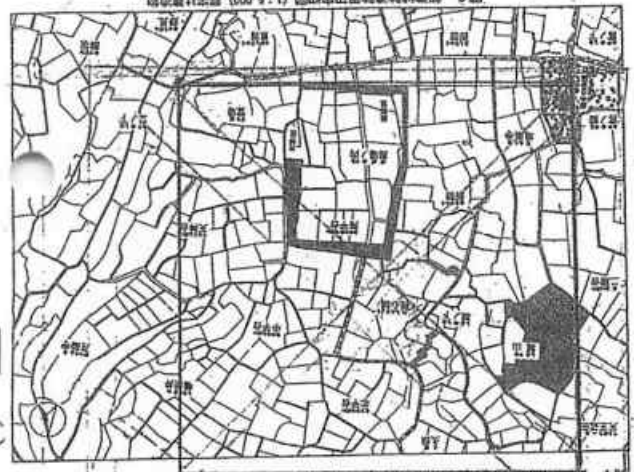
光善寺と国分僧尼寺との相関図 2016 山越国臣



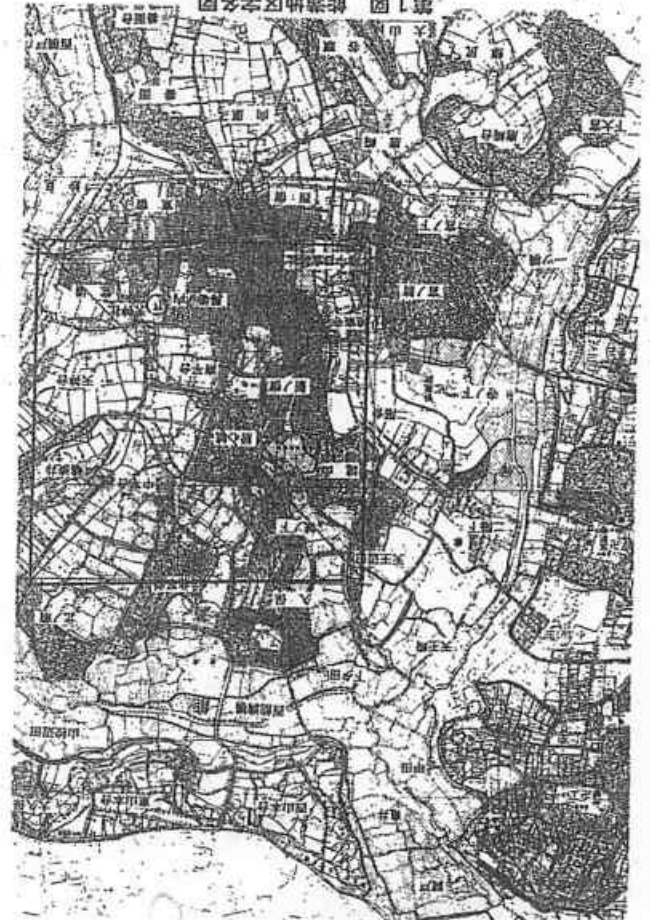


中世国府は能満 能満城跡遺跡周辺字切図 (市原市教育委員会) 参照 山越国臣

図2 能満城跡遺跡周辺字切図 (1:5,000) 市原市教育委員会



第1図 能満地区字名図



- 凡 1. 本図は、市原市教育委員会が、1999年3月、市原市文化センターにて、調査したものである。
2. 地形図(1:50,000)の能満城跡遺跡周辺(市原市)を参照。
3. 市原市教育委員会が、1999年3月、市原市文化センターにて、調査したものである。
4. 能満城跡遺跡(市原市)の遺跡跡地(1:5,000)を参照。
5. 市原市教育委員会が、1999年3月、市原市文化センターにて、調査したものである。
6. 市原市教育委員会が、1999年3月、市原市文化センターにて、調査したものである。
7. 市原市教育委員会が、1999年3月、市原市文化センターにて、調査したものである。
8. 市原市教育委員会が、1999年3月、市原市文化センターにて、調査したものである。
9. 市原市教育委員会が、1999年3月、市原市文化センターにて、調査したものである。
10. 市原市教育委員会が、1999年3月、市原市文化センターにて、調査したものである。

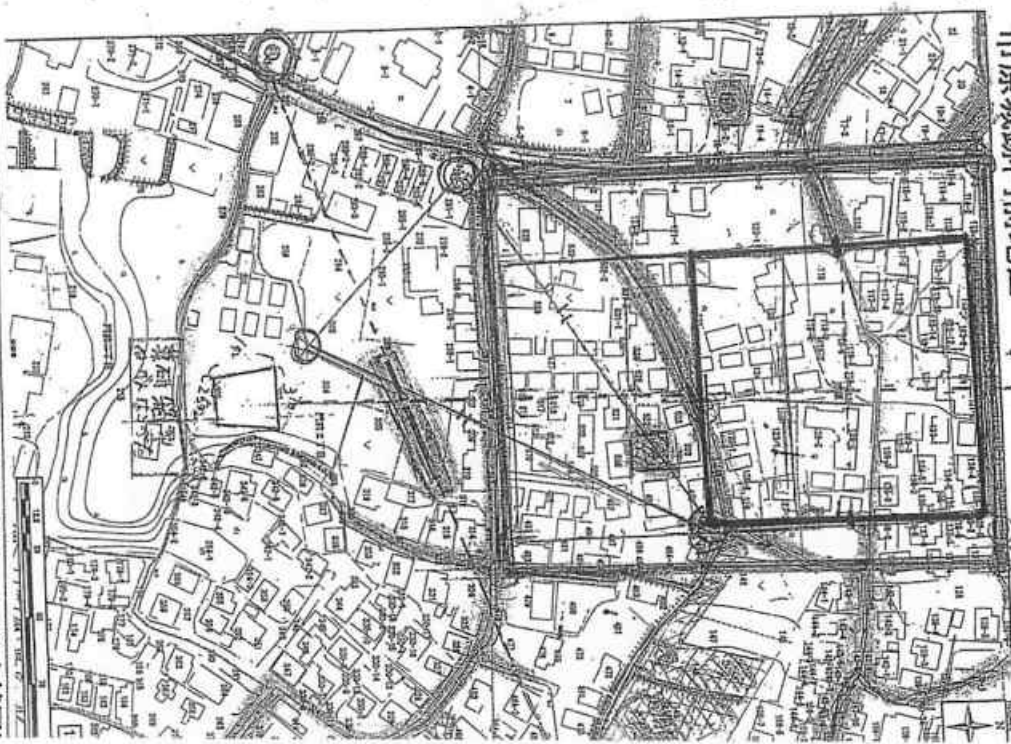
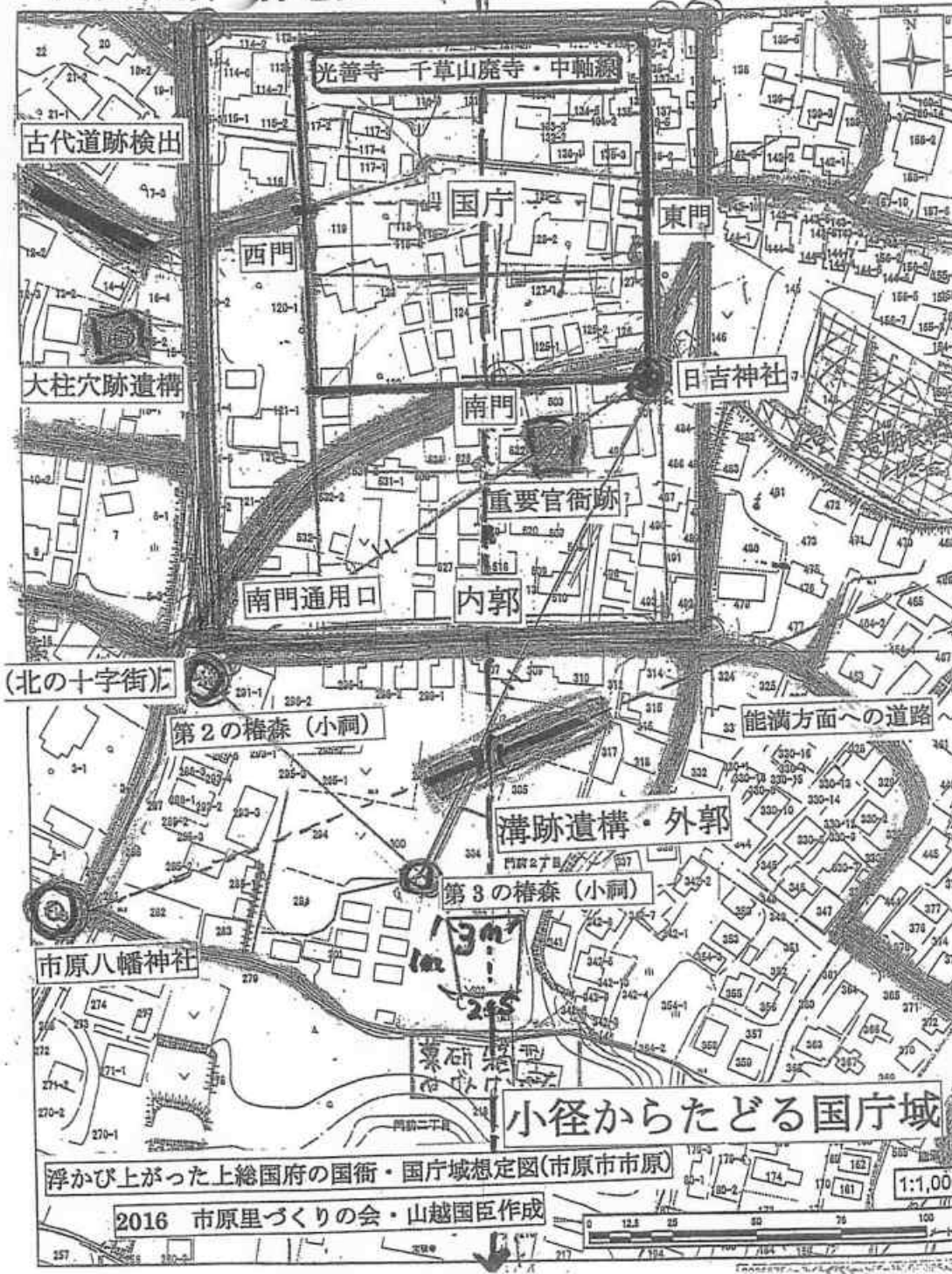


市原城跡門前地区

平成24年地形図中文字と地番図

# 市原城跡門前地区

平成16年地形図と地番図

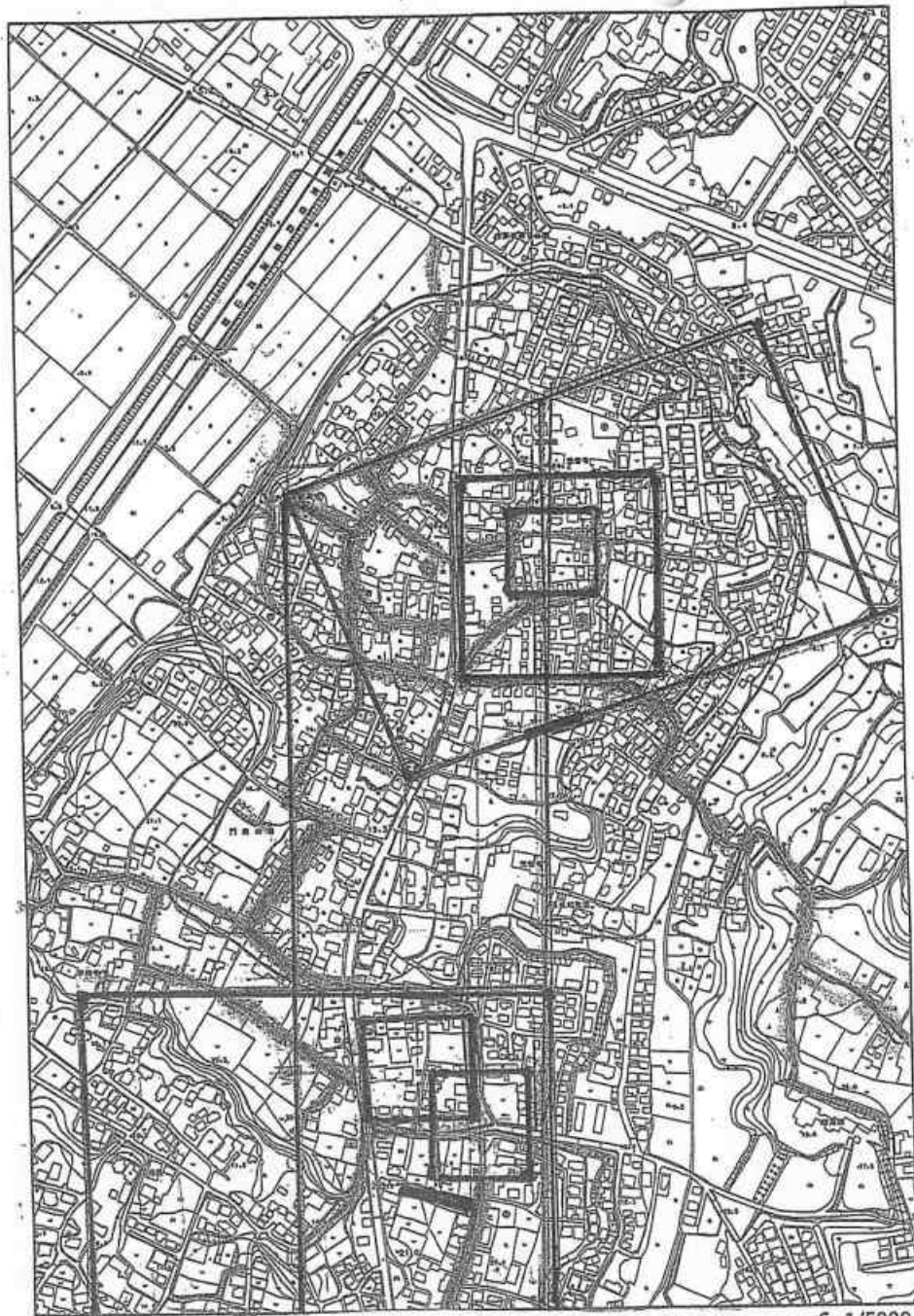


市原城跡門前地区

平成16年地形図と地番図

2016 市原里づくりの会・山越国臣作成

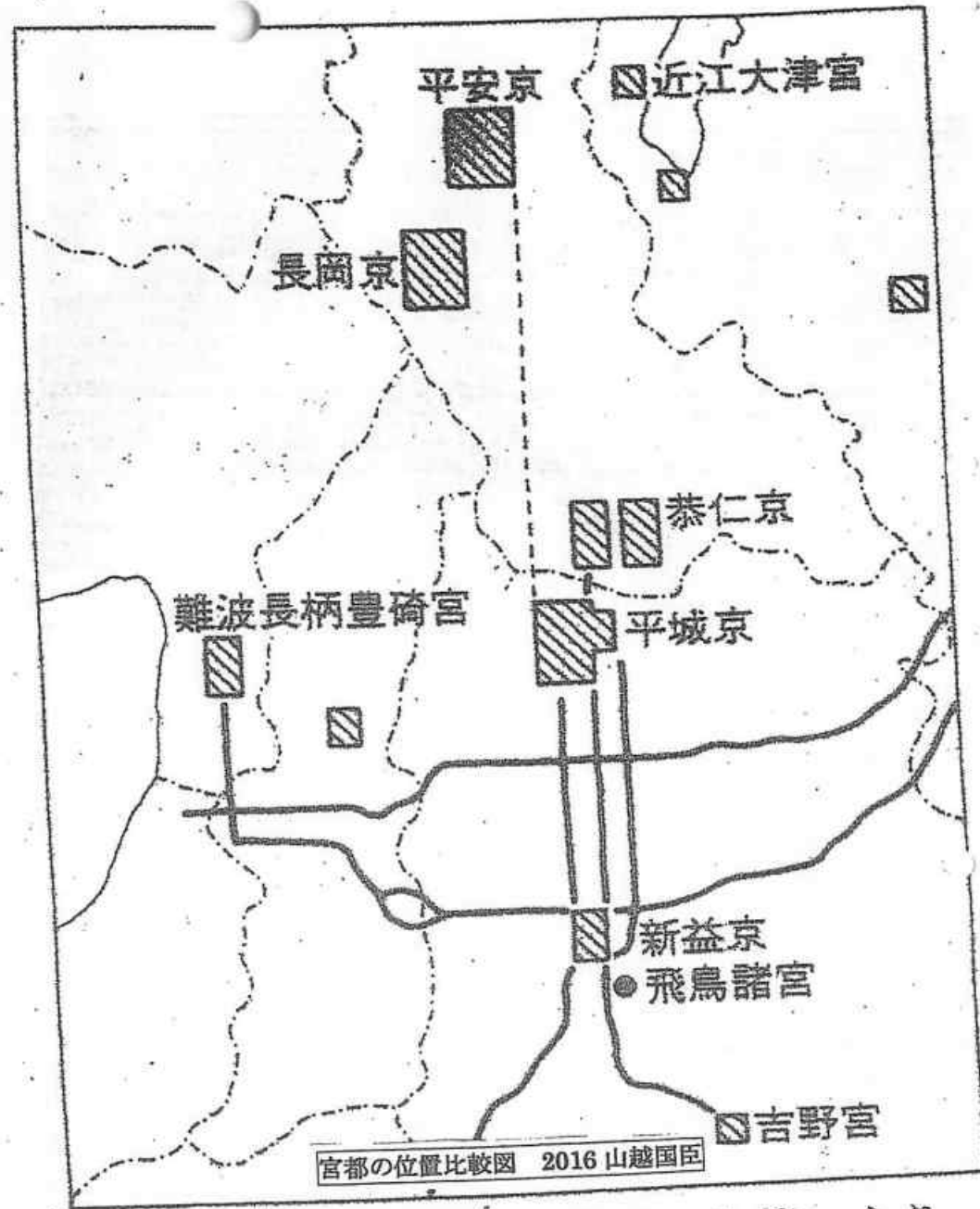
1:1,000



上総国府移転 古甲(門前)から市原へ

S=1/5000

前期国衙域と中期国衙域想定図 2016 山越国臣



宮都の位置比較図 2016 山越国臣

▲宮都の位置 岸俊男「都城の生態」より  
(中央公論社『日本の古代9』所収)

09

## 歴代の上総国守

708年	上野毛安麻呂	
731年	紀多麻呂	
733年	多治比広足	武蔵国守 従三位 中納言
741年	紀広名	中納言・紀麻呂の子 子に真人 上総守を務めた後に大学の頭 少納言東海道巡察使
746年	百濟王敏福	従三位 刑部卿 749年に陸奥國小田部から黄金を発見。東大寺の大仏造立に大きく貢献。橘奈良麻呂、藤原仲麻呂の乱の鎮圧に功績があった。738年に陸奥国の介。739年に正六位上から従五位下に。746年4月上総守。746年9月に従五位に昇進して陸奥の守に再任。短期の上総の守は、黄金献上の手がかりがあったかも。749年に7階級特進して従三位になる。宮内卿。河内守。749年5月に常陸守に転任。759年に出雲守。任地に赴かない選任と推測される。759年に伊予守に。南海道節度使。12か国の軍事権を掌握した。763年に駿波守。764年に藤原仲麻呂の乱が起きると外衛大将として淳仁天皇を幽閉する任を負った。765年に騎馬將軍として磐城にあたる。766年に没。69歳。
746年	藤原宿奈麻呂 (良継)	宇合の子。越前の守から9月14日上総の守になる。相模守。777年に没。従二位、内大臣。
749年	石川名人	藤原仲麻呂一派。後に武蔵守、造宮卿。
754年	大伴稚君	大納言・大伴安麻呂の子。因幡守。大和守。大伴家持の叔父。
759年	藤原魚名	房前(北家)の5男。正二位、左大臣。子孫に藤原秀郷。
761年	石上宅嗣	公卿。歌人。正三位、大納言。757年相模守、759年三河守。761年に上総守。763年文部大輔。良継、家持と一緒に反仲麻呂一派。
774年	大伴家持	759年の新年に因幡の守として「新しき年の始めの初春の、今日降る雪のいや雷が吉事(よごと)」の万葉集の最後をかざる歌を残して、歌よみをやめる。763年に藤原仲麻呂を除こうとして陸奥の守に左遷。774年の上総の守の時は左京大夫と兼任。780年に参劄。翌年に従三位。782年には氷上川継の喪に連座して解官されたが許され中納言に昇進。征討將軍在任中に没した。藤原種継暗殺事件により除名されたが、806年に復位した。

山越国臣

## 市民による国府解明の動き

### 市原里づくりの会

山越国臣氏 国府推定地内から遺物を表面採取。

遺物の分布状況から、国府推定地の襟子を明らかにしようとしている。

整理箱で5箱以上の遺物や片岩などを表採している。

表採遺物は、土師器・須恵器・瓦片(重圓紋を含む)・瓦磚・緑釉陶器・近世陶磁器などである。また、砂岩系片岩や蛇紋岩が含まれている。

阿須波神社境内出土のサカヅキもある。

自らが国府推定地を巡り、予測を立て表採を行っている。

### 山越氏の活動からわかってきたこと

市原地区から郡本能満地区にかけての遺物の分布状況の一端をみる事ができる。

このことよって、どの地域に、どの時代の遺跡が広がっているのかを、これまでの発掘調査成果に加えて考えることができる。

注目すべき点は、表採地点がきちんと記されていることである。

但し、山越氏自身は遺物の年代観などに詳しくないことから、田所がこれを借用し、分類と分析による整理を行っている。

トビックス的なものを挙げておきたい。

瓦・・・光善寺周辺で表採等確認されているものと同等のものが表採されている。

今回は、光善寺南遺跡周辺から、重圓紋軒先瓦などが表採されている。

諸国国府の場合、諸国衙施設に主体的に瓦を用いることは行われておらず、国府院(政庁)に八世紀中葉になって導入されている。

従って、上総国の場合でも、八世紀前半までには古代政庁院が成立し、中葉に瓦が導入されたものと想定することができる。

この際、常陸国と武蔵国の事例をみると、国分寺創建期の同一意匠瓦が、政庁に先行して導入され、その後国分寺に導入されたことがうかがわれる。

但し、この二国の場合郡名瓦が多量に出土しており、上総とは様相を異にしている。(互生産体制をどのようにみるかという問題になる)

国分寺創建瓦が国府政庁所用瓦ではないという積極的な証拠は見出せないが、必ず国分寺創建瓦が先行して導入されているとも言い切れない。しかし少なくとも、国分寺創建瓦とほぼ同時期、あるいは、直前の意匠が上総国府政庁に葺かれた瓦だと考えるのは自然であり、後者の場合に該当する意匠瓦が表採されているのは重要な手がかりの一つといえる。

— 18 —  
3-1



瓦礫・・・瓦礫とは重要な施設建物の基礎部分上面に敷かれた瓦製のタイルである。

今回は、推定国庁院地区の中から瓦礫が表採されている。

そもそも基礎を持つ建物は、国分寺・国分尼寺の場合でも金堂院のみであり、他の施設に瓦積基礎は確認されていない。

このような中であって、国府諸施設で基礎建物を想定するとしたら、政庁院(正殿)に限定されるであろう。

上総の場合、基礎の化粧には瓦を用いている。これは、岩石産地から遠隔地にあたっているなどの理由による。(相模国分寺の場合は切石積基礎)

瓦礫は、大型の礎石建物の基礎部分に用いられるものであることから、周囲注して出土する場合は、表採地点の近くに重要な施設が存在したことを示す資料となる。

実際、武蔵国府国庁院の確定にあたっては、大國魂神社周辺から出土した瓦礫の存在が、その論拠のひとつとなっている。

市原地区にあつては、これまでも古甲遺跡大溝近辺で1点表採されたほか、辻地区の調査において1点出土している。今回の表採資料は、これに追加する資料といえる。

市原では上総国分寺跡・国分尼寺跡の金堂院地区での出土は知られているが、総社地区と市原地区の間での発見は知られていない。

このような中で、市原地区表採瓦礫の発見は、好資料の追加と評価することができる。

緑釉陶器・緑釉陶器は国衙や郡衙などの官衙、国分寺・国分尼寺、または、これらに関係する遺跡からの出土が顕著な施釉製品である。

従って、緑釉陶器の発見は、国府発見の重要な手がかりとなりうる。

今回は、古甲遺跡大溝近辺より緑釉陶器が表採されている。

古甲遺跡は、「古い国府」(古+甲：甲=国府)に通じる字名として、甲田、古光などとともに注目されている字名であり、平成初頭に学術調査が実施されている。

その折には、掘立柱建物などと共に、施設を区画する大溝や刀子、白磁、銅製碗、「市」の墨書土器(須恵器)などが発見されていた。

これに、緑釉陶器の表採資料が加わったことは、遺跡の性格を考える上で好資料の追加と評価することができよう。

当該地点には「古甲」に隣接して「竹ノ内」(=館ノ内)の小字も知られており、国司等の館の存在も想像される。

東国諸国の国府研究をみると、国司館は継続的に営まれるものと、平安時代に新に置かれるものなどがある。また、国司館である場合も、国司四等官が同

に官舎に居住している事は想像できない。従って、国府城の中の数ヶ所に国司館が並存、または、移転していたと考えることができる。

今回の表採資料を得て、そのうちの一つが古甲である可能性を含めて、検討の余地が広がったものと評価することができよう。

尚、緑釉陶器については質量ともに稲荷台遺跡が卓越しており、ここを平安時代における「介」館跡とみるのが妥当といえよう。

蛇紋岩・・・瓦葺き建物の場合、基礎の不等沈下を抑えるためにも、しっかりとした地業に加え礎石の存在が欠かせない。

上総国分寺・国分尼寺の調査成果からみると、礎石には房総砂岩に加え蛇紋岩が使用されていたことが伺われている。

近隣における蛇紋岩の産地は峰岡山系であり、その供給も充分ではなかったものと推定することができる。

このような中であつて、今回、数点ではあるが人頭大の蛇紋岩が表採資料に含まれていることは、注目に値するものと考えている。

なぜなら、これまでに蛇紋岩の存在は、郡本神社本殿礎石の一部にその可能性が指摘されているに過ぎず、市原地区での存在の確認は始めてとなるからである。

蛇紋岩を礎石に用いた建物が古代の市原地区に存在したとするならば、岩石産地から遠隔地にあたる市原においては、重要な意味を持つ。

但し、当該蛇紋岩が峰岡山系のものであるのか、他地域からの搬入品であるのかは、今後の分析や専門家の評価を待たなければならない。

当該期の遺物の分布状況や、特殊遺物の分布のあり方について資料の累積を行いこれを検討する必要性を、今回の資料群は明瞭に指し示している。山越国臣氏の表採活動は、遺物を拾った場所を明確にしており、有効な資料追加を齎している。詳細な検討は今後さらに続ける必要があるものの、古代国分寺でも中心建物にのみ使用されていた蛇紋岩の集中地発見や、重要施設の基礎を飾る瓦製タイル(瓦礫)の市原地区での表採発見、古甲地区大溝近辺での緑釉陶器の発見などは、これまでの発掘成果に更なる検討材料を加えたものであり、今後の分析に資するものであると評価することができる。

いずれこれらの遺物の分布範囲とその密度を含めて、詳細な検討を行うことによって、上総国府発見の一助となることは疑いのないところである。

(連絡先：市原の里を守る会 山越国臣氏 090-8728-7824)

市原里づくりの会 山越国臣

〒280-0015 千葉県市原市市原112

— 20 —  
3-3

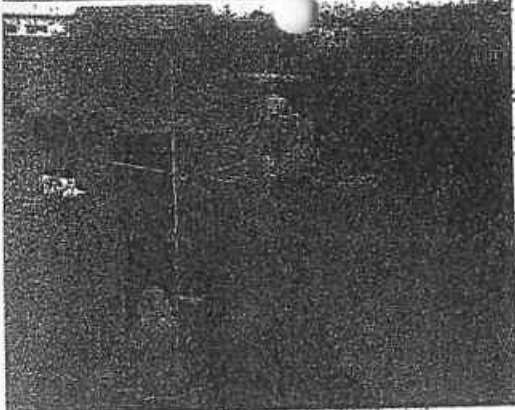
— 19 —  
3-2

市原・郡本地区

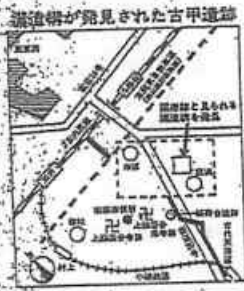
# 巨大な溝遺構を発見 「上総国府」政庁跡か

【本紙記者市原取材】千葉県市原市で、巨大な溝遺構が発見された。この遺構は、古くは「上総国府」の政庁跡と見られる。市原市教育委員会が、市原市立第一中学校の敷地内で行った発掘調査で、長さ約100メートル、幅約10メートルの溝が見つかった。この溝は、東西に走り、途中で南北に交差する。溝の深さは、約1メートルから2メートルに達している。また、溝の周囲には、土壌の層が異なる部分があり、これは、かつての建物や施設の基礎跡を示している可能性がある。この発見は、市原市の歴史を明らかにする上で重要な手がかりとなると期待されている。

## 県史最大のナゾ解明へ



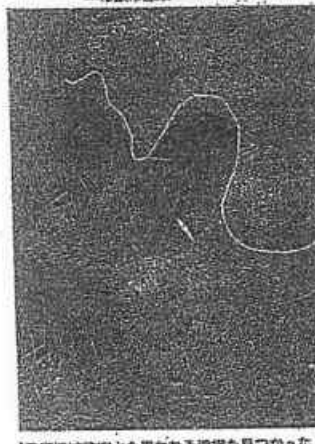
溝・平家時代の巨大な溝遺構が見つかった。市原市立第一中学校敷地内



遺構跡が発見された古甲遺跡

この溝は、東西に走り、途中で南北に交差する。溝の深さは、約1メートルから2メートルに達している。また、溝の周囲には、土壌の層が異なる部分があり、これは、かつての建物や施設の基礎跡を示している可能性がある。この発見は、市原市の歴史を明らかにする上で重要な手がかりとなると期待されている。

千葉日報



100メートルにわたる巨大な溝遺構も見つかった

【本紙記者市原取材】千葉県市原市で、巨大な溝遺構が発見された。この遺構は、古くは「上総国府」の政庁跡と見られる。市原市教育委員会が、市原市立第一中学校の敷地内で行った発掘調査で、長さ約100メートル、幅約10メートルの溝が見つかった。この溝は、東西に走り、途中で南北に交差する。溝の深さは、約1メートルから2メートルに達している。また、溝の周囲には、土壌の層が異なる部分があり、これは、かつての建物や施設の基礎跡を示している可能性がある。この発見は、市原市の歴史を明らかにする上で重要な手がかりとなると期待されている。

### 市原地区表探資料 遺物別集計表

遺物名	石	近世陶器	常滑瓦	土師器	灰胎陶器	五世埴	1段冨	鉄器	銅器	赤貝瓦	須恵器	磁石	銅製品	銅	陸揚	その他	計			
?	7		2					1	1								2			
阿須波		5			13												18			
扇形台	60	17	2	136					6								219			
大宮	233	6	5	2	119			1									367			
御手洗の井戸	92	1			4												101			
小宮	18	3	4		6												31			
山王塚	20	2	2		14												38			
山王塚	45	19	8	7	103				3								186			
山王塚	32				1												33			
山王塚	2				3												5			
山王塚	4	7	2	3	25												39			
山王塚	2				3												5			
山王塚	139	1			120			1									261			
山王塚	2				43												45			
山王塚	618	2	1		284												905			
山王塚	18				13												31			
山王塚	34	7	8	2	10												61			
山王塚	123	3	1		1												130			
山王塚	34				3												37			
山王塚	59	2	3		16												80			
山王塚	8	5			159												172			
山王塚	25	10	2		90												137			
山王塚	8	1			18												27			
山王塚	1				2												3			
山王塚	99	21			400												520			
山王塚	10	1			1												12			
山王塚	1883	113	37	24	1639			22		2	8	2	13	124	233	1	8	0	0	59

山越国臣表探遺物 市原地区周辺の内訳/個人宅は黒塗り 山越国臣

遺物名	説明	遺物名	説明
?	陸揚や鉄器は大きい、石にも大きいのがあ	?	陸揚その他
14	赤貝瓦は小片のみ	阿須波	
22	須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器は石川	扇形台(瓦葺片)	
268	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	大宮	
358	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	御手洗の井戸(サケヘイ?)	
11	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	小宮	
96	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	
34	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	
52	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	
189	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	
8	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	
48	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	
258	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	
217	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	
954	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	
43	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	
131	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	
129	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	
62	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	
36	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	
354	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	
134	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	
31	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	
4	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	
676	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	
13	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	
3	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	
4173	須恵器、赤貝瓦、須恵器、土師器、赤貝瓦、須恵器	山王塚	

# 側溝持つ古道跡発見

## 古東海道との関連高まる

本市市原町に古東海道沿いに発見された側溝跡は、古東海道と関連が深いことが明らかになった。この側溝跡は、長さ約100メートル、幅約1メートルあり、深さ約0.5メートルに達している。また、側溝の両側に石積みの壁が築かれており、これは古東海道沿いの側溝の典型的な特徴と見られる。この発見は、古東海道が本市市原町に存在したことを示唆し、そのルートや構造に関する貴重な情報を提供する。また、この側溝跡は、古東海道沿いの交通の便や、水害防止の役割を果たしていたと推測される。

市原町市原に発見された側溝跡。上方が北

古東海道沿いに発見された側溝跡は、古東海道と関連が深いことが明らかになった。この側溝跡は、長さ約100メートル、幅約1メートルあり、深さ約0.5メートルに達している。また、側溝の両側に石積みの壁が築かれており、これは古東海道沿いの側溝の典型的な特徴と見られる。この発見は、古東海道が本市市原町に存在したことを示唆し、そのルートや構造に関する貴重な情報を提供する。また、この側溝跡は、古東海道沿いの交通の便や、水害防止の役割を果たしていたと推測される。

この側溝跡は、古東海道と関連が深いことが明らかになった。この側溝跡は、長さ約100メートル、幅約1メートルあり、深さ約0.5メートルに達している。また、側溝の両側に石積みの壁が築かれており、これは古東海道沿いの側溝の典型的な特徴と見られる。この発見は、古東海道が本市市原町に存在したことを示唆し、そのルートや構造に関する貴重な情報を提供する。また、この側溝跡は、古東海道沿いの交通の便や、水害防止の役割を果たしていたと推測される。

### 千葉日報

H. 2 7/21 千葉日報

## 市原の巨大溝遺構発掘

# 大発見の裏には 調査員の確かな眼力

本市市原町に古東海道沿いに発見された側溝跡は、古東海道と関連が深いことが明らかになった。この側溝跡は、長さ約100メートル、幅約1メートルあり、深さ約0.5メートルに達している。また、側溝の両側に石積みの壁が築かれており、これは古東海道沿いの側溝の典型的な特徴と見られる。この発見は、古東海道が本市市原町に存在したことを示唆し、そのルートや構造に関する貴重な情報を提供する。また、この側溝跡は、古東海道沿いの交通の便や、水害防止の役割を果たしていたと推測される。

## 獣脚発見から感觸

### 上総国府解明の手掛かりに

本市市原町に古東海道沿いに発見された側溝跡は、古東海道と関連が深いことが明らかになった。この側溝跡は、長さ約100メートル、幅約1メートルあり、深さ約0.5メートルに達している。また、側溝の両側に石積みの壁が築かれており、これは古東海道沿いの側溝の典型的な特徴と見られる。この発見は、古東海道が本市市原町に存在したことを示唆し、そのルートや構造に関する貴重な情報を提供する。また、この側溝跡は、古東海道沿いの交通の便や、水害防止の役割を果たしていたと推測される。

## 都市計画道建設の課題も

本市市原町に古東海道沿いに発見された側溝跡は、古東海道と関連が深いことが明らかになった。この側溝跡は、長さ約100メートル、幅約1メートルあり、深さ約0.5メートルに達している。また、側溝の両側に石積みの壁が築かれており、これは古東海道沿いの側溝の典型的な特徴と見られる。この発見は、古東海道が本市市原町に存在したことを示唆し、そのルートや構造に関する貴重な情報を提供する。また、この側溝跡は、古東海道沿いの交通の便や、水害防止の役割を果たしていたと推測される。

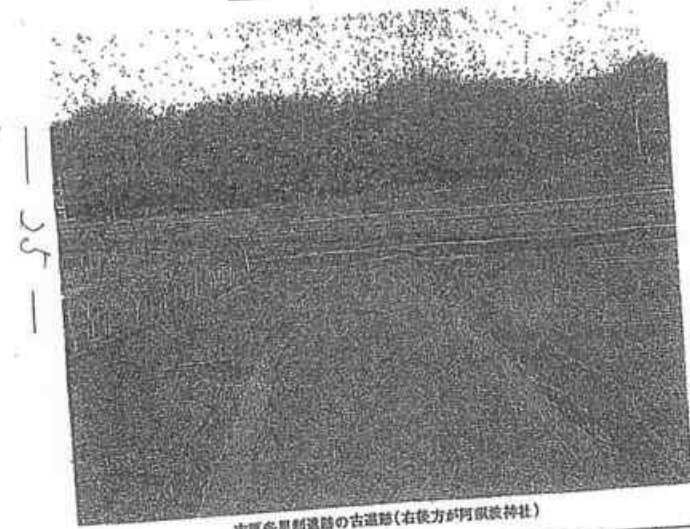
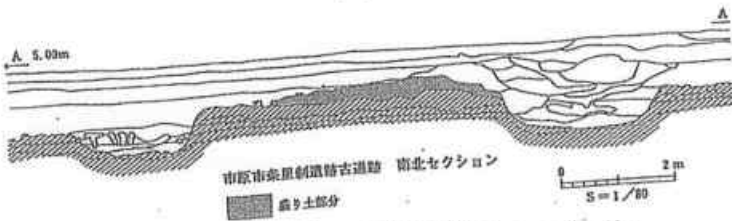
本市市原町に古東海道沿いに発見された側溝跡は、古東海道と関連が深いことが明らかになった。この側溝跡は、長さ約100メートル、幅約1メートルあり、深さ約0.5メートルに達している。また、側溝の両側に石積みの壁が築かれており、これは古東海道沿いの側溝の典型的な特徴と見られる。この発見は、古東海道が本市市原町に存在したことを示唆し、そのルートや構造に関する貴重な情報を提供する。また、この側溝跡は、古東海道沿いの交通の便や、水害防止の役割を果たしていたと推測される。

## 律令時代の出先機関

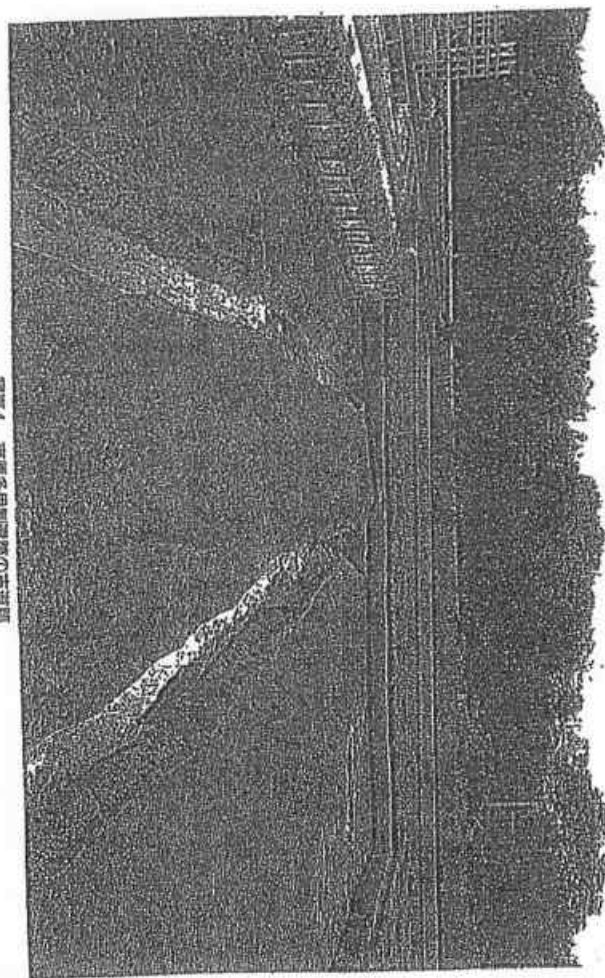
本市市原町に古東海道沿いに発見された側溝跡は、古東海道と関連が深いことが明らかになった。この側溝跡は、長さ約100メートル、幅約1メートルあり、深さ約0.5メートルに達している。また、側溝の両側に石積みの壁が築かれており、これは古東海道沿いの側溝の典型的な特徴と見られる。この発見は、古東海道が本市市原町に存在したことを示唆し、そのルートや構造に関する貴重な情報を提供する。また、この側溝跡は、古東海道沿いの交通の便や、水害防止の役割を果たしていたと推測される。

### 千葉日報

H. 2 7/24



遺跡名(所在地)	道幅	側溝(幅×深さ)	形 態	その他
五所四反田遺跡(市原市)	6m	両側(1m×0.3m)	台形?	
市原条里制遺跡(市原市)	5.5m	両側(2m×1.3m)	台形	盛り土・枕石
額荷台遺跡(市原市)	6m	片側(0.5m×0.3m)	切り通し形	
山田横溝遺跡(市原市)	6m	不明	切り通し形	幅3mの分岐道
市川市船山遺跡(市川市)	4.6~6.6m	なし	切り通し形	硬化面3条



## 特別講演「古代の道」

大谷 弘 章

### 1. 市原条里制遺跡検出の古道跡について

市原条里制遺跡は、市原市北西部に広がる標高約5mの沖積平野に位置し、南約1.5kmの台地上には上総国分寺・国分尼寺があります。本遺跡には、1960年代の国場整備以前まで明瞭に条里的土地区画が映っており、上総国府所在地問題と相俟って古くから注目されてきました。調査は、東関東自動車道の建設に伴って行われ、1988年には試掘調査が、1989年~1989年には確認調査が実施され、現在本調査が進められています。今回は市原条里制遺跡のうち、市原地区で約50mに亘って検出された古道跡について紹介します。

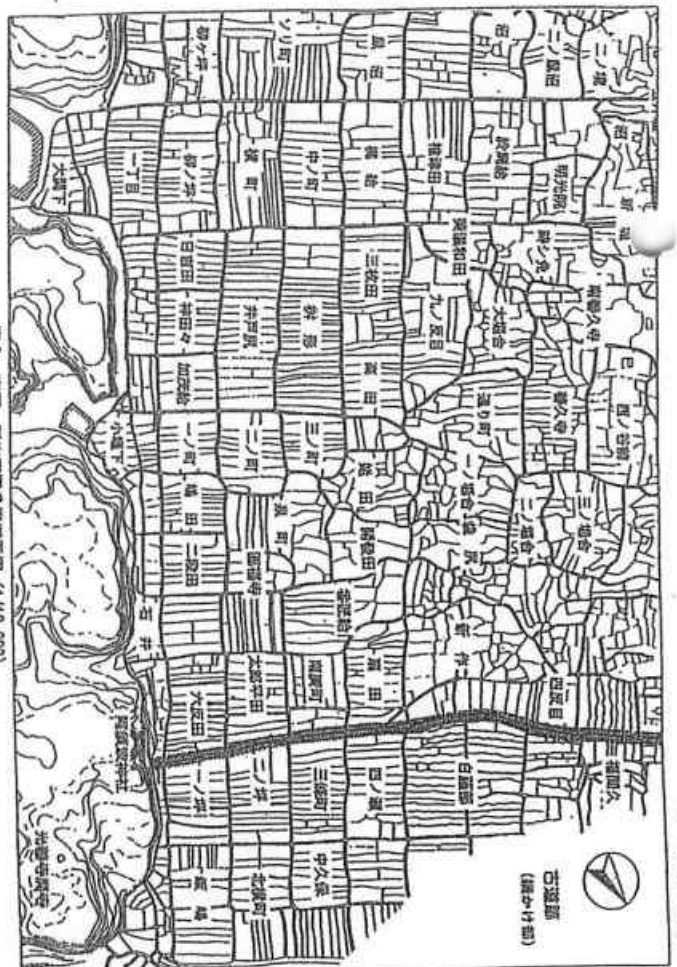
この古道跡は、調査区を東側から西側に向けて横切っており、道幅は約5.5mで両側に側溝を持っています。側溝の断面形は逆台形を呈し、幅は平均で約2mありますが、南側の側溝は東に行くにしたがって広くなり、東端では約2.7mを測ります。溝底面から道路面までの高さは、約1.3mあります。側溝底面は東側(台地側)から西側(海岸)に向かって若干低くなる傾向があり、排水に便利のように造られています。このほか、北側側溝には北壁の一部に約2m×2.5mの突出部を持っており、その底面は側溝よりも低分低くなっていますが用途などは明らかではありません。

道路面は、後世の水田耕作により削られ道路開通当時の面影は失われていますが、道路を造るに当たって盛り土を行ったことが断面観察により明らかになりました。盛り土の下はすぐに腐食土となり、道路が造られる以前は葦などが茂る埋地帯であったようです。このような土地条件のためか路肩の補強のために枕が打たれていました。また、その幅が約4.5m(15尺)あることから、実際に使用された道幅はこれ以下と推定されます。

現在までの調査では、この道路の築造年代は明らかではありませんが、条里的土地区画の方向に合わないことや側溝内の遺物から考えて条里に先行することは間違いないと、10世紀前後には北側側溝の横断は停止し南端へと向っていたものと思われま。

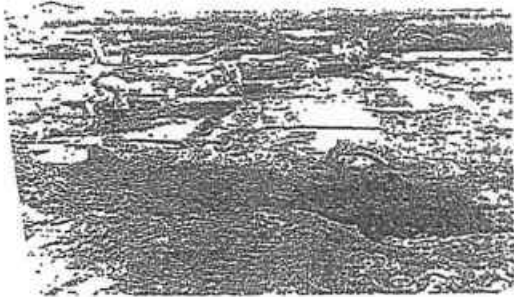
市原市内では、このほか額荷台遺跡G地点や山田横溝遺跡、五所四反田遺跡でも幅約6mで側溝を持つ規模の古道跡が検出され、地籍図や航空写真等の検討からこれらは「芋を煮く一本の道」として使用されていたと考えられます。また、右邊溝の付近は「額荷台」で「オミチ」または「ナカミチ」と呼ばれ、飯沼八幡宮の祭礼の一つである額荷神事が執り行われた所であったことや、この道路の延長線上に「万葉集」に「高中の阿須波の神に小築し若は葦は葦はむ降り来までに」(巻二十 横丁若狭部諸人)と歌われた阿須波神社があること、さらには全道で検出されている古道跡の多くが幅6m前後乃至12m前後で側溝を持つことなどを考え合せると、この道は上総国の主要道(官道クラス)であった可能性は極めて高いといえます。

図2 市原・額本周辺条里制平面図 (1/10,000)



# 古代の計画道路？ 古道跡」を発掘

## 市原の五所四反目遺跡



市原市の五所四反目遺跡で、約2500年前の古道跡が発掘された。この古道は、市原市と千葉市を結ぶ重要な交通路であったと推定されている。

五所遺跡  
市原市  
四反目  
古道跡  
市原市  
四反目  
古道跡

# 上総国府跡解明に期待

## 市内初の木鐮も出土



5、6世紀の木鐮品が数々と発掘されている

市内初の木鐮も出土  
市内初の木鐮も出土  
市内初の木鐮も出土

市内初の木鐮も出土  
市内初の木鐮も出土  
市内初の木鐮も出土

千葉日報

# 推定ルートの延長線上に

市原市に発見された古道跡は、推定ルートの延長線上にあり、古代の交通網を明らかにする重要な発見である。

古道跡の発見は、市原市の歴史をさらに深く理解する上で重要な手がかりとなる。

## 市原で発見の幅6メートルの溝



# 上総国府跡特定

上総国府跡特定  
市原市に発見された古道跡は、推定ルートの延長線上にあり、古代の交通網を明らかにする重要な発見である。

千葉日報

著「阿須波神社の研究」(春  
秋社)では、この阿須波神社  
を「阿須波」として「阿須波  
の阿須波」の神に木築と言は素  
はひ柄り来までとどう「乃  
葉集」卷二十の歌と題して「乃  
る。上巻の風が出た坂人の若

が、市原市の  
阿須波宮  
の社会文化  
をいばす  
へれる。阿須  
波神社と呼ば  
れる社が、  
たでかつ  
の系祖木田  
を望んだ窟  
土にあって  
聖なる窟  
感できない  
その歴史  
を秘めてい

# 上総の国衙の神

手帳  
総

(19)

阿須波神社

千葉県の年輪を数ゆる源流

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

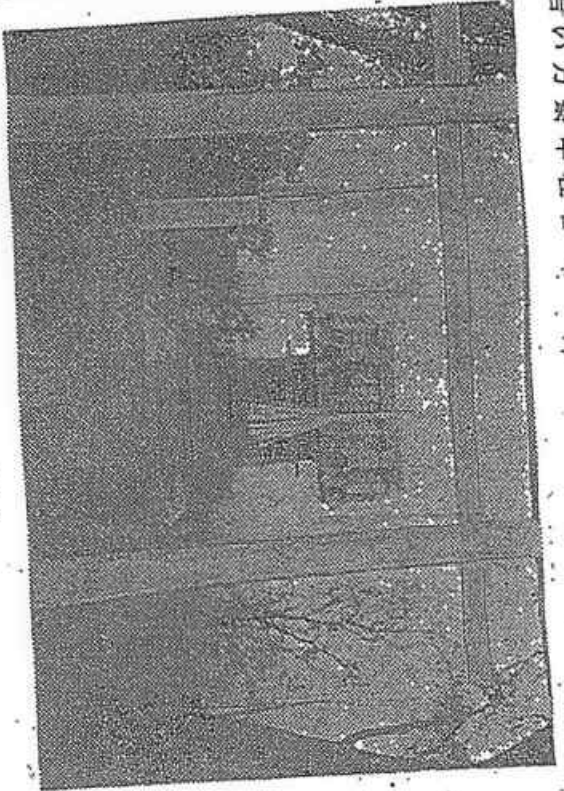
阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若

阿須波神社は、上総の阿須波宮の神に木築と言は素はひ柄り来までとどう「乃葉集」卷二十の歌と題して「乃る。上巻の風が出た坂人の若



市原市の阿須波神社。

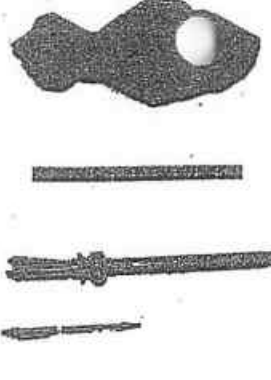
(毎日新聞)

## 初内県 「鳥形木製品」が出土

「神祭り、知る手がかり」

古墳時代の「杖形木製品」も

市原・五所四反田遺跡

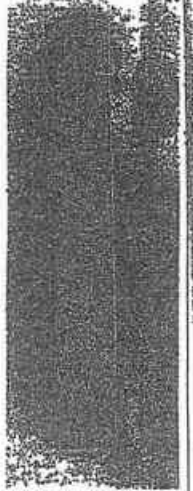


「人の器用な手」と呼ばれた鳥形木製品の出土場所

千葉日報

鳥形木製品は、古墳時代の遺物として、市原市の五所四反田遺跡から出土された。この製品は、鳥の形を模したもので、神祭りの儀式に使用されたと考えられる。また、杖形木製品も同様に出土された。これらの発見は、古墳時代の祭祀文化に関する重要な手がかりを提供している。

## 古代の荷札？ 木簡が出土



「五」の文字を判読

市原市五所四反田遺跡

古墳時代の遺物として、市原市の五所四反田遺跡から出土された木簡。この木簡には「五」の文字が判読された。これは、古墳時代の文字研究に重要な発見をもたらしている。

朝日新聞

市原市の五所四反田遺跡から出土された木簡。この木簡には「五」の文字が判読された。これは、古墳時代の文字研究に重要な発見をもたらしている。

幻の上総国府 (市原市)

千葉市の南を流れる村田川を越え、かつての上総国に入る。房総往還は国道16号がバイパス化されて東京湾岸沿いに移ると、国道24号千葉鴨川線と名を改め、市原市八幡や同市五井の市街地を抜けていく。

神事物語る存在の国府

まぎ立ち寄ったのが、JR八幡宿駅近くでたすみ、駅名の由来でもある総持八幡宮だ。中秋名月(旧暦8月15日)の大祭には、棚掘工という珍しい神事が行われる。八幡宮から約2キロ離れた市原地区の氏子によって長年伝承されてきたもので、神が宿るといって柳の小枝と青竹で組んだ棚を担ぎ、同地区から2日間かけて神前に運ぶ。けれどなぜ、八幡宮から離れた地区の氏子が受け継いできたのか。その謎を同神事保存会員の山越国臣さん(62)が教えてくれた。



読売新聞

区にあったからです。同地区に八幡宮の原社ともされる市原八幡神社があるのもその裏付けだといふ。

八幡宮の縁起には、「説話には」と併りながらもその起源を759年に全国に建てられた国府八幡宮の一つとしている。福島の平次牧人さん(70)も「柳樹が国府と天宮の関係を物語る神事である」と、関連はしないでしょう」と話す。

市原には8世紀半ばに国分寺と国分尼寺が置かれ、それより1世紀以前前の645年には、大化の改新の一環として国府も置かれた。文字通り、上総の中心地だった。しかし、所在地がほぼ判明している下総(市川市田府台周辺)、安房(房総市府中周辺)と違い、上総国府はその位置が不確かな「幻の国府」なのだ。

市原市埋蔵文化財調査センターの田所真所長(55)によると、位置については市内の「村上」「郡本」

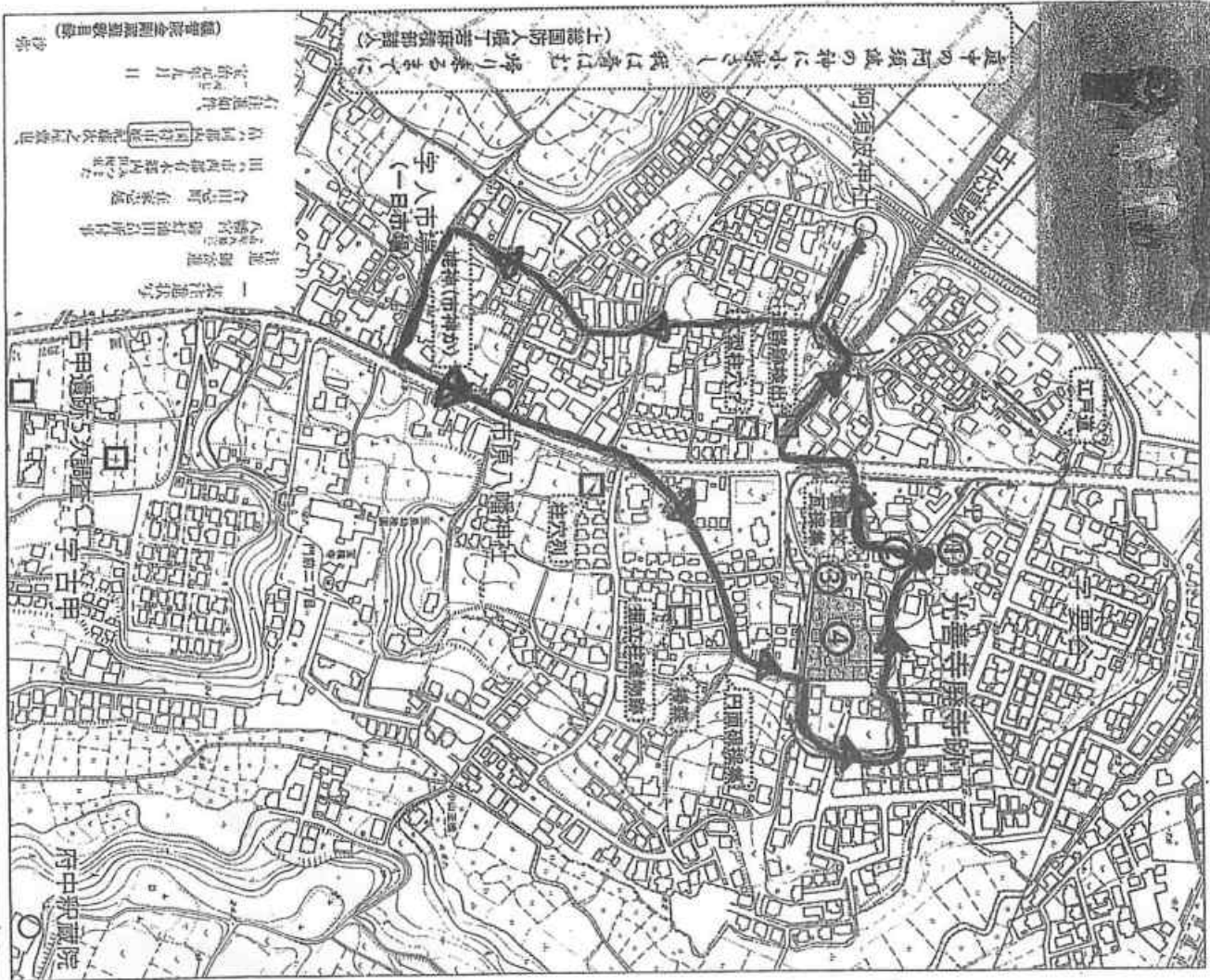


交通の要衝だった証し。房総往還はJR五井駅近くの市原市五井で、木更津方面への道と山間部の城下町・久留里(宮津市)に向かう道とに分かれる。商店街にある変形交差点は以前、石の道標「写真」が立っていた。しかし、10年ほど前、タンパカーに衝突されて壊れてしまった。現在は修復され市原市埋蔵文化財調査セ

ンターの前に置かれている。その道標は、千葉方面から見る右側面に「たかくら道」「きふと津道」「房州道」と3行の文字が刻まれていた。左側面には仏像らしき像と「江白道」の文字が彫られている。裏面には「久留里」が「文化四年」(1807年)の文字。

右側面の文字はすべて木更津方面を指し、「たかくら」は高麗(高麗)を指し、知られる木更津市矢野の高麗寺のこと。当時から参詣者が多かったと考えられる。左に曲がる久留里に向かい、南から来た人には江白に至る道であること

市原地区案内図



- ① 版築状遺構
  - ② 大川清瓦築集地点
  - ③ 光善寺南遺跡
  - ④ 嶋田恵吉国府推定地
- 宮本・牧野「国府地方の遺蹟文系群瓦」(奈良文化財研究所『古代瓦研究』2014) 図4を改変  
八幡史学館講座「国府市原にあり 9/13 現地案内 宮本敬一氏作成図」

①小田原3城にみる「城の歴史」

石垣山一夜城、小田原城研修会スライドと復習

②「五大力船」積み荷の解析

平成28年11月22日 山岸弘明



石垣山一夜城 天守台遺構  
天正18年=豊臣秀吉  
独立式か、望楼型、重階不明



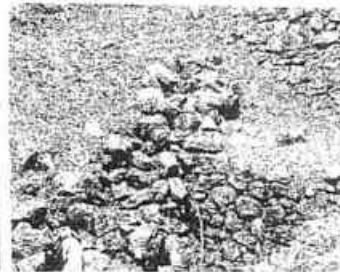
小田原城 復興天守(台は改変)  
宝永3年=大久保忠増  
複合式、層塔型、3重4階



大坂城 復興天守(台は現存)  
天正13年=豊臣秀吉  
複合式、望楼型、5重6階



一夜城向け城攻めスタート 大久保前を全体説明



当時一笑合の井戸跡



本丸と虎口や天守を回り



北条小田原城の跡



鏡ヶ台大堀切り



近世小田原城鋼門



大久保復興天守



街道林バス見学会



江戸城 天守台現存  
寛永15年=徳川家光  
独立式、層塔型 5重5階、地下



姫路城 現存、国宝、世界遺産天守  
慶長13年=池田輝政  
連立式、望楼型、5重6階



松本城 現存、国宝天守  
慶長20年=小笠原秀政  
連結・複合式、層塔型、5重6階



彦根城 現存、国宝天守  
慶長11年=井伊直継  
独立式、望楼型、3重3階



犬山城 現存、国宝天守  
慶長6年=小笠原吉次  
複合式、望楼型、3重4階



松江城 現存、国宝天守  
慶長16年、望楼型  
複合式、望楼型、4重5階

日本の歴史を変えた「織豊期城郭・石垣山一夜城」

1) 自主事業「バス見学会」をスライドで振り返る

①八幡公民館自主事業「戦国時代終焉の城 石垣山一夜城と小田原城を歩く」

10月26日=小湊観光バス。参加43名(講師、職員とも)

石垣山一夜城

中世北条氏小田原城御鐘が台大堀切り周辺

近世大久保氏小田原城本丸、二の丸



## 2) 小田原3城にみる「石垣」の歴史

### ①小田原3城の石垣

中世小田原城＝北条氏の城。戦国期、日本最大の「土の城」。石垣はない  
 石垣山一夜城＝豊臣氏の城。関東初の本格的「総石垣の城」。発展途上期の石垣の城  
 近世小田原城＝徳川氏の城。首都玄関口の「総石垣の巨城」。完成期の石垣の城

### ②一夜城と近世城の石垣の比較（進化）

石の種類＝同じ安山岩（暗灰色の火山岩、堅く加工しにくい）  
 角石＝ 角めのあるあらかり大石→規格寸法に統一された長形の大切り石  
 中間の石＝いろいろな形のあらかり石→統一寸法の間知石（面は四角で先の尖った長石）  
 石積み＝ 野づら積み（穴太積み）→切り込みはぎ布積み、目地を通す  
 石の重ね方＝平面に重ねる→歯状に射しこむ  
 コーナーの算木組＝意識あり（初期）→完成期2つ半石  
 裏込め層＝不明（なし、狭い？）→厚い？  
 傾斜とそり＝ゆるやか→急こう配、そり（扇の勾配＝地中への重力の伝散）  
 高さ＆強度＝高石垣→さらに高石垣。かなり強固→強固

③慶長の「築城ラッシュ期」石垣技術は最高潮に達した。この時期、石工たちは堅固な高石垣を生み出し、豪壮華麗な高層天守を誕生させていく。国宝・姫路城や松本城、彦根城、犬山城、大地震の中一本足で耐えぬいた熊本城などなど。城の歴史はまた私たち「日本人の心」そのものです。

### ④補足講座＝時間許す範囲で

\*石垣の築き方

\*形式＝織豊期望楼型天守と徳川期層塔型天守＝小田原城は層塔型

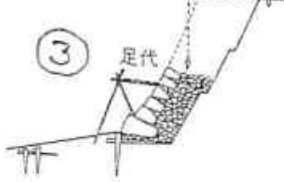
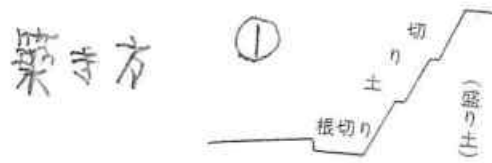
\*構成＝小田原城は天守＋付け櫓＝複合式

独立型（天守単独）＝江戸城（層塔型）、大坂、大阪城（望楼型）

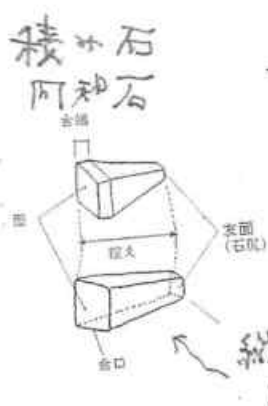
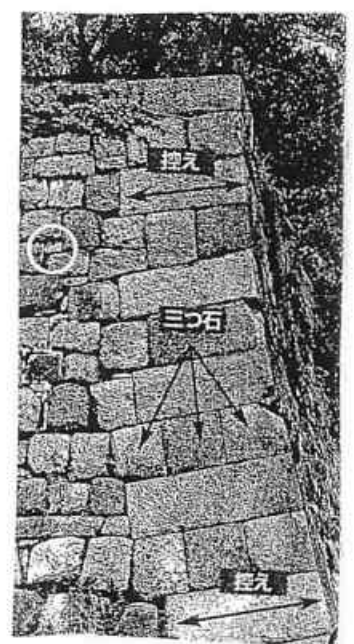
複合型（天守＋付け櫓または小天守）＝⑩犬山城、⑪彦根城、⑫松江城（望楼型）

連結式（天守＋小天守を渡り櫓で結ぶ）＝⑬松本城、名古屋城（層塔型）、

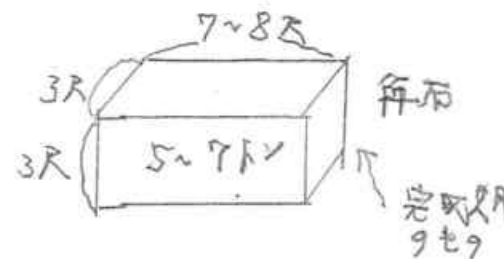
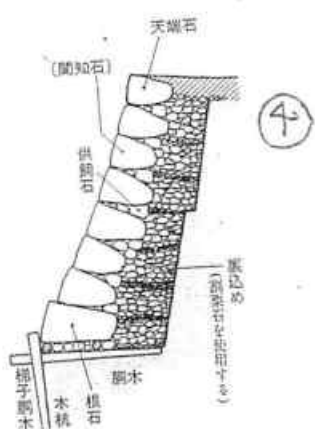
連立式（天守＋小天守3基を方形に渡り櫓で結ぶ）＝⑭⑮姫路城（層塔型）



完成期石切り



見取期石切り 織豊時代 以降



# 「五大力船々改め所」文書にみる八幡港の「積み荷」

## 1) 五大力船「千葉県船改め所八幡宿船改め所」文書群

### ①八幡・市川本店と文書

\*元飯香岡八幡宮社家、神職のかたわら醤油醸造業、酒類元卸商を兼ねた。

明治維新直後の戸長。続く2代も八幡町長、県議。八幡地区屈指の旧家江戸後期、明治初期の建物に現住されている。

\*およそ10万点の古文書を所蔵

旧八幡村基本資料＝村鑑明細帳、幕府直轄領、旗本領関係資料、菊間藩関係資料

八幡宿戸長役場文書＝戸籍、地租改正、五大力船など木更津県、千葉県初期原資料

醤油醸造、酒類販売関係資料＝江戸時代後期から明治時代中期までの製造、販売、取引関係資料などを保管されている。

### ②調査チーム

市原市の古文書研究会＝解説と活字化

市川文店文書調査会＝ 目録の作成

八幡史学館チーム＝ 全資料の写真撮影

### ③市川本店が所蔵している「五大力船、千葉県八幡宿船改め所文書群」(主要分)

明治6年「木更津御県庁船印鑑連名帳、三十三区八幡宿」(五大力船台帳)

// 7年「御書上げ、第五大区二小区八幡宿舩下船所有者の者」(はしけ舟台帳)

// 6年「申年(5年)分東京納船取り立ての帳、八幡宿」(東京府船改め所船税)

// 7年「船税金上納願い、上総国市原郡八幡宿」(千葉県船改め所船税)

// 7年「船類諸願届け」(八幡宿戸長あて五大力船関係諸届け出書類)

// 6、7年「出帆届け」およそ200点(出帆届け出申請書類)

// 6、7年「出帆免状台帳」全7冊413件(受付、免状発行原簿)

// 6、7年「出帆免状」3点(出帆取り止め、書き替え分)

// 6、7年「神奈川県船改め所横浜船改め所、出帆免状」4点(出帆許可証)

// 6、7年「東京府船改め所、出帆届け兼出帆免状」およそ200点( // )

// 7年「船客名前留め」半月分(旅客名簿)



9/13 阿須波神社にて

阿須波神社・市原八幡神社、椿森神社を回りまわした。折しも、その週末に行われた飯香岡八幡宮の秋季例大祭に次かせない柳橋神事が、光善寺を出発し市原八幡神社、阿須波神社を参拝するとの説明を受けるな



10/26 小田原石垣山一夜城にて

**八幡史学館**  
八幡公民館主催事業

今年で十二年目を迎えた人気の高い講座です。全五回シリーズで、毎回開始時間前には受講者が来館するほど歴史に興味のある方が多いことが分かります。各回テーマと講師が異なり、主となる山田原石垣山「江戸および西上総の津五大力船」、三回目は「八幡あれこれ」大河ドラマ真田丸と小田原征伐、四回目は「国術市原にあり」、五回目は「五大力船の積荷」です。九月十三日(火)に実施した四回日の講座は、朝から雨が降るあいにくの天気でしたが現地研修の午後になると雨も上がり、講師の山越國臣氏の案内のもと光善寺、阿須波神社・市原八幡神社、椿森神社を回りまわした。折しも、その週末に行われた飯香岡八幡宮の秋季例大祭に次かせない柳橋神事が、光善寺を出発し市原八幡神社、阿須波神社を参拝するとの説明を受けるな

ど、午前中の講義の内容がさらに深まる充実した講座となり、参加者にとっても盛り込み多かったです。さとう十月二十六日(金)には、自主事業として、三回目のテーマ「大河ドラマ真田丸と小田原征伐」に因んだ小田原方面へのバス研修を実施しました。小田原石垣山一夜城では、山岸氏の詳しい説明があり戦国世にタイムスリップできました。



9/13 光善寺にある柳橋神事の貴重な写真

この日八幡や五所の人たちは家に籠って息を溜めたか逃げ出したか、興味深いテーマだが資料もなく未詳。旧名主事出来夜は六方一統時の様ともな

慶応四年(明治元年一八六八)二月、鳥羽伏見に始まった(戊辰戦争)は次第に関東へと舞台を移す。四月十一日、十五代将軍徳川慶喜が水戸に退去して、江戸城が無血開城されると、これに不満の一部旧幕兵士らは最後の抵抗をはかるべく房総方面に散開していった。福田道直を総長とする旧幕府衛兵(さつぺい)隊ら一五〇〇人は船で木更津に上陸、「徳川義軍府」を称して真里谷の真如寺に本陣を構えた。撤兵隊は薩長、長州藩など新政府軍(官軍)を船橋に迎え撃ったが大敗、新政府軍は四月七日未明八幡宿に進撃した。軍勢を立て直した義軍は南新田、五所で再度決戦を挑むが敗走、打ち込まれた砲弾は五井市街の蓮田に落ちた。義軍は大軍に押され、多くの犠牲者を出しながら崩壊していった。

八幡公民館だより  
お17号

### 2) 明治はじめの川船行政と千葉県船改め所八幡宿船改め所

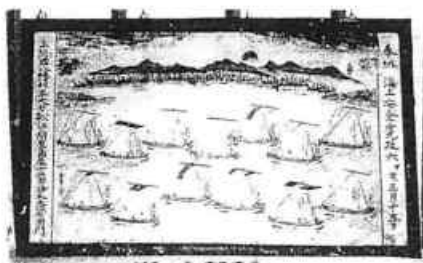
- ①明治維新直後の川船（東京湾内通船を含む）行政は変遷が激しくほとんど解明されていない。
- ②明治4年「太政官税制改革」
  - 〃 6年「太政官、港内取締り規則」
 旧幕時代の「川船改め役」は「船改め所」に代わり、明治6年の「港内取締り規則」では東京湾内の商船の出入港に際して「積み荷目録」「船免状」「船税鑑札」を検査し「停泊税」を徴収することになった。また湾内各府県には「府県船改め所」が設置され、事務実務は主要港湾を持つ村の戸長が担当することになった。
- ③各港からの出航手続きは、
  - 届け人（船主）→戸長が担当する港内船改め所に「出帆届け」を提出
  - 八幡宿船改め所＝台帳の「出帆免状控え」に記載、割り印を付した「出帆免状」を交付
  - 船（船頭）＝積み荷とともに「出帆免状」を携行、届け先船改め所に提出
- ④船改め所には船名、船主氏名、積み石、乗り組み人数、積み荷明細、船客、目的地などを記した「出帆届け」「出帆免状控え台帳」、帰帆時の「帰帆免状（出航地の出帆免状）」などがあつた。
- ⑤川船行政は明治7年「国内回漕規則」の制定とともに「内務省駅遞寮」所管となり、港付き村戸長はその任を解かれた。
- ⑥結果として、明治6年～7年のわずか1年間が江戸、明治、大正時代を通じ五大力船の「運航状況」や「積み荷明細」をまとめた唯一のチャンスでもあつた。該当する船改め所は東京、千葉県、神奈川県内の数十港に及んだが、100余年後の今日、「市川本店文書」以外に原史料を現存させたところはなかった。

### 3) 「出帆免状台帳」による「出帆」と「積み荷」リスト

#### ①八幡宿船改め所「出帆免状台帳」の内訳

「免状出帆控え1番」	明治6年10月23日～11月27日	60件
「出帆免状第2番」	〃 11月28日～12月18日	38件
「出帆免状控え3番」	〃 12月19日～明治7年1月21日	54件
「出帆免状控え4番」	明治7年1月21日～3月15日	102件
「出帆免状5番」	〃 3月15日～4月28日	63件
「出帆免状6番」	〃 4月28日～7月21日	54件
「出帆免状第7号」	〃 7月21日～10月4日	102件
		合計 473件

#### ②その一部、「出帆免状リスト」明治6年12月、明治7年4月、9月の3か月分と船別「出帆免状」にみる出帆と積み荷明細の一部を別掲した。



飯香岡八幡宮の大絵馬  
「八幡村五大力船揃え図」

八幡村の歴史

第十二話 八幡港と五大力船の活躍

江戸へ米や薪炭を運び、日用品と江戸文化を持ち帰った

江戸時代の八幡は市原最大の港町として繁栄した。その中心は五大力船と呼ばれた中型帆船であった。飯香岡八幡宮が所蔵する「八幡村五大力船揃え図」（寛政六年）には満風に帆を膨らませた十三艘が描かれており、また天明七年「八幡村村鑑明細帳」では「本株（鑑札）三〇艘、当時（実働）十二艘」としている。わずかに三、四人で一〇〇石もの荷物を運ぶ、その力強さを「五大力菩薩」に例えられたという。

八幡の中心地浜本町には運送宿と船主、船乗り、荷役はしけ人、船大工のほか穀物商、薪炭商、反物などの問屋倉庫が並び、風呂や旅館、飲食店等町のほぼすべてが港に係った。雁田川河口に築いた船だまりを母港としたが、積み荷は海上で解（はしけ）船が中継した。江戸まで海路八里、順風なら三、四時間、市中の堀割りは帆を降ろして棹で亀島川と日本橋川を上り、小網町河岸に船を繋いだ。

積み荷は内陸部から運ばれた年貢米や薪炭が多く、傭り船で衣類や雑貨等の生活物資と「江戸文化」を持ちこんだ。江戸時代の八幡は市原の経済、文化の中心地として発展していった。

（山岸弘明「主権事業「八幡史学館」講師」）

八幡村の歴史 第十二話

## 4) 米と炭、薪が中心～積み荷主力3製品の月別出荷数量

年月	米	炭	薪	備考
明治6年10月*	517 俵	5,391 俵	2,800 束	23~31日分
" 11月	1,386 俵	15,029 俵	10,400 束	
" 12月	2,195 俵	23,916 俵	13,750 束	
明治7年1月	1,768 俵	22,213 俵	18,604 束	
" 2月	2,244 俵	21,498 俵	11,400 束	
" 3月	1,275 俵	16,150 俵	15,100 束	
" 4月	727 俵	20,400 俵	13,480 束	
" 5月	275 俵	15,684 俵	11,500 束	
" 6月	10 俵	7,344 俵	7,410 束	
" 7月	30 俵	13,216 俵	8,550 束	
" 8月	132 俵	22,412 俵	5,160 束	
" 9月	2,186 俵	14,969 俵	9,107 束	
" 10月*	433 俵	2,318 俵	0 束	1~4日分
" 10月*	1,240 俵	10,081 俵	3,661 束	17日間分推定
1年間の概数	14,400 俵	210,600 俵	13,100 束	10月は*の合計

米は1万4千俵=5800石

①明治4年「廃藩置県」とともなう「税制改革」で、江戸時代の米の生産高を課税対象とした「石高村請け制」が廃止されて、「個人税金制」となった。

\*税金はこれまで通り土地に課税されたが個人での「換金」が必要であった

②村役人、「廻船問屋（五大力船）」をへて行われた江戸蔵前への「年貢津出し」ルートは穀物問屋→廻船問屋に変わったが、東京に米が送るという作業は同じであった。

③明治6、7年12か月分の八幡宿米の積み荷数量は

14,400俵×4斗=5800石。市原郡高55,000石=10%で、ほぼ理論値と整合している。

④積み荷は、米、田作、白米、新米、古米、町米、蔵米など表記はまちまち。いろいろな呼び名が使われている。もち米は91俵であった。

⑤安政3年江戸名主文書「重宝録」による「船運送入津、陸付着荷高」は

浅草御蔵払い米、御武家様方御収納米とも248万石ほど

下り売り米11万石ほど、地回り奥筋売り米40万石ほどとし、

米銘に大上総、日上総、姉ヶ崎などを上げている。江戸集荷量の0.1%に相当した。

⑥米の出荷は9月~3月でピークは12、1、2月であった。

炭21万俵、江戸の全消費量の8%を供給

①炭の積み荷合計は21万俵で内訳は

土釜炭12万俵、4貫炭5万俵、5貫炭、6貫炭など。単に炭とした2万俵。一般家庭用松炭、松楽炭、鍛冶炭、長尺炭 特殊用途

\*土釜=土製の飯釜。土窯炭=土窯で焼いた炭。質がもろく火付きがよい

②江戸集荷量（重宝録）

1か年およそ247万5千俵ほど。これは……上総……より入津いたし候。海手川辺炭薪屋共引き受け売り捌き候。

③江戸消費量の8%を八幡から供給したことになる。生産地は市原内陸部。

ピークは冬の需要期と夏の生産期の2回。

### 薪1万3千束

①松薪（楨、真木）が6万束、松5本ノ3万束、10本ノ単に薪の2万束も松薪か。  
80%が松材で、ほかに樫薪2千束、雑木がある。

### ②江戸の集荷量（重宝録）

1か年束物1837万900束ほど。断才木およそ749万9300本ほど。これは相州、豆州、上総……より入津、海手川辺炭薪屋共引き受け売り捌き候。  
八幡宿からの出荷は束物の0.1%に相当。

## 5) 瓦は6万枚、竹、材木、板など～建築資材関係

①瓦の出荷数量（348日合計＝以下同じ）「重宝録」に瓦の入津記録はない

瓦52950枚、古瓦6600枚。合計59550枚 八幡周辺の産地は？

②材木1260本、古材木9200本、古柱700本、松丸太840本

杉4寸角230本、松平角、敷居300丁

松小割物860束、小前貫450束、中貫

六分板1350束、四分板、松板

「重宝録」右は……上総……より江戸表材木3問屋共引受け、問屋共素人直売は仕らず材木仲買いに限り売り捌き候

③間渡し竹38730束 壁下地に使うやや太い竹。江戸入津高13万2189束のおよそ30%。

唐竹5550束 中国伝来の竹、笛などに使う。江戸入津高大31、中24、小12万束

男竹1580束 マタケなどの大竹 女竹4300束 節が小さくめだたない、垣、棹、かご、きせる

栖竹120束。合計およそ5万束

## 6) まぐさやむしろ、すげ笠も～わらとわら製品関係

①わらとまぐさ 「重宝録」にわらとわら製品の入津記録はない

わら69890束（貫目） たわらやむしろ、縄などを作る

まぐさ21750束（貫目）馬や牛の飼料

②むしろ6169丸、36むしろ7205丸、粕むしろ、裏むしろ、ほしかむしろ、灰かます

③すげ笠954、かさ輪195、綱

とま（茅や菅を編んだ和船や小小屋の覆い）、ござ、簾竹、白

## 7) 米以外に目立った産物はない～食糧品

①穀物では米以外に目立った製品はない。

大豆681俵 みそ、醤油、豆腐原料のほか、馬飼料などに使用された

小麦60俵 粉に引き立て、麺類や菓子などの食用にされた

粟27俵、玉子48箱、みかん、柿、栗、芋粉

②ぬか2471俵 飼料、肥料とされた

③醤油476樽 地回り醤油は銚子、野田、佐倉、木更津などから。八幡は少ない

酢、みそ

## 8) 肥料その他

①魚粕6126袋、種粕1486袋、ノ粕960袋、ほしか350袋、魚油104 肥料

②銭、びた銭752こ

③その他 尺角石、古道具、引っ越し荷物

以上

明治6年12月出帆船状シキト

Table with columns for ship name, departure date, ship type, cargo, and agent. Includes entries like 出帆 船名, 積石 船主, and various cargo items like 米, 魚, 油.

未定船 後消込が ありま

明治7年4月「出物免状」リスト

出帆	船名	積石	船主	行き先	米(俵)	炭(俵)	薪(束)	農産漁業製品	建材その他	備考			
401	401	太神丸	100	永野豊太郎	東京府		炭	600	松積	500	大豆40、糠50俵	建材その他	男竹130、女竹1000束
401	402	神方丸	120	石井仲蔵	東京府	米	6	土釜炭	550	真木	800	大豆40、糠50俵	
401	402	明宝丸	90	藤本五郎治	東京府							干草900貫	
401	403	神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府			土釜炭	900	5本ノ積	500	綿実20俵	
402	403	平寿丸	80	北島与市	東京府	町米	10	土釜炭	300	松積	200	糠120俵	
403	405	神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	500	松5本ノ	300		唐竹100束
403	405	稲荷丸	120	松田豊吉	東京府							筵400丸、錢60二	
403	405	千年丸	100	伊藤久次郎	東京府					古積	300	古瓦1600枚	
404		住吉丸	100	丸長治郎	神奈川							36筵100丸、笠41、輪6、粉袋2二	
404	405	海世丸	80	白鳥留二郎	東京府	米	25	4貫炭	600	真木	200		
404	405	長寿丸	120	宮原六郎平	東京府								瓦6500枚
404	405	八幡丸	80	木村善吉	東京府			土釜炭	150	松真木	300	小糠30、大豆13俵	吉材300本
405	405	泉徳丸	80	小林七治郎	東京府								古木350本
405	406	高砂丸	140	松田喜三次	東京府			土釜炭	500			魚粕150俵、36筵200丸	
405	406	太神丸	120	永野豊太郎	東京府			炭	800	檜積	50	女竹500束	
405		文久丸	130	白鳥喜一郎	東京府			土釜炭	250			ノ粕140俵、	小黄100束、敷居45束
406	407	神方丸	120	石井仲蔵	東京府	米	47	土釜炭	500	真木	1000	糠50丸	
406	407	明宝丸	90	藤本五郎次	東京府	米	20	4貫炭	150				吉木材150束
407	408	神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府			土釜炭	600	5本ノ積	600	小糠、綿実、筵袋	す竹14二
407		住吉丸	90	菅本権次郎	東京府			土釜炭	650				
408	409	神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	600	松5本ノ	500		
408	410	太神丸	100	永野豊太郎	東京府	米	20	土釜炭	500				松小割180束
409	411	稲荷丸	120	松田豊吉	東京府							筵400丸、錢60二	
409		平寿丸	80	北島与市	東京府	町米	20	5貫炭	600				
409		千年丸	100	伊藤久次郎	東京府								松角30本、松口□1000本
410	411	泉徳丸	80	小林七治郎	東京府			土釜炭	450	松5本ノ	600		
410		八幡丸	80	木村善吉	東京府			土釜炭	200	松積	2000	玉子4箱	
								長尺炭	46				
								松葉炭	30				
410		海世丸	80	白鳥留次郎	東京府	米	10	炭	600	真木	200		
410		明宝丸	90	藤本五郎治	東京府	米	120	4貫炭	350			筵35丸	
411		神方丸	120	石井仲蔵	東京府	米	60	土釜炭	550	真木	260	糠50俵	
410		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	50	土釜炭	700				
411		長寿丸	120	宮原六郎平	東京府					堅木薪	400		
										松10本	500		
										雜木	400		
										松	500		
412		稲荷丸	79	久保等金左衛門	神奈川	米	130						野島浦船
415		神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	500				唐竹50束
415		稲荷丸	120	松田豊吉	東京府							筵400丸	
415		泉徳丸	80	小林七次郎	東京府			土釜炭	200			菅傘30本	
417		太神丸	100	永野豊太郎	東京府			土釜炭	700			種粕150枚、女竹500	
417		高砂丸	140	松田喜三次	東京府							魚粕200俵、36筵300丸、種粕40枚	
418		海世丸	80	白鳥留次郎	東京府			炭	600	積	400	大豆10俵	
419		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	59	土釜炭	650			菜種20俵	
418		明宝丸	90	藤本五郎次	東京府							36筵400丸	
419		住吉丸	100	丸長治郎	東京府							笠52、粉口2、筵80二、輪6本	
420		神方丸	120	石井仲蔵	東京府	米	110	土釜炭	650			糠50俵	
422		神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	500	5本ノ	450		間渡し竹500束
422		太神丸	100	永野豊太郎	房州口湊							傘70本、傘輪18本	
422		稲荷丸	120	松田豊吉	東京府							魚粕100、糠50俵、36筵200二、錢100二	
423		高砂丸	140	松田喜三次	東京府			土釜炭	360			魚粕370俵	松小割120束
425		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	40	土釜炭	500			糠10俵	唐竹100束
426		神方丸	120	石井仲蔵	東京府			土釜炭	700	真木	900	大豆20俵	
								6貫炭	50				
427		海世丸	80	白鳥留次郎	東京府			松炭	600	松5本ノ	320	大豆10俵	
427		住吉丸	100	丸長治郎	東京府							笠25本、輪1、筵82、麦筵100二	
428		神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	300	松5本ノ	1000		唐竹100束
428		明主丸	60	大宮常太郎	東京府			松炭	694				
428		文久丸	130	白鳥喜一郎	東京府			土釜炭	620			醤油36樽、ノ粕23俵	
429		長寿丸	120	宮原六郎平	東京府			土釜炭	800	松真木	300		大竹60束
429		稲荷丸	120	松田豊吉	東京府			4貫炭	200			魚粕200俵、麦筵100二	
								6貫炭	100				
		4月		56件				727		20400		13480	

明治9年9月「出帆船名」リスト

出帆	船名	積石	船主	行き先	米(俵)	炭(俵)	薪(束)	農産漁業製品	建材その他	備考
901	水生丸	100	白鳥喜八	東京府	米	10 土釜炭	200			8月に記載
902	長寿丸	120	宮原六郎平	東京府			松5本	500	松白37	
902	八幡丸	80	木村善七	東京府	米	36 土釜炭	100			
							松炭	400		
902	明治丸	58	小川龜吉	東京府			炭	500		竹400
903	平寿丸	80	北島与市	東京府	新米	55 土釜炭	100		糠200俵	
903	住吉丸	100	丸長次郎	東京府			炭	350	真木 300	籾50こ
904	稲荷丸	120	松田豊吉	東京府						36籾200、裏籾200俵、釘20、錢10こ
904	山王丸	50.6	板倉久八	東京府	新米	2 松炭	150	真木	500	糠200俵
905	神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	60 土釜炭	500			間渡し竹600束
905	明宝丸	90	藤本五郎治	東京府	米	40 4貫炭	700			
905	神力丸	120	石井仲蔵	東京府	米	40 土釜炭	700	真木	400	間渡し竹350束
906	神徳丸	100	市川甚松	東京府			4貫炭	800		
907	文久丸	130	白鳥喜一郎	東京府			土釜炭	1000	松真木	500 新口15俵
908	住吉丸	90	菅本権次郎	東京府			土釜炭	250		わら3000束
908	神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	50 土釜炭	500	口真木	300	間渡し竹600束
909	大神丸	100	永野登太郎	東京府			炭	300		唐竹200、松板150束
909	水生丸	100	白鳥喜八	東京府	米	30 土釜炭	300			唐竹150束
							5貫炭	300		
909	海世丸	80	白鳥留次郎	東京府	米	30 4貫炭	400	真木	600	
909	平寿丸	80	北島与市	東京府	町米	88 6貫炭	100			
							土釜炭	60		
910	八幡丸	80	木村善吉	東京府	新米	111				糠4俵
					古米	24				
911	泉徳丸	80	小林七次郎	東京府	米	15 土釜炭	500			
911	明宝丸	90	藤本五郎次	東京府	米	40 4貫炭	300			
							6貫炭	120		
912	神力丸	120	石井仲蔵	東京府	米	100 土釜炭	650			間渡し竹500束
912	住吉丸	100	丸長次郎	東京府			土釜炭	500		36籾110こ、笠輪9こ、糠30俵
913	稲荷丸	120	松田豊吉	東京府			土釜炭	150		魚粕80俵、36籾100こ、灰吹、茶櫃、錢、ひた錢*
913	大神丸	100	永野登太郎	東京府			土釜炭	300	松真木	1000 男竹210束
914	平寿丸	80	北島与市	東京府	町米	60				糠100、醤油35俵
915	神徳丸	100	市川甚松	東京府			4貫炭	600	松5本	700
915	長寿丸	120	宮原六郎平	東京府						わら300こ
916	明治丸	58	小川龜吉	東京府	米	15 4貫炭	600			板20こ
916	文久丸	130	白鳥喜一郎	東京府	新米	65 土釜炭	650			
917	住吉丸	90	菅本権二郎	東京府			土釜炭	400		唐竹120束
918	水生丸	100	白鳥喜八	東京府	米	150				
918	八幡丸	80	木村善吉	東京府	米	73 土釜炭	179 松真木	307		
							松炭	250		
918	泉徳丸	80	小林七次郎	東京府						灰1200俵
918	神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	152 土釜炭	400			間渡し竹550束
918	明宝丸	90	藤本五郎次	東京府	米	160 4貫炭	150			
919	神力丸	120	石井仲蔵	東京府	米	180 土釜炭	420			
920	平寿丸	80	北島与市	東京府	新米	150				糠35俵
921	八幡丸	80	木村善吉	東京府	米	80 4貫炭	40			魚粕35俵
921	神徳丸	100	市川甚松	東京府			4貫炭	250		唐竹160束
922	神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	170 土釜炭	200			魚粕24俵
922	明宝丸	90	藤本五郎治	東京府	米	70 4貫炭	300			唐竹100束
925	稲荷丸	79	久保寺金左衛門	神奈川	米	100				
929	山王丸	53.6	板倉久八	東京府	米	30 炭	300			
	9月					2186	14969	5107		



11  
船別「出帆急状」に於出帆と積り荷

出帆	船名	積石	船主	行き先	米(俵)	炭(俵)	薪(束)	農産漁業製品	建材その他	備考	
1121	朝日丸	80	高田徳兵衛	神奈川県		4貫炭	160			横須賀船	
104	朝日丸	80	高田徳兵衛	東京府		4貫炭	250		松6分板4こ	横須賀船	
						6貫炭	30				
			小計				440				
302	浅間丸	58	近藤清蔵	横浜	米	60		小豆15俵		横浜船	
					糯米	25					
			小計			85					
1027	1029	稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	4貫炭	170	36箆200こ	びた錢100こ		
						6貫炭	100	魚油10樽			
1107	1110	稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	炭	50	糠50俵、箆50こ、秣200こ			
1114	1115	稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	4貫炭	50	箆60こ、魚粕100、種粕100俵			
1120	1124	稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	土釜炭	250	糠30俵	びた錢50こ		
						6貫炭	150				
1202	1206	稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	4貫炭	100	苔12こ	間渡し竹100束		
						6貫炭	200				
1214?	1216	稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	田作大	110	4貫炭	300		
						鍛冶炭	160				
1221	1224	稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	6貫炭	100	魚粕100俵			
						土釜炭	200				
1230	1231	稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	6貫炭	200	36箆200こ			
07		稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	6貫炭	200	36箆200こ			
						4貫炭	100				
112		稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	土釜炭	50	箆250こ、苔100丸			
119		稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	6貫炭	170	36箆230こ、種粕60枚			
						鍛冶炭	100				
126	202	稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	6貫炭	50	魚油40樽、箆250こ、苔30こ			
						土釜炭	100				
206	207	稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	土釜炭	200	箆300丸			
209	211	稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	鍛冶炭	100	36箆100こ、灰100、柴?胡26俵			
						6貫炭	100				
215	217	稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	土釜炭	300	箆200丸			
225	228	稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	鍛冶炭	400	36箆100こ			
						6貫炭	100				
303	304	稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	鍛冶炭	400	箆200丸			
307	310	稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	土釜炭	100	魚粕150俵、36箆100こ、□□60俵			
315	321	稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	鍛冶炭	20	魚粕100、36箆100こ			
326	331	稻荷丸	120	松田豊吉	東京府			魚粕、びた錢100俵、箆200こ			
403	405	稻荷丸	120	松田豊吉	東京府			箆400丸、錢60こ			
409	411	稻荷丸	120	松田豊吉	東京府			箆400丸、錢60こ			
415		稻荷丸	120	松田豊吉	東京府			箆400丸			
22		稻荷丸	120	松田豊吉	東京府			魚粕100、糠50俵、36箆200こ、錢100こ			
429		稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	4貫炭	200	魚粕200俵、裏箆100こ			
						6貫炭	100				
509		稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	鍛冶炭	100	松楨	1000	粕箆100こ	
						6貫炭	100				
603		稻荷丸	120	松田豊吉	東京府			魚粕150俵、36箆3			
815		稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	土釜炭	100	草わら350束、干草200、びた錢67こ			
						6貫炭	64				
904		稻荷丸	120	松田豊吉	東京府			36箆200、裏箆200俵、釘20、錢10こ			
913		稻荷丸	120	松田豊吉	東京府	土釜炭	150	魚粕80俵、36箆100こ、灰100、茶櫃、錢、びた錢*			
			小計			110	5334	1000			
121		稻荷丸	79	久保寺金左	野嶋浦	米	150			野嶋浦船	
220		稻荷丸	79	久保寺金左	東京府	米	123			野嶋浦船	
1023		稻荷丸	79	久保寺金左	神奈川県	米	100			野嶋浦船	
1027		稻荷丸	79	久保寺金左	神奈川県	米	100			野嶋浦船	
1125	1205	稻荷丸	79	久保寺金左	東京府	米	100			野嶋浦船	
1209		稻荷丸	79	久保寺金左	神奈川県	米	160			野嶋浦船	
319		稻荷丸	79	久保寺金左	神奈川県	米	115			野嶋浦船	
412		稻荷丸	79	久保寺金左	神奈川県	米	130			野嶋浦船	
925		稻荷丸	79	久保寺金左	神奈川県	米	100			野嶋浦船	
1003		稻荷丸	79	久保田金左	神奈川県	米	114			野嶋浦船	
			小計			1302					
1127		海世丸	80	白鳥留次郎	東京府	米	35	炭	400	真木	600
1207	1210	海世丸	80	白鳥留治郎	東京府	米	30	4貫炭	300	真木	1000

未定柄 徴調並あり

1216	1218	海世丸	80	白鳥留次郎	東京府	米	60	炭	600				
1226	1230	海世丸	80	白鳥留次郎	東京府	米	35	炭	600	真木	700		
107		海世丸	80	白鳥留次郎	東京府	米	30			真木	600		
118		海世丸	80	白鳥留次郎	東京府	米	40	炭	400	楨	600		
130	204	海世丸	80	白鳥留次郎	東京府	米	30	炭	500	真木	600		
209	217	海世丸	80	白鳥留治郎	東京府	米	40	炭	500	真木	600		
223	228	海世丸	80	白鳥留次郎	東京府	米	20	炭	600	真木	400		
301	404	海世丸	80	白鳥留次郎	東京府	米	40	炭	500	真木	300		
308	314	海世丸	80	白鳥留二郎	東京府	米	25	4貫炭	500	真木	300		
320	321	海世丸	80	白鳥留次郎	東京府	米	25	炭	600	楨	100		
331	401	海世丸	80	白鳥留次郎	東京府	米	25	炭	600	真木	300		
404	405	海世丸	80	白鳥留二郎	東京府	米	25	4貫炭	600	真木	200		
410		海世丸	80	白鳥留次郎	東京府	米	10	炭	600	真木	200		
418		海世丸	80	白鳥留次郎	東京府			炭	600	楨	400	大豆10俵	
427		海世丸	80	白鳥留次郎	東京府			松炭	600	松5本ノ	320	大豆10俵	
505		海世丸	80	白鳥留次郎	東京府	米	10	炭	500	楨	700		
607		海世丸	80	白鳥留次郎	東京府			炭	400	楨	200		唐竹50束
721		海世丸	80	白鳥留次郎	東京府			炭	500	真木	800		
731		海世丸	80	白鳥留次郎	東京府			炭	650	楨	200		
909		海世丸	80	白鳥留次郎	東京府	米	30	4貫炭	400	真木	600		
				小計			510		10950		9720		
102	1105	神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	500				間700束、唐竹50束
109	1110	神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	450				間600束、唐竹100束
1117	1117	神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	400				間600束、唐竹100束
1122	1124	神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	300	松5本ノ	700		唐竹100束
1129	1205	神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	200				間1000束、唐竹100束
1209	1210	神徳丸	100	石橋清治郎	東京府			4貫炭	750				間渡し竹700束
1214	1216	神徳丸	100	石橋清治郎	東京府			4貫炭	950				醤油50樽
1220	1221	神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	800				醤油70樽
1225	1227	神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	600				醤油35樽 から竹100束
106		神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	650				醤油50樽 間渡し700束
110		神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	600	松5本ノ	300		間渡し600束
117		神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	450				間渡し500、から竹100束
124		神徳丸	100	石橋清治郎	東京府			4貫炭	550	松5本ノ	800		
201	203	神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	600				間渡し竹500束
207	209	神徳丸	100	石橋清治郎	東京府			4貫炭	600	松5本ノ	500		
213	217	神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	600	5本ノ楨	500		
222	223	神徳丸	100	石橋清治郎	東京府			4貫炭	600				から竹100
227		神徳丸	100	石橋清治郎	東京府	町米	50	4貫炭	600				
305	308	神徳丸	100	石橋清二郎	東京府			4貫炭	500				から竹150束
314	315	神徳丸	100	石橋清二郎	東京府			4貫炭	500				唐竹100束
320	321	神徳丸	100	石橋清二郎	東京府			4貫炭	500				唐竹100束
326	329	神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	450				間渡し600、唐竹80束
403	405	神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	500	松5本ノ	300		唐竹100束
408	409	神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	600	松5本ノ	500		
415		神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	500				唐竹50束
422		神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	500	5本ノ	450		間渡し竹500束
428		神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	300	松5本ノ	1000		唐竹100束
502		神徳丸	100	石橋清治郎	東京府			4貫炭	400	松5本ノ	400		間渡し竹500、唐竹100束
507		神徳丸	100	石橋清治郎	東京府			4貫炭	400	松5本ノ	800		間渡し竹500、唐竹50束
515		神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	400				間渡し竹500、唐竹ほか100束
521		神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	350				唐竹150束
529		神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	450	松5本ノ	400		唐竹100束
602		神徳丸	100	石橋清次郎	東京府			4貫炭	500	松5本ノ	300		唐竹100束
608		神徳丸	100	石橋清二郎	東京府			4貫炭	250				間渡し竹500、大竹100束
625		神徳丸	100	市川基松	東京府			4貫炭	400				唐竹100束
701		神徳丸	100	市川基松	東京府			4貫炭	250				
707		神徳丸	100	市川基松	東京府			4貫炭	340	松5本ノ	250		唐竹120束
716		神徳丸	100	市川基松	東京府			4貫炭	450				唐竹100束
721		神徳丸	100	市川基松	東京府			4貫炭	450				間渡し竹500、唐竹100束
806		神徳丸	100	市川基松	東京府			4貫炭	300	松5本ノ	200		唐竹150束
812		神徳丸	100	市川基松	東京府			4貫炭	800				間渡し竹300束
816		神徳丸	100	市川基松	東京府			4貫炭	650				唐竹100束
821		神徳丸	100	(石橋清次郎)	東京府			4貫炭	550	松5本ノ	800		唐竹50束
831		神徳丸	100	市川基松	東京府			4貫炭	800				間渡し竹300

906		神徳丸	100	市川甚松	東京府		4貫炭	800					
915		神徳丸	100	市川甚松	東京府		4貫炭	600	松5本	700			
921		神徳丸	100	市川甚松	東京府		4貫炭	250					唐竹160束
1001		神徳丸	100	市川甚松	東京府		4貫炭	400					唐竹120束
				小計			50		10700		2800		
1121	1122	神力丸	150	鈴木平七	東京府	米	150						木更津村船
226		神力丸	150	鈴木平七	神奈川県	米	300						木更津村船
				小計			450						
904		山王丸	50.6	板倉久八	東京府	新米	2	松炭	150	真木	500	糠200俵	
929		山王丸	53.6	板倉久八	東京府	米	30	炭	300				
				小計			32		450		500		
1207	1210	神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	40	土釜炭	800				
1216	1220	神在丸	115	城谷伴蔵	東京府	白米	30	土釜炭	900				間渡し竹350束
1224	1227	神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	白米	30	4貫炭	900	5本	500		
107		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	白米	15	土釜炭	900	松5本	500		
118		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	白米	25	4貫炭	350	松5本	1000		間渡し竹1000束
128		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	白米	20	土釜炭	800	松5本	1000		
203	206	神在丸	110.4	城谷伴蔵	東京府	白米	15	土釜炭	900	5本	500		
209	211	神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	白米	15	土釜炭	900	5本	1000		
221	223	神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	65	土釜炭	900			種粕87俵	
226	228	神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	110	土釜炭	500	5本	1000		
304	305	神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	100	土釜炭	800	5本	500		
311	314	神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	30	土釜炭	600	榎5本	800	小糠60俵	
321	327	神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	白米	20	土釜炭	500	5本	500	種粕200枚、小糠50俵	
401	403	神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府			土釜炭	900	5本	500	綿実20俵	
407	408	神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府			土釜炭	600	5本	600	小糠、綿実、籾袋、す竹14こ	
410		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	50	土釜炭	700				
419		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	59	土釜炭	650			菜種20呎	
425		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	40	土釜炭	500			糠10俵	唐竹100束
501		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	50	土釜炭	850				
506		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	35	土釜炭	700			粟11俵	間渡し竹500
512		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	40	土釜炭	570				間渡し竹400束
521		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	糯米	6	土釜炭	600				間渡し竹300
527		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	25	土釜炭	360			36籾110丸	
602		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	□米	10	土釜炭	650	5本	200	粟10袋	
609		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府			土釜炭	480			糠30俵、玉子4箱	唐竹60束
614		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府			土釜炭	750				松板40、小割42こ
628		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府			土釜炭	500			籾粕123俵、榎長材648本	
704		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府			土釜炭	600	松榎	300		間渡し竹500束
713		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府			土釜炭	600			36籾107丸、綿実、糠、玉子、魚油*	
812		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府			土釜炭	800	松5本	400		種粕50、間渡し竹600束
816		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府			土釜炭	800	松榎	450	粟6俵	間渡し竹600束
820		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府			土釜炭	750	榎5本	400	明荷27こ	間渡し竹600束
831		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	37	土釜炭	800				間渡し竹800束
905		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	60	土釜炭	500				間渡し竹600束
908		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	50	土釜炭	500	□真木	300		間渡し竹600束
918		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	152	土釜炭	400				間渡し竹550束
922		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	170	土釜炭	200			籾粕24俵	
1001		神在丸	115.4	城谷伴蔵	東京府	米	85	土釜炭	450				間渡し竹1000束
				小計			1384		24960		10450		
1025	1029	神力丸	120	石井仲蔵	東京府	米	82	土釜炭	650			大豆20俵	
								松炭	230				
1105?	1107	神力丸		石井仲蔵	東京府	米	46	土釜炭	876			糠20俵、卵4箱	月日なし
								松炭	250				
111	1116	神力丸	120	石井仲蔵	東京府	米	35	土釜炭	610	松真木	300		唐竹24束 日一部なし
1121	1122	神力丸	120	石井仲蔵	東京府	米	150						
1125	1128	神力丸	120	石井仲蔵	東京府	米	160	土釜炭	450				間渡し竹370束
1206	1210	神力丸	120	石井仲蔵	東京府			土釜炭	347				間渡し竹1200束
								松炭	200				
1214	1218	神力丸	120	石井仲蔵	東京府	米	126	土釜炭	500				間渡し竹600束
								松、6貫	100				各50
1222	1224	神力丸	120	石井仲蔵	東京府	米	112	土釜炭	647			大豆10、綿実12俵	
								松炭	193				
1229	1230	神力丸	120	石井仲蔵	東京府	米	48	土釜炭	670	榎	200	大豆10、糠20俵	
1229	1230	神力丸						松炭	160				

日刊スポーツ  
2016-7-22



熊本城「奇跡の一本石垣」緊急工事中

倒壊防止のための緊急工事が行われている熊本城の「飯田丸五階櫓」  
21日午前

熊本地震で大きな被害が出た熊本城（熊本市）で、辛うじて残った石垣部分で支えられ、倒壊を免れている櫓（やぐら）の緊急工事が21日、報道陣に公開された。櫓は「飯田丸五階櫓」で、城の南側を守る要とされる。現

在は櫓を覆うように鉄骨を組み、崩れないようにしている。この日は鉄骨をシール上で滑らせて移動させる作業を行った。7月末までに、櫓の下に3本の支柱を差し入れるなどして土台を復旧する予定。

櫓は熊本地震の「前震」と「本震」で土台の石垣が崩壊。残った角の部分が支えている様子が東日本大震災で津波に耐えた「奇跡の一本松」に例え、市民に「奇跡の一本石垣」と呼ばれている。

熊本市は1日、1889(明治22)年7月に起きた「明治熊本地震」で崩壊した熊本城の石垣の被災状況について旧日本陸軍が記した文書と絵図計80点の一部を公開した。今年4月の熊本地震で被災した箇所と、77.1%が重複していること

### 熊本城

が判明。旧陸軍が修復した箇所が再び被災した一方、約400年前に熊本城を築いた加藤清正時代の石垣は被害が少なかった。専門家は「清正の石垣の強固さが際立つ。築城の名手と呼ばれた卓越した技術を裏付けている」と指摘する。

## 「清正の石垣」被害少なく

### 明治の地震 修復部倒壊...



文書と絵図は当時、城内に駐屯していた旧陸軍第六師団が明治天皇に報告するために作成。宮内庁書陵部宮内公文書館（東京）に保管されていた。今年七月、同庁から熊本大文学部の三沢純准教授に情報提供があり、三沢准教授と市の担当者と同館に出向き、共同で九月末に調査した。

明治熊本地震で損壊した箇所を示す熊本城の図面（宮内公文書館所蔵）

明治熊本地震は、熊本地方を震源とした推定マグニチュード(M)6.3とされる。史料によると石垣四十四カ所が崩壊、石垣の表面が変形し膨らむ「はらみ出し」が十八カ所確認された。

今年の地震の被害箇所と明治期とで八割近くが重複した点について、市熊本城調査研究センターの鶴嶋俊彦文化財保護主任は「地震や明治期の修復技術の調査をし、崩壊原因を突き止めた」と話す。

センターによると、清正の時代の石垣は大きな石の隙間に小さな間詰め石を入れながら、バランスを整えて積んでいる。一方、明治の地震後、旧陸軍は間詰め石を使わずに巨石を加工して積む工法で修復。鶴嶋主任は「明治期の熊本城は文化財ではなく軍事拠点。旧陸軍には清正の時代の積み方を再現する発想がなかった」と指摘する。

# 戦国時代終焉の城「石垣山一夜城と小田原城を歩く」

平成 28 年 10 月 26 日 山岸弘明、石井 勇



「織豊（しよくい）期」といえば織田信長、豊臣秀吉が思いあたるが、歴史区分は「安土桃山時代」となる。中世から近世への過渡期、織田信長が足利 15 代将軍義昭を追放して自ら「天下布武」へ踏み出してから、徳川家康が江戸に幕府を開くまでの 30 年間をいう。この間、信長が志半ばで本能寺に倒れ、後継した豊臣秀吉の 2 代秀頼は幼く、のち家康に討ち取られる運命が待っている。「織豊期」はまさに激動の時代で、「天下泰平」徳川 300 年への移行期でもあった。

この時期の城を「織豊期城郭」という。天正はじめの信長「安土城」は、これまでの城造りの常識を破った豪壮、華麗さで人々の目を奪った。大手口から一直線に伸びる大手道、高石垣を連ねた「総石垣」、5 重 7 階、黄金に彩られたまばゆいばかりの「高層天守」と「御殿群」が城下を見下ろした。「人知」を超越した壮大さは諸大名を服従させ、「天下人」をアピールするに十分だった。安土城の出現は中世「戦う山城」から領内統治と権勢誇示を目的とした「見せる城」へと一大変換を遂げる。東海、近畿、中国を中心におよそ 300 をかぞえた。

「織豊期城郭」は江戸時代に引き継がれたが、すべて「関ヶ原の合戦」後の「築城ラッシュ」で大改修が加えられた。姫路城や甲府城は近世城郭主体の複合遺跡と変わり、大坂城の豊臣氏遺構は徳川氏によって土中深く埋没された。しかし一方で、「関ヶ原の戦い」や「元和の一国一城令」で廃城となった織豊期城郭の中に奇跡的に当時の遺構を今日に伝えた城跡があった。安土城や肥前名護屋城、竹田城、そして小田原・石垣山一夜城であった。きょうはその一つ、日本の歴史を変えた、関東の名城「太閤一夜城」の現存遺構をご案内します。

豊臣秀吉は、織田信長の新しいもの、派手好きの血を受け継いだのだろうか、秀吉の城造りは豪壮で、戦いもまた「奇抜大作戦」を得意とした。すべて一番であり続け、敵味方すべてをアツと驚かせたい、秀吉の「小田原征伐」と「太閤一夜城」には、「天下統一」に向けた並々ならぬ決意と執念があった。

「石垣山、太閤一夜城」は秀吉が小田原城攻めのために築いた「陣城（対の城）」である。臨時、応急の構えが前提の城に、想定をはるかにこえた「巨城」を、敵地、わずか 80 日で築く。瓦葺きの天守や門を備えた「総石垣」造り、その規模は長さ（東西）およそ 550m、幅（南）300m にも及んだ。秀吉はその書状に「築城、大坂城にも相劣らず」と自慢したという。秀吉の「小田原征伐」は、全国の諸大名に桁外れの実力を見せ付けることであった。長期戦を想定、予め 20 万石の米穀を前線基地に備蓄、全国から 20 万人を超す大兵力を動員した。最大の「奇抜大作戦」は一夜で作ったようにみせかけた「太閤一夜城」の演出だった。事実この作戦は奏効した。夜の内に前面を覆っていた林を切り払うと、小田原将兵の目の前に「総石垣の巨城」が出現した。北条方の将兵は一瞬にして戦意を喪失した。秀吉に最後まで抵抗した北条氏がここに滅亡し、「天下統一」が確定した瞬間でもあった。

## 本日の主要行程

- 6 時 30 分 八幡公民館集合（厳守）
- 7 時 00 分 出発、アクアライン、東名高速、厚木インター、小田原厚木道路、小田原西インター
- 10 時 00 分～13 時 00 分 石垣山一夜城見学（昼食休憩を含む）
- 13 時 15 分～14 時 00 分 中世小田原城（小峰御鐘台大堀切り周辺）見学
- 14 時 30 分～16 時 00 分 近世小田原城（本丸周辺）見学
- 往路を逆走
- 19 時 00 分ころ 八幡公民館着、解散

次回「八幡史学館」（最終回）  
 第 5 回＝11 月 22 日（火曜） 講師・山岸弘明  
 9 時 30 分～11 時 30 分 教室講座（八幡公民館視聴覚室）

# 史上最大の動員作戦～秀吉「小田原征伐」

## 1) 織田信長から天下を引き継いだ男～「太閤秀吉」の誕生

- ①天正 10 年、明智光秀の謀反「本能寺の変」で織田信長が自害したあと、天下は「山崎の戦い」で光秀を討ち、ついで「賤ヶ谷の合戦」でライバル・柴田勝家を破った羽柴秀吉へ。天正 12 年正 2 位、内大臣、関白、翌 13 年太政大臣に就任して「豊臣」の姓を賜わり豊臣秀吉となった。
- ②「関白」は天皇を補佐して政務を執り行なう重職、「太政大臣」は太政官の長官だが名誉職で、適任がなければ欠員となった。「位人臣」をきわめた最高職位で、幕府を開く権限もあったが実現しない。秀吉の目標は武家統領の「征夷大將軍」、武力による「天下統一」であった。
- ③秀吉は、大坂城を築城して本拠とすると、敵対状態にあった徳川家康と講和、以後次々と所領をひろげていく。天正 13 年長曾我部元親の「四国平定」、同 15 年島津義久を降伏させた「九州平定」、秀吉の目は関東、東北に向けられ、遠大な構想は遠く大陸へと広がっていた。

## 2) 天下統一を実現した「小田原征伐」～秀吉流あつと驚く「奇抜大作戦」

- ①天正 16 年、秀吉は京都の内裏跡に壮大な城郭風邸宅「聚楽第」を造営、ここに後陽成天皇の行幸を仰いだ。秀吉のちの財政基盤は「220 万石」におよぶ「蔵入り地」、主要鉱山と京都、大坂、堺、伏見など主要都市の直轄、千利休など「豪商」シンパの経済力の掌握にあったが、この時点ですではほぼ実現していたといえる。
- ②この年、秀吉は全国の諸大名を聚楽第に集めて「臣従」を誓わせる。  
しかし、北条氏政は無視、自らの上洛に秀吉の母・大政所の下向を要求したりもした。氏政は「時代の趨勢」を見誤り、滅亡への道を歩むことになる。
- ③この年、秀吉は大名間の私戦を禁止する「関東総無事令」を発する。  
秀吉は沼田地区の紛争地について境界線を利根川と裁定、この結果、北条方となった沼田城と真田方の名胡桃城が、対岸わずか数キロの至近距離で対峙することになった。
- ④天正 17 年 10 月、北条方が目障りな名胡桃城を攻め取ると、秀吉はただちに「総無事令違反」と認定、北条氏直に「宣戦布告」を行なう。
- ⑤同年 11 月、秀吉は諸大名に「小田原征伐」出陣を命令。総勢 22 万 4 千騎。その陣立ては
  - \* 東海道東行軍（東海道諸大名）15 万騎
    - 1 番隊＝徳川家康 3 万騎、2 番隊＝織田信雄、3 番隊＝蒲生氏郷ほか、4 番隊＝池田輝政、豊臣秀勝ほか。
    - 合計 12 番隊＝羽柴（豊臣）秀次、大谷吉継、細川忠興など。本隊＝豊臣秀吉 3 万騎
  - \* 四国勢＝助けの衆。西国勢＝後詰め。南街道＝普請の衆
  - \* 北陸勢 3 万 5 千騎 前田利家、上杉景勝、真田昌幸ほか
  - \* 水軍 1 万 4 千騎 九鬼嘉隆、加藤嘉明、毛利輝元 であった。



豊臣秀吉  
→  
徳川家康



### 小田原城攻囲・主な武将と兵力

豊臣秀吉	(摂津・大坂城)	28,070
徳川家康	(駿河・駿府城)	30,000
織田信雄	(尾張・清洲城)	15,000
蒲生氏郷	(伊勢・松坂城)	4,000
羽柴秀勝	(美濃・大垣城)	2,500
羽柴秀次	(近江・八幡山城)	17,000
宇賀多秀家	(備前・岡山城)	8,000
織田信包	(伊勢・安濃津城)	3,000
細川忠興	(丹後・宮津城)	2,700
池田輝政	(美濃・岐阜城)	2,500
堀秀政	(越前・北庄城)	5,300

### 支城攻略・主な武将と兵力

上杉景勝	(越後・春日山城)	10,000
前田利家	(加賀・尾山城)	18,000
真田昌幸	(信濃・上田城)	3,000
松平康国	(信濃・小諸城)	4,000
蜂須賀家政	(阿波・徳島城)	2,500
生駒親政	(讃岐・引田城)	2,200
福島正則	(伊予・国府城)	1,800
戸田勝隆	(伊予・板島城)	1,700
石田三成	(近江・佐和山城)	1,500

三津木園理「かながわの城」(神奈川新聞社)より

小田原城籠城兵力  
約56,000



山中城

- ⑥秀吉は長期戦を想定、あらかじめ西国から 20 万石におよぶ米穀などを水軍船で前線本拠の清水港に輸送、これまでの自弁方式を改めた大規模な食糧補給体制をとった。
- ⑦天正 18 年 2 月 1 日先鋒家康が出陣、同月 2～8 陣が出動、3 月 1 日に京都を発った秀吉は 27 日に沼津・三枚橋城に着陣し、ここで先発諸隊と合流して陣容を整えた。

### 3) 山中城を一気に突破～小田原城包囲網かたまる

- ①天正 18 年 3 月 29 日、織田信雄、細川忠興らを菫山城へ向かわせ、本隊は羽柴秀次を主将に山中城へ総攻撃をかけた。
- ②山中城は東海道最大の難所「箱根山」を背負った「天険、要害」に立地、小田原城にとってもっとも重要な「防御の要め」であった。しかし秀吉は 4 千の守備兵に 7 万の大軍を向ける。圧倒的な物量差で襲い掛かり、3 時間ほどで落城させた。北条勢にとってまさに予想外の展開であった。
- ③勢いに乗った秀吉軍は、一気に小田原城をめざす。箱根山群の中央部から北部へは家康隊が、中央部と南半分には秀吉、秀次率いる主力隊が、南部海岸方面へは堀秀政、池田輝政が進んだ。これといった反攻もないまま家康隊は 4 月 3 日小田原郊外の諏訪原に着陣、この日秀吉諸隊は小田原城の 600m～1 km 近くまで進出した。
- ④布陣は 4 月 9 日ころに定まり、以後「臨戦態勢」のまま陣場の拡充を進め、20 日ころ大方終了した。小田原城の攻防戦は 4 月中旬以降膠着状態となり、持久戦に入った。
- ⑤秀吉は小田原城包囲体制がほぼ整った 4 月 6 日北条氏の菩提寺の箱根・早雲寺に本陣を移すと、その日の内に石垣山に登り、「陣城」築城地と決定した。一説は内応者の助言ともいう。秀吉の「電光石火」の行動は周到な「情報活動」を物語っている。

## 秀吉の奇抜大作戦～石垣山一夜城

### 1) バスは入生田口、「早川石切り丁場群」から一気に石垣山城へ

- ①バスは東名高速厚木インター、小田原厚木道路をへて小田原西インターへ。
- ②インター出口は小田原城から南西およそ 1 km ほど、石垣山一夜城のま下にあたる。  
目の前に早川、並行して「箱根登山電車」が走る。  
箱根登山鉄道「入生田駅」前、「生命の星・地球博物館」の脇から山道に入る。早川をわたるとそこは石垣山西麓で関白沢という。古くて小さな石橋、あたりはうっそうとしてちょっぴり不安がよぎる、でも安心、ほどなく道は開けてバスは一気に山道を登る。
- ③車窓 8 合目あたり、箱根ターンパークとの高架交差地一帯が「早川石切り丁場」跡になる。石垣山は表土をめくると全山「安山岩」の石山。秀吉の石材調達場でもあった。この地から何十万個



早川



石切り



早川石切り丁場



石垣山道

とも知れない石材が割り出され、山頂の石垣山の築城現場に運ばれた。石材の割り出しと石積みは石工職人「穴太衆」が担当、石材輸送や築城人夫は紀州、四国勢およそ6万人（史跡看板は4万人とする）があたった。「石引き道」を作り、昼夜兼行、石引きそり「しゅろ」で引き上げたと考えられるが明確でない。

- ④10年前、小田原市は「広域農道整備事業」にともなう発掘調査を実施、周辺27か所で「丁場遺跡群」が発見された。当時2チームを現地案内、江戸時代に切り出された完成品や半製品、失敗品、廃材など数千点が累々と横たわり、まさに壮観であった。一部埋め戻し、移転保存されたほか、多くが撤去、粉碎された。
- ⑤江戸時代はじめ、江戸城の石材供給を命じられた諸大名が、伊豆半島にそれぞれの石切り丁場を築いたが、その時の丁場跡が伊豆東西海岸線55か所に確認された。最盛期は3代将軍・家光の寛永時代だが、江戸城工事も一区切りついたその後も拡張や修築に備えて「石場預り」を常置した。石切り丁場では規格寸法に仕上げた「角（かど）石」「角脇石」「間知（けんち）石」「ぐり石（かけら）」などを岩場の海岸に運び、石船に乗せて海水の浮力を利用して江戸へ運んだ。
- ⑥駐車場の「展示石材」は近世の「切り石」で秀吉時代ではない。違いは現地で詳しく解説する。

## 2) 「関白道」はかつての将兵登城道、秀吉も家康も淀君も馬や輿、徒歩で登った

①関白道＝秀吉の一夜城への「登城道」。秀吉や家康をはじめとする武将たちや、陣中に呼び寄せた淀君や千利休らが馬や輿や徒歩で山頂の一夜城をめざした。

きょうは大型バスのため「入生田口」を迂回したが、普通車や中小型バスは正面の「早川口」から登る。車窓から手が届きそうな「みかん畑」をぬけて一瞬で山頂へ。徒歩なら50分、所々に豊臣方武将の解説板があり、小田原市内、相模湾の移り変わる景観がゆっくり楽しめる。

②石垣山一夜城歴史公園駐車場＝関白道脇に市営駐車場。ゆたりにしたスペースにトイレ、自販機。隣接して「一夜城ヨロイツカ・ファーム」があるがきょうは利用しない。

③西正面の小高い山が石垣山一夜城、反対側は相模湾側、海も小田原城もここでは見えない。

④駐車場、移設石垣用石材看板①、②（展示場が2か所に分かれている）＝

史跡石垣山（一夜城）の西斜面の一角には17世紀前半の江戸時代初期に江戸城修復のための石垣用石材を調達した石切り丁場があり、「早川石切り丁場群関白沢支部」の遺跡名が付されていた。ここに置かれている石垣用石材はこの時発見されたものです。

（看板①）これらの石垣用石材には石を割るために彫られた「矢穴」が一行に並んでいます。また石材の面の一つには⊕の刻印が囲まれています。これは石を切り出した石工の集団が何らかの目的で刻んだマークと考えられています。（看板②）元々一つであった石材に「矢穴」を一行に彫った矢（くさび）を入れて2石に切ったものです



石垣山一夜城



## 2) 80日かけて「一夜城」を演出～ねらいさまざま、3つの「史跡看板」を読み比べる

### ①石垣山歴史公園、小田原市史跡看板＝石垣山一夜城のご案内

このあたりは笠置山と呼ばれていました。天正18年豊臣秀吉が小田原城北条氏を攻撃、15万人とも21万ともいわれる大軍を率いて包囲し、その本営として総石垣の城を築いたことから石垣山と呼ばれるようになりました。石垣山に築かれた城が世に「石垣山一夜城」または「太閤一夜城」と呼ばれたのは秀吉が築城にあたり山頂の林の中に櫓は骨組みを作り、白紙を張って城壁のように見せかけ周囲の樹木を伐採したためといわれています。しかし実際には約4万人が動員され、天正18年の4月はじめから6月下旬まで80日間が費やされました。秀吉はこの城に淀君ら側室や千利休、能役者を呼び、茶会を開いたり、天皇の勅使を迎えたりしました。この城は関東で最初に造られた総石垣の城で石積みは「野づら積み」を用い、長期戦に備えた本格的な「城造り」であったといえます。石垣は度重なる大きな地震に耐え、築城跡400年以上を経過した今日、当時の面影がよく残っています。

### ②大手道下、小田原市史跡看板＝「国指定史跡」石垣山一夜城

史跡石垣山は、JR早川駅の西方約2.5km、国道1号線から東へ約1kmのところにあります。また、小田原城までわずか3kmのところにあり、標高257mの本丸からは小田原城や城下の様子が一望できます。石垣山はもと笠置山、松山などと呼ばれていましたが、天正18年豊臣秀吉が小田原北条氏本拠小田原城を水陸15万の大軍を率いて包囲したとき、その本営として総石垣の城を築いてから石垣山と呼ばれるようになりました。(中略)この城は単に小田原攻めの本営であるというだけでなく、太閤秀吉の威信を示すとともに長期戦に備えた本格的な城構えであったといえます。この城は関東で最初に作られた石垣の城です。石積みは秀吉が連れてきた近江の「穴太衆」による「野づら積み」で、小田原藩の管理下に置かれていた江戸時代にも度重なる大地震に耐え、今日まで当時の面影を大変よく残している貴重な城跡です。

### ③本丸、小田原市史跡看板＝石垣山一夜城の構造

石垣山一夜城は最高地点の天守台の標高261.5mあります。小田原城の本丸より224m高く、また小田原城までの距離はわずか3kmと近く、眼下に小田原城やその城下はもとより足柄平野や相模湾、遠くには三浦半島や房総半島をも望むことができます。小田原城包囲網の指揮をとるにはもともと適した場所といえます。(中略)城道は井戸曲輪の北方から2の丸を通って本丸に至るコースと南曲輪から本丸に至る東口ルート2筋があり、いずれの城道も関白道に通じていました。城内に入ると通路には「枳形」と呼ばれる屈曲した構造を持ついくつかの門がありました。門には瓦が用いられており、豪壮なその構えは秀吉の威信を示していました。現在、石垣や曲輪などの遺構が確認できるのは出城から北曲輪までで南北の延長は約550m、東西の最大は275mあります。



石垣山一夜城 (「戦国9城」)



一夜城研



旧城道

### 3) 「野づら積み」と「算木組」～発展途上の織豊期石垣

- ①「石垣一夜城」の見学は外郭と主郭部をわける「大堀切り」から  
外郭＝城外の曲輪。主郭＝本丸、2の丸などの城の中心部。  
総石垣＝主郭部を石垣で囲むことをいい、信長の「安土城」を「近世城郭」の嚆矢とする。  
大堀切り＝「空堀」は水のない堀のこと。斜面の堀を「堅堀」、掘り通すことを「堀切り」という。
- ②山を切り開いた巨大堀切り。空堀や堀切りは通路で先端急ガケの帯曲輪で主郭部を一周する。右側は本丸のある主郭、南曲輪南面の高石垣を見上げる。
- ③南曲輪東面高石垣、10mはあるうか。高石垣は普通 10m以上をいうが、このころは5mくらいか。それまで精々2、3mの石垣が石積み技術の向上でどんどん高層化していった。
- ④石材は前出、石垣山西麓「関白沢」のあら割り「安山岩」を使用した。「あら割り」は石目に沿ってのみと玄翁で適当な大きさにあら割りすることをいう。形状はまちまちで積みにくい。まもなく「矢穴」と「くさび」を利用した「切り石」が登場する。
- ⑤石垣山城の石工は近江の「穴太」と「岩倉」が動員された。あらかじめ「切り岸」と「盛り土」で土の急斜面を作り、根石を置き、その上にあら割り石を積み上げる「野づら積み」と呼ばれる工法であった。高くて長い石垣は技術的に難しく、弱点が生じないように置き場所は石工の経験がものをいった。高所はいったん吊るし上げて下した。大石もばらばら、城内一か所として同じ積み方はないとされる。安土城や竹田城はとくに「穴太積み」と呼び、「あら割り積み」する学説もある。「野づら」は初期の石積み方法で、のちに「打ち込み積み」「切り込み積み」へと進化していく。石垣山城の工事詳細は未詳の部分が多く裏込め石なども不明である。
- ⑥石垣の強度はコーナー部で決まった。角ばった大きめの石材を長辺と短辺を交互に積み上げる「算木組」を意識している。のち切り石による角石（かどいし）の大型、規格化が進み、堅固な石垣、櫓台の出現は天守など大型建造物を可能にし、近世城郭を誕生させることになる。
- ⑦「織豊期」の石積みのあらあらしさは男性的で力強さに満ちている。石垣山城は「関東大震災」で相当量が崩壊したが、南曲輪周辺は比較的良好な形で遺構が残った。よくぞ伝わった「秀吉のあら割り石垣」に感動。最後の「近世小田原城天守」で「石積み」を締めくくる。
- ⑧崩壊した大手道＝大手口を埋め尽くす角石群。関東大震災でずれ落ちたままになっている。かつて秀吉が胸を張った「栄光の登城道」にいまはその面影はない。掃りは有志でこの道を降りる。
- ⑨大手道下、小田原市史跡看板＝「国指定史跡」石垣山一夜城 前出



コーナー部  
初期算木組

本丸石垣



→  
南曲輪高石垣

←  
大手道

#### 4) 「穴太積み」技術の傑作～井戸曲輪

##### ① 2の丸（馬屋曲輪）＝史跡看板

ここ2の丸は本丸と並んでもっとも広い曲輪で中心部分、北へ長方形にのびていた。（中略）伝承によれば馬屋が置かれ、「馬洗い場」と呼ばれた湧水があったようです。

##### ② 櫓台跡。北口中門跡

##### ③ 展望台＝物見櫓跡か

##### ④ 井戸曲輪（マイマイ井戸）（淀君化粧の井戸ともいう）＝

谷地に自然発生した湧水を石垣で囲んだきわめて珍しい「水の手曲輪」。2の丸とそれに延長する台地の2辺を石垣とし、外枠にも独立壁の石垣を廻して南北65m、東西55mの台形曲輪を造った。天端を平らにして塀、先端の2隅に櫓台を築き「角櫓」を上げた。水源からの高さは5.8m、内部はらせん式に降りる構造で、「さざえの井戸」「マイマイ井戸」ともいう。三方にテラス、中段につるべなどの水汲み設備を置く広場。石垣はきわめて堅牢、ほぼ完璧に当時のまま残る。ところどころに配置された巨石バランスも抜群、「穴太積み石工」の完成度の高い「技術水準」を窺わせている。

##### ⑤ 淀君が化粧水にしたという水脈は、枯れることなく小さな水たまりを作っている。

##### ⑥ 2の丸早川側の「帯曲輪」から土中から顔を覗かせる「西帯曲輪高石垣」を覗く。

#### 5) 本城は「秀吉御座所」と「天守」～展望台から小田原城を一望

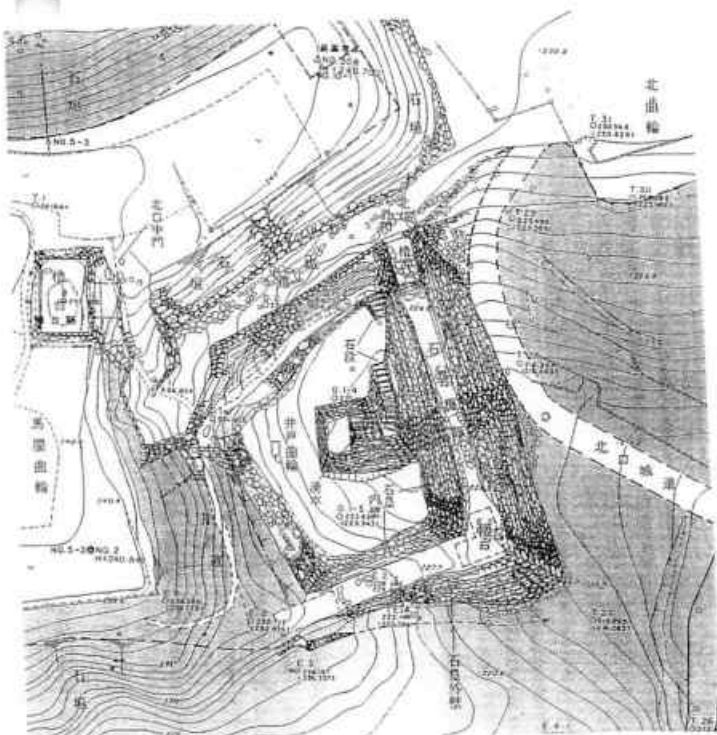
##### ① 本城（本丸）虎口は北門と東門の2か所。

##### ② 北門口へは登城用のスロープで中段の張り出し台、さらに本城へ。

##### ③ 本城北口は深さ2.5mほどの掘り込みが枡形になっている。三方から石垣で門を囲む。「変則内枡形門」というべきか、枡形石垣が散乱するが門形式は不詳。

##### ④ 広い空間は本城御殿跡。秀吉書状は「はや御座所、城も石蔵でき申し候あいだ、台所でき申し、やがて広間、天守たて申すべき候」とある。急ピッチで進められた築城工事は6月25日天守以下すべてが竣工した。秀吉の本城御殿におよそ1か月起居し、全軍を指揮したが、秀吉御座所＝本丸御殿についての記録はなく、平成元年の発掘調査報告書も、本城曲輪の地形が尾根状の傾斜地であったことから相当な削平、盛り土が行われたこと以外は記録していない。

##### ⑤ 本城西北端に関東大震災で完全崩壊した天守台がある。現状は4mほどの小丘と周辺に崩壊石垣が散乱し、今でも瓦破片が発見されることがあるという。「小田原市史」は「天守櫓の形状や階層などについては一切不明」としている。



井戸曲輪 ↑



本城(本丸)

北口虎口 →



⑥展望台＝秀吉と同じ目線で現在の小田原城と城下、相模湾を見下ろす。好天なら遠く鎌倉、三浦半島も遠望できる。

本丸展望台、小田原市史跡看板＝石垣山一夜城

小田原城に立てこもる小田原北条氏を攻めるため、箱根火山外周の尾根上に豊臣秀吉が築いた総石垣の城で国の指定史跡になっています。(中略)ここからは小田原の市街地が広がる足柄平野から大磯丘陵、そしてその境界に位置すると考えられる国府津、松田断層の地形が一望できます。

(小タイトル) 秀吉、石垣山一夜城築城。小田原城を包囲する戦国の英雄たち。小田原合戦攻防図。北条氏対豊臣氏の小田原合戦。そして戦国時代は終わる。中世最大規模の城・小田原一夜城。小田原北条氏の降伏

⑦秀吉・家康のつれしょん

伊達政宗の伺候、臣従＝「一夜にはおびただしく塗りたる塀(中略)あれはみな紙にて貼り付けたるにあらんか」(伊達政宗言行録)

⑧東門変形枡形跡＝大手門側からの本丸虎口。南腰曲輪から登る掘り込みの城道を3方の石垣が囲む構造。内変形枡形右折れか、門形式は不明。南腰曲輪をへて山里曲輪へ。

⑨山里曲輪(西の丸)＝秀吉が側室の淀君を迎えるために築いたとされる御殿と茶室など。

秀吉は正室・大政所ねねにあて淀の派遣を要請したという。こまめさの一方図々しさが交錯する。秀吉に随行した千利休や津田宗及が繰り返し「戦陣茶会」を開いた。山里曲輪門跡。

⑩南曲輪、東曲輪＝最初から見上げた曲輪石垣の内側。

⑪大手道を下る。

一夜城の城道(登城道)には北口と東口の2ルートある。北口ルートは関白道の北曲輪近く(十分解明されていない)から急坂を登り、井戸曲輪脇の帯曲輪状の段から北の丸、2の丸馬屋曲輪をへて本城北門に達するコースで、東口ルートは歴史公園駐車場から屹立する南曲輪、東曲輪の両石垣を潜り抜けるこのコースで「大手口」と考えられる。

⑫関東大震災で両壁石垣は倒壊、幾重にも折り重なった巨石が散乱、距離は30mほどだが歩きにくく多少危険、このコースは有志のみとします。希望しない方は「公民館指導員」の案内で、東曲輪から2の丸を迂回してください。

まじかにあら割り石にふれる。石質や形状、重さ、石わりや石積み方法などを観察しながら、けがのないよう注意深くゆっくり降りる。

⑬昼食休憩＝駐車場周辺で持参のお弁当を楽しむ。バスの集合時間は厳守。

次の見学地はトイレが不便です。必ずすませて乗車しましょう。



東の虎口から大手口へ



展望台から小田原城跡



西の丸



小田原攻めに随伴した茶頭・千利休(云々)の役は、秀吉を慰める茶会を開きことだった。伊豆国原宿へ出かけ、伐った竹で花入れを作り、「岡城寺」と名付けたという。秀吉は豪華な陣屋を構えて無量の寵姫(二四)や松の丸殿を呼び、他の大名にもよろするよう勧めている。

陣中もまた京や堺の商人の出入りを許し、名物・珍物などが売られ、門前市をなして陣中一日も乏しいことがない」といったありさまを、徳川軍の陣屋康政(四三)は、加藤清正(二九)宛に認めている。



利休が戦陣茶会を開く

← 淀君

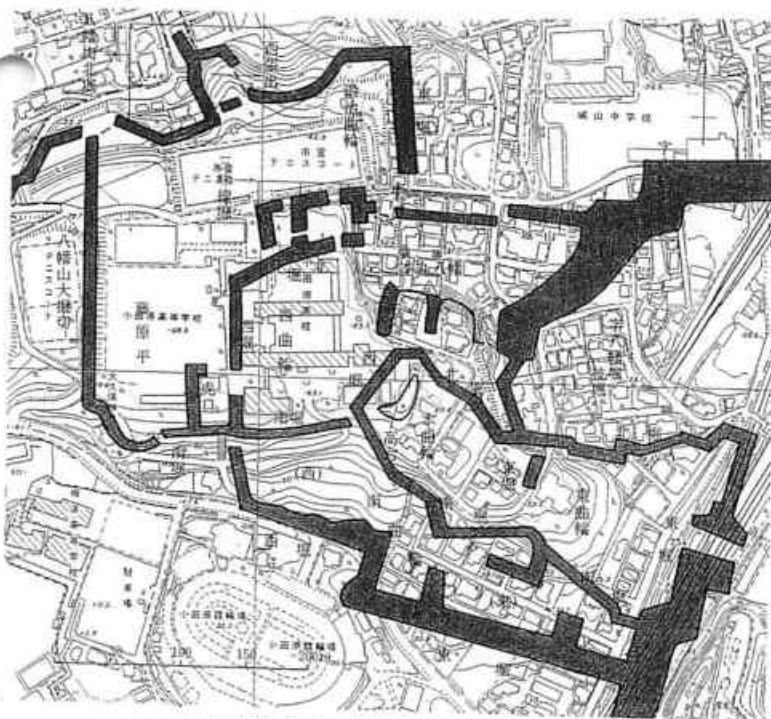
# 城郭都市・北条小田原城の最先端大堀切り

## 1) 秀吉来襲に備えて大外郭を構築

- ①後北条氏が関東を制覇した「中世小田原城」は「丘城」の「輪郭式なわばり」で、その中心部は現在の小田原城天守とJR線を挟んだ「八幡山」、小田原高校一部と東隣り土壇状の隆起を頂点とした「本曲輪」にあった。この本曲輪を囲んで空堀がめぐったが、小田原高校や周辺宅地の造成工事などで消滅し、わずかに高校正面右わきに36mほどが現存しているにすぎない。
- ②北条小田原城の第2段階は低地の大池（現在の2の丸）を東端に、小田原高校校舎とテニスコートの間にあった直線の八幡山大堀切の間の「2の丸外郭」に拡大した。
- ③そして基本的縄張りは「3の丸外郭」の構築で完成した。その規模は「小峰御鐘の台大堀切り東堀」から「3の丸東堀」、東西1.4km、南北800m、この拡張は北条時代後期のことであった。
- ④天正17年、秀吉の来襲をまじかに、北条氏政、氏直父子は「大外郭工事」を始める。東は山王川、南は早川、西は水の尾の谷間まで、街道と城下町はもちろん、田畑をすっぽりと囲みこんだ「総構え」であった。
- ⑤「北条五代記」（戦記物＝誇張あり注意）  
「この城東西へ50町、南北へ70町、めぐり5里（実際は9km）の大城なり。総構えに堀を掘り、土居石垣の上に井楼（せいろう）矢倉隙間もなし。所々の角々には殿主を立ておき、白壁は天に輝き、持ち口持ち口に大将家々の旗をなびかし、馬印、指し物いろいろ様々にありて風にひるがえすよそおい、吉野、竜田の花もみじにやたとえん。総構え役所のめぐり往還の道は横30間ほどありて、武者の立所せばからず、陣屋はぬりごめ、小路をわり、人数しげきこと稲麻竹葎（とうまちくい＝入り乱れ集まる）のごとし」

## 2) 小田原城最前線から一夜城を見上げる

- ①バスは国道1号線＝旧東海道へ。江戸時代は五街道の中央幹線として「参勤交代」の大名行列が行き来した。「箱根口門跡」から小田原城3の丸。正面に小田原城がみえるが入らず左折、まずは中世、北条氏時代の小田原城をめざす。
- ②城山まもなく右手に小田原高校。北条氏時代の本城だが遺構も少ない。車中説明で通過。小峰御鐘の台の三叉路で降車。ほかの車に迷惑がかからないようすばやく行動しよう。



図版 1-3-1 八幡山古郭遺構名称図



北条氏政

北条氏直



③市の駐車場をお借りして石垣山一夜城を遠望。眼前3km、一夜にして出現した総石垣の巨城。小田原軍将兵たちと同じ目線で城跡を見上げる。

### 3) 思わず息をのむ大迫力、堀底を歩いて規模を実感～小峰御鐘の台大堀切り

①御鐘の台は本丸北西域先端、最高地に立地、小田原城「喉口」の最重要防御拠点にあたる。

「堀切り」は曲輪や尾根を掘り通すこと、ここでは250mの尾根を平らにして掘り切っている。堀幅25m、深さ12m。この堀を西堀、中堀、東堀と3段続けた。横矢折れクランク、堀障子、土橋。堀底道を歩いて堅固な守りを実感。

②市教育委員会史跡看板＝国指定史跡・小峰御鐘の台大堀切り東堀

小峰御鐘の台大堀切りは東堀、中堀、西堀の3本からなる戦国時代に構築された空堀です。北条は天正18年の豊臣秀吉の豊臣秀吉の小田原攻めに対し、総構えといわれる周囲9kmの堀や土塁を構築し、その中に城のみならず城下町までを取り込んだ戦国期最大級の城郭を築きました。この大堀切り東堀は、総構え以前にこうつくされた3の丸外郭に相当し、本丸へと続く八幡山丘陵の尾根を分断しており、敵の攻撃を防御するために築かれた空堀です。総構えとともに小田原城の西側を守るもっとも重要な場所であったと考えられます。

東堀の中が約25～30m、深さは堀底から土塁の上面まで約12～15mあり、堀の法面は50～60度という急な勾配で、空堀としては全国的にも最大規模のものといえます。発掘調査によると、堀には堀障子や土橋状の掘り残し部分のほか、横矢折れと呼ばれるクランク部分などが設けられていることが確認されました。こうした堀の遺構は北条氏が積極的に用いたもので戦国時代の小田原城の特色をよく現しています。

③再び乗車。バスは大外郭を迂回して近世城郭のある「小田原市城跡公園」をめざす。

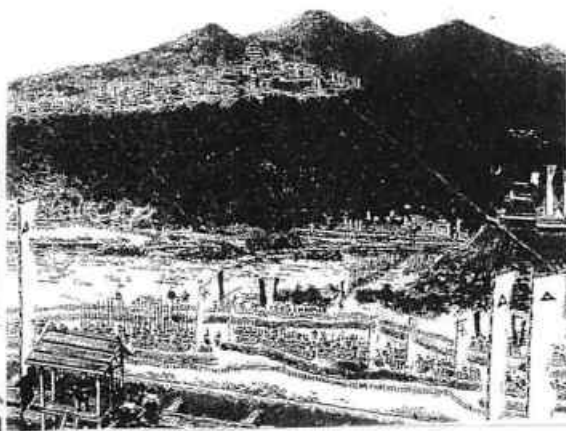
右手、尾根伝いに大外郭を遠望、小峰御鐘の台、稻荷森、谷津山の神台。切り岸、2重土塁に囲まれた大要塞、頂部が武者走り、緊急時に兵士が移動した。

④左手箱根山群には豊臣軍が陣場を構えた。御鐘の台は細川忠興（富士山砦）、宇喜多秀家（水之尾）が、大外郭南西面には羽柴秀次（天子台）、羽柴秀勝（上台）、蒲生氏郷（朝ヶ坂台）、織田信雄（多古白石台）が布陣したが十分解明されていない。バスはにらみ合いが続いた戦場どまん中を走りぬける。

⑤「城下張り出し」から大外郭の峠をこえて城内へ。



本城跡の小田原市役所



お鐘の台から石垣山をのぞく



お鐘の台大堀切り



本城の空堀



→ お鐘の台中堀



町内9の2重土塁

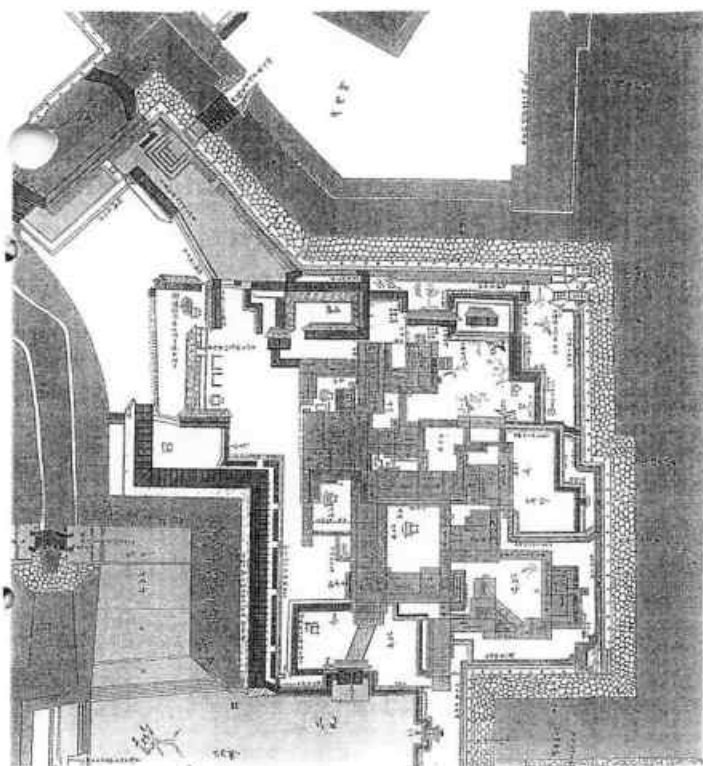
## 江戸の玄関口を守る～近世小田原城

## 1) 徳川政権の威勢を示す～普代重臣家が居城した「天下の堅城」

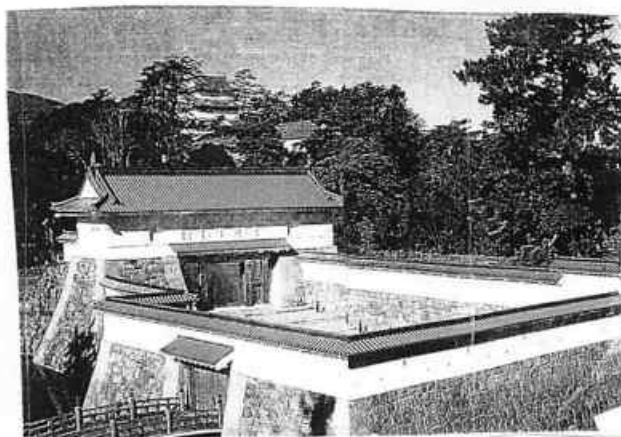
- ①北条氏滅亡後関東に移封された徳川家康は、小田原城を三河以来の重臣・大久保忠世に与え、以後、阿部、稲葉、大久保家が続いた。寛永時代、幕府の「山城禁止」方針にそって近世城郭へと大幅改修、山城を「忌み城」として閉鎖、平坦地に本丸を移して石垣積みとした。後期大久保氏時代が長く、東海道筋関東入口、首都・江戸城玄関口として、その威容を天下に誇った。
- ②「3の丸小学校」前のバス専用駐車場で降車。御茶壺曲輪、馬屋曲輪から2の丸へ。  
御茶壺曲輪=将軍に献上する「お茶壺」行列の休泊所。  
馬屋曲輪=大手門から馬出し門をへて2の丸に通じる正門通路。馬屋と大腰掛け、前面に2重櫓が上げられたが元禄地震で焼失した。
- ③銅（あかがね）門=平成9年に復元された櫓形門。渡り櫓門の銅板が門名に。内枳形左折れ、3方を石垣白漆喰塀、1方を渡り櫓門で囲む。1階が大御門、通路、2階は武器庫で緊急時の射場。格子武者窓、石落とし、巨大な柱、梁に注目。  
中仕切り門（埋み門）=木橋を落とし土で埋めると城路を完全遮断する。
- ④2の丸=城主居住御殿。玄関、広間、藩政のための表向き、城主の私邸・中奥、側室とその子が生活する奥向きからなった。

## 2) 美しく、そして堂々～関八州かなめの天守

- ①常盤木橋=その下本丸水堀（消滅）にかかる橋。復元。
- ②常盤木御門=本丸正門、最後の関門。昭和25年石垣、同46年枳形門復興。内枳形右折れ。多聞く櫓、渡り櫓門。関東大地震後の周辺石垣改変にあわせて枳形構成が変わり、石材、石組みも一新。かつての「打ち込みハギ」は「切り込みハギ」「布積み」となった。是非はさておき、規格寸法の切り石で美しく目地を揃えた完成期の算木組や巨大角石に注目しよう。
- ③本丸御殿跡=将軍の来訪に備えた「御成り御殿」。徳川家康、秀忠、家光などが宿泊した。
- ④天守=創建は不詳、寛永時代と宝永3年に再建されたが元禄地震で焼失、以後再建されなかった。現行天守は昭和35年鉄筋コンクリート「復興」。壮大、威厳に満ち、美しく堂々としている。
- ⑤3重（屋根数）4階（内部）。関東大震災で石垣が崩壊、再建された天守台は大きく5重天守に



2の丸行院図



銅内から天守まで



馬屋曲輪



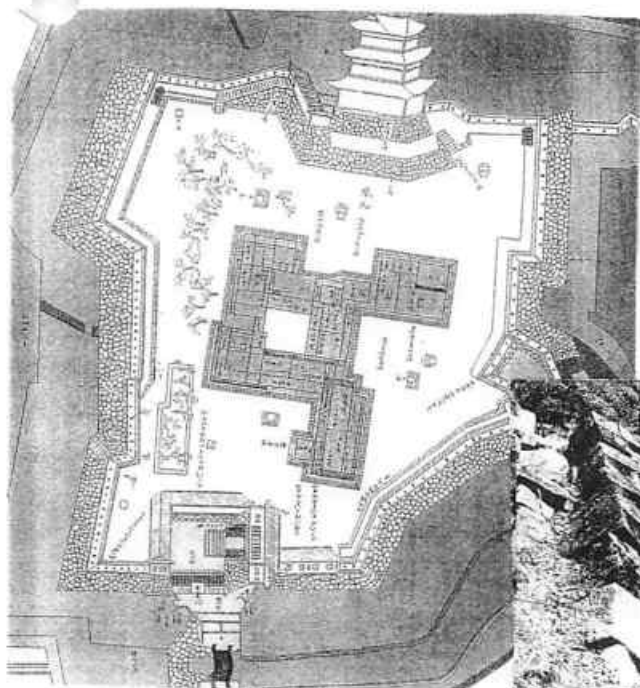
常盤木行内

相当した。バランス上、寛永、宝永期天守を合成、低減率を変えるなど改変が激しい。天守に登り石段、「付け櫓」と「渡り櫓」が付属、「連結式天守」にあたる。

- ⑥慶長期流行の「層塔型」(五重塔形)、下見板のない大壁、白漆喰総塗り込め=石垣技術の発達で堅固な真四角天守台が生まれ、重量高層化が可能になった。層塔天守は居住性のない権威の象徴。間取りは各階とも母屋を中心に廻り縁、最上階は一間で城下が見渡せる。普段は無人の武器庫、緊急時は射場となる。
- ⑦織豊期は「望楼型」=石垣の形にあわせて母屋を築き望楼を上げた。「破風の間」、地下「穴蔵」を活用。白壁はなく外壁板を黒漆か柿渋で防腐した。望楼初期は城主が居住した。
- ⑧天守は長方形で横長方向の平側が正面になる。  
屋根入母屋造り本瓦葺き、しゃち、軒唐破風。第2重比翼千鳥破風、廻り縁、高覧付き。初重2階造り比翼千鳥破風、出窓屋根千鳥破風、石落とし。
- ⑨内法長押(うちのりなげし)=窓上下の2本線は「源氏棟梁」としての幕紋「2つ引き両」を表わす。徳川氏直轄城の意味をこめる。
- ⑩石垣前面の2段構造=「鉢巻石垣」が本丸を一周していたことの名残か。

### 3)「あら割り穴太積み」から「切り込みハギ」へ~きょう小田原にみた「石垣の歴史」

- ①天守台と本丸石垣は関東大震災で崩壊、現在の天守台は昭和の復興、再建。旧石と新石が入り混じる。本丸所どころに石垣遺跡が露出、「古城」の雰囲気演出している。
- ②一夜城と同じ安山岩だが一見して形状の違いに気づく。不統一だったあら割り石が、矢穴を使う「切り石」と加工技術で角材に仕上げられている。とくに角石、脇角石は規格寸法がきっちり守られ、表面は丁寧なすだれ仕上げ。コーナーの「江戸切り」は徳川の城以外にはない。
- ③中間の石材は、奥細長「間知石」の面を表面に歯状に埋め込み、かい石で固定、裏込めぐり石で水はけ層を作る(表面からは確認できない)。石材は石切り丁場で前処理の加工度を高めることで、現地石積み作業のスピードアップを図る。
- ④コーナー部は完成度の高い「算木組」「2つ半石」で、石積みは「切り込みハギ」、1石ごとに石材にあわせて切り込み加工されている。
- ⑤そり(扇の勾配)=下への重力を分散する。
- ⑥「自然石野づら積み」、「あら割り穴太積み」に始まった石垣が「打ち込みハギ」、「切り込みハギ」へと進化した「城郭石垣の歴史」を現地で、現物をみながらまとめ解説します。
- ⑦帰路「大手門」跡、「北条氏政切腹地」を車中説明。往路を逆走して八幡めざす。  
7時ころ八幡公民館着。きょう一日お疲れさまでした。次回「八幡史学館」でお会いしましょう



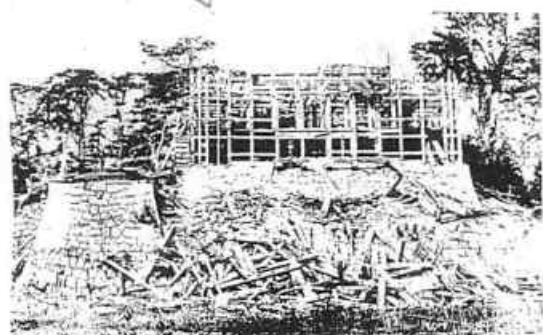
本丸総図



天守



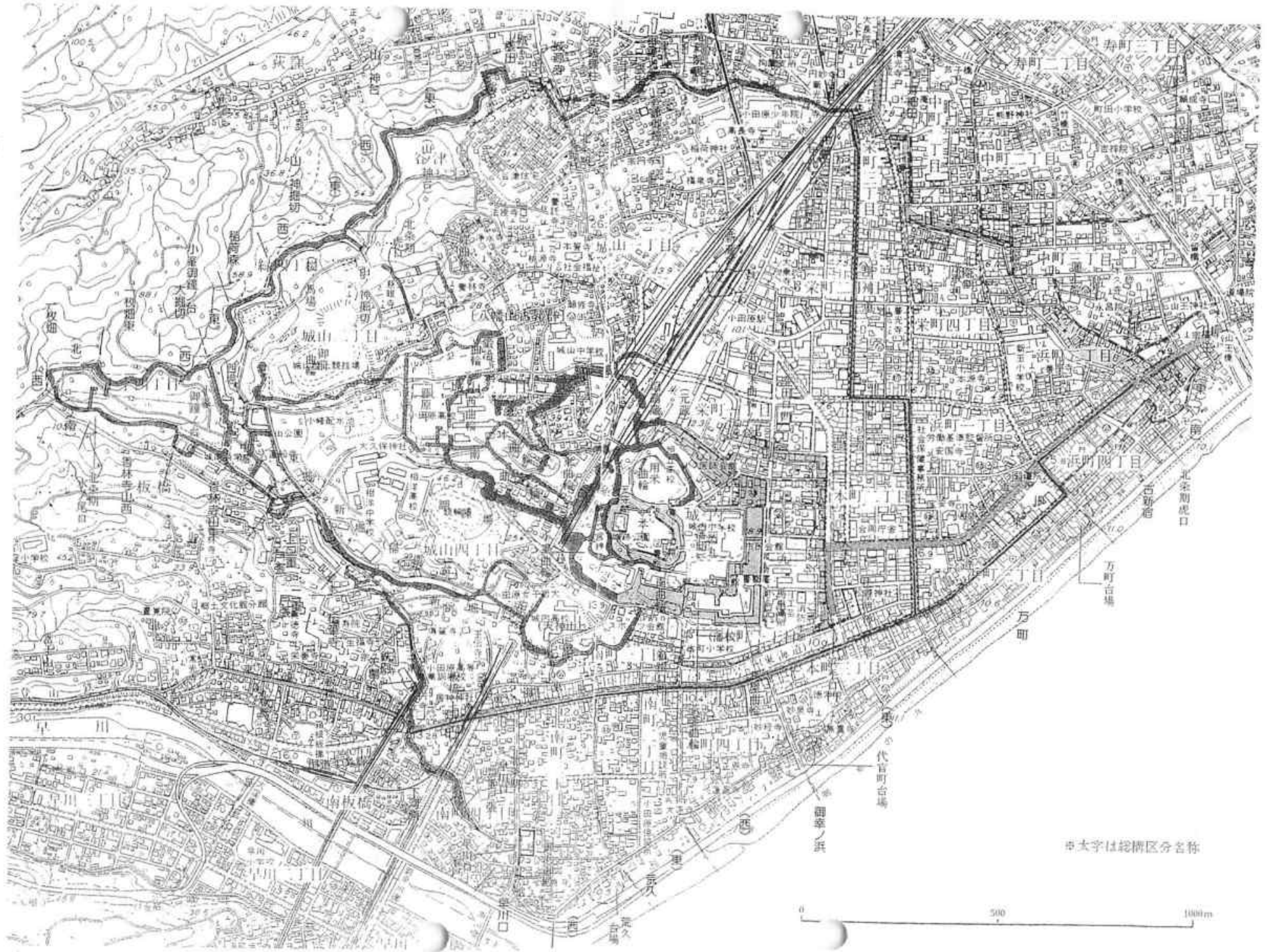
崩壊した本丸石垣



解体中の天守

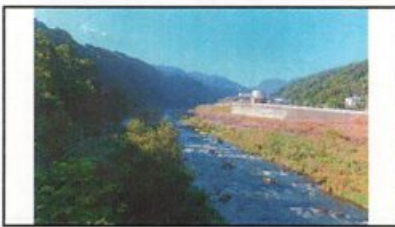
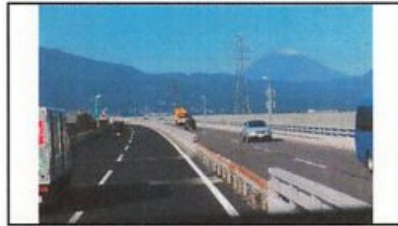


主要川用久殿「小田原市史」制作数表台印カ

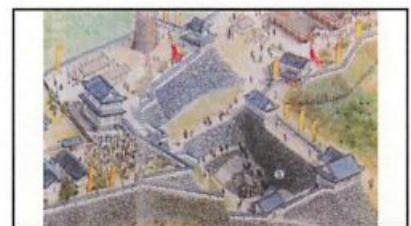


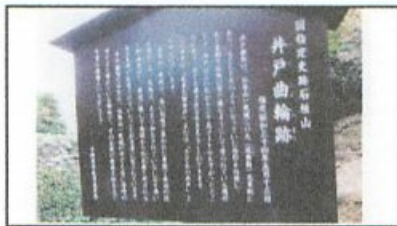
# 八幡史学館

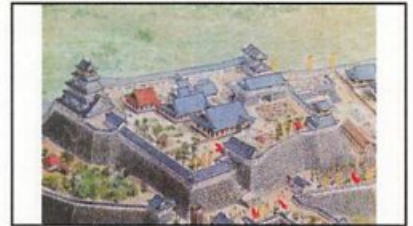
石垣山一夜城と小田原城を歩く  
平成28年10月26日

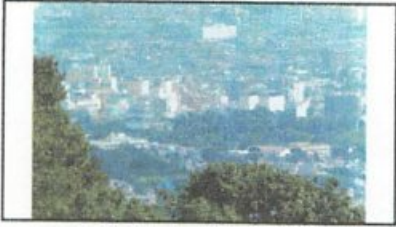


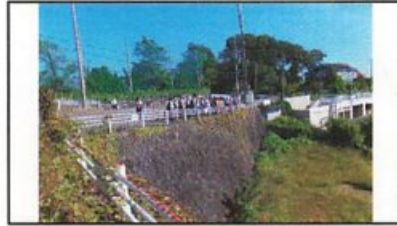










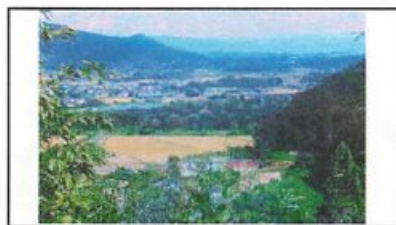
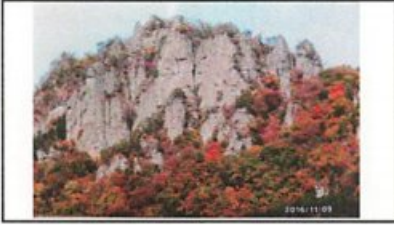












平成28年7月29日

山岸 弘明 様

市原市立八幡中学校  
校長 内藤武男

### 「ようこそ先輩授業」の講師について（依頼）

盛夏の候、貴台におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に御理解と御協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

本校ではキャリア教育・郷土学習の一環として、将来の夢や希望を持つ大切さ、人生の生き方を学ぶために『ようこそ先輩授業』を、下記の通り計画いたしました。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、第一部の講師として本校生徒にご指導いただきたくお願い申し上げます。

#### 記

1. 日 時 平成28年9月12日（月） ※9時40分までにお越しください。

第1部 10:10~11:00 《学年・学級別授業》各教室など

①開会の言葉

②講師紹介

③講 話（約35分間） 10:20 ~ 10:50

④質 問

⑤お礼の言葉

⑥閉会の言葉

第2部 11:20~12:20 《全校一斉授業》 体育館

※本校卒業生・石井正忠氏（鹿島アントラーズ監督）の講演

2. 場 所 市原市立八幡中学校 各教室・武道場・体育館

3. 内 容 例 ・八幡地区および八幡中の歴史に関わるもの  
・中学校時代ががんばっておいてほしいこと  
・社会人になるために必要なこと など

4. 授業対象 1年生の1クラス（授業参観のため、保護者もおります）

5. その他 ①同封の「講師自己紹介カード」にご記入いただき、返信用封筒にて8月15日までに、八幡中学校（教頭 鎗田）へご返送願います。また、当日準備する物等がございましたら、備考欄にご記入ください。  
②図書室を控え室といたします。  
③当日、印鑑をご持参ください。

※ご不明な点などございましたら、八幡中（教頭鎗田・担当永野）までご連絡ください。

電話番号：0436-41-0772 FAX：0436-42-2668

※授業を行っていただくクラスなど、9月に改めてご案内させていただきます。

平成28年 9月 5日

ようこそ先輩授業講師各位

市原市立八幡中学校  
校長 内藤 武男

### 「ようこそ先輩授業」の開催について

初秋の候、皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、この度は、本校の教育活動「ようこそ先輩授業」にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、間近に控えました「ようこそ先輩授業」につきまして、下記の内容にて実施させていただきます。お忙しい中とは存じますが、ご確認のほどよろしくお願いいたします。

#### 記

- 1. 日 時 平成28年9月12日(月) 10時10分～12時20分
- 2. 場 所 市原市立八幡中学校 各教室・武道場・体育館
- 3. 内 容

◆第1部 10:10～11:00 《学年・学級別授業》各教室および体育館

講 師	学年学級	お話していただける内容・演題	備考
清水あき子 様	1年1組	昔の八幡	
山岸 弘明 様	1年2組	八幡港と五大力船～八幡は昔、海の街だった～	
時田 庄二 様	1年3組	五所・八幡地区、八幡中の歴史	機材使用
石井 勇 様	1年4組	八幡の歴史	
時田 光夫 様	1年5組	福祉ボランティアの現状 (保護司・民生委員・社会福祉協議会)	
佐倉 東雄 様	1年6組	漁業権放棄以前の海との関わりについて	
池田 宏嗣 様	2年1組	好きな事には、時間をたくさん費やせ！！	
宮崎 紀道 様	2年2組	学生時代に学ぶ事	
青木 宏介 様	2年3組	夢・目標の達成	
松尾 三枝 様	2年4組	フラワーアレンジメントを作成しながら、花や緑に触れる楽しさを体験する	
石井 清之 様	2年5組	人とのコミュニケーションの大切さ	
石井 宗則 様	2年6組	仕事と人の繋がりについて	
須藤 陽香 様	3年	◇進路決定に向けて中学時代に頑張りたいこと ◇高校の授業・単位制・高校卒業後の進路について ◇部活動で学んだこと、実技で入試を受けるに当たり	
高島 右京 様			
森 優花 様			

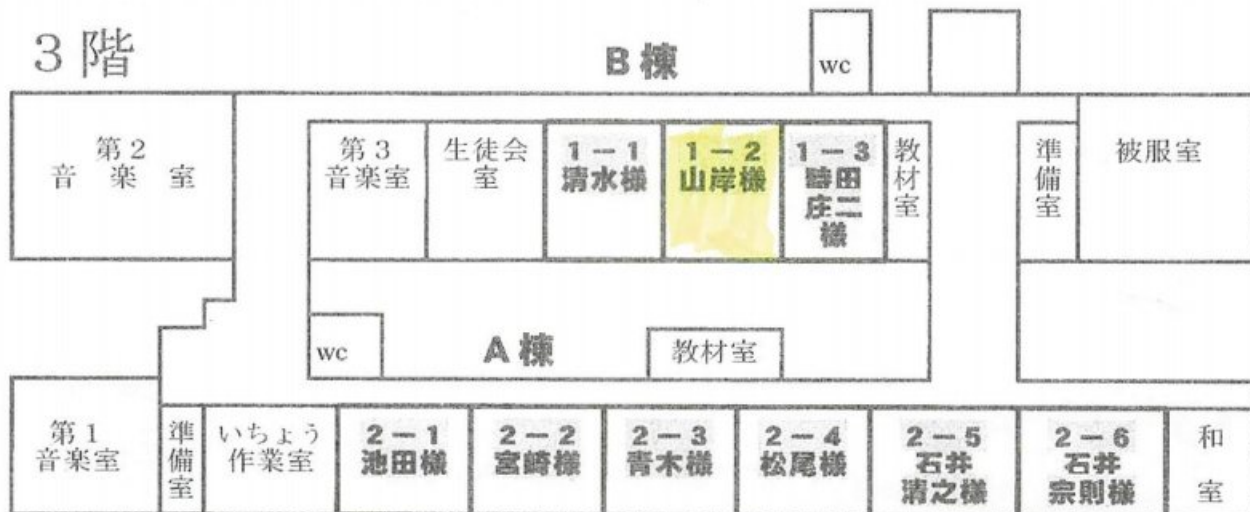
※1・2年生は各教室、3年生は体育館での授業になります。別紙を参照ください。  
※備考欄の機材使用は、パソコン・プロジェクター・スクリーン等の使用を表します。

◆第2部 11:20～12:20 《全校一斉授業》 体育館(機材使用)  
講師:石井 正忠 様 (Jリーグ・鹿島アントラーズ監督)

- 4. その他
  - ・9時40分までにお越しください。
  - ・駐車場は、職員駐車場(正門から入り左側)をご利用ください。
  - ・校長室を控室といたします。 ※前回のご案内から変更になりました。
  - ・印鑑をご持参ください。

※ご不明な点などございましたら、八幡中(教頭鎗田・担当永野)までご連絡ください。  
電話番号:0436-41-0772 FAX:0436-42-2668

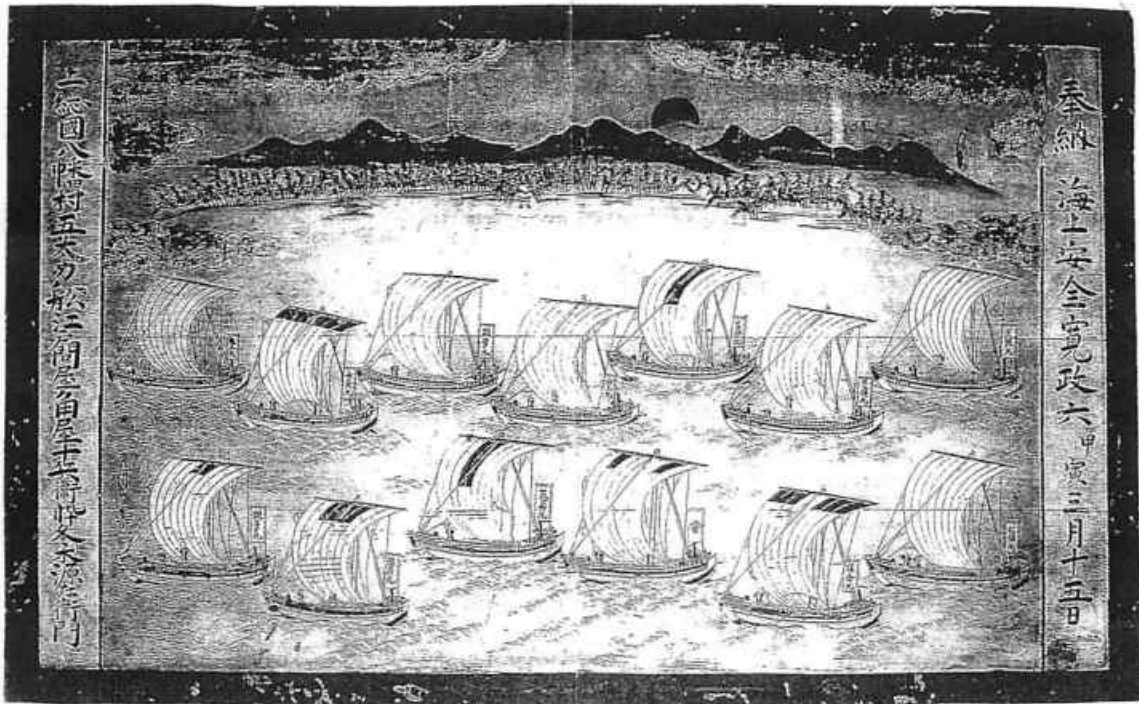
平成28年度 ようこそ先輩授業会場図 (第1部)



## 八幡中学校「ようこそ先輩授業」

### 八幡港と五大力船～八幡はむかし海の町だった

みなさんはむかし八幡が「海の町」だったことを知っていますか。  
目の前に真っ青な大海原が広がり、富士の裾野が雄大な姿を見せました。  
遠く近く白い帆をふくらませた「五大力船」が行き来しました。  
かつて「上総（千葉県）海陸交通の中心地」として発展した八幡の歴史は  
「八幡さま」と海なくして語ることはできません。



飯香岡八幡宮五大力船 大絵馬

八幡村五大力船船揃い図（宝蔵庫常設展示大絵馬＝横154、立て93cm）

奉納、海上安全、寛政六甲寅三月十五日

上総国八幡村五大力船江戸間屋角屋十兵衛せがれ冬木源左衛門

初代登亭北寿画。ピカソに影響を与えたとされる葛飾北斎の門人で、北斎の洋風版画を引きついで個性的な作品を残した。八幡宮の祭礼での船揃いを描いている。船名や帆印、乗組員や積荷、手信号など細かく描写されている。

平成28年9月12日



## 1)はじめに「八幡さま」ありき～プロローグは「町名の由来」から

### ①「やわた」の地名は飯香岡八幡宮から

飯香岡八幡宮は白鳳時代（7世紀後半）勧請（かんじょう）と伝わる古社です。

はじめ国府近く産土神（うぶすながみ＝土地の守り神）として誕生、室町時代の中ごろ（14世紀後半か）市原台地から現在地に移転したと考えられるが詳細は不明です。

### ②当時の八幡はまだ海岸砂浜で、民家や寺が散在する寒村でした。

古くから上総国府と下総国府を結ぶ「古代東海道」として整備され、この間「更級日記」菅原高標のむすめが京都へ旅立ち、源平の時代・源頼朝が鎌倉をめざし、戦国時代は関東の覇権をかけた北条氏、里見氏の軍馬がはせる軍用道路となりました。

### ③八幡の街並み形成は、飯香岡八幡宮が八幡に移転し、小田原北条氏領、千葉一族原氏による天正9年（1581）の門前町「保護政策」から。人々が集まり、江戸時代「水陸交通要衝」の「物流拠点」として木更津と並ぶ上総最大の「商業都市」になりました。

### ④飯香岡八幡宮は家康以下の徳川歴代将軍から「朱印150石」を拝領、10万石の格式が与えられて明治維新に及びました。

## 2)駅名の「八幡宿」ってなに？～参勤交代の大名行列も通った「宿通り」

### ①八幡の町を南北に縦断するバス通りは「房総往還」と呼ばれた昔からの幹線道路でした。

江戸時代、久留里黒田2万石、五井有馬1万石、鶴牧水野1万5千石、佐貫阿部1万6千石など房総諸大名の参勤交代路となり、100人ほどの供揃いで江戸をめざしました。

### ②当時の八幡は宿場町として発展、町まん中、現在八幡武道館前の交差点が「高札場」で、周辺に継ぎ立て人馬を常備した「伝馬（てんま）所」が置かれました。「本陣」は村名主が年番であたったが、先をいそぐ大名行列が休泊することはありません。

### ③八幡は通称「上総八幡宿」と呼ばれたが房総往還が脇往還のため宿名は認められません。「宿名乗り」は村の悲願で、明治7年（1874）ようやく「八幡宿」が実現しました。

### ④八幡宿は明治22年まで。この年五所金杉村、山木村と合併して八幡町となり、八幡宿の名は大字名としてしばらく使われました。

### ⑤明治45年（大正元年＝1912）国鉄木更津線が開通、「八幡宿」が駅名になります。古くさそうな駅名は、当時の住民にとって「勲章」でもあったのです。



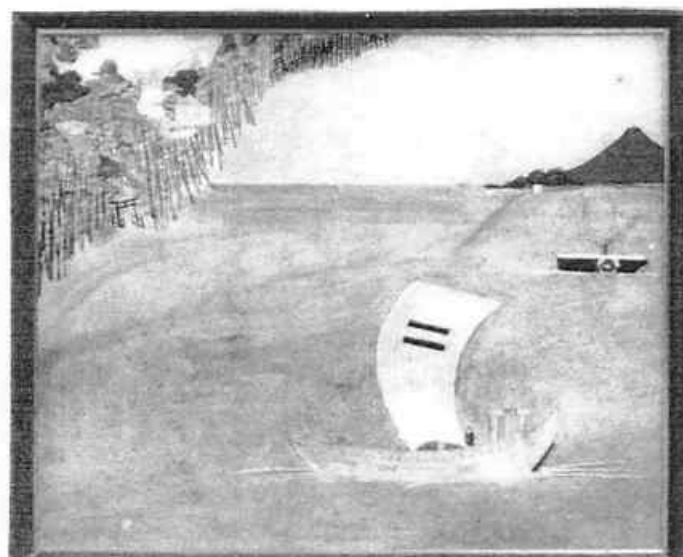
町名になった「飯香岡八幡宮」



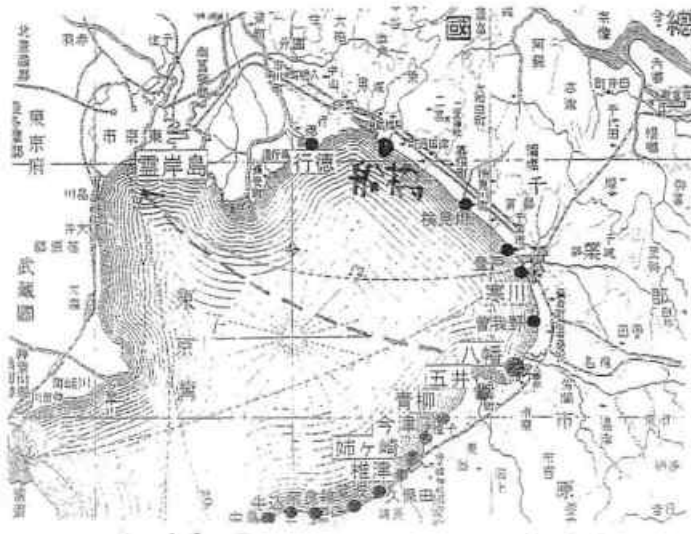
房総往還の面影を残す「宿通り」

### 3) 五大力船が江戸を結んだ～首都・江戸を支えた物流拠点

- ①江戸時代から明治時代にかけての八幡は市原郡最大の港町として発展しました。
- ②その中心は「五大力船」と呼ばれた「中型帆船」でした。首都・江戸と江戸湾の各港を結ぶ「地回り廻船」で、全長10～20メートル、積載量60石(8トン)～200石(24トン)、海上は風力を利用、江戸市中は棹を使いました。わずか3、4人で100石もの荷物を運んだ力強さを「五大力菩薩」に例えました。
- ③八幡港は「南町藩(みお)」と「浜本町(はもと)みお」からなり、南町は慶長19年(1614)、当時の名主と船主が飯香岡八幡宮の干潟地を堀割り(みお筋)して「船だまり」と蔵地を築き、「年貢米津出し港」としたことに始まります。また、浜本町もそれと前後して民間船用に築かれたと考えられます。
- ④浜本町には船宿、船主、船乗り、荷役を担当する舳(はしけ)人、船大工のほか、穀物商、薪炭商、太物(反物)商などの問屋倉庫が並び、風呂屋、旅籠、飲食店など、ほぼすべての人たちが船とかかわりました。
- ⑤五大力船は船だまりを母港としたが、浅瀬のため積み荷の上げ下ろしはできず、いったん海上に船を出して「はしけ船」が陸地と船を中継しました。
- ⑥八幡から江戸まで「海路8里(32キロ)」順風なら3～4時間で到着、時速8キロ、早さは自転車なみでした。
- ⑦「江戸(東京)港」は隅田川河口一帯をいいます。船はいったん佃島前のターミナルで帆を降ろし、日本橋川を上って「小網町河岸」に停泊しました。
- ⑧江戸への積み荷は米、材木、薪炭、ぬか、肥料、わら製品などで、帰り船に衣類や雑貨などの生活物資と「江戸文化」を持ち込みました。
- ⑨江戸中期天明7年(1787)の五大力船は「本株(権利者)30艘、当時(実動)12艘」(八幡村村鑑明細帳)で、飯香岡八幡宮絵馬(前出)は13艘が画かれています。五大力船数は江戸時代を通じ10艘代と考えてほぼ間違いないでしょう。明治6年「木更津県八幡宿船改め所台帳」は17艘で、最盛期の大正はじめはおよそ30艘と伝えられています。
- ⑩明治45年八幡宿駅開業、その後自動車の普及につれ、一大消費地・東京への物流は海送から陸送へと移行します。大正、昭和はじめにかけて廃業が相次ぎます。昭和10年ころ、八幡港は海苔取りの舟だまりと代わり、レジャーボートが風を切りました。
- ⑪およそ300年に渡って江戸・東京市民の生活を支え、上総の経済と文化の担い手となった五大力船はその役割を終えて静かに姿を消します。



飯香岡八幡宮の大絵馬「五大力船と蒸気船」



八幡周辺の港と江戸への航路

#### 4)「市原海苔」は色つやもよくおいしい～全国に轟いた名声

- ①八幡の海運業が低迷を迎えたころ、救世主として登場したのが「海苔の養殖」でした。
- ②江戸後期、浅草の海苔商人・近江屋甚兵衛が品川、大森が独占した海苔養殖を君津の小見川河口・人見海岸で成功、近在の村々に普及します。
- ③明治40年代に市原も生産にかかわり、八幡海岸は大正はじめから。「市原の海苔」は色つやがよくおいしいと評判が良かった。生産高も上昇、昭和15年千葉県は東京「浅草海苔」をおさえ全国第1位へと躍進しました。
- ③八幡海岸に大きな「海苔養殖場」が築かれました。「竹柱（ヒビ）」を並べ、この柱に網をくくりつけて菌を植え付けました。養殖場は毎年抽選で決まり、「海苔取り舟」はかつての五大力船の母港を埋め尽くしました。厳冬期、各家庭での「ナマ海苔加工」と海岸一面に広がった「海苔干し場」は八幡の冬の「風物詩」でした。
- ④戦後の「高度成長時代」、社会の急激な発展は自然環境も変えます。海は汚れ、流失した原油が海苔場を襲ったりもしました。それは海苔養殖地の「レッドカード」を意味しました。昭和33年「八幡五所漁業協同組合」最後の会員数は2389戸でした。

#### 5)旧八幡中学校グラウンドを埋め尽くした観光バス～潮干狩りまっさかり

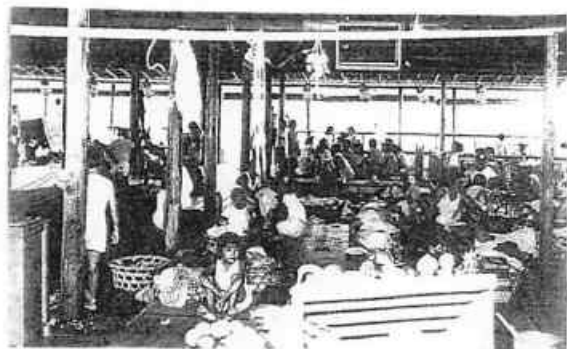
- ①昭和はじめ八幡海岸に海水浴、潮干狩り、すだてなどのマリーン産業が開花します。
- ②戦後の昭和20年代後半から30年代はじめにかけて、国は「高度成長」にわき返り、八幡海岸は最盛期を迎えます。
- ③夏の海水浴、潮干狩りシーズンには東京から児童、生徒を満載した貸し切りバスが50台以上もやってきて、現在八幡公民館前の「八幡中学校」グラウンドが臨時駐車場となりました。バックネット横のコンクリート岸壁から突き出すように「海の家」が並びました。
- ④海岸は波静かて遠浅、満潮時はその岸壁まで波が押し寄せて「海水浴場」となり、干潮時は4キロメートルもの干潟地が「潮干狩り場」になりました。
- ⑤「海の家」は風呂付き脱衣場が30円、入場料が30円、あさり取り道具が15円、網が5円、売店はかき氷とアイスキャンデー、サイダー、ラムネが飛ぶように売れました。



冬の風物詩だった海苔干し



潮干狩りでにぎわった八幡海岸



「海の家」の内部



八幡中校庭を埋めた観光バス



海の家の案内ちらし

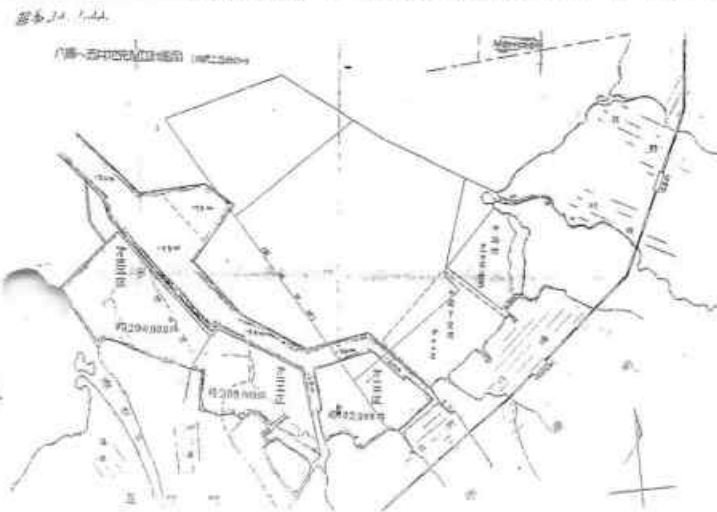
## 6)明日への飛翔～近代産業プラントが林立する工場の町に一新

- ①昭和31年、「京葉臨海工業地帯」計画にともない、千葉県が「八幡五所漁業協同組合」に「漁業権の買収」を提示しました。浦安から船橋、千葉、市原、袖ヶ浦、木更津、君津におよぶ内湾干潟地を埋め立てるといふ、膨大な造成計画に町の人たちは驚きます。
- ②年寄りたちは「先祖からの海を潰してはいけない」と反対、一方、若者たちは、海苔や貝に頼る生活に見切りをつけ、雇用拡大による新しい「町造り」にかけたのです。昭和32年10月「漁業権」を放棄して県と調印、五井や姉崎地区もこれになりました。
- ③八幡海岸はアツという間に埋め立てられ、工場の巨大プラントが建設されました。昭和35年、八幡地区には造船や電機、ガラス工場などが操業を開始、日本有数の工業都市へと成長しました。

## 7)八幡の「歴史文化」を語り継ごう～フィナーレは皆さんです

- ①八幡から海がなくなって間もなく60年、つい半世紀前まで東京湾に面した小さな港町に、いまはもう潮の香り一つ漂うことはありません。歴史や文化など海岸埋め立てで失った代償も決して小さくありません。しかし今日、工業都市としての町の発展と私たちの生活は、「先祖伝来」の海を手放した先人たちの苦渋の決断にあったといえます。
- ②八幡港も、五大力船も、海苔場も、海水浴も、潮干狩りも、とうの昔に忘れられ、すでに「死語」といってもいいでしょう。そしていま、残された町の「歩み」そのものが貴重な「歴史遺産」となりました。私たちの世代から皆さんの世代へ、そして皆さんから次の世代へ、「八幡町の歴史文化」が永遠に語り繋がることを願ってやみません。

山岸弘明（八幡公民館主催事業「八幡史学館」講師。市原の古文書研究会代表）



説明会で使用された八幡海岸の造成計画図



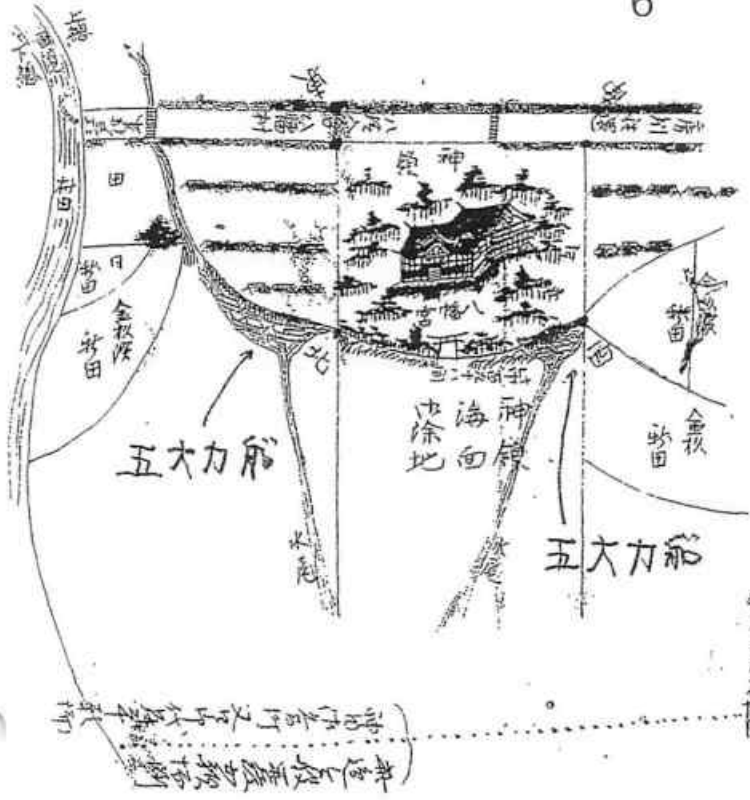
八幡海岸は埋め立てられて工業地帯に



1月に開催した「八幡港と五大力船展」



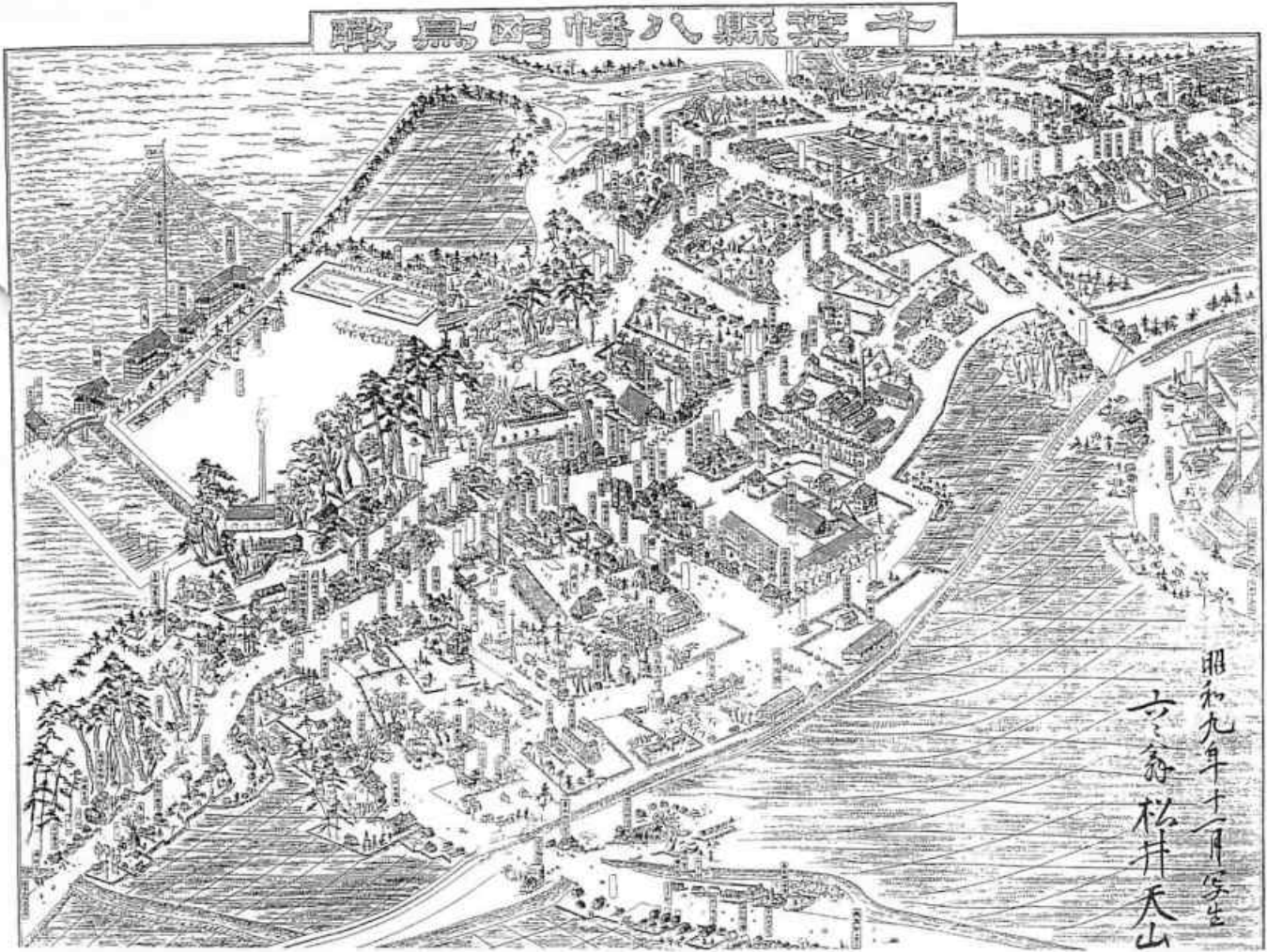
干潟地の一部は航路になっている



ベisia裏に残る浜本町みお「船だまり」

は ぶ は ぶ は ぶ は

慶応元年(1865)「八幡村略図」の八幡港



昭和9年(1934)「八幡町鳥かん図」、戦前の八幡海岸を空から見下ろす

平成28年10月吉日

ようこそ先輩授業にお越しいただいた講師の皆様へ

謹 啓

秋冷の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。去る、9月12日に実施いたしました「ようこそ先輩授業」では講師として本校にお越しいただき、生徒たちのためにご尽力いただきまして誠にありがとうございました。

皆様からご指導いただいた生徒たちは、自分たちの先輩や地域の方から直接、世代を越えて学んだ経験が、脳裏に強く印象に残っているようです。

遅くなりましたが、授業を受けた生徒たちの感想用紙を同封させていただきました。お忙しい中とは存じますが、お手すきのときにでも読んでいただければ幸いです。日頃体験することのできないお話や映像に触れる機会を得られたことの喜びが、感想としてまとめられています。今回の経験は、生き方等について考える良いきっかけとなったことと思われま

す。講師の皆様におかれましては、今後とも八幡中学校へのご指導・ご鞭撻をいただければ幸いです。これから寒さに向かう折、ご健康にご留意され、ご慈愛くださいますようお願い申し上げます。

書状にて大変失礼と存じますが、お礼の挨拶とさせていただきます。

敬 具

市原市立八幡中学校  
校 長 内藤武男

## 『ようこそ先輩授業』を終えて

講師の先生のお名前

山岸先生、石井先生

◇講師の先生のお話から、学んだこと、感じたことを書きましょう。

・昔の八幡。昔は海だったという事。  
 飯香岡八幡宮の近くは五大カ船と蒸気船  
 があったということがわかりました。  
 八幡から海がなくなると間もなく、60年  
 という事やいろいろ山岸先生におそわりました。  
 した。

石井先生からは、あきらめず、いっしょうけんめい  
 続ける事や骨折をしても、リハビリを一生けんめ  
 いして、12ヶ月入院が6ヶ月までになったという  
 こと、努力をすると、あんなにすごい人になれる  
 と思いました。

すごくいい事をおそわりました。

◇あなたの将来の夢や希望について考えていることを書いてみましょう。

私の将来の夢は介護士です。

1人でもおじいさんおばあさんを笑顔にし  
 たいです。

そのためにあきらめず勉強をしていきたいです。

1年 2組 (男・女) 2番 氏名 飯田 あすか

## 『ようこそ先輩授業』を終えて

講師の先生のお名前

やまきし先生

石井正忠先生

◇講師の先生のお話から、学んだこと、感じたことを書きましょう。

- 五ツ舟台の動き方や乗れる人整などを教えてもらった。
- 大絵馬は1799年たまたみ1枚分などくわしく、わかりやすかった。
- 昔の八幡の風景がうろこでできてイメージができました。
- 八幡から海がなくなつて間もなく60年がたつ、やまきし先生に教えてもらったことを次の世代に伝えたい。
- 八幡は堵海だったことにおどろいた。
- 石井先生のくわした事やがんばりたいと思つたことなどがあつた。
- 好きな事を続けていくと教えてもらったので好きな事を続けていく。
- 友達や先生方、親、地域の方々に感謝の気持ちをもつ。

◇あなたの将来の夢や希望について考えていることを書いてみましょう。

- 保育士になりたい。
- 小さい子が好きなので保育所の先生になりたい。

1年 2組 (男・♀) 15番 氏名 鈴木 流嘉



# 『ようこそ先輩授業』を終えて

講師の先生のお名前

山岸弘明先生 石井正忠先生

◇講師の先生のお話から、学んだこと、感じたことを書きましょう。

山岸先生に八幡の昔の事や、海での産業や、交通の事などを教えて頂きました。昔は漁師の仕事がさかんで飯ヶ岡八幡宮の前は海だったそうです。他にも海苔の養殖や潮干狩りもさかんで、八幡は海の町だった事がわかりました。山岸先生は今はうめ立てられてしまいましたが、これからも工業などの町として発展していくことが大切だとおっしゃっていました。鹿島アクトの石井かんくからは石井かんくの子どものころの話、中学校に入ってから話、教師になろうとした話などを聞きました。ぼくはサッカー選手だった石井かんくが小学生のころに野球がむきだった事を聞いてとてもおもしろかったです。

◇あなたの将来の夢や希望について考えていることを書いてみましょう。

ぼくは石井かんくが中学校から毎日練習をとかくやたという話を聞いて、自分もサッカーをもっとがんばりたいと思いました。

1年2組(男・女)2番 氏名 佐藤 銳三

## 『ようこそ先輩授業』を終えて

講師の先生のお名前

山岸 弘明 先生 ・ 石井 正忠 先生

◇講師の先生のお話から、学んだこと、感じたことを書きましょう。

僕は、山岸先生から学んだことは、自分の住んでる土地や生まれた土地の歴史を知っておくべきだということ。先生の話を聞いて自分の家の近くが海水浴場だったという事がとてもよかったです。石井先生の話しでは、石井先生が生まれた所が「にけし」というお店と書いていて僕は「にけし」に行ったことがあったので、なんかうれしく思いました。そして教師を目指していたけどサッカー選手になるために一生懸命練習して今は鹿島アントラーズの監督になっている石井先生ととてもすこいと思います。そして僕は教わった通り好きなことを続けられるようにしたいです。

◇あなたの将来の夢や希望について考えていることを書いてみましょう。

特に将来の夢はないけど、安定した職業について安定した生活を送りたいです。そのためには今自分にできることと勉強をしっかりと安定した職につくために、日々努力していきたいと思っています。

1年2組(男・女) 9番 氏名 佐倉 大晟

2016年(平成28年)9月16日(金曜日)

# 「先輩授業」で夢膨らむ

## 市原市八幡中 卒業生が職業紹介

幅広い分野で活躍するOB・OGを招き、進路について考える「ようこそ先輩授業」が、市原市八幡の市立八幡中学校(内藤武男校長、生徒598人)で行われた。全校生徒はさまざまな職業に就いた卒業生らの話に熱心に耳を傾け、自らの夢を思い描いた。

同校がキャリア教育と郷土学習を兼ねて実施している特別授業で、本年度で3回目。今回は八幡地区で活動する語り部らのほか、身近な存在として高校生も講師となり、各教室で仕事の内容やまちの歴史、高校生活を紹介した。

生花店経営者による授業では、フラワーアレンジメントの体験の場も。生徒は慣れない作業に悪戦苦闘しながらもガーベラやバラなどを使って思い思いの作品を仕上げ、花と緑を効果的に演出する生花店の仕事やその楽しさを学んだ。講師からは「やりたいことを見つけ、将来に向かっ



講師の指導を受け、フラワーアレンジメントに挑戦する生徒＝市原市八幡の市立八幡中学校

引き締め  
た。

続いて、同校出身でサッカーJ1・鹿島アントラーズの石井正忠監督(49)が体育館で講演。石井監督は人生を振り返りながら「下手な自分がプ

て頑張って」などとエールが送られ、2年生の佐倉慧さん(14)は「授業を生かし、サッカー選手になる自分の夢につなげたい」と表情を訴えた。







- ① 国生み神話を読む
- ② 黄泉の国訪問
- ③ 天岩戸

第2・3回資料

# 古事記を読む

講師 平澤 牧人氏

(飯香岡八幡宮 禰宜職)

日時 5月19日(木) 6月9日(木)

場所 八幡公民館 視聴覚室

# 古事記

## 国生み神話を読む

### 一、五柱の別天つ神

天地が開けたこの世界の一番始めの時に、遠い天の彼方に御出現になつた神のお名前は、天之御中主神、次に高御産巢日神、次に神産巢日神です。この御三方は皆お独りで御出現になつて、やがて自らは行動されない隠れ神となつて姿形をお隠しなさいました。

次に国ができたで水に浮いた脂のようであり、クラゲのようにふわふわ漂っている時に、葦が芽を出して来るような勢いの物によつて御出現になつた神は、宇摩志阿斯訶備比古遲神、次に天之常立神といいました。この方々も皆お独りで御出現になつて隠れ神となつて姿形をお隠しになりました。

以上の五神は、天つ神の中でも特別に扱われる神です。

### 二、神世七代

それから次々に現われ出た神は、国之常立神、豊雲野神、この御二方はお独りで御出現になつてやがて姿形をお隠しなさいました。次にご出現になつたのは、宇比地迹神、その妹須比智迹神、次に角杵神、その妹活杵神、次に意富斗能地神、その妹大斗乃弁神、次に於母陀琉神、その妹阿夜訶志古泥神、それから伊耶那岐神とその妹伊耶那美神でした。この国之常立神から伊耶那美神までを神世七代と申します。最初のお二方の単独神はそれぞれで一代、次に男女で並び出た十神は、それぞれ男女二神で一代といひます。

### 三、於能基呂島の聖婚

そこで天の神方の仰せで、伊耶那岐命・伊耶那美命お二方に、「この漂っている国を整えてしっかりと作り固めよ」とて、りっぱな銚をお授けになつて仰せつけられました。それでこのお二方の神は天からの階段のような天浮橋にお立ちになつて、その銚をさしおろして下の世界をかき廻らされ、海水を音を立ててかき廻らして引きあげられた時に、矛の先から滴したる海水が、積つて島となりました。これが於能基呂島です。その島にお降りになつて、神聖な柱を立て、大きな御殿をお建てたになりました。

そこで伊耶那岐命が、伊耶那美神に「あなたの体は、どんなふうに来ていますか」と、お尋ねになりましたので、「わたくしの体は、出来上がつて、出来きらない所が何か所あります」とお答えになりました。そこで伊耶那岐命の仰せられるには「わたしの体は、出来あがつて、出来過ぎた所が何か所ある。だからわたしの出来過ぎた所をあなたの出来きらない所にさして国を生み出そうと思うがどうだろう」と仰せられたので、伊耶那美命が「それがいいでしょう」とお答えになりました。そこで伊耶那岐命が「それならわたしとあなたが、この太い柱を廻りあつて、

結婚をしよう」と仰せになりました。このように約束を終えて「あなたは右からお廻りなさい。わたしは左から廻ってあいましょう」とおっしゃって、約束してお廻りになる時に、伊耶那美命が先に「なんとまあ愛すべき男性なんでしょう」といわれ、その後で伊耶那岐命が「なんとまあ愛すべき女性なんでしょう」といわれました。それぞれ言い終ってから、その女神に「女が先に言ったのはよくない」とおっしゃいましたが、しかし結婚をして、これによって御子様水蛭子をお生みになりました。この子は葦の船に乗せて流してしまいました。次に淡島をお生みになりました。これも御子様の数にははいりません。

#### 四、国 生 み

かくてお二方で御相談になって、「今わたしたちの生んだ子がよくない。これは天の神のところへ行って申しあげよう」と仰せられて、ご一緒に天に上って天の神の仰せをお受けになりました。そこで天の神の御命令で鹿の肩の骨をやく占いで占いをして仰せられるには、「それは女の方が先に物を言ったので良くなかったです。帰り降って改めて言い直したがい」と仰せられました。そういうわけで、またお降りになって、またあの柱を前のようにお廻りになりました。今度は伊耶那岐命がまず「本当に美しいお嬢さんですね」とおっしゃって、後に伊耶那美命が「本当に立派な青年ですね」と仰せられました。このように言い終って結婚をなさって御子の淡路之穂之狭別島をお生みになりました。次に伊与之二名島（四国）をお生みになりました。この島は身一つに顔が四つあります。その顔ごとに名があります。伊与の国を愛比売といい、讃岐の国を飯依比古といい、阿波の国を大宜都比売といい、土佐の国を建依別といいます。次に隠岐の三つ子の島をお生みなさいました。この島はまたの名を天忍許呂別といいます。次に筑紫の島（九州）をお生みになりました。やはり身一つに顔が四つあります。顔ごとに名がついております。筑紫の国を白日別といい、豊の国を豊日別といい、肥の国を建日向日豊久士比泥別といい、熊曾の国を建日別といいます。次に壱岐の島をお生みになりました。この島はまたの名を天比登都柱といいます。次に対馬をお生みになりました。またの名を天狭手依比売といいます。次に佐渡の島をお生みになりました。次に大倭豊秋津島（畿内）をお生みになりました。またの名を天御虚空豊秋津根別といいます。この八つの島がまず生まれたので大八島国にというのです。

それからお還りになった時に吉備之児島をお生みになりました。またの名を建日方別といいます。次に小豆島をお生みになりました。またの名を大野手比売といいます。次に大島をお生みになりました。またの名を大多麻流別といいます。次に女島をお生みになりました。またの名を天一根といいます。次に知訶島の島をお生みになりました。またの名を天忍男といいます。次に両児の島をお生みになりました。またの名を天両屋といいます。吉備の児島から天両屋の島まで合わせて六島です。

#### 五、神 生 み

このように国々を生み終って、更に神々をお生みになりました。そのお生み遊ばされた神のお名前はまず大事忍男神、次に石土毘古神、次に石巢比売神、次に大戸日別神、次に天之吹男神、次に大屋毘古神、次に風木津別忍男神をお生みになりました。次に海の神の大綿津見神



をお生みになり、次に水戸神の速秋津日子神とその妹速秋津比売神とお生みになりました。大  
事忍男神から秋津比売神まで合わせて十神です。

この速秋津日子神と速秋津比売神のお二方が河と海とでそれぞれに分けてお生みになった神の  
名は、沫那芸神・沫那美神・類那芸神・類那美神・天之水分神・国之水分神・天之久比奢母智神  
・国之久比奢母智神であります。沫那芸神から国之久比奢母智神まで合わせて八神です。

次に風の神の志那都比古神、木の神の久久能智神、山の神の大山津見神、野の神の鹿屋野比売  
神、またの名を野椎神という神をお生みになりました。志那都比古神から野椎神まで合わせて四  
神です。

この大山津見神と野椎神とが山と野とに分けてお生みになった神の名は、天之狭土神・国之狭  
土神・天之狭霧神・国之狭霧神・天之關戸神・国之關戸神・大戸感子神・大戸感女神でありま  
す。天之狭土神から大戸感女神まで合わせて八神です。

次にお生みになった神の名は鳥之石楠船神、この神はまたの名を天之鳥船神といひます。次に  
大宜都比売神をお生みになり、次に火夜芸速男神、またの名を火之炫毘古神、またの名を火之迦  
具土神といひます。この子をお生みになったために伊耶那美命は御陰が焼かれて御病気になりま  
した。その嘔吐でできた神の名は金山毘古神と金山毘売神、尿でできた神の名は波迹夜須毘古神  
と波迹夜須毘売神、小便でできた神の名は弥都波能売神と和久産巢日神です。この神の子は豊宇  
氣毘売神といひます。こうして伊耶那美命は火の神をお生みになったために遂にお隠れになりま  
した。天之鳥船から豊宇氣毘売神まで合わせて八神です。

全て伊耶那岐・伊耶那美のお二方の神が、共にお生みになった島の数は十四、神は三十五神で  
あります。これは伊耶那美神がまだお隠れになりませんでした前にお生みになりました。ただ淤  
能碁呂島はお生みになったではありません。また水蛭子と淡島とは子の中に入れません。

#### 六、伊耶那美神の死 と火之迦具土神

そこで伊耶那岐命の仰せられるには、「わたしの最愛の妻を一人の  
子に代えたのは残念だ」と仰せられて、伊耶那美命の枕の方や足の方  
に這い臥てお泣きになった時に、涙で出現した神は香具山の麓の小高  
い所の木の下においてになる泣沢女神です。このお隠れになった伊耶  
那美命は出雲の国と伯耆の国との境にある比婆の山に葬り申し上げました。

ここに伊耶那岐命は、お佩きになっていた長い剣を抜いて御子様の迦具土神の頸をお斬りにな  
りました。その剣の先についた血が清らかな岩に走りついて出現した神の名は、石拆神、次に根  
拆神、次に石筒之男神であります。次にその剣のものとの方についた血も、岩に走りついて出現し  
た神の名は、速速日神、次に樋速日神、次に建御雷之男神、またの名を建布都神、またの名を豊  
布都神という神です。次に剣の柄に集まる血が手のまたからこぼれ出して出現した神の名は關淤  
加美神、次に關御津羽神であります。以上石拆神から關御津羽神まで合わせて八神は、御剣によ

って出現した神です。

殺されなさいました迦具土神の、頭に出現した神の名は正鹿山津見神、胸に出現した神の名は  
淤藤山津見神、腹に出現した神の名は奥山津見神、御陰に出現した神の名は闇山津見神、左の手  
に出現した神の名は志芸山津見神、右の手に出現した神の名は羽山津美神、左の足に出現した神  
の名は原山津見神、右の足に出現した神の名は戸山津見神であります。正鹿山津見神から戸山津  
見神まで合わせて八神です。そこでお斬りになった剣の名は天之尾羽張といい、またの名は伊都  
之尾羽張ともいいます。

# 古事記

## 黄泉の国訪問く三貴子の誕生

伊耶那岐命はお隠れになった女神にもう一度会いたいと思われて、

### 一、伊耶那岐神の黄

#### 泉国訪問

後を追って黄泉の国に行かれました。そこで女神が御殿の組んである戸から出てお出迎えになった時に、伊耶那岐命は、「最愛のわたしの妻よ、あなたと共に作った国はまだ作り終らないから還っていらつし

やい」と仰せられました。しかるに伊耶那美命がお答えになるには、「それは残念なことを致しました。早くいらつしやらないのでわたくしは黄泉の国の食物を食べてしまいました。しかしあなた様さまがわざわざおいで下さったのですから、何なんとかして還りたいと思います。黄泉の国の神に相談をして参りましょう。その間わたくしを御覧になつてはいけません」とお答えになつて、御殿のうちにお入りになりましたが、なかなか出ておいでになりません。あまり待ち遠しかったので左の耳のあたりにつかねた髪に挿していた清らかな櫛の太い歯を一本欠いて一本火を燭して入って御覧になると蛆が湧いてごろごろと鳴っており、頭には大きな雷がいて、胸には火の雷がいて、腹には黒い雷がいて、陰にはさかんな雷がいて、左の手には若い雷がいて、右の手には土の雷がいて、左の足には鳴る雷がいて、右の足にはねている雷がいて、合わせて十種の雷が出現していました。そこで伊耶那岐命が驚いて逃げてお還りになる時に伊耶那美命は「わたしに恥をお見せになった」と言つて黄泉の国の魔女を遣つて追わせました。よつて伊耶那岐命が御髪につけていた黒い木の蔓の輪を取つてお投げになったので野葡萄が生えてなりました。それを取つてたべている間に逃げておいでになるのをまた追いかけてきましたから、今度は右の耳の辺につかねた髪に挿しておいでになった清らかな櫛の歯を欠いてお投げになると筍が生えました。それを抜いてたべている間にお逃げになりました。後にはあの女神の身体中に生じた雷の神たちにたくさんの黄泉の国の魔軍を副えて追わしめました。そこでさげておいでになる長い剣を抜いて後の方に振りながら逃げておいでになるのを、なお追つて、黄泉比良坂の坂本まで来た時に、その坂本にあった桃の実みを三つとつてお撃ちになったから皆逃げて行きました。そこで伊耶那岐命はその桃の実に、「お前がわたしを助けたように、この葦原中国に生活している多くの人間たちが苦しい目にあつて苦しむ時に助けてくれ」と仰せになつて意富加牟豆美命という名を下さいました。最後には女神めがみ伊耶那美命が御自身で追つておいでになつたので、大きな岩石をその黄泉比良坂に塞いでその石を中に置いて両方でむかい合つて離別の言葉を交かわした時に、伊耶那美命が仰せられるには、「あなたがこんなことをなされるなら、わたしはあなたの国の人間を一日に千人も殺してしまいます」といわれました。そこで伊耶那岐命は「お前がそうなされるなら、わたしは一日に千五百も産屋を立てて見せる」と仰せられました。こういう次第で一日にかならず千人が死に、一日にかならず千五百人が生まれるのです。かくしてその伊耶那美命を黄泉津大神と申します。またその追いかけたので、道敷大神とも申すということです。その黄泉の坂に塞がっている岩石は塞坐黄泉戸大神と申します。その黄泉比良坂というのは、今の出雲の国の伊賦夜坂という坂です。

## 二、伊耶那岐神の禊祓

伊耶那岐命は黄泉の国からお還りになって、「わたしは随分嫌な汚ない国に行ったことだった。わたしは禊ぎをしよう思う」と仰せられて、筑紫の日向の橋の小門の阿波岐原においてになって禊ぎをなさいました。その投げ棄てる杖によってあらわれた神は衝立船戸神、投げ棄てる帯であらわれた神は道之長乳齒神、投げ棄てる袋であらわれた神は時置師神、投げ棄てる衣であらわれた神は和豆良比能宇斯能神、投げ棄てる褌であらわれた神は道俣神、投げ棄てる冠であらわれた神は飽咋之宇斯能神、投げ棄てる左の手につけた腕巻であらわれた神は奥疎神と奥津那芸佐毘古神と奥津甲斐弁羅神、投げ棄てる右の手につけた腕巻であらわれた神は辺疎神と奥津那芸佐毘古神と辺津甲斐弁羅神とであります。以上船戸神から辺津甲斐弁羅神まで十二神は、お体につけてあつた物を投げ棄てられたのであらわれた神です。そこで、「上流の方は瀬が速い、下流の方は瀬が弱い」と仰せられて、真中の瀬に下りて水中に身をお洗いになった時にあらわれた神は、八十禍津日神と大禍津日神とでした。この二神は、あの穢い国においてになった時の穢れによってあらわれた神です。次にその禍いを直なおそうとしてあらわれた神は、神直毘神と大直毘神と伊豆能売神です。次に水底でお洗いになった時にあらわれた神は底津綿津見神と底筒之男命、海中でお洗いになった時にあらわれた神は中津綿津見神と中筒之男命、水面でお洗いになった時にあらわれた神は上津綿津見神と上筒之男命です。このうちお三方の綿津見神は安曇氏の祖先神です。よつて安曇連たちは、その綿津見神の子、宇都志日金拆命の子孫です。また、底筒之男命・中筒之男命・上筒之男命お三方は住吉大社の三座の神であります。

かくて伊耶那岐命が左の目をお洗いになった時にご出現になった神は天照大神、右の目をお洗いになった時にご出現になった神は月読命、鼻をお洗いになった時にご出現になった神は建速須佐之男命でありました。

以上八十禍津日神から速須佐之男命まで十神は、お体をお洗いになったのであらわれた神です。

## 三、三貴子の分治

伊耶那岐命はたいへんにお喜びになって、「わたしは随分たくさんの子を生んだが、一番最後に三人の貴い子を得た」と仰せられて、頸に掛けておいでになった玉の緒をゆらゆらと揺がして天照大神にお授けになって、「あなたは天をお治めなさい」と仰せられました。この御頸おくびに掛けた珠の名を御倉板拳之神と申します。次に月読命に、「あなたは夜の世界をお治めなさい」と仰せになり、須佐之男命には、「海上をお治めなさい」と仰せになりました。

## 四、須佐之男命の啼きいさち

それでそれぞれ命ぜられたままに治められる中に、須佐之男命だけは命ぜられた国をお治めなさらないで、長い髭が胸に垂れさがる年頃になつてもただ泣きわめいておりました。その泣く有様は青山が枯山になるまで泣き枯らし、海や河は泣く勢いで泣きほしてしまいました。

そういう次第ですから乱暴な神の物音は夏の蠅が騒ぐようにいつぱいになり、あらゆる物のわざわいが悉く起りました。そこで伊耶那岐命が須佐之男命に仰せられるには、「どういうわけであなは命ぜられた国を治めないで泣きわめいているのか」といわれたので、須佐之男命は、「わたくしは母上のおいでになる黄泉の国に行きたいと思うので泣いております」と申されました。そこで伊耶那岐命が大変お怒りになって、「それならあなたはこの国には住んではならない」と仰せられて追いはらってしまいました。この伊耶那岐命は、淡路の多賀の社にお鎮まりになっておいでになります。

## 五、須佐之男命の昇天

そこで須佐之男命が仰せになるには、「それなら天照大神に申しあげて黄泉の国に行きましよう」と仰せられて天にお上りになる時に、山や川が悉く鳴り騒ぎ国土が皆振動しました。それですから天照大神が驚かれて、「わたしの弟が天に上って来られるわけは立派な心で来ないのでありますまい。わたしの国を奪おうと思っておられるのかも知れない」と仰せられて、髪をお解きになり、左右に分けて耳のところは輪にお纏きになり、その左右の髪は輪にも、頭に戴かれる鬘にも、左右の御手にも、皆大きな勾玉のたくさんついている玉の緒を纏き持たれて、背には矢が千本も入る鞆を負われ、胸にも五百本入りの鞆をつけ、また威勢のよい音を立てる鞆をお帯びになり、弓を振り立てて力強く大庭をお踏みつけになり、泡雪のように大地を蹴散らかして勢いよく叫びの声をお挙げになって待ち問われるのには、「どういふわけで上って来られたか」とお尋ねになりました。そこで須佐之男命の申されるには、「わたくしは汚ない心はございません。ただ父上の仰せでわたくしが哭きわめいていることをお尋ねになりましたから、わたくしは母上の国に行きたいと思つて泣いておりますと申しましたところ、父上はそれではこの国に住んではならないと仰せられて追ひ払いましたのでお暇乞いに参りました。変わった心は持つておりません」と申されました。そこで天照大神は、「それならあなたの心の正しいことはどうしたらわかるでしょう」と仰せになったので、須佐之男命は、「誓約を立てて子を生みましよう」と申されました。

## 六、二神の誓約

よつて天の安河を中に置いて誓約を立てる時に、天照大神はまず須佐之男命の佩いている長い剣をお取りになって三段に打ち折つて、音もさらさらと天の真名井の水で滌いで嚙みに嚙んで吹き棄てる息の霧の中からあらわれた神の名は狭依毘売命、次に多岐都比売命のお三方でした。次に須佐之男命が天照大神の左の御髪に纏いておいでになった大きな勾玉のたくさんついている玉の緒をお請けになって、音もさらさらと天の真名井の水に滌いで嚙みに嚙んで吹き棄てる息の霧の中からあらわれた神は正勝吾勝勝速日天之忍穗耳命、次に右の御髪に纏かれていた珠をお請けになつて嚙みに嚙んで吹き棄てる息の霧の中からあらわれた神は天之菩卑能命、次に鬘に纏いておいでになつていた珠をお請けになつて嚙みに嚙んで吹き棄てる息の霧の中からあらわれた神は天津日子根命、次に左の御手にお纏きになつていた珠をお請けになつて嚙みに嚙んで吹き棄てる息の霧の中からあらわれた神は活津日子根命、次に右の御手に纏いておいでになつていた珠をお請け

になつて囁みに囁んで吹き棄てる息の霧の中かほみおぼれなれ  
男神がご出現になりました。

ここに天照大神は須佐之男命に仰せになつて、「この後から生まれた五人の男神はわたしの身につけた珠によつてあらわれた神ですからおのずからわたしの子です。先に生まれた三人の姫御子はあなたの身につけたものによつてあらわれたのですから、やはりあなたの子です」と仰せられました。その先にお生まれになつた神のうち多紀理毘売命は、九州の宗像の沖つ宮においでになります。次に市寸島比売命は宗像の中つ宮においでになります。次に多岐都比売命は宗像の辺つ宮においでになります。この三人の神は、宗像の君たちが大切にお祭りする神であります。

そこでこの後でお生まれになつた五人の子の中に、天之菩卑能命の子の建比良鳥命、これは出雲の国造・武蔵の国造・上海上の国造・下海上の国造・伊甚の国造・津島の県の直・遠江の国造たちの祖先です。次に天津日子根命は、凡川内の国造・額田部の湯坐の連・木の国造・倭の田中の直・山代の国造・馬来田の国造・道口岐閉の国造・周防の国造・倭滝知の造・高市の県主・蒲生の稻寸・三枝部の造たちの祖先です。

# 古事記

## 天岩戸く八岐大蛇

### 一、須佐之男命の勝 さび

そこで須佐之男命は、天照大神に申されるには「わたくしの心が清らかだったので、わたくしの生んだ子が女だったのです。これに依つて言えば当然わたくしが勝ったのです」といって、勝った勢いに任せ、て乱暴を働きました。天照大神が田を作つておられたその田の畔を壊したり溝を埋めたりし、また食事をなさる御殿に尿をし散らしました。このようなことをなさいますしたけれども天照大神はお咎めにならないで、仰せになるには、「尿のようなのは酒に酔つて吐き散らすとてこんなになつたのでしよう。それから田の畔を壊し溝を埋めたのは地面を惜しまずしてこのようになされたのです」と善いようにと仰せられましたけれども、その乱暴なしわざは止やみませんでした。天照大神が清らかな機織場において神の御衣服を織らせておいでになる時に、その機織場の屋根に穴をあけて斑駒の皮をむいて落とし入れたので、機織女が驚いて機織りに使う板で陰をついて死んでしまいました。

### 二、天の岩戸こもり

そこで天照大神もこれを嫌つて、天岩屋戸をあけて中にお隠れになりました。それですから天がまつくらになり、下の世界もことごとく暗らくなりました。永久に夜が続いて行つたのです。そこで多くの神々の騒ぐ声は夏の蠅のようにいっばいになり、あらゆるわざわいが全て起りました。こういう次第で多くの神たちが天の世界の天の安河の河原にお集まりになつて高御産巢日神の子の思金神という神に考えさせて、まず海外の国から渡つて来た長鳴鳥を集めて鳴かせました。次に天の安河の河上にある堅い岩を取つて来、また天金山の鉄を取つて鍛冶屋の天に麻羅という人を尋ね求め、伊斯許理度売命に命じて鏡を作らしめ、玉祖命に命じて大きな勾玉がたくさんついている玉の緒の珠を作らしめ、天兒屋命と布刀玉命とを呼んで天香山の男鹿の肩骨をそっくり抜いて来て、天香山のハハカの木を取つてその鹿の肩骨を焼やいて占わしめました。次に天香山の茂つた榊を根掘にこいで、上の枝に大きな勾玉のたくさんの玉の緒を懸け、中の枝には大きな鏡を懸け、下の枝には麻だの楮の皮の晒したのなどをさげて、布刀玉命がこれをささげ持ち、天兒屋命が莊重な祝詞を唱え、天手力男神が岩戸の陰に隠れて立つており、天宇受売命が天香山の日陰の蔓をたすきに懸け、真拆を鑿として、天香山の小笹の葉を束ねて手に持ち、天照大神のお隠れになつた岩戸の前に桶を覆せて踏み鳴らし神がかりして裳の紐を陰に垂らしめたので、天の世界が鳴りひびいて、たくさんの神が、一緒に笑いました。そこで天照大神は怪しいとお思いになつて、天の岩戸を細目にあけて内から仰せになるには、「わたしが隠れているので天の世界は自然に闇く、下の世界も皆暗いでしょうと思つたのに、どうして天宇受売は舞い遊び、また多くの神は笑つて居るのですか」と仰せられました。そこで天宇受売命が、「あなた様に勝つて尊い神がおいでになりますので楽しく遊んでおります」と申しました。かように申す間に天兒屋命と布刀玉命とが、かの鏡をさし出して天照大神にお見せ申し上げる時に天照大神はいよいよ

よ不思議にお思ひになつて、少し戸からお出かけになる所を、隠れて立寄つて其の神に手を合はせ、その御手を取つて引き出し申し上げました。そこで布刀玉命がそのうしろに注連縄を引き渡して、「これから内にはお還り入り遊ばしますな」と申しました。かくて天照大神がお出ましになつた時に、天も下の世界も自然と照り明るくなりました。

### 三、須佐之男命の誕生と五穀の起源

ここで神たちが相談をして須佐之男命にたくさんの品物を出して罪を償なわしめ、また髭と手足の爪とを切つて逐いはらいしました。須佐之男命は、かようにして天の世界から追われて、下界へ下つておいでになり、まず食物を大宜都比売神にお求めになりました。そこで大宜都比売神が鼻や口また尻から色々な御馳走を出して色々お料理をしてさし上げました。この時に須佐之男命はそのしわざをのぞいて見て汚ないことをして食べさせるとお思ひになつて、その大宜都比売神を殺してしまいました。殺された神の身体に色々な物ができました。頭に蚕ができ、二つの目に稲種ができ、二つの耳にアワができ、鼻にアズキができ、股の間にムギができ、尻にマメが出来ました。神産巢日命が、これをお取りになつて種となさいました。

### 四、八岐の大蛇

かくて須佐之男命は逐ひ払われて出雲の国の肥の河上、鳥髪という所にお下りになりました。この時に箸がその河から流れて来ました。それで河上に人が住んでいるとお思ひになつて尋ねて上つておいでになりますと、老翁と老女と二人があつて少女を中において泣いております。そこで「あなたは誰ですか」とお尋ねになつたので、その老翁が、「わたくしはこの国の神の大山津見神の子で足名椎といい、妻の名は手名椎、娘の名は櫛名田比売といひます」と申しました。また「あなたの泣く訳はどういう次第ですか」とお尋ねになつたので「わたくしの娘はもとほ八人ありました。それを高志の八岐大蛇が毎年来て食べてしまいます。今またその来る時期ですから泣いています」と申しました。「その八岐大蛇というのはどういう形をしているのですか」とお尋ねになつたところ、「その目は丹波酸漿のように真赤で、身体一つに頭が八つ、尾が八つあります。またその身体にはこけだの檜・杉の類が生え、その長さは谷八つ峰八つをわたつて、その腹を見ればいつも血が垂れてただれております」と申しました。

### 五、草薙剣

そこで須佐之男命がその老翁に「これがあなたの娘さんならばわたしにくれませんか」と仰せになつたところ、「恐れ多いことですから、あなたほどなた様ですか」と申しましたから、「わたしは天照大神の弟です。今天から下つて来た所です」とお答えになりました。それで足名椎・手名椎の神が「そうでしたら恐れ多いことです。娘をさし上げましょう」と申しました。依つて須佐之男命はその乙女を櫛の形に変えて御髪にお刺さしになり、その足名椎・手名椎の神に仰せられるには、「あなたたち、ごく濃い酒を醸し、また垣を作り廻らして八つの入口を作り、入口毎に八つの物を置く台を作り、その台毎に酒の桶をおいて、その濃い酒をいっぱい入れて待つていらつしやい」と仰せになりました。そこで仰せられたままにかように設けて待



つている時に、かの八岐大蛇が本当に言った通りに来ました。そこで酒樽毎に毒を飲ませました。入れて酒を飲みました。そうして酔っぱらってとどまり臥して寝てしまいました。そこで須佐之男命がお佩きになつていた長い剣を抜いてその大蛇をお斬り散らしになつたので、肥の河が血になつて流れました。その大蛇の中の尾をお割きになる時に剣の刃がすこし欠けました。これは怪しいとお思いになつて剣の先で割いて御覧になりましたら、鋭い大刀がありました。この大刀をお取りになつて不思議なものだとお思いになつて天照大神に献上なさいました。これが草薙の剣でございます。

## 六、須賀の宮

かくして須佐之男命は、宮を造るべき所を出雲の国でお求めになりました。そうして須賀の所とところにおいて仰せられるには、「わたしはここに来て心もちがすがしい」と仰せになつて、そこに宮殿をお造りになりました。それでそこを今でも須賀というのです。

この神が、はじめ須賀の宮をお造りになつた時に、そこから雲が立ちのぼりました。依つて歌をお詠みになりましたが、その歌は、

雲の叢むらがり起たつ出雲の国の宮殿。妻と住むために宮殿をつくるのだ。その宮殿よ。というのです。そこでかの足名椎・手名椎の神をお呼びになつて、「あなたはわたしの宮の長となれ」と仰せになり、名を稲田宮主須賀之八耳神とおつけになりました。

そこでその櫛名田比売と婚姻してお生みになつた神は、八島土奴美神です。また大山津見神の女の神大市比売と結婚して生んだ子は、大年神、次に宇迦之御魂神です。兄の八島土奴美神は大山津見神の娘の木花知流比売と結婚して生んだ子は、布波能母遅久奴須奴神です。この神が淤迦美神の娘の日河比売と結婚して生んだ子が深淵之水夜礼花神です。この神が天之都度閑知泥神と結婚して生んだ子が淤美豆奴神です。この神が布怒豆怒神の娘の布帝耳神と結婚して生んだ子が天之冬衣神です。この神が刺国大神の娘の刺国若比売と結婚して生んだ子が大国主神です。この大国主神はまたの名を大穴牟遲神とも葦原色許男神とも八千矛神とも宇都志国玉神とも申しま

す。合わせてお名前が五つありました。